※ポリシーとの関連性　超高齢社会を迎えた日本で期待される、生活モデルを重視した医療機関や地域でのソーシャルワークに必要な知識・技術を学びます。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	医療福祉論	前期	木６	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-樋口　美智子	２年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

「ソーシャルワークの価値・倫理」「医療福祉の概念」や「医療における尊厳と権利」を基盤として、保健医療分野におけるソーシャルワークの機能と役割を理解し、基本的な知識・技術を獲得します。また、地域包括ケアシステムにおける多職種協働について、ミクロ・メゾ・マクロの視点から理解します。

メッセージ

毎回、医療機関でのソーシャルワーク実践を紹介しています。他科目で学習した理論や技術、制度等が、どのように実践の中で活かされているかを学ぶことができます。特に医療ソーシャルワーカーを志望する学生は、実務的にその業務を理解することができます。「保健医療サービス」の既得が望ましいですが、内容を復習しながら進めますので、未履修者も歓迎します。

到達目標

①ソーシャルワークの価値・倫理に基づいて、病気や障がいを抱えながら生活する人々を理解し、説明できる。
②保健医療分野におけるソーシャルワーク実践の過程を、事例を通じて説明できる。
③相談援助に必要な基本的な知識・技術について説明できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	医療における社会保障政策の動向	社会保障制度改革の学習
2	医療ソーシャルワークの成立の経過と今後の課題	社会福祉の歴史の復習
3	医療ソーシャルワークの価値と倫理	社会福祉原論等の復習
4	医療における「家族」の理解	ライフステージの特徴の学習
5	生活機能障害とソーシャルワーク	ノーマライゼーションの復習
6	医療ソーシャルワーカーに必要な医学知識	生活習慣病について予習
7	医療ソーシャルワーカーの連携とチーム医療	連携・協働概念の予習
8	診療報酬とソーシャルワーク	医療・介護保険制度の復習
9	面接技術	基本的な理論・アプローチ等の予習
10	アセスメント（1）	アセスメントの定義について予習
11	アセスメント（2）	同上
12	ソーシャルワークの記録	記録の意義について予習
13	ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの機能	スーパービジョンについて予習
14	医療ソーシャルワーク実践事例検討の方法	事例とは何かについて予習
15	地域包括ケアシステムにおける医療ソーシャルワーカーの役割	地域包括ケアシステムについて予習
16	補講・試験・追試験	

テキスト・参考文献・資料など

＊テキスト：『保健医療ソーシャルワークの基礎－実践力の構築-』、公益社団法人日本医療社会福祉協会編、相川書房、『病院におけるソーシャルワークの理論と実践－基礎から学ぶ』、富樫八郎著、川島書店
＊参考文献：『支援者が成長するための５０の原則-あなたの心と力を築く物語-』、川島隆彦著、中央法規、『相談支援のための福祉・医療制度活用ハンドブック』、日本医療社会福祉協会編、新日本法規

学びの手立て

①履修の心構え：出欠確認を毎回行います。やむを得ず遅刻・欠席をする場合は、次回までの時間外学習内容や課題提出日等を確認し、欠席届けを次回までに提出すること。受講時は、質問・ディスカッション・グループワークでの協働等、積極的・協調的な参加を評価します。
②学びを深めるために：保健医療分野におけるソーシャルワークに関する図書は、制度・政策論的内容と知識・技術論的内容に大別されます。各々をバランスよく学習すると良いでしょう。制度やサービス等については、その根拠法をその都度確認する習慣を身につけましょう。

評価

・平常点：出欠状況、質問や発言の有無、積極的・協調的なグループワーク参加態度等を適宜加算します。（３０％）
・時間外学習レポートの提出状況・到達度を評価します。（２０％）
・個人レポート、グループレポートの提出状況・到達度を評価します。（５０％）

学びの継続

次のステージ・関連科目

（1）関連科目：「保健福祉政策論」「保健医療サービス」
（2）次のステージ：基本的な保健医療分野におけるソーシャルワークを学んだ後に、救急医療・小児医療・在宅医療・緩和医療等のテーマを見つけて専門性を深める学習を継続していきましょう。

※ポリシーとの関連性　社会福祉の一分野である介護の内容や考え方、技術の基礎を学び、高齢者施設や障害者施設における介護実践について学ぶ　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	介護概論	前期	金３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-諸見里　安知	２年		

学びの準備

ねらい

講義を通して、介護の意味・概念、介護技術の分類とその内容について理解する。また、特に障害別に介護にも注目し、特に高齢者を事例として考察する。さらに介護従事者として専門性、危機管理等についても考察する

メッセージ

直接、対象者と接触を伴う介護支援は、相互に全人的・人格的ふれあいを伴い、福祉業務における最も重要な援助技術の一つであること認識し、自分の専門性を高める基本であることを認識して講義に臨むこと

到達目標

① 介護の概念・意味・種類・内容等について理解する
② 介護者として倫理・実践上の原則等について理解する
③ 障害別の介護技術について理解する
④ 介護従事者の資質、倫理、危機管理等について理解する
⑤ 介護の専門性と他専門職との連携のあり方について理解する
⑥ 知的・精神面の障害、認知症に対する支援を理解する

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション　受講の心得や注意点など	
2	介護に関する制度・政策・現状等の再確認	
3	介護従事者の役割・他専門職との連携	
4	介護を受ける側の立場の理解	
5	介護で思量する機器・補助器具等について	
6	状態に応じた介護の特質	
7	日常生活介護（食事、歩行、着脱など）	
8	日常生活介護（入浴、排泄、整姿など）	
9	身辺・安全・健康等の管理・支援	
10	精神障害・発達障害等の介護	
11	認知症高齢者の介護	
12	介護とコミュニケーション技術	
13	介護とリハビリテーション	
14	介護従事者と地域サポートネットとの連携	
15	介護従事者の倫理、危機管理、課題、まとめ	
16	テスト	

テキスト・参考文献・資料など

講義開始時に、必要な資料を配布する。また参考にすべき文献等についても、必要に応じて提示する

学びの手立て

① 身体接触を伴う支援業務（介護）が接触を伴わない支援（相談援助）と並び、福祉業務の重要な専門性であること理解し、講義に臨むこと
② 可能限り身近な人の介護を想定しながら、支援する側・支援される側の立場を想定しながら受講すること
③ マスコミで報道される介護現場での事故、事件等に注目し、その発生の要因・発生の過程・相互のあり方などについて常に考察すること
④ 自分を介護の専門従事者と想定し、専門性とは何か、専門性を高めるための学ぶ内容は課題等について常に考えること
⑤ 介護保険制度など、日本の介護業務の位置づけや動向等に関心を持ち、常に情報の収集や整理に努めること

評価

評価は、①出席状況（20%）、②試験の得点（50%）、③課題・レポートの提出状況（30%）など総合的に判断して行う。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この科目は介護技術Ⅰ及びⅡのと対をなす科目であり、介護支援全体の理解はこれらの受講をもって完結するため、本科目を登録受講する場合は、これらの科目の受講も視野に入れて行うことを望む。

※ポリシーとの関連性　　介護は、社会福祉の重要な援助技術と位置づけ、技術と同時に人

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	介護技術Ⅰ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-諸見里　安知	２年	講義終了後に受け付ける	

学びの準備

ねらい

介護の意味や目的、介護技術の具体的内容、介護をする際の留意点、専門職としての倫理等について理解する

メッセージ

受講生は日頃から、介護について関心を持ち、介護の知識や技術についての情報を収集し理解を深めるよう努めること

到達目標

クラス終了の際は、介護に関する基本的な知識を有すると同時に、関連する医療、保健、生活リハやレク等の基本について理解する

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション　講義概要、テキスト・服装・受講上の注意など	講義内容を復習し次の時間に備える
2	介護概論①（介護の内容・意味、現場の実情）	同上
3	介護概論②（高齢者理解）	同上
4	コミュニケーション技術①（基本）	同上
5	コミュニケーション技術②（障害別）	同上
6	介護保険施設の実際①（施設ケア）	同上
7	介護保険施設の実際②（在宅ケア）	同上
8	介護保険の課題	同上
9	リスクマネジメント①（危険予知・ヒヤリハット）	同上
10	リスクマネジメント②（高齢者虐待）	同上
11	認知症理解①（記憶障害・周辺症状）	同上
12	認知症理解②（ＢＰＳＤ行動心理状態）	同上
13	認知症ケア実践①（事例）	同上
14	認知症ケア実践②（ロールプレー）	同上
15	高齢者レクリエーション	同上
16		

テキスト・参考文献・資料など

クラスの中で指定する
必要に応じて、資料を配付する

学びの手立て

多くの視聴覚教材もあり、学生が自主的に情報収集や資料収集をすることを歓迎する
また、可能な限り、実際の介護現場に触れることを歓迎する

評価

必要に応じて小論文を課し、学期末に、まとめのレポートを課す

学びの継続

次のステージ・関連科目

介護技術Ⅱの履修を希望する

※ポリシーとの関連性　　介護は、社会福祉の重要な援助技術と位置づけ、技術と同時に人間に対する姿勢や考え方に考え対応力を養う。　　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 介護技術Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	集中	集中	2
担当者 -諸見里　安知	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	質問はクラスで受け付ける。	

学びの準備

ねらい

介護の意味や目的、介護技術の具体的内容、介護をする際の留意点、多職種連携、専門職としてのチームワークを理解する

メッセージ

受講生は日頃から、介護について関心を持ち、介護の知識や技術と同時に、社会の行動や介護に関する政策面についても情報を収集し理解を深めるよう努めること

到達目標

クラス終了の際は、介護に関する基本的な知識を有すると同時に、関連する医療、保健、生活リハやレク等の基本について理解とを目標とする

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション　講義概要、テキスト・服装・受講上の注意など	
2	介護保険制度の理解①（制度の仕組み）	
3	介護保険制度の理解②（介護支援専門員のしごと）	
4	介護保険制度の理解③（ケアプラン作成ＰＤＣＡ）	
5	介護保険制度の理解④（包括ケアシステム）	
6	生活支援技術①（ＩＣＦ）	
7	生活支援技術②（生活支援の基本原則）	
8	生活支援技術③（高齢者理解・ベッド上での介助）	
9	生活支援技術④（移動介助・車いす介助方法）	
10	生活支援技術⑤（移動介助・杖歩行介助方法）	
11	生活支援技術⑥（食事摂取メカニズム・食事介助）	
12	生活支援技術⑦（排泄メカニズム・排泄介助）	
13	介護過程の展開	
14	介護と看護の連携（多職種連携）	
15	介護者技術Ⅱまとめ	
16		

テキスト・参考文献・資料など

クラスの中で指定する
必要に応じて、資料等を配付する

学びの手立て

多くの視聴覚教材もあり、学生が自主的に情報収集や資料収集をすることを歓迎する
また、可能な限り、実際の介護現場に触れることを歓迎する

評価

必要に応じて詳論を課し、学期末に、まとめのレポートを課す

学びの継続

次のステージ・関連科目

クラスで学んだことを社会福祉等の実習を通して現場で確認すること
さらに専門的な学びを継続し、将来は専門介護従事者となることを期待する

※ポリシーとの関連性　「家族」を通して人間・社会・文化を考察していき、複眼的にものをみる知性・感性を養い、問題解決能力をつける。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 家族社会学	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木３	2
担当者 -具志堅　邦子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

①家族とは何かを考え、②どのようにして現在の家族が生成されたのかを考える。家族とは何かという問いは、家族という構造を明らかにすることである。どのようにして家族が生成されてきたのかをたどることは、家族を生成してきたものの構造を明らかにすることである。二つの構造を明らかにすることによって、これからの家族と社会の可能性を探る。

メッセージ

学生時代に、家族とは何か、家族するということはどういうことかを考察してみましょう。そのことによって、これからの家族と社会の可能性がみえてきます。

到達目標

現代の社会事象を家族から読み解くことができるようになる。近代・宗教・経済・近代的ジェンダー・国民国家・アディクションなどの視点から家族と社会を読み解くことができるようになる。そのうえで、これからの社会と家族のありようをイメージすることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス、家族の構造	初回から講義します
2	家族に関する統計を読む	基礎的な統計を把握しておく
3	日本における近代家族の生成	配布資料を熟読すること
4	戦後の日本の社会変動と家族	配布資料を熟読すること
5	沖縄の家族(1)	配布資料を熟読すること
6	沖縄の家族(2)	配布資料を熟読すること
7	子どもの社会史	配布資料を熟読すること
8	母親の社会史	配布資料を熟読すること
9	近代家族と老い	配布資料を熟読すること
10	家族システムとダブルバインド	配布資料を熟読すること
11	家族を読み解く(1)	配布資料を熟読すること
12	家族を読み解く(2)	配布資料を熟読すること
13	近代家族とアディクション(1)	配布資料を熟読すること
14	近代家族とアディクション(2)	配布資料を熟読すること
15	家族と死	配布資料を熟読すること
16	課題	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。講義に関連する文献は適宜講義内で指示する。また、授業に関連する資料を配布するので、それを参考にすること。講義の理論となっている主な参考文献は次のとおり。①フィリップ・アリエス『「子供」の誕生』（1980年、みすず書房）　②エリザベート・バダンテール『母性という神話』（1998年、ちくま学芸文庫）③グレゴリー・ベイトソン『精神の生態学』（2000年、新思索社）

学びの手立て

現代社会は「大きな物語」が終焉したという前提で講義をすすめていく。毎回の受講の積み重ねが力になる。

評価

毎回、配布資料の文脈にそって、発見だったこと、感じたこと、考えたことをリアクション・ペーパーに書いて提出する。リアクション・ペーパーと授業参加度（9割）と課題（1割）で評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

多様な家族のあり方を支援する家族政策・社会政策へ提言できる。そのような活動・研究・臨床の場につながることをのぞむ。

※ポリシーとの関連性　外国の心理学の文献を読む力を身につけることを目的とする

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 外国語演習Ⅰ		期 別	曜日・時限	単 位
		前期	金３	2
担当者 -新里　健		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		２年	kshinzato@nirai.ne.jp	

学びの準備

ねらい

この授業のねらいは二つ。一つは、英語の文献を読む力を身につけること、もう一つは、英語の文献を通じて、心理学の専門用語の知識を得ること。

メッセージ

英語の文献を読むには、まず、英語の文の構造を知ることが大切です。何が主語で何が述語かをしっかり把握すれば、長文でも理解できるようになります。文の構造を理解できような授業にしたいと思います。

到達目標

この授業での到達目標は、心理学に関する専門書を読んで、文の構造と英文の内容を理解できることとする。授業では、文中の主語・述語などを明確にし、文の構造がわかりやすく説明します。文の構造を明らかにし、外国語の文献の理解が進むような授業を行います。大学院へ進む学生にとっても、学習の仕方を学ぶという点ではプラスになるでしょう。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	Ivan Pavlov(8頁1行目～10頁最後の行まで)	授業の範囲を予習しておく
3	Ivan Pavlov(11頁1行目～13頁最後の行まで)	前回の復習とその日の授業の予習
4	B.S.Skinner（14頁1行目～16頁最後の行まで）	前回の復習とその日の授業の予習
5	B.S.Skinner（17頁1行目～19頁最後の行まで）	前回の復習とその日の授業の予習
6	Sigmund Freud（20頁1行目～23頁24行まで）	前回の復習とその日の授業の予習
7	Sigmund Freud（23頁25行目～27頁最後の行まで）	前回の復習とその日の授業の予習
8	Anna Freud（28頁1行目～30頁6行まで）	前回の復習とその日の授業の予習
9	Anna Freud（30頁7行目～32頁最後の行まで）	前回の復習とその日の授業の予習
10	Lawrence Kohlberg（33頁1行目～36頁最後の行まで	前回の復習とその日の授業の予習
11	Stanley Milgram（37頁1行目～40頁の行まで）	前回の復習とその日の授業の予習
12	Stanley Milgram（41頁1行目～43頁最後の行まで）	前回の復習とその日の授業の予習
13	Alfred Adler（44頁1行目～47頁最後の行まで）	前回の復習とその日の授業の予習
14	Philip Zimbardo（53頁1行目～56頁最後の行まで）	前回の復習とその日の授業の予習
15	Solomon Ash（Solomon Ash（57頁1行目～60頁最後の行まで）、まとめ	前回の復習とその日の授業の予習
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは、A Crash Course in the Science of the Mind, PaulKleinman, 2012, AdamsMedia。授業はプリントを配布して行う。

学びの手立て

語学は、頑張れば頑張るほど必ず力がついてきます。才能よりも努力です。単語や述語を憶えることも大切ですが、だからといって、単語だけ一生懸命に憶えても、全体の文章の意味が分からなければ意味がありません。まず、多くの学生が苦手にしている英文法をわかりやすく解説して、英文の解釈ができるような授業にしたいと思います。毎回、小テストがありますが、振り返りのためには、大切な小テストです。是非、頑張って苦手の英語にチャレンジしてください。　必ず辞書は持参してください。大学院に進む学生は、日頃から紙媒体の辞書を購入してください。院試の際に電子辞書の持ち込みを認めない大学がほとんどです。

評価

期末試験（50%）、小テスト（30%）、課題(20%)、出席状況等を総合的に考慮して行います。毎回、授業開始前に10分程度の小テスト（前回授業の振り返り）は、3点満点で10回程度行う予定です。合計で30点満点になります。5回以上欠席した場合は、単位は与えられません。20分以上遅刻した場合は、遅刻ではなく、欠席扱いとなります。遅刻3回で1回欠席となりますので、注意してください。

学びの継続

次のステージ・関連科目

外国語演習を通して、外国語の読解が容易になり、今後の心理学の学習に役立つと思われます。

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	外国語演習Ⅰ	前期	水５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼　千津子	２年		

学びの準備

ねらい

学生らが英語で書かれた心理学の文献を読みこなすことができることがこの講義のねらいである。簡単な心理学用語を学びながら講読していき，原書でしか読み取れないニュアンスを学びながら心理学を学んでいく。英語で書かれた心理学の文献を読むことによって，原書を読む楽しさを学び、理解を深める。

メッセージ

現場で臨床心理士をしている講師が英語を教えます。心理学の文献でよく見られる単語等を教えます。

到達目標

心理学でよく使用される英語を知ることで、専門用語（英語）の語彙力が高まります。
英語で書かれた心理学文献をスムーズに訳することが出来るようになります。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	登録、オリエンテーション	配布資料の予習
2	発達障がい（英語の文献を読み解く）	配布資料の英単語を調べる
3	発達障がい（英語の文献を読み解く）	発達障がいの英語の文献を和訳する
4	発達障がい（英語の文献を読み解く）小テスト準備	復習、小テストに備えた学習
5	小テスト（発達障がい）・心理アセスメント(英語圏の心理アセスメントを理解する)	配布資料の英単語を調べる
6	心理アセスメント(英語圏の心理アセスメントを理解する）、課題提示（自宅学習）	復習、課題を自宅学習
7	カウンセリング（ロジャースの来談者中心療法の原著購読）、課題提出	配布資料の単語を調べる
8	カウンセリング（ロジャースの来談者中心療法の原著購読）	配布資料を和訳する
9	カウンセリング（ロジャースの来談者中心療法の原著購読）・小テスト準備	復習、小テストに備えた学習
10	小テスト（カウンセリング）・集団心理療法（Yalomの集団心理療法の原著購読）	配布資料の英単語を調べる
11	集団心理療法（Yalomの集団心理療法の原著購読）	配布資料を和訳する
12	集団心理療法（Yalomの集団心理療法の原著購読）、小テスト準備	復習、小テストに備えた学習
13	小テスト（集団心理療法）虐待・ドメスティックバイオレンス・神話	配布資料の単語を調べる
14	虐待・ドメスティックバイオレンス・Myth、課題提示（自宅学習）	復習、課題を自宅学習
15	課題提出、全体のまとめ	復習
16		

テキスト・参考文献・資料など

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。
原書を読む楽しさを学び、理解を深める。
Gelso, C. J. & Fretz, B. R. (1992) Counseling Psychology. Harcourt Brace College Publisher.
その他、参考文献は講義の中で紹介する。

学びの手立て

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書等を持参すること（電子辞書ＯＫ。スマホアプリ辞書ＯＫ）。ただし、授業と関連ないスマホ使用禁止。
意欲的な授業参加を求める。授業に集中し、講師の板書内容を積極的に書き留めること。

評価

各単元終了後、小テスト（3回）、課題（2回）。小テスト（60%）、課題（30%）、平常点10%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

外国語演習Ⅱ

※ポリシーとの関連性　日本語のみならず、英語で文献を読むことにより、幅広い教養を身につけてもらう。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	外国語演習Ｉ	前期	木３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-柳田　正豪	２年	shogo@ocjc.ac.jp	

学びの準備

ねらい

欧米からきた心理学は、英語でふれることによって、その専門用語、理論、歴史等を理解することができる。

メッセージ

英語で心理関係の文献を読むのは、かなりハードルが高いですが、この授業で読む英文は、英検２級程度の単語が多いです。また主な頻出単語・表現を理解すれば、英文理解度も上がります。この授業を履修中に、英検２級やTOEICにチャレンジするのも良いかもしれません。

到達目標

１．心理系の英単語・表現を学ぶことができる。２．英文の心理系文献を読む際、学んだ心理系英単語や表現を活かせる。３．精神疾患やカウンセリングに関しての理解を深めることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	外国語演習のオリエンテーション。米国と日本でのカウンセリングの価値観の違い	配布資料を読む。
2	So you want to become a psychologistを読む。	配布資料を読む。単語テスト
3	So you want to become a psychologistを読む。	配布資料を読む。単語テスト
4	The Role and Responsibility of Psychologists	配布資料を読む。単語テスト
5	Projective Tests of Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
6	Objective Tests of Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
7	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
8	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
9	Abnormal Psychologyを読む	配布資料を読む。単語テスト
10	Obsessive-compulsive disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
11	Obsessive-compulsive disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
12	Anorexia Nervosa/ Bulima Nervosaを読む	配布資料を読む。単語テスト
13	Anorexia Nervosa/ Bulima Nervosaを読む	配布資料を読む。単語テスト
14	Laughter and Healthを読む	配布資料を読む。単語テスト
15	Laughter and Healthを読む	配布資料を読む。単語テスト
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

プリントを配布します。

学びの手立て

辞書を毎講義、持参すること。毎講義開始時間に、単語テストがあるので、遅刻しないこと。

評価

単語テスト・・・30%　課題・・・20%　期末テスト・・・50%

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　日本語のみならず、英語で文献を読むことにより、幅広い教養を身につけてもらう。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	外国語演習Ⅱ	後期	木３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-柳田　正豪	２年	shogo@ocjc.ac.jp	

学びの準備

ねらい

欧米からきた心理学は、英語にふれることによって、その専門用語、理論、歴史等を理解することができる。

メッセージ

英語で心理関係の文献を読むのは、ハードルが高いですが、この授業で読む英文は、英検２級程度の単語が多いです。また主な頻出単語・表現を理解すれば、英文理解度も上がります。この授業を履修中に、英検２級やTOEICにチャレンジするのも良いかもしれません。

到達目標

１．心理系の英単語・表現を学ぶことができる。　２．英文の心理系文献を読む際、学んだ心理系英単語や表現を活かすことができる。　３．精神疾患やカウンセリングに関しての理解を深めることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	外国語演習オリエンテーション。子どもに見られる精神障害について。	配布資料を読む。
2	ADHDを読む。	配布資料を読む。単語テスト
3	ADHDを読む。	配布資料を読む。単語テスト
4	Conduct Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
5	Conduct Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
6	Autistic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
7	Autistic Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
8	Asperger's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
9	Asperger's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
10	Down Syndromeを読む。	配布資料を読む。単語テスト
11	Down Syndromeを読む。	配布資料を読む。単語テスト
12	Tourette's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
13	Tourette's Disorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
14	Tic Diorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
15	Tic Diorderを読む。	配布資料を読む。単語テスト
16	期末テスト	

テキスト・参考文献・資料など

プリントを配布します。

学びの手立て

辞書を毎講義、持参すること。毎講義開始時間に、単語テストがあるので、遅刻しないこと。

評価

単語テスト・・・30%　　課題・・・20%　　期末テスト・・・50%

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　外国の心理学の文献を読む力を身につけることを目的とする

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 外国語演習Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金３	2
担当者 -新里　健	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	kshinzato@nirai.ne.jp	

学びの準備

ねらい

この授業のねらいは二つ。一つは、英語の文献を読む力を身につけること、もう一つは、英語の文献を通じて、心理学の専門用語の知識を得ること。

メッセージ

英語の文献を読むには、まず、英語の文の構造を知ることが大切です。何が主語で何が述語かをしっかり把握すれば、長文でも理解できるようになります。文の構造を理解できような授業にしたいと思います。

到達目標

この授業では、文中の主語・述語などを明確にし、文の構造がわかりやすく説明します。難しい外国語の文献は、単語だけ分かっても、文の構造がわからなければ全体の意味がわかりませんので、まずは、文の構造を明らかにし、外国語の文献の理解が進むような授業を行います。大学院へ進む学生にとっても、学習の仕方を学ぶという点ではプラスになるでしょう。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	Chapter 8, p289～p290、35行まで	授業の範囲を予習しておく
3	Chapter 8, p290, 36行～p291、最後の行まで	前回の復習とその日の授業の予習
4	Chapter 8, p292、1行～p293の29行まで	前回の復習とその日の授業の予習
5	Chapter 8, p293、30行～p294の34行まで	前回の復習とその日の授業の予習
6	Chapter 8, p294、35～p296の17行まで	前回の復習とその日の授業の予習
7	Chapter 8, p296、18行～p297の30行まで	前回の復習とその日の授業の予習
8	Chapter 8, p297、31行～p298の42行まで	前回の復習とその日の授業の予習
9	Chapter 8, p298、43行～p300、11行まで	前回の復習とその日の授業の予習
10	Chapter 8, p300、12行～p301、30行まで	前回の復習とその日の授業の予習
11	Chapter 8, p301、31行～p303、14行まで	前回の復習とその日の授業の予習
12	Chapter 8, p303、15行～p304、32行まで	前回の復習とその日の授業の予習
13	Chapter 8, p304、33行～p306、12行まで	前回の復習とその日の授業の予習
14	Chapter 8, p306、13行～p307、33行まで	前回の復習とその日の授業の予習
15	Chapter 8, p307、34行～p308、34行まで	前回の復習とその日の授業の予習
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは、The Social Animal Ninth Edition, Elliot Aronson, Worth Publisher を用いる。この本は､心理学の紹介本で、英文の文章が美しいという点で評判の本です。主に、社会心理学の観点から心理学を紹介している書で、心理学専攻の学生には、是非読んでほしい一冊です。 今回は、この書の中から、Liking, Loving, and Interpersonal Sensitivityのchapterを扱う。

学びの手立て

語学は、単語や述語を憶えることも大切ですが、だからといって、単語だけ一生懸命に憶えても、全体の文章の意味が分からなければ意味がありません。まず、多くの学生が苦手にしている英文法をわかりやすく解説して、英文の解釈ができるような授業にしたいと思います。毎回、小テストがありますが、振り返りのためには、大切な小テストです。是非、頑張って苦手の英語にチャレンジしてください。　必ず辞書は持参してください。大学院に進む学生は､日頃から紙媒体の辞書を購入してください。院試の際に電子辞書の持ち込みを認めない大学がほとんどです。

評価

小テスト（30%）　毎回、授業開始前に10分程度の小テスト（前回授業の振り返り）を行います。　期末試験（70%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

外国語演習を通して、外国語の読解が容易になり、今後の心理学の学習に役立つと思われます。

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	外国語演習Ⅱ	後期	水５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼　千津子	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

外国語演習Ⅰで学んだものを元に，英語で書かれた研究論文を読みこなすことができることがこの授業のねらいである。
さらに、最新の心理学情報や研究論文を原書で読みこなすことを目標とする。

メッセージ

現場で臨床心理士をしている講師が英語を教えます。心理学の文献でよく見られる単語等を教えます。

到達目標

英語で書かれた文献を通して、外国（主に米国）での心理学の現状や心の病についてなど学習することが出来ます。
大学で現在学んでいる心理学と外国（主に米国）での心理学トピックを交差させることができ、学びが深くなります。
さらに、英語で心理学文献を読むストレスが低くなります。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	登録・オリエンテーション	配布資料の予習
2	心理学関連トピック　原書講読	配布資料の単語を調べる
3	心理学関連トピック　原書講読	配布資料の和訳
4	心理学関連トピック　原書講読	配布資料の和訳
5	心理学関連トピック　原書講読、小テストの準備	復習、小テストに備えた学習
6	小テスト、心理学関連時事英語　原書講読	配布資料の単語を調べる
7	心理学関連時事英語　原書講読	配布資料の和訳
8	心理学関連時事英語　原書講読	配布資料の和訳
9	心理学関連時事英語　原書講読、小テストの準備	復習、小テストに備えた学習
10	小テスト、心理学関連研究論文　原書購読	配布資料の単語を調べる
11	心理学関連研究論文　原書購読	配布資料の和訳
12	心理学関連研究論文　原書購読	配布資料の和訳
13	心理学関連研究論文　原書購読	配布資料の和訳
14	心理学関連研究論文　原書購読、小テストの準備	復習、小テストに備えた学習
15	小テスト、全体のまとめ	復習
16		

テキスト・参考文献・資料など

特に指定はない。授業は配布資料を用いて行われる。参考文献は講義の中で適宜紹介する。

学びの手立て

遅刻や欠席をしないこと。英語辞書等を持参すること（電子辞書ＯＫ。スマホアプリ辞書ＯＫ）。ただし、授業と関連ないスマホ使用禁止。
意欲的な授業参加を求める。授業に集中し、講師の板書内容を積極的に書き留めること。

評価

各単元終了後、小テスト（3回）。小テスト（90%）、平常点10%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　臨床心理学の知見を、学校臨床での実践と関連付けて学んでいきます。

[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 学校臨床心理学	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月４	2
担当者 -牛田　洋一	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	yushida@okiu.ac.jpあるいは講義後に教室にて	

学びの準備

ねらい

学校における児童・生徒の成長・発達への臨床心理学的援助や、学校コミュニティーへの援助を進めるための基礎的知識を習得することを目的としている。また、スクールカウンセラーとしての視点から援助を進める上で、学校組織とどのように協調していくかについても検討していきます。

メッセージ

講義は真剣に、しかし（学校）臨床心理の実践に不可欠なユーモアの精神も伝えていきます。

到達目標

現在の小・中学校の現状を知り、不登校、いじめ、緊急支援など問題行動に対する臨床心理学的解決手段を知る。また、同時にストレスマネジメントなどのプロアクティブな支援のあり方についても学ぶことができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション　学校臨床心理学とは	シラバスを確認すること
2	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（1）	配布資料の確認と別途文献での確認
3	沖縄県における小中学校の不登校、いじめなどの態様（2）	同上
4	学校臨床心理学の先進国（1）：アメリカにおける学校心理学	同上
5	学校臨床心理学の先進国（2）：アメリカのスクールサイコロジストとスクールカウンセラー	同上
6	学校コミュニティーにおける緊急支援（1）	同上
7	学校コミュニティーにおける緊急支援（2）	同上
8	学校臨床最前線から（1）いじめ	同上
9	学校臨床最前線から（2）スクールカウンセラーと学校現場	同上
10	学校臨床最前線から（1）不登校	同上
11	学校臨床最前線から（1）思春期の自傷行為	同上
12	学校での今日的問題（1）：発達障害	同上
13	学校での今日的問題（2）：選択性緘黙	同上
14	学校での今日的問題（3）：ストレスマネジメント	同上
15	まとめ：学校臨床心理学とは	全ての配布資料の再確認
16	試験	総合評価60点未満で不可

テキスト・参考文献・資料など

講義のなかで適宜資料を配布する。
講義のなかで適宜紹介する。また、特に指定はないが臨床心理学の入門書、あるいは臨床心理学辞典を手元に一冊用意しておくことを勧めます。

学びの手立て

履修の心構え：
・講義中の携帯電話等はマナーモードあるいは電源を切り、机の上などの見えるところに置かないようにしてください。
・欠席した場合は欠席届を提出してください。受講生が多人数になることがありますが、出席確認は受講者の良識によって行いますので、他人の代理での出席確認は認めません。

評価

基本的に試験の結果を重視します（９０％）。その他レポート、授業への参加姿勢など（１０％）を加味し総合的に評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

学校臨床での心理学的知見の実践のための科目であるため、「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」、「教育心理学」「心理面接法」などの履修と理解が望ましい。

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	基礎演習	後期	水１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ﾄﾞﾅﾙﾄﾞ ｸﾚｲｸﾞ ｳｨﾙｺｯｸｽ	１年	E-mail:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備

ねらい

大学生生活のはじめとして、大学で学ぶ意義・文献の読み方などを学んでいきます。

メッセージ

この講義においては、学生の主体性を重視する。グループ発表も行うため他学生との意見交換、グループ作業の円滑な準備等を心がけて欲しい。社会人講師による講演も予定している。

到達目標

この演習では、大学生活に慣れるために行うものである。各学生には「大学で学ぶ目的はなにか」、「大学で学ぶためにはどのような準備が必要か」など大学生活を送る上で必要な知識・技術を身につけていく。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	文献を使いこなす、文献の探し方	配付資料の精読
3	レポートを書く技術	配付資料の精読
4	社会人講師による講演（予定）	
5	合同ゼミ（予定）	
6	国際理解と国際福祉の紹介	
7	JICAについて	
8	専門演習について	
9	研究論文の読み方１	配付資料の精読
10	研究論文の読み方２	配付資料の精読
11	グループ発表	配付資料の精読
12	グループ発表	配付資料の精読
13	グループ発表	配付資料の精読
14	グループ発表についての振り返り	
15	講義全体の振り返り	
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。
必要に応じて、資料を紹介・配付する。

学びの手立て

演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。
グループでの発表も予定しているので他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。

評価

出席状況、演習中の議論、発表の内容など授業への参加意欲を総合的に判断し評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この講義を終えると次は「専門演習ａ」につながります。「専門演習ａ」では、各自の興味のある先生のゼミの元で学びを深めていくことになります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修しどの福祉分野を学びたいかを判断してください。

※ポリシーとの関連性　福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍するために求められる人間性と能力を豊かにすることにつながる講義です。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 基礎演習	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木１	2
担当者 岩田　直子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

２年次以降、専門科目を学ぶ上で身につけておくべき知識や技術、姿勢を学びます。主に、発表をする時に行うこと（文献検索、資料収集、レジュメやパワーポイントの作成、資料の印刷、ＰＣやスクリーンの設置方法など）を体験しながら学びます。

メッセージ

大学では自分の考えを深めたりそれを発表する機会がたくさんあります。本科目では発表に関わることを体験しながら学びます。また、発表するだけでなく、質問する力も身につけていきましょう。

到達目標

①個別に研究したことをまとめることができる。
②発表のスキルを高めることができる。
③質問のスキルを高めることができる
④その他、卒論発表会に出席して他の学生の発表の様子を見ることで２年次以降の専門分野の学びを具体化することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション　ゼミの概要説明	
2	講義：個別研究の意義と研究方法	
3	講義：レジュメとパワーポイントの作成方法	
4	面談：個別研究のテーマ設定①	
5	面談：個別研究のテーマ設定②	
6	専門演習について理解する～上級生との交流	
7	個別発表①	
8	個別発表②	
9	個別発表③	
10	個別発表④	
11	個別発表⑤	
12	個別発表⑥	
13	個別発表⑦	
14	個別発表⑧	
15	まとめ①	
16	まとめ②	

テキスト・参考文献・資料など

講義時に随時紹介します。指定の教科書はありません。

学びの手立て

①履修の心構え：演習科目は学生の主体性が不可欠です。積極的に活動に参加しましょう。出席も重視します。
②学びを深めるために：受講にあたっては講義終了後に振り返りをしっかりしていきましょう。また、講演会や研修に積極的に参加しましょう。

評価

個別研究発表内容（５０％）、演習参加状況（５０％）

学びの継続

次のステージ・関連科目

①次のステージ：専門の勉強をする際にフレッシュマンセミナーで学んだことを活かしていきいましょう。
②関連科目：１年次が履修できる社会福祉専攻の専門科目

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名 基礎演習	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	木１	2
	担当者 知名　孝	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		１年	人間福祉学科　知名孝	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方（文化）のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。	前期「フレッシュマンセミナー」（知名孝担当）の学生が後期履修することになります。夏期休暇中に障害児通所施設で行ったボランティア実習の振り返りを通して学習を進めていきます。

到達目標

大学教育の中で必要とされるディスカッションやディベート力、レポートやプレゼンテーションの作成能力を高めていきます。ボランティア実習を通して、現場で働くことを体験的に学ぶ機会にもしていきます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するものとで授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。

テキスト・参考文献・資料など

それぞれの授業のなかで紹介していく。
それぞれの授業のなかで紹介していく。

学びの手立て

評価

ゼミ活動への参加、出席、課題の提出状況などを総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	基礎演習	後期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ﾄﾞﾅﾙﾄﾞ ｸﾚｲｸﾞ ｳｨﾙｺｯｸｽ	１年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備

ねらい

大学生生活のはじめとして、大学で学ぶ意義・文献の読み方などを学んでいきます。

メッセージ

この講義においては、学生の主体性を重視する。グループ発表も行うため他学生との意見交換、グループ作業の円滑な準備等を心がけて欲しい。社会人講師による講演も予定している。

到達目標

この演習では、大学生活に慣れるために行うものである。各学生には「大学で学ぶ目的はなにか」、「大学で学ぶためにはどのような準備が必要か」など大学生活を送る上で必要な知識・技術を身につけていく。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	文献を使いこなす、文献の探し方	配付資料の精読
3	レポートを書く技術	配付資料の精読
4	社会人講師による講演（予定）	
5	合同ゼミ（予定）	
6	国際理解と国際福祉の紹介	
7	JICAについて	
8	専門演習について	
9	研究論文の読み方１	配付資料の精読
10	研究論文の読み方２	配付資料の精読
11	グループ発表	配付資料の精読
12	グループ発表	配付資料の精読
13	グループ発表	配付資料の精読
14	グループ発表についての振り返り	
15	講義全体の振り返り	
16		

テキスト・参考文献・資料など

よくわかる学びの技法第２版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年
その他、必要に応じて、資料を紹介・配付する。

学びの手立て

演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。
グループでの発表も予定しているので他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。
遅刻や欠席をしないこと。

評価

出席の状況（50%）、発表・提出物の状況（40%）、その他（10%）として評価を行う。
日々の講義態度も評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この講義を終えると次は「専門演習ａ」につながります。「専門演習ａ」では、各自の興味のある先生のゼミの元で学びを深めていくことになります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修しどの福祉分野を学びたいかを判断してください。

※ポリシーとの関連性　社会福祉に関する基礎を実践的に学習すること。個別での学習のみならず、グループ等での学習成果の発表を行う。　[　　／演習]

科目基本情報				
	科目名 基礎演習	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	木１	2
	担当者 桃原　一彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		１年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備

ねらい

基礎演習（桃原ゼミ）では、前期の「フレッシュマンセミナー」で学んだ「聞く力」に続き、学士力（ジェネリックスキル）を身につけるための共同学習を行う。学士力において重要なキワードとなるのが「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）であり、それは聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力が鍵となる。

メッセージ

1年次の後期は、前期で身につけたコミュニケーション技能とグループでの学習・討論の姿勢をいかして、社会福祉に関する基礎的な学習を行います。2年次の専門的な学習や大学生にとっての基本的なスキル（レポートの書き方など）にも関わるので、頑張っていきましょう。

到達目標

学士力（ジェネリックスキル）としての「リサーチリテラシー」（研究のための基礎力）を身につける。聞く力のほかに課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力を身につけること。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

基礎演習では、フレッシュマンセミナー（前期）で身につけた学士力およびリサーチリテラシーの柱の一つである聞く力に引き続き、以下の７つのスキル（課題発見力、情報収集力、情報整理力、読む力、データ分析力、書く力、プレゼンテーション力）をグループで共同学習していく。

①課題発見力：大学生がもっとも苦手にしているが、社会学、心理学、社会福祉学など具体的なものを題材に問いの立て方などのコツをを身につけていく。
②情報収集力：文献検索と収集の方法、図書館の使い方、インターネットの活用法を身につける。
③情報整理力：書類整理のコツやパソコンを使った情報管理などを身につける。
④読む力：学術書などの読み方を段階的に学んでいく。
⑤書く力：レポートや論文の書き方について、問題提起と結論、そして結論を支える理由といった学術的文章の仕組みを意識した書き方を学んでいく。
⑥データ分析力：データを分析して解釈する手続きを学びつつ、データに騙されないための視点を身につける。
⑦プレゼンテーション力：自分の考え、意見を人にわかりやすく伝えるための方法を身につける。

また、基礎演習では10月下旬～11月上旬ごろ、２年次の専門演習に向けたオリエンテーションを予定している。

テキスト・参考文献・資料など

適宜資料等を配布し、文献等を紹介する。

学びの手立て

ゼミは前期の「フレッシュマンセミナー」と同じクラスに登録すること。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。
個別ゼミ以外の専攻全体のゼミも必ず出席すること（とくに2年次の専門演習に向けたオリエンテーションなどのスケジュールには注意すること）。
必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。
与えられた個別課題（レポート等）、グループ課題（発表作品）には必ず取り組んで、提出・発表すること。

評価

以下の構成で総合的に評価する。平常点（受講姿勢等）が20点、グループ学習および発表への取り組み姿勢が20点、グループおよび個人に課せられた課題の提出状況が60点という構成となる。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：専門演習a
次のステージ：
1年次では社会福祉や周辺関連分野の学問について基礎的なことを学ぶ。その中から、自己の関心領域を絞り込み、2年次以降の専門領域を確立する。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシーに掲げた正課科目・正課外活動の基礎となる学ぶ力をつける。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ａ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木１	2
担当者 野村　れいか	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室：9号館　r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。

メッセージ

大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。

到達目標

①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション・就学/登録に関する諸注意	履修ガイドを読む
2	各ゼミでの顔合わせ	ミニレポート
3	個別ゼミグループワーク	ミニレポート
4	ライティング課題①（事実と考えを分けた記述）	ライティング課題
5	ライティング課題②（Eメールの使い方とマナー）	ライティング課題
6	図書館オリエンテーション	文献検索課題
7	ライティング課題①②のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
8	ライティング課題③（読み手の視点に立つ）	ライティング課題
9	ライティング課題④（要約とレジメの作り方）	ライティング課題
10	社会で求められる文章力とは	ミニレポート
11	ライティング課題③④のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
12	レポートの書き方①（テーマの絞り方）	レポート課題
13	図書館心理学関連書架見学ツアー	文献検索課題
14	レポートの書き方②（文章の構成）	レポート課題
15	レポートの書き方③（論の展開と結び）	レポート課題
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。参考図書は適宜紹介する。

学びの手立て

まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人を攻撃しているのではない。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）に遠慮なく相談すること。

評価

平常点（演習参加の態度、課題の提出状況）…40点
発表点…30点
ミニレポート内容・ライティング課題内容…30点

学びの継続

次のステージ・関連科目

基礎演習Aで学んだことを、「基礎演習B」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシーに掲げた正課科目・正課外活動の基礎となる学ぶ力をつける　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	基礎演習Ａ	前期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂　志乃	１年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。

メッセージ

大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。

到達目標

①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。
②必要な情報・文献を図書館で入手できる。
③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。
④相手に伝わるレジメが作れる。
⑤相手に伝わる発表ができる。
⑥他者と協働して課題を進めることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション・就学/登録に関する諸注意	履修ガイドを読む
2	各ゼミでの顔合わせ	ミニレポート
3	個別ゼミグループワーク（ゼミ内交流プログラム）	ミニレポート
4	ライティング課題①（事実と考えを分けた記述）	ライティング課題
5	ライティング課題②（Eメールの使い方とマナー）	ライティング課題
6	図書館オリエンテーション	文献検索課題
7	ライティング課題①②のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
8	ライティング課題③（読み手の視点に立つ）	ライティング課題
9	ライティング課題④（要約とレジメの作り方）	ライティング課題
10	社会で求められる文章力とは	ミニレポート
11	ライティング課題③④のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
12	レポートの書き方①（テーマの絞り方）	レポート課題
13	図書館心理学関連書架見学ツアー	文献検索課題
14	レポートの書き方②（文章の構成）	レポート課題
15	レポートの書き方③（論の展開と結び）	レポート課題
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキストはとくに指定しない
参考図書は適宜紹介する。

学びの手立て

まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでお互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩）に遠慮なく相談すること。

評価

平常点（演習参加の態度、課題の提出状況）…40点
発表…30点
ミニレポート内容・ライティング課題内容…30点

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：基礎演習Ａで学んだことを、「基礎演習Ｂ」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。
次へのステージ：共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシーに掲げた正課科目・正課外活動の基礎となる学ぶ力をつける　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ａ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木１	2
担当者 平山　篤史	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室　13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。

メッセージ

大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力は社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。

到達目標

①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション・就学/登録に関する諸注意	履修ガイドを読む
2	各ゼミでの顔合わせ	ミニレポート
3	個別ゼミグループワーク	ミニレポート
4	ライティング課題①（事実と考えを分けた記述）	ライティング課題
5	ライティング課題②（Eメールの使い方とマナー）	ライティング課題
6	図書館オリエンテーション	文献検索課題
7	ライティング課題①②のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
8	ライティング課題③（読み手の視点に立つ）	ライティング課題
9	ライティング課題④（要約とレジメの作り方）	ライティング課題
10	社会で求められる文章力とは	ミニレポート
11	ライティング課題③④のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
12	レポートの書き方①（テーマの絞り方）	レポート課題
13	図書館心理学関連書架見学ツアー	文献検索課題
14	レポートの書き方②（文章の構成）	レポート課題
15	レポートの書き方③（論の展開と結び）	レポート課題
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。
参考図書は適宜紹介する。

学びの手立て

まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人を攻撃しているのではない。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。
困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩）に遠慮なく相談すること。

評価

平常点（演習参加の態度、課題の提出状況）…40点
発表…30点
ミニレポート内容・ライティング課題内容…30点

学びの継続

次のステージ・関連科目

基礎演習Ａで学んだことを、「基礎演習Ｂ」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。
共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。

※ポリシーとの関連性　　カリキュラムポリシーに掲げた正課科目・正課外活動の基礎となる学ぶ力を身につける　　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	基礎演習Ａ	前期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊　真児	１年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

この演習では、大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらで得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聴き、自分の意見を主張し、討論する力などである。

メッセージ

大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力は社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。

到達目標

次に掲げる6つの目標に到達することを目指す。①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション・就学/登録に関する諸注意	履修ガイドを読む
2	各ゼミでの顔合わせ・対人交流のグループワーク	ミニレポート
3	個別ゼミグループワーク	ミニレポート
4	ライティング課題①（事実と考えを分けた記述）	ライティング課題１
5	ライティング課題②（Eメールの使い方とマナー）	ライティング課題２
6	図書館オリエンテーション	文献検索課題
7	ライティング課題①②のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
8	ライティング課題③（読み手の視点に立つ）	ライティング課題３
9	ライティング課題④（要約とレジメの作り方）	ライティング課題４
10	社会で求められる文章力とは	ミニレポート
11	ライティング課題③④のフィードバックと解説	ライティング課題の見直し
12	レポートの書き方①（テーマの絞り方）	レポート課題１
13	図書館心理学関連書架見学ツアー	文献検索課題
14	レポートの書き方②（文章の構成）	レポート課題２
15	レポートの書き方③（論の展開と結び）	レポート課題３
16		

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。
・参考図書は講義時に適宜紹介しますが、さしあたり次の２冊をあげておきます。
　藤田哲也 編著　2006　大学基礎講座－改増版　北大路書房
　溝上慎一　2006　大学生の学び・入門　有斐閣アルマ

学びの手立て

まずは積極的にゼミのメンバーと交流してほしい。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人を攻撃しているのではない。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。
困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩）に遠慮なく相談すること。

評価

平常点（演習への参加態度、課題の提出状況）…40点
発表…30点
ミニレポート内容・ライティング課題内容…30点

学びの継続

次のステージ・関連科目

基礎演習Ａで学んだことを、「基礎演習Ｂ」で応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。
共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシーに掲げた正課科目・正課外活動の基礎となる学ぶ力をつける。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 野村　れいか	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室：9号館618　r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。

メッセージ

大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。

到達目標

①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。
②必要な情報・文献を図書館で入手できる。
③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。
④相手に伝わるレジメが作れる。
⑤相手に伝わる発表ができる。
⑥他者と協働して課題を進めることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ボランティア活動中間報告	ミニレポート
2	図書紹介3分プレゼンテーション	発表原稿作成・発表練習
3	ライティングスキル⑤（文章の読み方、要約、段落構成）	ライティング課題
4	ライティングスキル⑥（図表を読み取る）	ライティング課題
5	心理学実験室見学と心理学実験体験	ミニレポート
6	ライティングスキル⑤⑥のフィードバックと解説	ライティング課題見直し
7	心理学用語調べPartⅠ：課題の説明（理論から日常）	グループミーティング・資料作成
8	心理学用語調べPartⅠ：調べ学習	グループミーティング・資料作成
9	心理学用語調べPartⅠ：発表会①前半グループ	グループミーティング・振り返り
10	心理学用語調べPartⅠ：発表会②後半グループ	グループミーティング・振り返り
11	心理学用語調べPartⅡ：課題の説明（日常から理論）	グループミーティング・資料作成
12	合同グループワーク	ミニレポート
13	心理学用語調べPartⅡ：発表会①前半グループ	グループミーティング・振り返り
14	心理学用語調べPartⅡ：発表会②後半グループ	グループミーティング・振り返り
15	基礎演習での学びの評価と振り返り	評価表のセルフチェック
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

適宜、紹介する。参考図書は適宜紹介する。

学びの手立て

基礎演習Aで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人を攻撃しているのではない。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。

評価

平常点（演習参加の態度、課題の提出状況）…40点
発表点…30点
ミニレポート内容・課題内容…30点

学びの継続

次のステージ・関連科目

基礎演習A・Bで学んだことを「心理学基礎演習A・B」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシーに掲げた正課科目・正課外活動の基礎となる学ぶ力をつける　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 前堂　志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。

メッセージ

大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力はどの社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。

到達目標

①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。
②必要な情報・文献を図書館で入手できる。
③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。
④相手に伝わるレジメが作れる。
⑤相手に伝わる発表ができる。
⑥他者と協働して課題を進めることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ボランティア活動中間報告	ミニレポート
2	図書紹介3分プレゼンテーション	発表原稿作成・発表練習
3	イティングスキル⑤（文章の読み方、要約、段落構成）	ライティング課題
4	ライティングスキル⑥（図表を読み取る）	ライティング課題
5	心理学実験室見学と心理学実験体験	ミニレポート
6	ライティングスキル⑤⑥のフィードバックと解説	ライティング課題見直し
7	心理学用語調べPartⅠ：調べ学習（理論から日常）	グループミーティング・資料作成
8	心理学用語調べPartⅠ：調べ学習	グループミーティング・資料作成
9	心理学用語調べPartⅠ：発表会①前半グループ	グループミーティング・振り返り
10	心理学用語調べPartⅠ：発表会②後半グループ	グループミーティング・振り返り
11	心理学用語調べPartⅡ：課題の説明（日常から理論）	グループミーティング・資料作成
12	合同グループワーク	ミニレポート
13	心理学用語調べPartⅡ：発表会①前半グループ	グループミーティング・振り返り
14	心理学用語調べPartⅡ：発表会②後半グループ	グループミーティング・振り返り
15	基礎演習での学びの評価と振り返り	評価表のセルフチェック
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは、特に指定しない。
参考文献は、講義時に適宜紹介する。

学びの手立て

基礎演習Ａで学んだことを振り返り、応用することが大事。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションでお互いに意見を述べ合うことは、個人を非難、攻撃することとは異なる。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩）に遠慮なく相談すること。

評価

平常点（演習参加の態度、課題の提出状況）…40点
発表…30点
ミニレポート内容・課題内容…30点

学びの継続

次のステージ・関連科目

基礎演習Ａ・Ｂで学んだことを、「心理学基礎演習Ａ・Ｂ」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。
共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシーに掲げた正課科目・正課外活動の基礎となる学ぶ力をつける

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 基礎演習Ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 平山　篤史	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室　13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聞き、自分の意見を主張し、討論する力などである。

メッセージ

大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力は社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。

到達目標

①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ボランティア活動中間報告	ミニレポート
2	図書紹介3分プレゼンテーション	発表原稿作成・発表練習
3	ライティングスキル⑤（文章の読み方、要約、段落構成）	ライティング課題
4	ライティングスキル⑥（図表を読み取る）	ライティング課題
5	心理学実験室見学と心理学実験体験	ミニレポート
6	ライティングスキル⑤⑥のフィードバックと解説	ライティング課題見直し
7	心理学用語調べPartⅠ：課題の説明（理論から日常）	グループミーティング・資料作成
8	心理学用語調べPartⅠ：調べ学習	グループミーティング・資料作成
9	心理学用語調べPartⅠ：発表会①前半グループ	グループミーティング・振り返り
10	心理学用語調べPartⅠ：発表会②後半グループ	グループミーティング・振り返り
11	心理学用語調べPartⅡ：課題の説明（日常から理論）	グループミーティング・資料作成
12	合同グループワーク	ミニレポート
13	心理学用語調べPartⅡ：発表会①前半グループ	グループミーティング・振り返り
14	心理学用語調べPartⅡ：発表会②後半グループ	グループミーティング・振り返り
15	基礎演習での学びの評価と振り返り	評価表のセルフチェック
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

適宜、紹介する。
参考図書は適宜紹介する。

学びの手立て

基礎演習Ａで学んだことを振り返り、応用することが大事。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人を攻撃しているのではない。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。
困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩）に遠慮なく相談すること。

評価

平常点（演習参加の態度、課題の提出状況）…40点
発表…30点
ミニレポート内容・課題内容…30点

学びの継続

次のステージ・関連科目

基礎演習Ａ・Ｂで学んだことを、「心理学基礎演習Ａ・Ｂ」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。
共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。

※ポリシーとの関連性　　カリキュラムポリシーに掲げた正課科目・正課外活動の基礎となる学ぶ力を身につける　　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	基礎演習Ｂ	後期	木２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊　真児	１年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

この演習では、大学で「学ぶ」ための基本的なスキルを養うことを目的とする。学びの基本スキルとは、話を聴く力、必要な情報を検索・収集する力、文献を読みこなす力、それらの得た情報を整理し、文章にまとめて書く力、自分の考えを発表する力、他者と協働する力、相手の意見を聴き、自分の意見を主張し、討論する力などである。

メッセージ

大学で「学ぶ」ということは、講義で教えられることを単に知識として詰め込むだけではありません。自ら問題点を見つけ出し、解決していく力を養うことが大学での「学び」に必要です。この能力は社会のどの領域でも求められる大事な能力です。この講義ではその基礎を学びます。

到達目標

次に掲げる6つの目標に到達することを目指す。①事実と意見を分けて相手に伝わる文章が書ける。②必要な情報・文献を図書館で入手できる。③文章を読み、それを理解し、まとめることができる。④相手に伝わるレジメが作れる。⑤相手に伝わる発表ができる。⑥他者と協働して課題を進めることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ボランティア活動中間報告	ミニレポート
2	図書紹介3分間プレゼンテーション	発表原稿作成・発表練習
3	ライティングスキル⑤（文章の読み方、要約、段落構成）	ライティング課題
4	ライティングスキル⑥（図表を読み取る）	ライティング課題
5	心理学実験室見学と心理学実験体験	ミニレポート
6	ライティングスキル⑤⑥のフィードバックと解説	ライティング課題見直し
7	心理学用語調べPartⅠ：課題の説明（理論から日常）	グループミーティング・資料作成
8	心理学用語調べPartⅠ：調べ学習	グループミーティング・資料作成
9	心理学用語調べPartⅠ：発表会①前半グループ	グループミーティング・振り返り
10	心理学用語調べPartⅠ：発表会②後半グループ	グループミーティング・振り返り
11	心理学用語調べPartⅡ：課題の説明（日常から理論）	グループミーティング・資料作成
12	合同グループワーク	ミニレポート
13	心理学用語調べPartⅡ：発表会①前半グループ	グループミーティング・振り返り
14	心理学用語調べPartⅡ：発表会②後半グループ	グループミーティング・振り返り
15	基礎演習での学びの評価と振り返り	評価表のセルフチェック
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。
参考図書は講義時に適宜紹介しますが、さしあたり次の３冊をあげておきます。
藤田哲也 編著　2006　大学基礎講座－改増版　北大路書房
溝上慎一　2006　大学生の学び・入門　有斐閣アルマ
山田剛史・林創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門　ミネルヴァ書房

学びの手立て

基礎演習Ａで学んだことを振り返り、応用することが大事。課題は目的を持って出題されているので、必ず毎回提出すること。グループディスカッションでは、積極的に意見を交換し、問題点を発見し、解決するために協力するというプロセスを踏むことが大事。ディスカッションは個人を攻撃しているのではない。共通の課題解決のために意見を交換しているという視点を大切にする。ひとりひとりが責任を持ち、役割を果たすこと。
困ったことや分からないことはアカデミックアドバイザー（担当教員）/SA(教育支援者の先輩）に遠慮なく相談すること。

評価

平常点（演習への参加態度、課題の提出状況）…40点
発表…30点
ミニレポート内容・課題内容…30点

学びの継続

次のステージ・関連科目

・基礎演習Ａ・Ｂで学んだことを、「心理学基礎演習Ａ・Ｂ」のより専門的な内容（心理学の各研究法）の学びを通して応用・展開し、学びの基礎力を定着させていく。
・共通科目・心理学の各専門科目での学びにつながる。

※ポリシーとの関連性

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	キャリア・カウンセリング	前期	水４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大兼　千津子	２年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

この講義では、キャリア・カウンセリングを学ぶのに不可欠な心理学的な視点を理解し、心理学の基礎知識を持つことを目的とします。講義の中では、キャリア・カウンセリングの土台となるキャリアに関する心理学の理論やアプローチを学びます。キャリア教育や産業カウンセリングを学ぶことにより、キャリア・カウンセリングの実践・応用について理解を深めます。

メッセージ

臨床心理士として働いている講師がキャリア・カウンセリングについて講義します。
キャリア・カウンセリングの理論家を一人ずつ紹介するとともに、厚生労働省の施策や現状についても説明します。
産業・組織心理臨床の話も織り交ぜながら講義します。

到達目標

理論や実践を学ぶだけでなく、自己理解にもつながります。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	登録・オリエンテーション	教科書の予習
2	キャリア発達の各アプローチ	1章復習（再読）
3	ドナルド・スーパー　「ライフ･スパン／ライフ・スペース理論的アプローチ」	2章復習（再読）
4	ジョン・ホーランド　　「6角形モデル」	3章復習（再読）
5	ジョン・クルンボルツ　「学習理論」「社会的学習理論」	4章復習（再読）
6	ハリィ・ジェラット　「意思決定アプローチ」	5章復習（再読）
7	エドガー･シャイン　「組織心理学」「キャリア・アンカー」	6章復習（再読）
8	ナンシー・シュロスバーグ　「トランジッション」	7章復習（再読）
9	ダグラス・ホール　　「関係性アプローチ」	8章復習（再読）
10	サニィ・ハンセン　「統合的生涯設計」	9章復習（再読）
11	マーク・ザビカス　「キャリア構築理論」	10章復習（再読）
12	キャリア教育（国の施策、文科省）	配布資料復習
13	キャリア教育（国の施策、文科省）	配布資料復習
14	産業・組織心理臨床、産業カウンセリング	配布資料復習
15	産業・組織心理臨床、産業カウンセリング、課題（ワーク）提出	配布資料復習
16		

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】※要購入
渡辺 三枝子（2007）　「新版 キャリアの心理学―キャリア支援への発達的アプローチ」
ナカニシヤ出版
【参考文献】配布資料となります
Richard N Bolles (2011) What Color Is Your Parachute? 2011: A Practical Manual for Job-Hunters and Career-Changers

学びの手立て

遅刻や欠席をしないこと。授業中の携帯・スマホ等の利用不可。意欲的な授業参加を求める。

評価

課題の提出必須。課題（ワーク）90%、平常点10%。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　現代社会の諸問題に関心を持ち課題解決に役立つ傾聴力、共感性、対人援助力を身につけ社会生活に応用するための専門科目　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	キャリア心理学入門	後期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂志乃(1)、上田幸彦(1)、泊真児(3)、野村れいか(3)、平山篤史(4)、鮫島(3)	１年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

キャリア計画を立て、大学での学び・課外活動を効果的に自らのキャリア形成に役立てることを目的とする。

メッセージ

心理学での学び、大学生活での様々な経験は、どのような進路に進んでも活かすことができます。そのためには主体的な努力や意味付けが大事になってきます。この講義は大学での学びとあなたの「生き方」を結びつけます。

到達目標

①キャリア計画を立てる
②大学での学びを自らのキャリア形成に意味づけることができる
③今後の履修計画のイメージを明確にする

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション/キャリア形成とは	キャリア計画を作成
2	専攻のカリキュラム特徴とキャリア形成～3コースと履修計画の説明	キャリア計画と履修計画の関連付け
3	一般企業への就職と専攻のカリキュラム（社会人基礎力と心理学）	小課題：大学の学びと社会人基礎力
4	キャリア形成について考える～1年次からのキャリア形成（キャリア支援課）	リフレクションシート
5	仕事を知る①（仕事と会社）	リフレクションシート
6	仕事を知る②（様々な就労形態）	リフレクションシート
7	仕事を知る③（専門性の活かし方）	リフレクションシート
8	心理学と職業調べ学習オリエンテーション（一般企業で求められる能力）	調べ学習・グループミーティング
9	調べ学習グループミーティング	調べ学習・グループミーティング
10	発表会	リフレクションシート・振り返り
11	心理学と職業調べ学習オリエンテーション（心理の専門職）	調べ学習・グループミーティング
12	調べ学習グループミーティング	調べ学習・グループミーティング
13	発表会	リフレクションシート・振り返り
14	卒業生講話①心理専門職	リフレクションシート
15	卒業生講話②一般企業	リフレクションシート
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。毎回の配布資料をファイリングすること。

学びの手立て

キャリア計画を立てるために、様々な情報を得ることはもちろん大事であるが、様々な人との出会い、経験を通して多くの刺激を受けることが大切である。積極的に様々な活動にチャレンジし、動きなら考えると得られることが多い。

評価

平常点（演習参加の態度、リフレクションシート）…50点
発表…20点
最終レポート…30点

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：キャリア心理学基礎、キャリア心理学応用、インターンシップ、心理ボランティア演習、その他の共通・専門科目
次のステージ：それぞれのキャリア計画に基づき、今後の大学での学び、活動につなげていく。

※ポリシーとの関連性　教育界に対する理解を深めることは、幅広い人材を育てる

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	教育心理学Ⅱ	前期	金４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-新里　健	２年	email:kshinzato@nirai.ne.jp	

学びの準備

ねらい

主として、心理学専攻の学生を対象とした授業で、教育の場面での心理学を考える。教育心理学Ⅰをよりも内容的に深められる授業としたい。子どもや青年期の心理や子どものやる気をどう高めるか、性格、子どもの社会性などについても考えたい。

メッセージ

可能な限り、様々のテーマについて、グループ、あるいは、全体での議論や活動が活発に行われるような授業としたい。

到達目標

心理学を学んで、将来どの方面に進むかという進路を考えた場合、幅広い分野でどんなことが起こっているのかを知る必要がある。教育心理学は、教育場面での心理学を想定しているが、教育場面での情報もあらかじめ知っておくと、将来的に役立つと考えられる。
　到達目標：教育心理学の知識を得、教育現場の現状と課題について理解を深めことができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション、教育心理学とは？	教育心理学とは何か
2	子どもの自己中心性	子どもの自己中心性を考える
3	青年期の心理：自分らしさがみえない	自分らしさを考える
4	言語能力の発達：言葉をどう習得するか	子どもの言語習得について考える
5	性格：自分の長所は何か	自分の良さについて考えてみよう
6	自己主張と性格	自分はうまく主張できているか
7	犯罪と性格	犯罪と性格は関係があるか
8	コンピテンス	生きる力とは何か考えてみよう
9	動機づけ：やる気を高める	効果的な叱り方はあるのだろうか
10	社会性と社会的スキル	社会性はどう身につくか考えよう
11	自己概念と自尊感情	自分に対する評価を考える
12	障害児の心理と教育：インクリュージョン	障害を持つ人をどう見えているか
13	教育評価	評価は必要なのか考えてみよう
14	教育相談の実際：カウンセリングマインド①	いろいろな面接法を考えよう
15	教育相談の実際：カウンセリングマインド②　まとめ	いろいろな面接法を考えよう
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

参考文献：１．心理学からのアプローチ、東江成之、北王路書房、3090円　2．教職に生かす教育心理ー子どもと学校の今、古川聡　編著、福村出版　2,200円　3．教育心理学の最先端　自尊感情の育成と学校性格の充実、荒木紀幸　編著、あいり出版、2,700円　4．教育評価　梶田叡一、有斐閣双書、2,100円　5．障害児保育　藤永保　監修　萌文書林　1,900円　6　ベーシック現代心理学　青年の心理学、落合良行・伊藤裕子・齋藤誠一　有斐閣　3,000円

学びの手立て

教育心理学は、教育場面での心理学と考えれば良いでしょう。心理学の分野であるが、半分は教育の分野でもるので、教育現場での児童・生徒のことが話題にあがることが多いので、学校教育についての参考書に目をとおしておくとよいでしょう。また、学習をさらに深めたいと思う学生は、学校現場での学習支援等に関わると、学校の実態が分かるようになるでしょう。実態が分かると、心理の専門家として、どのようなことが教育現場から要求されているか理解できると思われます。

評価

期末試験60%、授業内レポート30点、平常点10%

学びの継続

次のステージ・関連科目

教育現場に役立つ心理学としては、まず、発達心理学や臨床心理学が役立つと思われますので、今後、その分野での学習を深めてほしいと思います。

※ポリシーとの関連性　カリキュラム・ポリシー1．および、3．4．に相当する。 人間のこころと行動を理解するための理論・技術を学ぶ　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	グループアプローチ	後期	月５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山　篤史	２年	研究室　13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

グループアプローチとは個人の心理的治療・教育・成長・個人間のコミュニケーションと対人関係の発展と改善、および組織の開発と変革などを目的として、グループの機能・過程・ダイナミックス・特性などを用いる各種技法の総称とされている。この講義では、主に対人親密化過程の促進、シャイネスや対人緊張の改善など、コミュニケーションの問題に焦点を当て、実技を通して体験的に学ぶ

メッセージ

様々なグループ活動を実際に体験しながら学ぶ講義です。参加者それぞれにとって学びのある講義です。初対面の人とのかかわりが苦手な人、人見知りを改善したい人はもちろんのこと、自分らしさとは何か考えたい人、グループを動かす工夫や技法を学びたい人も大歓迎です。

到達目標

①集団の中での‘自分らしい自分’について考える。②自分の‘新しい引き出し’を見つける。
③コミュニケーション能力が高まる。④人見知り、シャイ、対人緊張が和らぐ。
⑤参加メンバーとの交流が深まる。⑥集団に関わる支援の技法を身につける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション／グループアプローチとは	配布資料の復習
2	対人交流の促進を目的としたグループワーク①	リフレクションシートの作成
3	対人交流の促進を目的としたグループワーク②	リフレクションシートの作成
4	対人交流の促進を目的としたグループワーク③	リフレクションシートの作成
5	対人交流の促進を目的としたグループワーク④	リフレクションシートの作成
6	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク①	リフレクションシートの作成
7	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク②	リフレクションシートの作成
8	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク③	リフレクションシートの作成
9	自己表現・自己開示の促進を目的としたグループワーク④	リフレクションシートの作成
10	ロールプレイングを用いた技法①	リフレクションシートの作成
11	ロールプレイングを用いた技法②	リフレクションシートの作成
12	ロールプレイングを用いた技法③	リフレクションシートの作成
13	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法①	リフレクションシートの作成
14	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法②	リフレクションシートの作成
15	心理劇（ソシオドラマ）を用いた技法③	リフレクションシートの作成
16	まとめ（グループアプローチの理論とレポート課題の説明）	最終レポートの作成

テキスト・参考文献・資料など

講義では使用しない。
適宜、プリント資料を配布する。
参考文献；サイコドラマの技法　高良聖　岩崎学術出版

学びの手立て

実習が中心となるため、毎回出席することが受講の条件です。
急激に自分を変化させる必要はありません。常に明るく、元気に、活動的にふるまう必要もありません。自分のペースで人とかかわりながら、自分自身を見つめながら参加することが大事です。
自分の気持ちに湧き上がってきたことに対し、良い－悪いで評価せず、それはそれとして受け入れることが大事です。

評価

体験型の講義であるため、まずは実習で行うプログラムに参加することが重要となる。プログラムにおける他者の関わりのあり方については、評価の対象としない。どのようにかかわったのかという目に見える結果より、プログラムを通して何を感じ、何を考えたのかを重視する。毎回のプログラムでの体験の振り返りシートおよび、講義終了後の感想レポートを総合して評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

それぞれのゼミ活動、サークル活動、ボランティア活動、オープンキャンパスや、専攻の一日研修会などグループ活動を企画・運営に参加し、学んだことを実践に生かせる。自己理解を深めるため就活に活かせる。

※ポリシーとの関連性　実践的演習として重要である

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	ケアの理論と実践	前期	金１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-田中　美也子	２年	ichuni0809miya@yahoo.co.jp	

学びの準備

ねらい

本授業では、ミルトン・メイヤロフ著「ケアの本質」を教科書として、障害児支援の一形態としての「療育」のありようを「ケア」の視点から概観し、「療育」と「芸術活動」との関わりについて理論と実践の両面から考察するとともに、「芸術療育」に関わる実践的なスキルを身に付けることで、現場に応用可能なケアの実践力を身に付けることを目標とする。

メッセージ

ミルトン・メイヤロフのケア論「一人の人格をケアするとは、最も深い意味で、その人が成長すること、自己実現することをたすけることである。」を、障害児支援の現場で使われる教材や楽器を通して、頭で理解するだけでなく、心と身体が実感を持って感じられることを目指す。

到達目標

障害児支援の一形態としての「療育」をケアの視点からコンパクトに説明できる。
「療育」と「芸術活動」との関わりについて、ケアの理論と実践の両面から説明できる。
「芸術療育」で使われる楽器奏法等の実践的なスキルを身に付け、現場に応じて応用ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	他者の成長をたすけることとしてのケア	教科書の通読（予習）
2	ケアの主な要素	講義内容の整理（復習）
3	ケアの主要な特質	講義内容の整理（復習）
4	人をケアすることの特殊な側面	講義内容の整理（復習）
5	ケアはいかに価値を決定し,人生に意味を与えるか	講義内容の整理（復習）
6	ケアによって規定される生の重要な特徴	講義内容の整理（復習）
7	ケアすること	講義内容の整理（復習）
8	「障害」と支援/ケア	自身の「障害」観の整理（予習）
9	ケアの視点から「障害児支援」を考える	自身の「子ども」観の整理（予習）
10	ケアの視点から「芸術療育」を考える	自身の「芸術」観の整理（予習）
11	芸術療育ワークショップ(1)	ワークショップの予行
12	芸術療育ワークショップ(2)	ワークショップの予行
13	芸術療育ワークショップ(3)	ワークショップの予行
14	芸術療育ワークショップ(4)	ワークショップの予行
15	「芸術療育」の展望	展望を考察する（復習）
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：ミルトン・メイヤロフ著「ケアの本質」（ゆみる出版）を、教科書として使用。

学びの手立て

・児童福祉及び障害者（児）に関する基準法に精通する。
・ボランティア活動等を通して障害児と共に「芸術療育」に触れる。
・オープンキャンパスにおける体験講座に参加する。

評価

ケアに関する理論的な理解とワークショップでの実技とを、5：5で評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

障害者支援実践演習

※ポリシーとの関連性　権利擁護の考え方、権利擁護システムの基本構造を学び、社会福祉専門職、社会福祉士としての基礎知識が学ぶことができる　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名	期 別	曜日・時限	単 位
権利擁護と成年後見制度	後期	金３	2
担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
-竹藤　登	２年	takefuji-n@ryukyu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

権利擁護システムや成年後見制度の概要を理解し、認知症高齢者等の判断能力不十分な人達への意思決定支援、自己決定支援の実際を学ぶことにより、ソーシャルワーカー、社会福祉士としての専門職としての役割を認識することを目的とする。

メッセージ

成年後見制度と実際の活動を理解することで、社会福祉士が、専門職の業務として社会でどのような役割、どのような責務を担っているかがイメージできます。しっかり学びましょう

到達目標

権利擁護システム、成年後見制度の概要を学び、社会福祉士としての権利擁護活動の実際を理解ことにより、社会福祉士としての必要な知識・技術・価値・倫理観また基礎的な役割、責務を実感することを目的とする

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	日本国憲法の理解　人権と権利　憲法25条（生存権の保障）と憲法13条（幸福追求権の権利保障）	日本国憲法の概要を理解する
2	新しい人権　公私分離の原則　統治機構　福祉基礎構造改革と権利擁護	日本国憲法の概要を理解する
3	行政法の理解　行政行為　行政訴訟　行政不服申立　国家賠償法	行政法の概要を理解する
4	民法の理解　契約行為	民法の概要　契約行為を理解する
5	民法の理解　親族法と相続法	親族法と相続法について理解する
6	成年後見制度の概要　法定後見と任意後見制度	成年後見制度の概要を理解する
7	成年後見制度の概要　類型（補助・保佐・後見）と権限（同意権・取消権・代理権）	成年後見人等の権限を理解する
8	成年後見人等党の実務　申し立ての流れと実務（財産管理と身上監護）	成年後見人の実務を理解する
9	成年後見人等の義務と責任　最近の動向と課題	成年後見制度の現状と課題を理解
10	日常生活自立支援事業と成年後見制度利用支援事業	その他の権利擁システムを理解
11	権利擁護にかかわる団体・組織（家庭裁判所・法務局・市町村・社会福祉協議会・児童相談所）	権利擁護団体・組織を理解する
12	権利擁護にかかわる専門職の役割（弁護士・司法書士・公証人・医師・社会福祉士）	権利擁護専門職を理解する
13	成年後見活動の実際（認知症支援・消費者被害対応・障害者支援）	成年後見活動を理解する
14	権利擁護活動の実際（児童虐待対応・高齢者虐待対応等）	権利擁護活動を理解する
15	成年後見事例検討（独居在宅認知症高齢者の事例）	
16	まとめとテスト	

テキスト・参考文献・資料など

テキスト　新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度　中央法規出版株式会社
資料　　毎回の授業でレジュメを配布します

学びの手立て

レジュメで講義内容をあらかじめまとめてあるので、講義中は話を聞くことに集中し、その場である程度理解するように心がける。聞き逃すと授業についていけなくなることがあるので、授業をよく聞き、他の受講生のじゃまにならないように静かに聴講する。復習はレジュメを見ることでできるように工夫してあるので、活用する。専門用語が多くあるので、わからないときは、その場で質問するか、最後に配る小レポートに質問を書くと翌週質問に応える。

評価

①　期末テスト評価　55%
②　小レポート評価（授業毎回提出）45%

学びの継続

次のステージ・関連科目

他の社会福祉士養成講座科目全般

※ポリシーとの関連性　心理療法のひとつである芸術療法について学習します。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	芸術療法	前期	金２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中山　さおり	２年	ptt654@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

芸術療法とは、様々な表現活動をとおして行う心理療法です。本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味や非言語的なやりとりについて、体験的に学習することを目指します。

メッセージ

「芸術」というと高尚なものをイメージする方もいるかもしれませんが、芸術療法は、子どもが絵を描き工作することを楽しむような人の自然な活動をいかしていこうとするものです。上手・下手は全く関係ありません。

到達目標

芸術療法についての基本的な知識を身につけます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション、芸術療法概説	シラバスを読む
2	芸術療法概説	復習
3	絵画療法	復習
4	絵画療法	復習
5	絵画療法	復習
6	絵画療法	復習
7	絵画療法	復習
8	コラージュ療法	復習
9	コラージュ療法	復習
10	コラージュ療法	復習
11	コラージュ療法	復習　レポート作成
12	詩歌療法	復習
13	詩歌療法	復習
14	詩歌療法	復習
15	まとめ	復習
16	期末試験	テスト勉強

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定なし。適宜レジュメを配布します。

学びの手立て

履修の心構えとして以下のことをお願いします。
・共同作業や話し合いを多く行います。他学生の作品や意見を軽んじることなく大切に受け止め合う態度を望みます。
・授業以外の場で他学生の作品内容などについてむやみに噂話をしないでください。
・実習の内容によっては途中参加が難しい場合がありますので、出来るだけ遅刻しないようにしてください。
・授業で作られる作品は面接で作られる作品とは別物ですので、自分や他学生の作品から心理状態を決め付けるようなことはしないでください。

評価

授業への参加姿勢・実習時のミニレポート（50%）、課題レポート・期末試験（50%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関心を持った技法についてより詳しく調べてみてください。

※ポリシーとの関連性　心理療法のひとつである芸術療法について学習します。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	芸術療法	後期	金２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中山　さおり	２年	ptt654@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

芸術療法とは、様々な表現活動をとおして行う心理療法です。本講義では、絵画・コラージュ・詩歌などの技法を中心に解説し実習を行い、表現することが心にとって持つ意味や非言語的なやりとりについて、体験的に学習することを目指します。

メッセージ

「芸術」というと高尚なものをイメージする方もいるかもしれませんが、芸術療法は、子どもが絵を描き工作することを楽しむような人の自然な活動をいかしていこうとするものです。上手・下手は全く関係ありません。

到達目標

芸術療法についての基本的な知識を身につけます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション、芸術療法概説	シラバスを読む
2	芸術療法概説	復習
3	絵画療法	復習
4	絵画療法	復習
5	絵画療法	復習
6	絵画療法	復習
7	絵画療法	復習
8	コラージュ療法	復習
9	コラージュ療法	復習
10	コラージュ療法	復習
11	コラージュ療法	復習　レポート作成
12	詩歌療法	復習
13	詩歌療法	復習
14	詩歌療法	復習
15	まとめ	復習
16	期末試験	テスト勉強

テキスト・参考文献・資料など

テキストは指定なし。適宜レジュメを配布します。

学びの手立て

履修の心構えとして以下のことをお願いします。
・共同作業や話し合いを多く行います。他学生の作品や意見を軽んじることなく大切に受け止め合う態度を望みます。
・授業以外の場で他学生の作品内容などについてむやみに噂話をしないでください。
・実習の内容によっては途中参加が難しい場合がありますので、出来るだけ遅刻しないようにしてください。
・授業で作られる作品は面接で作られる作品とは別物ですので、自分や他学生の作品から心理状態を決め付けるようなことはしないでください。

評価

授業への参加姿勢・実習時のミニレポート（50%）、課題レポート・期末試験（50%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関心を持った技法についてより詳しく調べてみてください。

※ポリシーとの関連性　現代社会の動きを理解する同時に、社会福祉の位置づけ、役割や概要や基本について理解を深める　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 現代社会と福祉Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木４	2
担当者 保良　昌徳	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義後又はオフィスアワーに受け付ける	

学びの準備

ねらい

歴史のながれの中で現代社会を理解し、社会を支える社会福祉の位置づけについて理解する。また、社会福祉の法律や政策、サービス供給主体や運営の概要について理解する

メッセージ

受講生は、テキストの内容に関心を持つと同時に、日頃マスコミを通して見聞きする社会福祉の問題や政策の動向、身近な場所での福祉活動に関心を持つことが望ましい

到達目標

記憶すべき重要キーワードや概念、法律、理論等について、講義の中で具体的に示し、その修得を目標とする

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	大学で社会福祉を学ぶ意義	
2	社会福祉の意味（関連用語との比較による理解）	テキスト「支店と枠組み」参照
3	福祉政策理解の枠組み：日本国憲法と社会福祉	テキスト第２章を参照
4	西欧における福祉施策のながれ１：古代～19世紀	テキスト第１章を参照
5	西欧における福祉施策のながれ２：市民社会と福祉社会の形成、20世紀～現在）	テキスト第１・13章を参照
6	福祉国家の現状と課題：福祉レジームの特徴・課題	テキスト第１章を参照
7	日本の福祉施策のながれ１：古代・明治～大戦まで	テキスト第５章１節を参照
8	日本の福祉施策のながれ２：戦後処理～社会福祉改革	テキスト第５章２節を参照
9	日本の福祉施策のながれ３：社会福祉改革と現在の動き	テキスト第６章を参照
10	社会福祉制度の体系	テキスト第10章を参照
11	社会福祉施策（サービス）の主体・機能・課題	テキスト第11章を参照
12	社会福祉の財源と社会保障制度改革の動き	テキスト第11・14章を参照
13	福祉政策の課題と展望	テキスト第14章を参照
14	欧米の福祉施策	テキスト第13章を参照
15	日本の福祉施策の特徴、前期のまとめ	テキスト第13章を参照
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

１．必要に応じて資料を配付する
２．標準テキスト　『現代社会と福祉』中央法規
３．推奨文献　『日本の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会
『社会福祉小六法』

学びの手立て

重要事項については、講義の中で示すので、示された事項は完全習得を目指すこと
推薦された図書の内容のほかに、マスコミから流れる福祉の情報にも関心を持つことが望ましい

評価

１．出欠は毎回とり、三分の一以上の休みは評価の対象としない
２．レポート（30%）・試験（70%）の配分で評価する

学びの継続

次のステージ・関連科目

修了生は、後期開講の「現代社会と福祉Ⅱ」を履修することが望ましい

※ポリシーとの関連性　Ⅰに続き、現代社会の動きを理解する同時に、社会福祉の法律や考え方、理論等にも目を向ける　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 現代社会と福祉Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木４	2
担当者 保良　昌徳	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義後又はオフィスアワーに受け付ける	

学びの準備

ねらい

常に、歴史のながれの中で現代社会の実情を理解すると同時に、社会福祉の理念・考え方を理解する。また、社会福祉の理論、実践・援助の理論についても理解を深める

メッセージ

受講生は、テキストの内容に関心を持つと同時に、日頃マスコミを通して見聞きする社会福祉の問題や政策の動向、身近な場所での福祉活動に関心を持つことが望ましい

到達目標

福祉の施策・実践において重要なキーワードを、講義の中で具体的に示し、その意味させる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンターション、講義の概要、注意事項など	
2	福祉の考え方１：明治憲法・日本国憲法・ＧＨＱ覚書に見る福祉の政策理念	テキスト第３章を参照
3	福祉の考え方２：社会福祉事業法・社会福祉法に見る現代の社会福祉の考え方	テキスト第６章を参照
4	人権・生存権・人間の尊厳・ナショナルミニマム	配付資料
5	日本における主な社会福祉理論	配付資料
6	代表的な社会福祉論争に見る福祉の原理的課題	配付資料、
7	福祉政策の理念１：多元主義、他	テキスト第８章第1節
8	福祉政策の理念２：ノーマライゼーションの理念	テキスト第８章
9	福祉学に基づく「人間観」「社会観」	配付資料
10	相談援助の原則・視点１：代表的な援助論・実践の原則	テキスト第12章関連
11	相談援助の原則・視点２：バイステックの７原則、他	テキスト第12章１節を参照
12	社会福祉の援助とソーシャルワーク（定義と内容）	配付資料
13	社会福祉・ソーシャルワークの倫理綱領を読む	配付資料
14	現代社会と福祉の未来像（個人のあり方・地域連携のあり方を考える）	テキスト第12章を参照
15	まとめ	
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

１．必要に応じて資料を配付する
２．標準テキスト　『現代社会と福祉』中央法規
３．参考文献　『日本の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会、『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房

学びの手立て

重要事項については、講義の中で示された重要キーワードの完全習得を目指すとともに、者会福祉実践の現場にも関心を持ち、現実に即した理解をすることが望ましい

評価

１．三分の一の欠席者は不可とする
２．レポート（30%）、試験（70%）の配分で評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名 公衆衛生学	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	木３	2
	担当者 ｳｨﾙｺｯｸｽ(3)、吉田(3)、国吉(3)、小川(2)、青木(2)、平良(2)	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		２年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	
	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシー1. 社会福祉専門職を養成する教育および2. 実践的活動を重視した教育に対応している。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	更生保護制度	前期	土１	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真栄城　兼秀	２年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

更生保護制度は、犯罪をした者及び非行のある少年に対し、適切な処遇を行い再犯を予防することで、この人たちの自立と更生を助け、個人と公共の福祉を増進することを目的としている。本講義は更生保護制度とそれを支える理念について批判的検討を加えることで、将来の更生保護分野における社会福祉実践にそなえていくことをねらいとする。

メッセージ

更生保護は、罪に対する罰という法務行政（制度）と罪を犯した者に対する支援という社会福祉（制度）の接点となる分野です。法を犯す・非行に至る人達の現実を理解することで、「罪に対して罰」と「支援」ということなったアプローチのそれぞれの必要性・妥当性を理解してください。それは皆さんが将来実践家としてだけでなく、社会人としてもぜひ理解してもらいたいことでもあります。

到達目標

更生保護法第一条では更生細制度の目的を、「犯罪をした者及び非行のある少年に対し、社会内において適切な処遇を行うことにより、再び犯罪をすることを防ぎ、又はその非行をなくし、これらの者が善良な社会の一員として自立し、改善更生することを助けるとともに、恩赦の適正な運用を図るほか、犯罪予防の活動の促進等を行い、もって、社会を保護し、個人及び公共の福祉を増進すること」としている。この講義を受講することで以下のことが達成されることを目的とする。1. 更生保護制度の対象となる人達の現状について理解できるようになる。2. 更生保護制度についての理解が進む3. 更生保護制度の果たす（果たしてきた）役割と今後の課題について考えることができる。4. 更生保護制度を活用する社会福祉実践について理解することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

1週目　オリエンテーション等

2週目　１　更生保護制度の概要Ⅰ
・ 刑事司法の中の更生保護
（刑事・保護手続きと更生保護）

3週目　２　更生保護制度の概要Ⅱ
・ 保護観察　　・生活環境の調整
・ 仮釈放等

4週目　３　更生保護制度の概要Ⅲ
・ 更生緊急保護　・犯罪被害者施策
・ 恩赦　・犯罪予防活動

5週目　４　更生保護制度の担い手及び更生保護制度における関係機関・団体との連携
6週目　５　医療観察制度の概要
7週目　６　更生保護の実際と今後の展望
8週目　テスト等

時間外学習の内容　次のテーマの部分教科書熟読する

テキスト・参考文献・資料など

教科書：『更生保護制度 第4版』（社会福祉士養成講座編集委員会・中央法規）
講義では教科書を使用してきます。

学びの手立て

⑴ 20分以上の遅刻は欠席とします。
⑵ １／３以上の欠席は講義最後のテストや課題の対象となりません。
⑶ 課題の提出は指定の場所と時間を厳守すること。守れない場合は評価の対象とならないこともある。

評価

評価は、⑴出席、⑵講義最後のテストないし課題、⑶講義中の課題を総合的に判断します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　心理学および臨床心理学への関心を高め、その知識と技法を社会生活に応用する力を身につけるための実践的専門科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 行動療法	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木５	2
担当者 上田　幸彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	上田幸彦まで	

学びの準備

ねらい

認知行動療法は、近年、その効果が科学的に実証され世界的に最も用いられることが多い心理療法である。他の心理療法との違いも踏まえながら、精神科領域に止まらず、一般医療、教育、福祉など広範囲に適用されている所以を理解することをねらいとする。

メッセージ

基本的に板書したものをノートに取る方法で講義は進められる。書かれたものを受動的に写すだけでなく、理解しながら必要なことを補筆すること。

到達目標

行動療法・認知行動療法の基本的な考え方、技法、対象について理解すること。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	行動療法とは	講義ノートの復習
2	行動療法の歴史	講義ノートの復習
3	行動療法の基礎となる学習理論	講義ノートの復習
4	行動療法の技法①系統的脱感作法	講義ノートの復習
5	事例	事例の復習
6	行動療法の技法②リラクセーション法	リラクセーション法の実践
7	行動療法の技法③暴露反応妨害法	講義ノートの復習
8	事例、行動療法の技法④応用行動分析・事例	事例の復習
9	社会的学習理論、行動療法の技法④ソーシャルスキルトレーニング	講義ノートの復習
10	認知行動療法とは、	講義ノートの復習
11	うつ病の認知行動療法：認知の歪み	講義ノートの復習
12	認知行動療法の技法①:非機能的思考記録	講義ノートの復習
13	認知行動療法の技法②:セルフモニタリング、他	講義ノートの復習
14	アルコール依存の認知行動療法①	講義ノートの復習
15	アルコール依存の認知行動療法②	講義ノートの復習
16	テスト	

テキスト・参考文献・資料など

参考文献：
行動療法　内山喜久雄　著　日本文化科学社
認知行動療法の理論と実際　岩本隆茂・大野　裕・坂野雄二共編　培風館

学びの手立て

評価

成績は、授業中のコメントシート、学年末試験によって総合的に判断する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

学習心理学、臨床心理学、

※ポリシーとの関連性　社会福祉における高齢者福祉とその支援・理論を概観する

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	前期	火５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良　昌徳	２年	講義の後又はオフィスアワーで受け付ける	

学びの準備

ねらい

高齢期の理解、高齢社会の問題の構造、支援や施策、その仕組み方法、財源等について理解する

メッセージ

自らを支援者として考えると同時に、実際の高齢者との交流を通して,高齢者の立場や視点で考えることが重要である

到達目標

高齢者の立場や役割の理解、高齢期の心身の変化と課題、高齢者施策の概要と支援の方法などについて理解する

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション（講義概要、留意点、評価の方法等について）	
2	用語の整理（高齢者・老人・老年などの意味を概観する）	テキスト・参考図書・六法等参照
3	高齢期の理解：高期期の心身の変化についての理解	テキスト第１章を参照
4	高齢期の理解：生涯発達・ライフサイクル・終末など	テキスト第１章を参照
5	少子高齢社会の理解：人口の高齢化の状況・変遷など	テキスト第２章を参照
6	少子高齢社会の理解：高齢者問題の諸側面・課題等	テキスト第２章を参照
7	高齢者福祉施策の発展：歴史の変遷、明治～戦線まで	テキスト第３章を参照
8	高齢者福祉施策の発展：戦後から今日までの動き	テキスト第３章を参照
9	高齢者を支える諸法律：老人福祉法の成立・原理・内容	テキスト第４章を参照
10	高齢者を支得る諸法律：その他の高齢者福祉関連法	テキスト第４章を参照
11	高齢者を支えるサービス：その種類と内容	テキスト第８章を参照
12	高齢者を支える専門職：その種類と専門性	テキスト第10章を参照
13	介護の概念と方法（介護・介助などの用語の整理）	テキスト第11章を参照
14	介護の展開を実際：介護現場の実情と課題	テキスト第12～14章を参照
15	高齢者に対する生きがい支援の現状、後期のまとめ	配付資料を参照
16	テスト	

テキスト・参考文献・資料など

『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規、『国民の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会
『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房　等を推薦する。　また必要に応じクラスで資料を配付する

学びの手立て

マスコミを通して見聞きする高齢者問題や施策等の動きに関心を持つこと
実際に高齢者に触れ、自分の中に、当事者の立場で考える素養を育てることが重要である

評価

試験の成績を中心に、出席状況等を総合的に判断して評価する

学びの継続

次のステージ・関連科目

受講修了生は引き続き、Ⅱを受講することが望ましい

※ポリシーとの関連性　社会福祉専門職として共通知識として必要な介護保険制度について熟知する。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	後期	火５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富　郁哉	２年	i.ashitomi@okiu.ac.jpへ連絡する。	

学びの準備

ねらい

本科目は介護保険制度を中心とした講義を展開する。なお、介護保険制度については、身近な社会保障制度として知識を深めてほしい。

メッセージ

高齢社会において、必須な知識である老人福祉制度、高齢者の特性及び介護保険制度などを、身近なものとして学んで欲しい。

到達目標

老人福祉法、介護保険制度について説明することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	高齢社会を知る①	高齢社会とは何か
2	高齢社会を知る②	高齢化に関わる用語を理解する
3	高齢社会を知る③	高齢社会がもたらす問題とは
4	介護保険制度の基礎①	介護保険制度の理念を調べる
5	介護保険制度の基礎②	介護保険制度とは何か
6	介護保険制度の基礎③	介護保険制度の仕組み
7	介護保険サービス①	在宅サービス種類
8	介護保険サービス②	施設サービス種類
9	介護保険サービス③	地域密着型サービスとは
10	介護保険サービス④	地域包括ケアシステムとは①
11	介護保険サービス⑤	地域包括ケアシステムとは②
12	高齢者に関わるその他の制度①	高齢者虐待防止法について
13	高齢者に関わるその他の制度②	認知症施策　新オレンジプラン
14	高齢者に関わるその他の制度③	認知症サポーター制度
15	まとめ	
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

新・社会福祉士養成講座13「高齢者に対する支援と介護保険制度」を指定教科書とする。購入の時期については第一回目のオリエンテーションにてアナウンスする。参考文献等については、講義の中で随時紹介する。

学びの手立て

新聞等マスメディアに関心をもち、特に高齢者に関する記事については熟読することが望ましい。

評価

講義の3分の1以上の欠席があった場合には、たとえ客観試験の成績が60点以上あった場合でも不可とする。また、出席票提出に不正があった場合には、それまでの出席状況がよくても、また、試験の点数が60点以上であっても「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

高齢社会を理解する上で、また、国の社会保障制度を理解する科目としてより身近なものである。その他の関連科目には社会保障、権利擁護と成年後見制度、更生保護制度などがある。

※ポリシーとの関連性　国際社会の動向をおさえ、それが国内にどう影響しているかを知る。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 国際関係論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水３	2
担当者 -大城　尚子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

現代世界では、人・物資・情報が以前よりも頻繁に国境を越えて行き交い、一国の出来事が他国の日常生活に影響を与える。受講生は、これらの諸現象を把握し、相互に関係しあう国際的、国内的要因を比較・分析し、明らかにできるようになる。また、受講者が時事問題を理解する上での、基本となる見方を理解し、説明できることが本講義の目的である。

メッセージ

国際社会の動向を知り、沖縄との関連性を考えます。

到達目標

目標①　基本の理論を用いて国際問題を分析できる。
目標②　国家の外政策と国内政策の概要を説明できる。
目標③　安全保障問題と平和の争議を説明できる。
目標④　インターネットや新聞等で国際政治に関わる事柄の情報収集をすることができる。
目標⑤　時事問題に関して授業中発言することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	講義内で提示
2	「国家」とは何か	講義内で提示
3	国際関係論の代表的な理論	講義内で提示
4	リアリズム①	講義内で提示
5	リアリズム②	講義内で提示
6	リベラリズム①	講義内で提示
7	リベラリズム②	講義内で提示
8	安全保障①	講義内で提示
9	安全保障②	講義内で提示
10	国際レジーム①	講義内で提示
11	国際レジーム②	講義内で提示
12	人権①	講義内で提示
13	人権②	講義内で提示
14	人権③	講義内で提示
15	講義のまとめ	
16	最終試験	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは使用しません。プリントを配布します。
【参考文献】
山田高敬、大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、ジョセフ・ナイ、デイヴィッド・A・ウェルチ（田中明彦、村田晃嗣訳）『国際紛争』有斐閣、土佐弘之『グローバル／ジェンダー・ポリティクス』世界思想社

学びの手立て

新聞をよく読むこと（特に国際関係、平和、基地、人権など）　私語、携帯電話の使用など周囲に迷惑のかかるような行為はしない。　沖国の規定どおり5回以上欠席した場合は、不可とする。講義時間開始30分以降の入室は遅刻とする。

講義内では理解度確認のため、受講生へ意見や発言を促すことがある。

評価

出席３０％、平常点１０％、最終試験６０％

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名 コミュニティ心理学	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	水３	2
	担当者 -山入端　津由	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		２年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	
	学びのヒント 　授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる技能を習得することを目指す。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会科学研究法	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火２	2
担当者 -崎濱　佳代	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	kayos96@hotmail.com	

学びの準備

ねらい

本講義の目的は、社会の出来事を論理的に考察し、表現するための技能を習得することである。専門的な分野も含めた情報収集の方法や、集めた情報をもとに考察したことを論文として書き表す方法を学び、社会福祉士の資格を取得した後で実際に働く上で必要となるレポート作成力を身につける。

メッセージ

本講義では、宿題も活用しながら、実際に情報を収集し、整理、考察を行い、論文として表現する練習を行う。最初に学術論文を読んでどんな文章を書けばよいかを把握し、論文の書き方について講義した後、各々のテーマで文献調査し、レポートを作成する。この講義で今後の大学での学びや職業人として必要な技能を身につけてほしい。

到達目標

本講義では、実際に情報を収集し、整理、考察を行い、論文として表現する練習を行う。その中で以下の能力を身につけることを目標とする。
①学術論文の読解能力
②自らの関心を社会科学と結びつけて捉え、問いをたてて論文執筆を企画する能力
③収集した情報を整理し、それらの情報に基づいて合理的に自らの問いの答えを導き出していく能力

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション（これから何を学ぶのか）	
2	社会福祉とこの授業の関わりについて講義	配布された論文を読む宿題あり。
3	宿題に出した論文の解説	
4	社会的な出来事について「知り」「考え」「伝える」とはどういうことか	4～8週にかけて宿題あり。
5	社会的な出来事について「知る」方法（１）―リアリティの捉え方	
6	社会的な出来事について「知る」方法（２）―文献調査のしかた	
7	社会的な出来事について「考える」方法―どう情報を整理するか	
8	社会的な出来事について「伝える」方法―効果的な論文執筆のルール	
9	文献調査～レポート作成の作業	
10	文献調査～レポート作成の作業	
11	文献調査～レポート作成の作業	
12	文献調査～レポート作成の作業	
13	文献調査～レポート作成の作業	
14	文献調査～レポート作成の作業	
15	授業の最後に期末レポート提出	
16	期末レポートの返却・講評	

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】
適宜、配布する。
【参考文献】
今田高俊編『社会学研究法・リアリティの捉え方』有斐閣、2000年。
など

学びの手立て

①履修の心構え
講義中の私語は、周囲に座っている学生の学びを妨害するので控えること。また、授業では実際に論文を作成する作業をしている時間が長いので、その作業にきちんと参加すること。
②学びを深めるために
インターネットで検索するだけでは確かな思考につながる情報は得られません。図書館で学術書や新聞に触れる習慣をつけてください。

評価

課題（学期途中での提出物）を30%、期末レポートを70%とし、出席状況も考慮しながら評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

①関連科目
本講義で習得する能力は社会科学系の専門科目を学ぶための基礎となる。
②次のステージ
自分の身の回りの事柄を、文献資料に基づいて論理的に考えてみよう。

※ポリシーとの関連性　　複雑な現代社会を解読するための理論と方法、および社会福祉学を補強する学問領域として社会学のアウトラインを学ぶ。　　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会学概論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木３	2
担当者 桃原　一彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備

ねらい

「社会学」は、自己が生きる日常とそれを取り巻く社会（他者）との関係を、科学的な視点で解明する学問である。「わたしはこの世の中でどう生き／どう生かされているのか」、また、自己と他者との間にどのよう権力関係が作用しているのかという問いを、「行為」と「構造」という視点から考えるための知識や方法を身につけるための学問である。

メッセージ

「社会学は難しい」「でも社会学は面白い」という言葉をよく聞きます。そんな不思議な学問ですが、複雑怪奇な現代社会を上手く乗りこなす武器になると思います。

到達目標

社会的な「行為」、社会の「構造」とは何かを理解する。また、その「行為」と「構造」における権力関係を理解すること。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	社会学概論Ⅰへの招待　ー 基本概念としての「行為」と「構造」	基本概念の下調べ
2	社会学の歴史　ージンメル、デュルケム、ヴェーバーを中心に	社会学の系譜の探索
3	自我とアイデンティティの社会学①　ー欲望の社会理論	「欲望の模倣」の具体例を考える
4	自我とアイデンティティの社会学②　ーフロイトの自我論とミードの主我／客我論	社会から抑圧される自己を考える
5	自我とアイデンティティの社会学③　ー社会学における「アイデンティティ」概念の系譜	「自分らしさ」とは何かを考える
6	現代社会を考える学習課題Ⅰ	ふりかえりと課題提示
7	相互作用の社会理論①　ーゴフマンの演技論	「演技する」自己の具体例を考える
8	相互作用の社会理論②　ー公共空間と親密空間	スマホの使用から社会関係を考える
9	相互作用の社会理論③　ー語彙（ボキャブラリー）と文化資本	「潤滑油」としての文化を考える
10	行為と構造の関係①　ー記号とシンボルの社会的な意味	見えるもの／見えないものを考える
11	行為と構造の関係②　ー「脱構築」の視点	見えないものを見る作法を考える
12	現代社会を考える学習課題Ⅱ	ふりかえりと課題提示
13	「権力」から読み解く現代社会①　ーヴェーバーの権力論	身近な権力関係の具体例を考える
14	「権力」から読み解く現代社会②　ーフーコーの権力論	主体化＝服従化の具体例を考える
15	社会学概論Ⅰの総括と期末課題	全体的な総括と期末課題提示
16	予備日	期末課題の作成

テキスト・参考文献・資料など

テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。

学びの手立て

リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」（ジェネリック・スキル）を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」（高度かつ適切な情報収集と処理能力）となる。よって、課題に取り組む際はインターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。

評価

受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代社会を考える学習課題」Ⅰ・Ⅱの提出と内容評価が各15点（計30点）、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合し評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：社会学概論Ⅱ
次のステージ：社会学概論Ⅰで身につけた社会学の基本的な視点を用いて、具体的な社会現象を解読する。

※ポリシーとの関連性　複雑な現代社会を解読するための理論と方法、および社会福祉学を補強する学問領域として社会学のアウトラインを学ぶ。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会学概論Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木３	2
担当者 桃原　一彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

概論Ⅰで身につけた社会学の基本的な視点、概念、理論を分析道具として、現代社会の諸相を解読する内容となる。とくに日常に見受けられる具体的な問題を提起していく。

メッセージ

「社会学は難しい」「でも社会学は面白い」という言葉をよく聞きます。そんな不思議な学問ですが、複雑怪奇な現代社会を上手く乗りこなす武器になると思います。

到達目標

概論Ⅰで身につけた「行為」と「構造」の関係、そして「権力関係」について、現代社会における具体的な事柄の分析、読解から習得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	社会学概論Ⅱへの招待　ー社会学概論Ⅰのおさらいを中心に	基本的な視点、概念をふり返る
2	現代社会とメディア①　ーステレオタイプと擬似環境、アジェンダ・セッティング、沈黙の螺旋	身近なメディア情報の探索
3	現代社会とメディア②　ーエンコーディング／デコーディングと公共圏の形成	情報を送受信する自己を考える
4	モノと消費をめぐる社会学的探求①　ー消費概念の変遷	身近な「記号的」消費を考える
5	モノと消費をめぐる社会学的探求②　ーボードリヤールの消費概念と「ミニマムセルフ」	消費から自己と他者の関係を考える
6	現代社会を考える学習課題Ⅰ	ふりかえりと課題提示
7	ジェンダーとセクシュアリティ①　ー「ジェンダー」について日本社会の現状から考える	既存の実態調査データの収集
8	ジェンダーとセクシュアリティ②　ー家父長制と性別役割分業の系譜	身近な「性別役割分業」を考える
9	ジェンダーとセクシュアリティ③　ー「三歳児神話」、TVドラマからジェンダー規範の内化を考える	様々な素材となる作品の収集
10	ジェンダーとセクシュアリティ④　ー「ジェンダー」「セクシュアリティ」をめぐる知の変遷	「LGBT」とは何かについて考える
11	現代社会を考える学習課題Ⅱ	ふりかえりと課題の提示
12	現代社会と差別①　ー差別論の基礎	身近な差別問題を社会学的に考える
13	現代社会と差別②　ー「ネトウヨ」とヘイトスピーチ	メディア論を応用して考える
14	現代社会と差別③　ー差別構造をめぐる集団的責任	差別を支える 行為と構造を考える
15	概論Ⅱのポイントと総括	全体的な総括と期末課題提示
16	予備日	期末課題レポートの作成

テキスト・参考文献・資料など

テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。

学びの手立て

リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」（ジェネリック・スキル）を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」（高度かつ適切な情報収集と処理能力）となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。

評価

受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代社会を考える学習課題」Ⅰ・Ⅱの提出と内容評価が各15点（計30点）、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合し評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：　都市社会学、家族社会学、臨床社会学

次のステージ：社会学概論で学んだ基本的な概念、理論、視点を身につけて、社会学の諸領域に視野を広げる。

※ポリシーとの関連性　　ポリシーに掲げた「人間のこころや行動を理解するための心理学の知識と技術を学ぶ専門科目」の1つとして位置づけられる。　　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	社会心理学Ⅰ	前期	火５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊　真児	２年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

社会心理学の領域で扱われている主要な研究知見、理論、研究方法、著名な研究者などについて概説し、「心理学検定」にも対応できる基礎知識の習得を目指す。取り上げるテーマは、自己、対人認知、態度、対人行動、友情と恋愛等を予定している。なるべく身近な心理現象を題材に、これらを社会心理学的視座から読み解くことを通して、科学的・客観的なものの見方を養うのが狙いである。

メッセージ

・社会心理学の研究テーマは普段の生活の中にあります。よって、日常のちょっとした疑問、気になること、不思議に思うこと等をメモに書き留めるなどして、講義の中で質問をしたり、リアクションペーパーに書いたりして、話題を共有しましょう。卒論の研究テーマも、こうした素朴な疑問から発展することがありますから、意識的に身近なテーマ探しをしてもらいたいと思います。

到達目標

①自己、対人関係など、社会心理学の研究領域の一部について、科学的な研究知見を基に理解し、人に説明することができる。
②社会心理学分野の古典的かつ代表的な研究知見について理解し、その内容を簡潔に要約することができる。
③人間の心理や行動を理解するにあたり、社会心理学的なものの見方、特に「状況要因」の持つ影響力について十分に考慮することができる。
④社会心理学で用いられる様々な研究手法やデータ解析法について、基礎的な理解ができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	履修登録・授業契約・オリエンテーション：講義の進め方・諸注意等の説明	シラバス・授業契約書の理解
2	自己とは何か？ ～自己過程の心理学(1)～	今回の復習と次回講義に向けた課題
3	自己を知るとは？ ～自己過程の心理学(2)～	今回の復習と次回講義に向けた課題
4	他者を知るとは？ ～対人認知の心理学(1)～	今回の復習と次回講義に向けた課題
5	他者を知るプロセスとは？ ～対人認知の心理学(2)～	今回の復習と次回講義に向けた課題
6	原因を求める心 ～帰属過程と特性推論の心理学～	今回の復習と次回講義に向けた課題
7	態度と態度変容(1) ～態度の概念・測定法・理論を中心に～	今回の復習と次回講義に向けた課題
8	態度と態度変容(2) ～依頼・勧誘・説得の社会心理学～	今回の復習と次回講義に向けた課題
9	対人行動の動機と対人魅力とは？ ～対人行動の心理学(1)～	今回の復習と次回講義に向けた課題
10	対人関係の形成・維持に関わる要因とは？ ～対人行動の心理学(2)～	今回の復習と次回講義に向けた課題
11	対人関係の葛藤・対人ストレスコーピング ～対人行動の心理学(3)～	今回の復習と次回講義に向けた課題
12	親密な人間関係とは？ ～友人関係・友情の心理学を中心に～	今回の復習と次回講義に向けた課題
13	人を好きになる心とは？ ～恋愛関係の進展過程の心理学～	今回の復習と次回講義に向けた課題
14	人を好きになる心とは？ ～恋愛関係の不和・崩壊過程の心理学～	今回の復習と次回講義に向けた課題
15	全講義内容の振り返りとまとめ・試験案内	全講義内容の振り返りとまとめ
16	学期末試験(予定)　※試験実施の場合、資料等の持ち込みは不可として行う。	

テキスト・参考文献・資料など

教科書は特に指定せず、毎回の配布資料を中心に講義を進めていきます。参考文献は以下の通りです。
(1)外山みどり 編著　2015　社会心理学－過去から未来へ－　北大路書房
(2)池田謙一・唐沢穣・工藤恵理子・村本由紀子　2010　社会心理学　有斐閣
(3)岡本浩一　1986　社会心理学ショート・ショート　新曜社
(4)太田信夫 監修　大坊郁夫 編集　2017　シリーズ心理学と仕事10　社会心理学　北大路書房

学びの手立て

・講義の中で紹介された研究例について、なぜそのようなテーマや方法で研究したのだろう？とか、自分だったらこういう風に研究してみたい等、自分の中で問いや発想を膨らませてみて下さい。
・図書館に所蔵されている本や社会心理学系の学術論文（学会誌、紀要など）を積極的に調べ、どのような研究テーマがあるかを知り、実際に読んでみて下さい。社会心理学という学問をもっと身近に感じるはずです。

評価

＊成績評価は、平常点で45%、学期末課題55%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。
ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
＊平常点は、授業内・外でのワークや課題への取り組み、発言、リアクションペーパー等により評価します。
＊学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを全て不可」として行う予定です。レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：社会心理学Ⅰに加え、次年度に開講される「社会・集団・家族心理学（社会・集団）」を履修すると、社会心理学の主要な研究領域全体を概ね学習することができる。
その他、心理の専門科目として開講される「コミュニティ心理学」や「犯罪心理学」等を履修すると、社会心理学の方法論や知見が活かされている分野についての理解が深まるであろう。

※ポリシーとの関連性　本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる技能を習得することを目指す。

[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会調査の企画と設計	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月２	2
担当者 -崎濱　佳代	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	kayos96@hotmail.com	

学びの準備

ねらい

本講義では、社会調査の基礎について学び、さらに後半では質的調査の方法を学ぶ。この講義を通して、社会福祉専門職として働く上で頻繁に触れることになる社会調査によるデータの読み方を身につけ、さらに効果的な支援を構築するために不可欠となる社会調査を自ら実施する能力を身につけることがねらいである。

メッセージ

社会調査の基礎を学ぶ。「社会調査の基礎」では量的調査を中心に内容を展開したが、本講義ではサンプリングの技法と質的調査（とりわけ参与観察法、生活史法、ドキュメント分析など）に力点をおいて講義を行う。また、学生各自による調査の企画と設計、および量的調査または質的調査のいずれかを使用した調査の実践を行い、その成果を論文にまとめてもらう。

到達目標

本講義の到達目標は以下の通りである。
①質的調査によるデータを読んで、社会的な事象についての考察に活かせるようになること。
②自らの関心を質的調査によって明らかにする手法を身につけること。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	「社会調査の企画と設計」への招待	
2	標本抽出（サンプリング）の理論	
3	サンプリングの種類	
4	サンプリングの実際	
5	質的調査の考え方	
6	質的調査の種類	
7	質的調査の諸注意	
8	ドキュメント分析と観察法	宿題あり
9	生活史法とライフコース分析	宿題あり
10	面接とインタビューの技法	宿題あり
11	調査実施の際の諸注意	
12	個別研究テーマの提出	
13	調査の企画と設計の発表・提出	
14	調査実施の効果とふりかえり	
15	本講義のまとめと課題提出	
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】
大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

学びの手立て

原則的に講義形式で進めるが、調査票作成および調査プロトコール作成においてはグループごとに討論することもあるため、話し合い、および活動には積極的に参加すること。

評価

レポート、試験、グループ参加状況、出席状況などを総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（1）関連科目　本講義で身につけた調査法の技能を、ぜひ各自の課題研究に生かしてほしい。
（2）次のステージ　各自の関心に即して収集したデータに基づいた考察を行い、具体的な支援や行動につなげられるようになることである。

※ポリシーとの関連性　本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる技能を習得することを目指す。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会調査の基礎	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月２	2
担当者 -崎濱　佳代	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	kayos96@hotmail.com	

学びの準備

ねらい

本講義では、社会調査の基礎について学び、さらに後半では量的調査の方法を学ぶ。この講義を通して、社会福祉専門職として働く上で頻繁に触れることになる社会調査によるデータの読み方を身につけ、さらに効果的な支援を構築するために不可欠となる社会調査を自ら実施する能力を身につけることがねらいである。

メッセージ

社会調査の基礎を学習する。本講義は社会調査の目的や意義、調査の事例の紹介、調査倫理などの初歩的学習に加え、主に量的調査を中心にアンケート調査の実践を展開する講義とする。調査研究の企画設計、変数と仮説構成などプロトコールの作成から調査実施まで総合的に講義する。

到達目標

本講義の到達目標は以下の通りである。
①社会調査によるデータを読んで、社会的な事象についての考察に活かせるようになること。
②自らの関心を量的調査によって明らかにする手法を身につけること。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	社会調査とは？―その意義、目的―	
2	社会調査の歴史とソーシャルワーク	
3	社会調査のための諸注意―社会調査の倫理と個人情報の取り扱い―	
4	事前の情報収集の方法１	
5	事前の情報収集の方法２	
6	社会調査の基本的な道具	
7	研究テーマの設定法	
8	調査の企画、設計	
9	概念、変数、仮説の活用	
10	量的調査―調査票作成の事前準備	
11	質問文作成の基本ルール	
12	選択肢作成の基本ルール	
13	調査に関する様々な誤差１	
14	調査に関する様々な誤差２	
15	本講義のまとめ	
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】
大谷信介、他著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房

学びの手立て

原則的に講義形式で行うが、後半ではコンピュータ室を使用しての講義を展開する。そのため、基本的なコンピュータ操作に慣れておくことが好ましい。

評価

レポート、試験、受講態度、出席状況などを総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

(1) 関連科目
「社会調査の企画と設計」
(2) 次のステージ
本講義で学ぶ量的調査に加え、数字では表せない深いデータを得る質的調査の方法にも関心を持ってほしい。

※ポリシーとの関連性　各専攻で学習・研究する社会的事象の基本的な情報の一つである統計の理解に資する基本的な知識を学習する。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会統計学Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	金４	2
担当者 -宮平　隆央	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備

ねらい

本講義では、統計的データをまとめたり、分析したりするために必要な基礎的な統計学的知識について学び、統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を身につけることを目指します。
到達目標：基礎的な社会統計学の知識を習得し、簡易な統計データを作成・分析・利用することができる。

メッセージ

統計は、私たちが生活している社会の有り様を示す、重要な情報の一つです。しかし、社会には、信頼のおけるものから不確かなものまで、様々な統計・数字があふれています。講義では、事例をできるだけ多く紹介して統計的な考え方のイメージや基礎的な考え方を学ぶとともに、パソコンを使用して実際に統計を作成・分析する作業を通じ、理解を深めて行きます。

到達目標

1. PCを利用して、簡易な統計データを作成することができる。
2. 統計データを加工して、簡易な分析ができる。
3. 統計データの分析を通じて、社会現象について考察できる。
4. インターネット・図書館等を利用して、目的に応じた統計データを収集することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
2	「統計」とは何か？（ものごとを数字で測るとは？　統計学的な考え方）	①＋②講義使用データの復習
3	「測る」とはどういうことか？（尺度と変数、度数分布とグラフ）	同上
4	データの特徴をどう表すか？～基本統計量1（代表値とは何か）	同上
5	データの特徴をどう表すか？～基本統計量2（散布度とは何か）	同上
6	データの特徴をどう表すか？～基本統計量3（尖度・歪度、正規分布・標準偏差）	同上
7	データからどこまで確かなことがいえるか？1（検定・推定の考え方、抽出法の理論）	同上
8	収集したデータ間に関連性はあるか？　～量的変数1～（相関係数）	同上
9	収集したデータから予測はできるか？　～量的変数2～（回帰分析の基礎1）	同上
10	収集したデータによる予測をどう読み取るか？～量的変数3～（回帰分析の基礎2）	同上
11	みせかけの関連性を見抜くにはどうするか？～量的変数4～（偏相関係数等）	同上
12	収集したデータ間に関連性はあるか？～質的変数1～（独立性の検定等）	同上
13	データの関連性をどうやって示すか？～質的変数2～（カイ二乗検定等）	同上
14	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数3～（エラボレーション1）	同上
15	複数のデータをどうやって読み解くか？～質的変数4～（エラボレーション2）	同上
16	講義の振り返り・まとめ（レポート提出）	同上

テキスト・参考文献・資料など

下記のテキストを使用する受講者は各自入手すること。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。

廣瀬毅士・寺島拓幸編著『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010年

学びの手立て

①履修の心構え
原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。
②学びを深めるために
本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいると思いますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。

評価

平常点：50%、期末課題：50%

平常点：毎講義でのコメントペーパー提出、受講態度、その他（小テスト・課題等を課すことがある）
期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（１）関連科目
「社会統計学Ⅱ」　社会統計学Ⅰを受講後、より多様な数量データ分析の初歩を学んでほしい。また、社会調査士指定科目等における質的調査・データに関する学習が調査におけるデータの取り扱いについて理解をより深める。

※ポリシーとの関連性　各専攻で学習・研究する社会的事象の基本的な情報の一つである統計の活用に資する基本的な知識を学習する。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会統計学Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金４	2
担当者 -宮平　隆央	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後またはメールにて対応します。	

学びの準備

ねらい

この講義では、「社会統計学I」の内容を踏まえ、社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と方法を学びます。講義ではPCで実際にデータを加工します。
到達目標：基礎的統計リテラシー（統計を読み取り必要な情報を得る力・統計を作成し正確な情報を作る力、など統計を活用する力）を高めることを目指します。

メッセージ

社会で起きている現象の多くは、1つの要因で起こることよりも、複数の要因が関係し合っています。逆に、1つの要因が複数の現象を生み出すこともあります。社会統計学における多変量解析は、社会現象に関わる様々な要因の関係を数字で表そうとするものです。講義では、事例をできるだけ多く紹介して多変量解析のイメージや基礎的な考え方をお話したいと考えています、

到達目標

１．多変量解析に関する基本的な知識・技術が身についている
２．多変量解析の学習を通じて、社会現象が多様な要素から成り立っていることを想像できる
３．統計解析等、数量データを活用するメリットを学ぶとともに、そのデメリット等も学び、多面的に社会現象を理解・想像できる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション（講義の趣旨・方法・スケジュールの説明）	①統計関連書籍・サイト閲覧
2	「多変量解析」を学ぶ前に（社会統計学Iの復習）	①＋②講義使用データの復習
3	「多変量解析」とは何か？（多変量解析の種類と用途、その方法の概要）	同上
4	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」1	同上
5	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」2	同上
6	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」3	同上
7	数値データに基づいて予測する「重回帰分析」4	同上
8	複数の変数を合成する「主成分分析」1	同上
9	複数の変数を合成する「主成分分析」2	同上
10		同上
11		同上
12		同上
13		同上
14		同上
15		同上
16	講義のふりかえり・まとめ（レポート提出）	同上

テキスト・参考文献・資料など

下記のテキストを使用する。受講者は各自入手すること。また、社会統計学Ⅰのテキストを随時参考資料として使用する。ほか、必要に応じて別途、講義中で指示する。

主テキスト
涌井良幸、涌井貞美『多変量解析がわかる』技術評論社、2011

学びの手立て

①履修の心構え
原則として、毎回パソコンを使用して統計データの加工・処理を学習します。そのため講義冒頭でデータの配布等を行います。遅刻・欠席は受講上大きな支障となります。注意してください。なお、欠席に関しては、必ず欠席届を提出してください。
②学びを深めるために
本講義ではPC使用が必須です。PC操作が苦手な人もいると思いますが、卒業後は必須の技術です。本講義では主としてEXCELを使用しますので、日ごろからEXCELに触ることをお勧めします。小遣い帳、燃費計測、バイトの給与計算等、日ごろの生活で使ってみてください。

評価

平常点：50%、期末課題：50%
平常点：毎講義でのコメントペーパー提出、受講態度、その他（小テスト・課題等を課すことがある）
期末課題：講義中で学習した内容について、EXCELデータを加工して回答する課題を出題する。受講生は回答の上、期限までに提出する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（1）関連科目
「社会統計学Ⅰ」　社会統計学Ⅱは、社会統計学Ⅰで学習した内容を踏まえて行うため、前期（Ⅰ）・後期（Ⅱ）を連続して受講することが望ましい。ただし、社会統計学Ⅱを先に受講することを妨げない。

※ポリシーとの関連性　学科カリキュラムポリシー１の「社会福祉専門職を養成する教育」
および２の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会福祉学特講Ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
	集中	集中	2
担当者 八巻 秀	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

福祉現場においては、利用者や職員など様々な人間関係が存在しており、その中での仕事に従事していくために、人間関係の知恵を学ぶことは重要である。

メッセージ

通常の講義では、社会福祉に関わる制度や相談援助に関することを学んでいると思いますが、今回はアドラー心理学の実用的な知識を演習を交えて講座を組み立てて行く。

到達目標

一般的に心理学は、個人の心理を探る・分析するものという印象を持たれているが、オーストリアの精神科医アルフレッド・アドラーが唱えた「個人心理学（通称：アドラー心理学）」は、個人の心を分析するのではない「より良い人間関係のための心理学」と言われている。福祉現場で働く者にとって、この人間関係の心理学であるアドラー心理学を学ぶ意義は大きい。本講座では、このアドラーの心理学を中心に、講義と演習を通して、より良い人間関係を作ることについて学ぶことを目標とする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション：心理学の２つの流れ	
2	アドラー心理学について、その概要	
3	アドラー心理学の理論 ①	
4	アドラー心理学の理論 ②	
5	アドラー心理学の理論 ③	
6	アドラー心理学から発展した理論 ①	
7	アドラー心理学から発展した理論 ②	
8	アドラー心理学の技法 ①	
9	アドラー心理学の技法 ②	
10	アドラー心理学の技法 ③	
11	アドラー心理学から発展した技法 ①	
12	アドラー心理学から発展した技法 ②	
13	人間関係に活かすアドラー心理学 ①	
14	人間関係に活かすアドラー心理学 ②	
15	人間関係に活かすアドラー心理学 ③	
16	まとめ	

テキスト・参考文献・資料など

「スッキリ分かる！アドラー心理学：人生を変える思考スイッチの切り替え方」ナツメ社

学びの手立て

講義と演習を織り交ぜていくので、より積極的な参加を望む。

評価

授業内で複数回ミニレポートを実施する。そのレポート提出と出席点で総合評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　社会福祉学の基礎および各専門領域への導入。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 社会福祉の基礎	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水４	2
担当者 桃原一彦他専攻教員	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	本講義は６名の教員で担当するが、問い合わせは専攻主任の桃原まで連絡すること。	

学びの準備

ねらい

社会福祉学の基礎を様々な専門領域から学ぶ。

メッセージ

本科目は1年次の必修科目です。絶対に履修しなければならない科目です。講義は、社会福祉専攻教員が2～3コマづつ担当し、社会福祉についてそれぞれの研究領域から教示します。将来、自分がどういった領域に進むべきか、また2年次でどの専門演習ゼミを希望するのか参考にして下さい。

到達目標

社会福祉学の基礎および各専門領域の特色を理解し、2年～4年次で履修する専門演習ゼミの選択の参考にする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

第1回目の講義オリエンテーション時に詳細を提示する。なお、第1回目の講義オリエンテーションは必ず出席するようにしてください。

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しません。各教員独自の資料を配布提供する予定です。
担当教員が講義の中で随時紹介します。

学びの手立て

6名の教員が担当するそれぞれの講義内容によって異なります。その注意事項等を必ず聞き漏らさないように気をつけてください。

評価

平常点（講義への出席状況や受講態度など）および各教員の課題（レポート等）の提出をもって総合評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

専門演習a、専門演習および社会福祉士資格、精神保健福祉士資格関連科目。

※ポリシーとの関連性　本科目は、社会福祉専門職に関わる人材のすべてに関わる学問であり、共通する知識となる。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	社会保障Ⅰ	前期	月５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富　郁哉	２年	以下の担当教員宛にメールを送信してください。　i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義のねらいは、まず、社会保障とは何かを理解することにある。また、社会保障制度の概念や体系、少子高齢化を背景とした我が国における社会保障制度の課題を学ぶ。さらに、医療保険制度、年金保険制度、労働保険制度について知識を深める。

メッセージ

学問としての社会保障制度について学ぶことは当然であるが、社会保障制度を、身近な問題の解決手段として活用できるよう知識を深めてもらいたい。

到達目標

一般目標：「社会保障」の定義を明確にし、その目的や機能を再確認する。また、「社会保障」が個人の一生とどのように関わるかを理解する。さらに、社会保障給付のしくみ、社会保障給付費の動向について理解する。行動目標：①社会保障の定義を説明できる。②社会保障の体系を説明できる。③社会保障の機能を説明できる。④ライフサイクルからみた社会保障制度を説明できる。⑤社会保障給付費のしくみ・動向を説明できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション・社会保障とは	ナショナルミニマム
2	社会保障制度の課題･概念	社会保障制度とは何か・定義
3	社会保障制度の体系	社会保険・社会扶助
4	社会保障給付のしくみ	社会保障給付費・年次推移
5	社会保障給付費の分類	社会保障給付費3分類
6	医療保険制度①	医療保険制度とは
7	医療保険制度②	社会保険方式・公的医療保険
8	医療保険制度③	公的医療保険制度の体系
9	医療保険制度④	国民健康保険
10	医療保険制度⑤	医療保険料の徴収
11	医療保険制度⑥	現物給付と現金給付
12	医療保険制度⑦	出産育児一時金
13	医療保険制度⑧	療養の給付範囲
14	医療保険制度⑨	保険外併用療養費
15	医療保険制度⑩	高額療養費制度
16	前期試験	

テキスト・参考文献・資料など

中央法規出版新社会福祉士養成講座「社会保障」及び各教員からの配付資料

学びの手立て

履修の心構え：本科目は社会保障制度全般、主として「医療保険制度」を教示する。医療保険は、健康に関する身近な生活問題に密着した制度であるととらえて学習に取り組んでもらいたい。学びを深めるために：日頃から新聞・テレビニュース、雑誌などでとりあげられる医療保険関連について積極的に関心を示し知識として蓄えてもらいたい。

評価

客観試験（2回実施）と出席状況をもって評価する。出席回数が全講義回数の3分の2に充たない場合には、学則第14条に則り評価を「不可」とする。また、出席票に不正（代筆等）を確認した場合には、試験点数、それまでの出席状況に関わらず「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（１）関連科目：本科目は社会保障として開講するが、その他の社会保障制度と関連づけて学んで欲しい。「高齢者の生活支援と介護保険制度」「保健医療サービス」「保健福祉政策論」など
（２）次のステージ：社会保障制度を学び、身近な問題（病気になったら、職場でけがしたら、失業したらなど）の解決手段に役立てる。相談援助業務には必須の知識である。

※ポリシーとの関連性　本科目は、社会福祉専門職に関わる人材のすべてに関わる学問であり、共通する知識となる。

[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会保障Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月５	2
担当者 長嶋　佐央里	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	オフィスアワー：火曜5限　研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

社会保障制度のうち、国民年金保険制度、労働保険制度について知識を深める。

メッセージ

学問としての社会保障制度について学ぶことは当然であるが、社会保障制度を、自分達の生活上生じた問題の解決手段として活用できるよう知識を深めてもらいたい。

到達目標

○一般目標

「社会保障」の定義を明確にし、その目的や機能を再確認する。また、「社会保障」が個人の一生とどのように関わるかを理解する。さらに、社会保障給付のしくみ、社会保障給付費の動向について理解する。

○行動目標

①社会保障の定義を説明できる。②社会保障の体系を説明できる。③社会保障の機能を説明できる。
④ライフサイクルからみた社会保障制度を説明できる。⑤社会保障給付費のしくみ・動向を説明できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション：授業の進め方	
2	年金保険制度①	年金制度の沿革
3	年金保険制度②	年金保険制度の概要・体系
4	年金保険制度③	国民年金制度
5	年金保険制度④	厚生年金制度
6	年金保険制度⑤	その他の年金制度
7	年金保険制度⑥	年金制度の近年の動向
8	年金保険制度の管理体制	年金制度の課題
9	労働保険制度①	労働災害補償制度
10	労働保険制度②	労働災害補償制度
11	労働保険制度③	雇用保険制度
12	労働保険制度④	雇用保険制度
13	労働保険制度⑤	雇用保険制度
14	労災保険・雇用保険の管理運営体制	労働保険制度の課題
15	総括	
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

・社会福祉士養成講座編集委員会編．2016年．『社会保障』第5版．中央法規出版．
・授業時の配布資料

学びの手立て

○履修の心構え
・「労働保険制度」「年金制度」共に相談援助の知識としては当然ではあるが、身近な生活問題密着した制度であるととらえて学習に取り組んでもらいたい。

○学びを深めるために
・日頃から新聞、テレビニュース、雑誌などでとりあげられる社会保障について積極的に関心を示し知識として蓄えるようこころがける。

評価

・客観試験、受講態度等（出席状況・講義中の私語・遅刻)をもって評価する。
・出席回数が全講義回数の3分の2に充たない場合には、学則第14条に則り評価を「不可」とする。また、出席票提出に不正があった場合には、試験点数、出席状況に関わらず「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（１）関連科目：その他の社会保障制度と関連づけて学んで欲しい。
「高齢者の生活支援と介護保険制度」「保健医療サービス」「障害者福祉」など
（２）次のステージ：社会保障制度を学び、身近な問題（病気、職場でのけが、失業など）の解決手段に役立てる。相談援助業務には必須の知識である。

※ポリシーとの関連性　本講義では、カリキュラム・ポリシーの一つである「社会福祉専門職の養成」に関わる知識を習得することを目指す。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 社会理論と社会システム	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火２	2
担当者 -崎濱　佳代	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	kayos96@hotmail.com	

学びの準備

ねらい

本講義の目的は、国際社会における福祉とは何かを考えることである。まず前半では、家庭や地域といった身の回りの社会システムや社会問題に関する社会学理論を学ぶ。その上で後半では、グローバル化する日本社会において福祉を提供するときにどんなことが問題になるか、また考慮するべき社会背景について、国際社会学の知見を学びながら理解を深める。

メッセージ

グローバル化がどのようなものなのかを知っておくことは、今後の社会福祉に関わるための重要な資質となるので、ぜひグローバル化と福祉についての自分なりの考え方を見つけるつもりで受講してほしい。

到達目標

①社会学において人と社会の関係がどうとらえられてきたのかを学ぶ。
②①を踏まえた上で、人と社会の関係性にグローバル化がどのような影響を与えているのかについて各自の考察を深める。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	グローバル化時代における社会学とはなにか：これから学ぶこと	
2	生活の理解：生活のとらえ方	
3	生活の理解：家族	
4	生活の理解：地域	
5	人と社会の関係：社会関係資本と社会的連帯	
6	社会問題の理解：日本社会と社会問題	
7	グローバル化社会の理解：社会のグローバル化と社会問題	
8	グローバル化社会の理解：労働市場と外国人労働者の受け入れ	
9	グローバル化社会の理解：トランスナショナルな移民ネットワーク	
10	グローバル化社会の理解：国民国家とシティズンシップの変容	
11	グローバル化社会の理解：階層構造の中の移民、マイノリティ	
12	グローバル化と福祉の関係：グローバル化の中の福祉社会	
13	グローバル化と福祉の関係：グローバル化と家族の変容	
14	グローバル化と福祉の関係：移民／外国人の子どもたちと多文化の教育	
15	グローバル化と福祉の関係：共生社会と権利、期末レポート提出	
16	期末レポートの返却・講評	

テキスト・参考文献・資料など

【テキスト】
社会福祉士養成講座編集委員会編『社会理論と社会システム(新・社会福祉士養成講座)　第3版』中央法規出版、2014年。
【参考文献】
宮島喬他編著『国際社会学』有斐閣、2015年。

学びの手立て

①履修の心構え
講義中の私語は、周囲に座っている学生の学びを妨害するので控えること。
期末レポートでは授業で扱ったテーマに沿って論文作成を行うので、きちんとノートを取っておくこと。
②学びを深めるために
高校社会科の復習をしておくと、理解が深まりやすい。

評価

中間テストおよび期末レポートのほか、出席や授業への参加も加味して評価を行う。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（1）関連科目　「社会学概論」などの理論を学ぶ科目　（2）次のステージ 本講義で身につけた知識や考察は社会福祉士の資格を取得するためのみならず、ディプロマ・ポリシーに掲げられた「高度化かつ多様化する国際社会」を生きる上での基礎となるので、ぜひ将来、社会に関わるときに役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性　障害をキーワードに多面的に社会を問い直すことを通して、私達が向き合う社会を理解する。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 障害学	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水４	2
担当者 岩田　直子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了時に受付けます。	

学びの準備

ねらい

障害学の入門的な講義です。障害学の世界を楽しんでください。

メッセージ

社会福祉学に限定せず、多方面から障害を捉えなおす。
また、障害をキーワードに社会の諸現象を見つめる。
英国の当時者が障害の社会モデルを打ち出して障害学がスタートしたが、その当時のエネルギーが日本や国際社会にどのように広がっていったか紹介する。

到達目標

①障害学への理解を深める。　②障害学に関する文献をたくさん読む。　③レポートを作成する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	講義時に提示します
2	障害学の誕生の背景	以下同じ
3	障害の社会モデル	
4	障害学の広がり	
5	経済学（ゲーム理論）と障害学の対話	
6	優生思想と障害学	
7	健全者文明への問いかけ～青い芝の会の主張～	
8	ろう文化～言語的招集者のアイデンティティ～	
9	知的障害者のセルフアドボカシー	
10	目が見えない人は何をみているのか	
11	精神科医療改革	
12	障害女性に対する差別の解消に向けて	
13	障害理解教育と障害疑似体験～私たちは障害の何を体験するのか～	
14	メディアが描く障害者	
15	障害と開発	
16	まとめ	

テキスト・参考文献・資料など

特に指定はせず、随時文献を紹介する。

学びの手立て

社会福祉学で活用している障害の定義を相対化できるよう、広く障害とは何か問う姿勢を持ちましょう。
また、障害学に関する文献を積極的に読みましょう。

評価

レポート50%、文献レビュー（×２）50%、

学びの継続

次のステージ・関連科目

卒業論文の作成に活用してください。

※ポリシーとの関連性　聴覚障害者が自己実現できる社会をつくる人材を育てる。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 障害者支援実践演習Ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月３	2
担当者 -酒井　ひろ子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

難聴者のコミュニケーションのおもな方法は自分で聞くことです。外見からは障害があることもわかりにくく、周囲からの適切な援助を受けにくい状況にあります。難聴者、中途失聴者の基礎知識、要約筆記の基礎知識を基に、聴覚障害者のコミュニケーション支援を学び実践します。

メッセージ

聴覚障害者には、様々な聞こえ方があり、それによりコミュニケーション方法が違います。難聴者や中途失聴者のコミュニケーションの主な方法は聞くことです。そこに手話や読話を組み合わせたり、文字による情報で補っています。文字によるコミュニケーション支援のひとつが要約筆記です。

到達目標

聴覚障害者の医学的・機能的障害と社会的課題を知ることができる。聴覚障害者のコミュニケーション支援の現状を学び、要約筆記者の役割を知ることができる。話しことばと書きことばの特徴を理解し、活用する技術を身につけることができる。障害者総合支援法の現状と、合理的配慮、障害者差別解消法を理解することができる。コミュニケーションにおける伝達の意味を確認できる。ノートテイクでの要約筆記の技術と考え方を学び、個人に対する情報保障技術を身につけることができる。聞こえないことによる音声情報から疎外される状況や、基本的人権が守られていない状況を理解し、聴覚障害者の支援を考えることができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	聴覚障害の基礎知識　聞こえの仕組みと聴覚障害・聴覚補償	第１講を事前に読む
2	聴覚障害の基礎知識　聴覚障害者のコミュニケーション（聴覚活用）	第１講を事前に読む
3	聴覚障害の基礎知識　聴覚障害者のコミュニケーション（視覚活用）	第１講を事前に読む
4	聴覚障害の基礎知識　中途失聴・難聴者の現状と課題	第１講を事前に読む
5	要約筆記の基礎知識　全国の難聴者運動と要約筆記の歴史	第２講を事前に読む
6	要約筆記の基礎知識　沖縄県の難聴者運動と要約筆記の歴史・大学ノートテイク	講義内の配付プリントの学習
7	要約筆記の基礎知識　要約筆記事業の位置づけ・通訳としての要約筆記	第２講を事前に読む
8	要約筆記の基礎知識　要約筆記の目的、要約筆記の三原則、要約筆記の表記１	第４講を事前に読む
9	要約筆記の基礎知識　要約筆記の表記２	表記練習
10	話しことばの基礎知識　話しことばと書きことば	第４講を事前に読む　表記練習
11	話しことばの基礎知識　話しことばの特徴と活用	第４講を事前に読む　表記練習
12	社会福祉の基礎知識　聴覚障害者の福祉施策の現状	第８講を事前に読む　表記練習
13	伝達の学習　コミュニケーションの基礎理論	第９講を事前に読む　表記練習
14	ノートテイク　ノートテイクの方法	第12講を事前に読む
15	ノートテイク　ノートテイクの技術	第12講を事前に読む
16	筆記試験	

テキスト・参考文献・資料など

教科書使用　厚生労働省カリキュラム準拠　要約筆記者養成テキスト　上下3400円。　発行：要約筆記者養成テキスト作成委員会　発売：社団法人　全日本難聴者・中途失聴者団体連合会　特定非営利活動法人　全国要約筆記問題研究会

学びの手立て

履修の心構え：毎回、前回の講義内容に積み上げる講義を行います。欠席や遅刻があると内容がわからなくなります。配布する資料のファイル、テキストを毎回持参してください。そのほか準備するものは、講義内で告知します。　次回の内容を事前に読んでおくこと。受講中は、主体的な授業参加を望む。　学びを深めるために：宿題やレポート提出は　期限を守り必ず提出する。

評価

期末試験５０％　聴覚障害者のコミュニケーション支援のあり方を理解しているか、筆記試験の中で評価する。
レポート３０％　沖縄国際大学の音声バリアフリーを考える。受講態度20点　授業内の実習や課題の取り組みを評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

次のステージ：沖国大の大学ノートテイクなどで、実際に聴覚障害者のコミュニケーション支援を実践してほしい。

※ポリシーとの関連性　社会福祉従事者が総合的包括的に、また、中核として活躍するために求められる障害者福祉分野の理念、理論等を学びます　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	前期	水５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲村　小夜子	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

障害者福祉の理念と意義および障害者の生活のしづらさや歴史と権利を学び、障害者福祉の施策や制度および動向の概要を理解することをねらいとします。本科目を通して障害者福祉の基礎知識を習得することを目指します。

メッセージ

本科目は社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格科目としても位置付けられており、講義はテキストを中心に、障害者福祉の基礎知識が習得できるように展開していきます。テキストは必ず購入しましょう。資格に関係なく広く障害者福祉を学びたい学生も歓迎します。障害者福祉が目指す社会像について考え、実践できるきっかけとなれば嬉しく思います。共に学んでいきましょう。

到達目標

①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解することができる。
②障害者福祉制度の発展過程について理解することができる。
③相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション(講義概要の理解）と障害者を取り巻く社会情勢①	次回に向けての予習課題①
2	障害者を取り巻く社会情勢②	次回に向けての予習課題②
3	障害者の生活実態やニーズ	次回に向けての予習課題③
4	障害の概念(ICFの特徴）、障害の医学モデル／社会モデル	次回に向けての予習課題④
5	障害者基本法、他	次回に向けての予習課題⑤
6	障害者虐待防止法、他	次回に向けての予習課題⑥
7	障害者総合支援法①　理念・考え方、自立支援給付	次回に向けての予習課題⑦
8	障害者総合支援法②　支給決定のプロセス、自立支援医療費、補装具費	講義振り返りと次回講義予習
9	障害者総合支援法③　地域生活支援事業、障害福祉計画	講義振り返りと次回講義予習
10	障害者総合支援法④　苦情解決、審査請求、介護保険制度との関連	講義振り返りと次回講義予習
11	障害児福祉施策	講義振り返りと次回講義予習
12	組織・機関の役割	講義振り返りと次回講義予習
13	障害者総合支援法に基づく主な専門職の役割と実際	講義振り返りと次回講義予習
14	多職種連携・ネットワーキング	講義振り返りと次回講義予習
15	まとめ・振り返り　＊進捗状況によりコマ数の変更、順序の変更あり	期末試験に向け振り返り
16	前期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

テキスト　新・社会福祉士養成講座(14) 障害者に対する支援と障害者自立支援制度（中央法規）の最新版（受講生は必ず購入すること)

参考文献・資料　参考文献は必要に応じ講義時間に紹介、資料は適宜配布する。

学びの手立て

①社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験に必要な科目でもあり、毎回出席を取ります。②期末試験の受験資格、成績評価等その他については、学則、学部履修規程に基づきます。③ソーシャルワーカーを目指す者として、私語、携帯使用、代筆、代弁、写し等の行為が何に当たるのか各自考え、受講して下さい。④講義内容の学びを深めるために予習課題を出します。⑤福祉新聞や地元新聞にも目を通しましょう。

評価

授業提出時のリアクションペーパー30%、予習課題20%、期末試験50%で、まずは評価し、出席状況・受講態度等の内容を勘案して、最終評価をします。

学びの継続

次のステージ・関連科目

①関連科目：国家資格関連科目を履修しましょう。②次のステージ：実習や研究活動に活用しましょう。

※ポリシーとの関連性　人間のこころや行動を理解するための心理学の知識と技術を学ぶ専門科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	障害児・者心理学	前期	火４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野村　れいか	２年	研究室：9号館618　r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

身体障害、発達障害、精神障害について、それぞれの心理学的特徴および心理支援について理解する。

メッセージ

「障害」とは何か、当事者の苦労や強み、自分にできるサポートは何か等、受け身の姿勢で授業を聞くのではなく、常に考えながら受講し、理解を深めてほしいです。

到達目標

①障害とは何かを理解する。
②各障害における特徴とそれを踏まえた支援について理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	リフレクションシートの作成
2	障害をどのように捉えるか	リフレクションシートの作成
3	身体障害と心理的特徴①　肢体不自由・視覚障害	リフレクションシートの作成
4	身体障害と心理的特徴②　聴覚障害・内部障害	リフレクションシートの作成
5	知的障害と心理的特徴	リフレクションシートの作成
6	自閉スペクトラム症と心理的特徴	リフレクションシートの作成
7	ADHDと心理的特徴	リフレクションシートの作成
8	学習障害と心理的特徴	リフレクションシートの作成
9	統合失調症と心理的特徴	リフレクションシートの作成
10	物質使用障害と心理的特徴	リフレクションシートの作成
11	うつ病・躁うつ病と心理的特徴	リフレクションシートの作成
12	認知症と心理的特徴	リフレクションシートの作成
13	障害児者家族の心理	リフレクションシートの作成
14	障害児者の支援	リフレクションシートの作成
15	まとめ	リフレクションシートの作成
16		

テキスト・参考文献・資料など

講義の中で適宜紹介する。

学びの手立て

「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」「発達心理学」を履修していることが望ましいです。障害の特性を理解し、日常生活で関わる上で自分に何ができるかを考え、毎回リフレクションシートにまとめて提出してもらいます。

評価

リフレクションシート…50%　最終レポート…50%

学びの継続

次のステージ・関連科目

「発達臨床心理学」で各障害を発達段階に沿って学び、その時期に合わせた支援について理解を深める。「精神医学」で診断や医学的立場からの見解を学ぶ。

※ポリシーとの関連性　人間のこころや行動を理解するための心理学の知識と技術を学ぶ専門科目　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 神経心理学	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月５	2
担当者 前堂　志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

神経心理学とは、ひとの認知、感情、行動の過程（機能：ソフト面）とその基礎となる脳（構造：ハード面）を関連づけて理解することを通して、ひとの認知、感情、行動（心理的過程）の理解をより深めていこうとする学問分野である。本講では、心理学と脳科学の双方の知見を対応させ、こころと脳の関連について理解を深め、神経心理学的視点を身につけることを目的とする。

メッセージ

「こころ」と「脳」は、自分にとって最も身近であるが、自分では分かりにくい存在です。近年、脳に関する話題は豊富ですが、こころと脳についてまだわからないことも多いのです。神経心理学の知識を理解し、まだわからないことを知り、こころと脳について理解を深めることを楽しみつつ、神経心理学の視点からこころと脳について意識的に考える視点を身につけてほしい。

到達目標

①神経心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、神経心理学分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる。
②神経心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。
③日常の身近な課題や問題について、神経心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。
④神経心理学的立場から心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけている。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション/こころと脳に関するイメージ	シラバス等の内容理解/今回の復習
2	脳の外観を知る	今回の復習/1章の予習
3	神経系の構造と構成細胞：テキスト①1章	1章の復習/2章の予習/観察課題
4	脳の進化と発達：テキスト①2章	2章の復習/3章の予習/観察課題
5	感覚のしくみ：テキスト①3章	3章の復習/4章の予習/観察課題
6	運動のしくみ：テキスト①4章	4章の復習/5章の予習/観察課題
7	記憶と可塑性：テキスト①5章	5章の復習/観察課題
8	脳について想像してみよう①脳のチャートを作成する	ワーク完成/観察課題
9	脳について想像してみよう②脳のチャートに解説をつける	ワーク完成/観察課題/②１章予習
10	ヒトの脳の構造と機能：テキスト②1章	1章の復習/2章の予習/観察課題
11	脳を見る：テキスト②2章	2章の復習/3章の予習/観察課題
12	言語思考のしくみ：テキスト②3章	3章の復習/4章の予習/観察課題
13	情動と感情：テキスト②4章	4章の復習/5章の予習/観察課題
14	脳の病気：テキスト②5章	5章の復習/観察課題/全体の復習
15	もう一度、こころと脳/まとめ	全体の復習/期末課題
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：下記、テキストは毎回の授業に使用する。各自準備し持参すること。
理化学研究所脳科学総合研究センター　(2011)．　脳科学の教科書 神経編（岩波ジュニア新書）岩波書店
理化学研究所脳科学総合研究センター　(2013)．　脳科学の教科書 こころ編（岩波ジュニア新書)岩波書店
参考文献：必要に応じて資料を配布する。その他、以下の①、②の参考図書を参照するとよい。
①森岡周（2014）．　脳を学ぶ―「ひと」とその社会がわかる生物学　協同医書出版社
②池谷裕二　(2015)．大人のための図鑑－脳と心のしくみ　新星出版社

学びの手立て

・心理学の専門的な参考文献（テキスト、配布資料や参考図書）を読んで理解するには、2度読み（下読み、分析読み）をすることと、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。
・予習、復習において、テキストの2度読みとワークシートのまとめ、日常観察を課します。予・復習の内容をもとに授業内でのワーク（課題について考える）を行います。「ひとのこころと脳」について「よく読み、よく観察し、よく考える」ことに積極的に取り組む気持ちで受講してください。
・他学科、他専攻学生の受講に際しては、共通科目の心理学Ⅰ、Ⅱまたは心理学概論などの心理学入門科目を履修済みであることが望ましい。

評価

平常点（受講態度、授業内ワークへの参加態度・貢献度、予・復習ワークシートの内容と提出状況）…50%
期末課題（ポートフォリオとレポート課題の内容）…50%
平常点と期末課題を総合して到達目標の①～④の達成度を評価する予定。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理学概論、知覚心理学、生理心理学Ⅰ・Ⅱ、学習心理学Ⅰ・Ⅱ、認知心理学の内容と関連づけながら履修するとよい。
次のステージ：神経心理学的視点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。
引き続き、神経心理学で学んだ知識と結びつけながら心理学の専門科目を幅広く履修するとよい。

※ポリシーとの関連性　人間のこころや行動を理解するための心理学の知識と技術を学ぶ専門科目　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学概論	通年	水４	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂　志乃（16）、赤嶺遼太郎（16）	１年	前期mshino@okiu.ac.jp/後期ptt1003@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

心理学の歴史、研究法、各分野の重要研究、理論を学び心理学の全体像をつかむ。前期は「歴史、研究法、感覚・知覚、記憶、学習、思考、知能、動機づけ、情動、心と脳」、後期は「発達、人格（パーソナリティ）、社会、臨床」の各分野の基礎知識を学ぶ。心理学の基礎知識をもちいて人間の心の諸問題を心理学的に捉える視点（人の心と行動を科学的に分析的に理解する）を身につける。

メッセージ

心理学的視点で人や社会、自分自身について考える面白さをお伝え出来るよう、古典的な心理学から最近のトピックまで幅広く紹介しながら学習を進めていきます。関心のある分野を見つけて、自分で調べたり、周りの人に説明したり、知識や技術を積極的に使うことでより学ぶことができます。

到達目標

①心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、心理学の各分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる
②心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。
③日常の身近な課題や問題について、心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。
④心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	前期オリエンテーション	予習法（2度読み・用語調べ）理解
2	心理学の歴史	歴史・研究法の資料を予習
3	心理学の研究法	感覚・知覚の資料を予習
4	感覚・知覚1：感覚のメカニズムの理解	感覚・知覚の資料を予習
5	感覚・知覚2：知覚・認知のメカニズムの理解	記憶の資料を予習
6	記憶1：記憶のメカニズムの理解	記憶の資料を予習
7	記憶2：日常記憶	記憶の資料を予習
8	学習1：条件づけの理解	記憶の資料を予習
9	学習2：条件づけ以外の学習理論の理解	思考と創造性の資料を予習
10	思考と創造性1：思考の過程の理解・創造性の	思考と創造性の資料を予習
11	思考と創造性2：言語過程と発達の理解・知能の定義と捉え方	動機づけ・情動の資料を予習
12	動機づけ・情動1：動機づけの過程の理解	動機づけ・情動の資料を予習
13	動機づけ・情動2：感情・情動のメカニズムの理解	こころと脳の資料を予習
14	こころと脳1：脳と神経系の生理学的基盤・神経学的基盤の理解	こころと脳の資料を予習
15	こころと脳2：脳と神経系の機能と心の働きとの関連・比較心理学的理解	期末課題によるこれまでの復習
16	予備日	
17	後期オリエンテーション	履修の基本ルール（出欠・成績等）
18	発達心理学1：乳幼児期まで	用語調べ
19	発達心理学2：児童期・青年前期まで	用語調べ
20	発達心理学3：青年中期・後期～老年期まで	用語調べ
21	パーソナリティ心理学1：パーソナリティ理論	用語調べ
22	パーソナリティ心理学2：パーソナリティ検査	用語調べ
23	パーソナリティ心理学3：	用語調べ
24	中間テスト・心理学最近のトピック	これまでの復習
25	社会心理学1：対人認知・対人関係	用語調べ
26	社会心理学2：集団・組織心理	用語調べ
27	社会心理学3：家族心理	用語調べ
28	臨床心理学1：臨床心理学の主要な理論	用語調べ
29	臨床心理学2：教育・学校・司法・犯罪との関連	用語調べ
30	臨床心理学3：産業・組織との関連	用語調べ
31	基礎心理学と臨床心理学：健康・医療・福祉・障がいの領域との関連	用語調べ

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは指定しない。授業時に必要な資料を配布する ・参考図書 鹿取広人・杉本敏夫・鳥居修晃（編）（2015）　心理学第〔5版〕 東京大学出版会 無藤隆（2004）　心理学　有斐閣 重野純（編）（2012）　心理学〔改訂版〕キーワードコレクション　新曜社 田島信元（1989）　心理学キーワード有斐閣双書　有斐閣
	学びの手立て 履修の心構え： ・履修に関する大学の規則を理解しておいて下さい。講義中は周囲の迷惑にならないよう配慮して下さい。 ・人間福祉学科以外の学生で、公民科の教科に関する科目として受講を希望する学生は教職用クラスを受講してください。 学びを深めるために： ・講義の中で適宜参考図書を紹介します。関心のある分野の参考図書を積極的に読みましょう。 ・心理学の専門的な参考文献（資料や図書）を読んで理解するには、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。
	評価 ・前期は、ワークシート（20%）、ポートフォリオ（30%）、期末課題レポート（30%）、振り返りレポート（20%）の合計で評価。 ・後期は、中間テスト（３０点満点）、期末テスト（７０点満点）の合計点で評価。 ・前期、後期とも、課題やテストを用いて、上記の到達目標の①～④の達成度を評価する。 ・前期と後期の点数を平均して、通年の評価とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1)関連科目：心理学史、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、知覚心理学、認知心理学、学習心理学、生理心理学、神経心理学、発達心理学Ⅰ・Ⅱ、人格心理学、臨床心理学Ⅰ・Ⅱなど、心理学概論の知識と結びつけながら学ぼう。 (2)次のステージ：心理学的視点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続し、各専門科目を学ぼう。加えて共通科目を幅広く学び人や社会について多面的に捉え考える力をつけよう。

※ポリシーとの関連性　　心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。　　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学基礎演習Ａ	前期	火２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野村　れいか	２年	研究室：９号館618　r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

基本的な心理学研究法を用いた７つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション/ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
2	心理学研究法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組む
3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組む
4	実習①－1　全ゼミ合同実験(自由再生)のテーマの説明と手続き・実施（合同ゼミ）	実験・実習実施・データ収集
5	実習①－2　全ゼミ合同実験(自由再生）結果の解釈とまとめ(合同ゼミ)	データの整理・結果の読み取り
6	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション：合同ゼミ）	文献検索課題/レポートの草稿作成
7	実習①－3　全ゼミ合同実験(自由再生)レポートの書き方と考察：解説編（合同ゼミ）	文献検索課題/レポート草稿の添削
8	実習①－4：全ゼミ合同実験(自由再生)レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提	実習①草稿修正、改訂版の作成
9	実習①－5：全ゼミ合同実験レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成
10	実習②－1　実習テーマ（触二点閾）の説明と手続き・実施/実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
11	実習②－2　データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
12	実習②－3　レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成
13	実習③－1　実習テーマ(視覚的短期記憶)の説明と手続き・実施 ／ 実習②レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
14	実習③－2　データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
15	実習③－3　レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成
16	予備日/実習③レポートの提出	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
②日本心理学会　認定心理士資格認定協会（編）（2015）.認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。
・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。
・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。
・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

評価

平常点（演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40%
レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60%
※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。
次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。
心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性　　心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。　　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学基礎演習Ａ	前期	火２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂　志乃	２年	*研究室 5-431 e-mail mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

基本的な心理学研究法を用いた７つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験法、観察法などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション/ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
2	心理学研究法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組む
3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組む
4	実習①－1：全ゼミ合同実験（自由再生）のテーマの説明と手続き・実施（合同ゼミ）	実験・実習実施・データ収集
5	実習①－2：全ゼミ合同実験結果（自由再生）の解釈とまとめ（合同ゼミ）	データの整理・結果の読み取り
6	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション：合同ゼミ）	文献検索課題/レポートの草稿作成
7	実習①－3：全ゼミ合同実験（自由再生）レポートの書き方と考察：解説編（合同ゼミ）	文献検索課題/レポートの草稿添削
8	実習①－4：全ゼミ合同実験（自由再生）レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポート草稿提出	実習①草稿修正、改訂版の作成
9	実習①－5：全ゼミ合同実験（自由再生）レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提	実習①改訂版の修正/最終版の作成
10	実習②－1：実習テーマ（錯視実験）の説明と手続き・実施／実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
11	実習②－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
12	実習②－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成
13	実習③－1：実験テーマ（パーソナルスペース）の説明と手続き・実施/実習②レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
14	実習③－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
15	実習③－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成
16	予備日/実習③レポートの提出	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
②日本心理学会　認定心理士資格認定協会（編）（2015）.認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。
・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。
・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。
・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。

評価

平常点（演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40%
レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60%
※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。
次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。
心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性　　心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。　　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学基礎演習Ａ	前期	火２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田　幸彦	２年	上田幸彦まで	

学びの準備

ねらい

基本的な心理学研究法を用いた７つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション/ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
2	心理学研究法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組む
3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組む
4	実習①－1　全ゼミ合同実験（自由再生）のテーマの説明と手続き・実施（合同ゼミ）	実験・実習実施・データ収集
5	実習①－2　全ゼミ合同実験（自由再生）結果の解釈とまとめ　（合同ゼミ）	データの整理・結果の読み取り
6	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション）	文献検索課題/レポートの草稿作成
7	実習①－3　全ゼミ合同実験（自由再生）レポートの書き方と考察：解説編（合同ゼミ）	文献検索課題/レポート草稿の添削
8	実習①－4：全ゼミ合同実験（自由再生）レポートの書き方と考察（演習）実習①レポート草稿提出	実習①草稿修正、改訂版の作成
9	実習①－5：全ゼミ合同実験（自由再生）レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提	実習①改訂版の修正/最終版の作成
10	実習②－1/実習テーマ（視覚的短期記憶）の説明と手続き・実施　　実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
11	実習②－2　データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
12	実習②－3　レポートの書き方と考察：演習	最終レポートの作成
13	実習③－1　実験テーマの説明と手続き・実施/実習②レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
14	実習③－2　結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
15	実習③－3　レポートの書き方と考察：演習	最終レポートの作成
16	予備日/実習③レポートの提出	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
②日本心理学会　認定心理士資格認定協会（編）（2015）.認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。
・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。
・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。
・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

評価

平常点（演習参加への態度、各週に課される課題の提出状況）…40％
レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60％
※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。
次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。
心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験法・観察法などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学基礎演習Ａ	前期	火２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山　篤史	２年	研究室　13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

基本的な心理学研究法を用いた７つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験法、観察法などの実証的研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション/ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
2	心理学研究法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組む
3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組む
4	実習①－1　全ゼミ合同実験(自由再生)のテーマの説明と手続き・実施（合同ゼミ）	実験・実習実施・データ収集
5	実習①－2　全ゼミ合同実験(自由再生)結果の解釈とまとめ（合同ゼミ）	データの整理・結果の読み取り
6	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション：合同ゼミ）	文献検索課題/レポートの草稿作成
7	実習①－3　全ゼミ合同実験(自由再生)レポートの書き方と考察：解説編（合同ゼミ）	文献検索課題/レポート草稿の添削
8	実習①－4：全ゼミ合同実験(自由再生)レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提	実習①草稿修正、改訂版の作成
9	実習①－5：全ゼミ合同実験(自由再生)レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成
10	実習②－1　実習テーマ(訓練の転移)の説明と手続き・実施 ／ 実習①最終版レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
11	実習②－2　データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
12	実習②－3　レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成
13	実習③－1　実習テーマ(触二点閾)の説明と手続き・実施 ／ 実習②レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
14	実習③－2　データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
15	実習③－3　レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成
16	予備日/実習③レポートの提出	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
②日本心理学会　認定心理士資格認定協会（編）（2015）.認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。
・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。
・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。
・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

評価

平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40％
レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60％
※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。
次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。
心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性　　心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。　　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学基礎演習Ａ	前期	火２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村　弘子	２年	5号館424-2研究室（098-893-3710） h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

基本的な心理学研究法を用いた７つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ科目である。目には見えない心を心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験する。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠である。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけてほしい。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション/ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
2	心理学研究法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組む
3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組む
4	実習①－1　全ゼミ合同実験のテーマの説明と手続き・実施	実験・実習実施・データ収集
5	実習①－2　全ゼミ合同実験結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
6	実習①－3　全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察：解説編	レポートの草稿作成
7	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション）	文献検索課題/レポートの草稿作成
8	実習①－4：全ゼミ合同実験レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提出	実習①草稿修正、改訂版の作成
9	実習①－5：全ゼミ合同実験レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成
10	実習②－1「行動観察」概要説明と実施　／　実習①最終版レポートの提出	観察・実習実施・データ収集
11	実習②－2「行動観察」結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
12	実習②－3「行動観察」レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成
13	実習③－1「錯視実験」実験テーマの説明と手続き・実施　/　実習②レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
14	実習③－2「錯視実験」結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
15	実習③－3「錯視実験」レポートの書き方と考察：演習編	最終レポートの作成
16	予備日/実習③レポートの提出	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
②日本心理学会　認定心理士資格認定協会（編）（2015）.認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。
・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。
・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。
・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

評価

平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40％
レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60％
※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。
次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。
心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性　　心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験法・観察法などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。　　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学基礎演習Ａ	前期	火２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	泊　真児	２年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

基本的な心理学研究法を用いた７つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験法、観察法などの実証的研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション ／ ゼミ生同士の顔合わせ	シラバス、実施要項を理解する
2	心理学研究法とは？（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組む
3	実験法オリエンテーション（合同ゼミ）	配布資料の理解・課題へ取り組む
4	実習①－1　全ゼミ合同実験(自由再生)のテーマの説明と手続き・実施（合同ゼミ）	実験・実習実施・データ収集
5	実習①－2　全ゼミ合同実験(自由再生)結果の解釈とまとめ（合同ゼミ）	データの整理・結果の読み取り
6	文献検索・表記の仕方（図書館オリエンテーション：合同ゼミ）	文献検索課題/レポートの草稿作成
7	実習①－3　全ゼミ合同実験(自由再生)レポートの書き方と考察：解説編（合同ゼミ）	文献検索課題/レポート草稿の添削
8	実習①－4：全ゼミ合同実験(自由再生)レポートの書き方と考察（演習）/実習①レポートの草稿の提	実習①草稿修正、改訂版の作成
9	実習①－5：全ゼミ合同実験(自由再生)レポートの添削フィードバック/実習①改訂版レポートの提出	実習①改訂版の修正/最終版の作成
10	実習②－1　実習テーマ(パーソナルスペース)の説明と手続き・実施 ／ 実習①最終版レポートの提	実験・実習実施・データ収集
11	実習②－2　データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
12	実習②－3　レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成
13	実習③－1　実習テーマ(訓練の転移)の説明と手続き・実施 ／ 実習②レポートの提出	実験・実習実施・データ収集
14	実習③－2　データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
15	実習③－3　レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成
16	予備日 ／ 実習③レポートの提出	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）(2009).　心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
②日本心理学会　認定心理士資格認定協会（編）(2015).　認定心理士資格準拠－実験・実習で学ぶ心理学の基礎－　金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。
・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。
・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。
・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。

評価

平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40％
レポート（実習①、②、③それぞれのレポート3本）…60％
※原則として、全課題において実験者・実験参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理学研究法Ⅰを履修すること。
次へのステージ：引き続き心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修すること。また、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修すると、研究法とそれによって得たデータの解析法との結びつきについて学びを展開することができる。
心理学基礎演習Aで学んだことを、その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性　　心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。　　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学基礎演習Ｂ	後期	火２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前堂　志乃	２年	*研究室 5-431 e-mail mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

基本的な心理学研究法を用いた７つの実習（自由再生、視覚的短～期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験法、観察法などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション/３・４年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
2	実習④－1：実習テーマ（訓練の転移）の説明と手続き・実習実施	実験・実習実施・データ収集
3	実習④－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
4	実習④－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	本レポートの作成/振り返り
5	実習⑤－1：実習テーマ（触2点閾）の説明と手続き・実習実施/実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
6	実習⑤－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
7	実習⑤－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	本レポートの作成/振り返り
8	実習⑥－1：実習テーマ（視覚的短期記憶）の説明と手続き・実習実施/実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
9	実習⑥－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
10	実習⑥－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	本レポートの作成/振り返り
11	実習⑦－1：実習テーマ（行動観察）の説明と手続き・実習実施/実習⑥レポート提出	実験・実習実施・データ収集
12	実習⑦－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
13	実習⑦－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	本レポートの作成/振り返り
14	合同ゼミ1：キャリア講演会/実習⑦レポート提出	配布資料の復習・次回に向けた予習
15	合同ゼミ2：3年ゼミに向けた質問紙実習オリエンテーション	配布資料の復習・課題の調べ学習
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
②日本心理学会　認定心理士資格認定協会（編）（2015）.認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。
・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。
・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。
・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。

評価

・平常点（演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40％
・レポート（実習④、⑤、⑥、⑦それぞれのレポート4本）…60％
※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。
次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習）での研究活動につなげること。
その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性　　心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。　　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学基礎演習Ｂ	後期	火２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上田　幸彦	２年	上田幸彦まで	

学びの準備

ねらい

基本的な心理学研究法を用いた７つの実習（自由再生、視覚的短～期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション/３・４年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
2	実習④－1：テーマ説明と手続き・実習実施	実験・実習実施・データ収集
3	実習④－2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
4	実習④－3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
5	実習⑤－1：テーマ説明と手続き・実習実施/実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
6	実習⑤－2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
7	実習⑤－3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
8	実習⑥－1：テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
9	実習⑥－2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
10	実習⑥－3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
11	実習⑦－1：テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑥レポート提出	実験・実習実施・データ収集
12	実習⑦－2：結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
13	実習⑦－3：レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
14	合同ゼミ1/キャリア講演会　　実習⑦レポート提出	配布資料の復習・次回に向けた予習
15	合同ゼミ2：3年ゼミに向けた質問紙実習オリエンテーション	配布資料の復習・課題の調べ学習
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
②日本心理学会　認定心理士資格認定協会（編）（2015）.認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。
・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。
・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。
・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

評価

・平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40％
・レポート（実習④、⑤、⑥、⑦それぞれのレポート4本）…60％
※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。
次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミでの研究活動につなげること。
その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性　　心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。　　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学基礎演習Ｂ	後期	火２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村　弘子	２年	5号館424-2研究室（098-893-3710） h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

基本的な心理学研究法を用いた７つの実習（自由再生、視覚的短～期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ科目である。目には見えない心を心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験する。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠である。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけてほしい。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション/３・４年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
2	実習④－1：「パーソナル・スペース」テーマ説明と手続き・実習実施	実験・実習実施・データ収集
3	実習④－2：「パーソナル・スペース」結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
4	実習④－3：「パーソナル・スペース」レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
5	実習⑤－1：「訓練の転移」テーマ説明と手続き・実習実施　/　実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
6	実習⑤－2：「訓練の転移」結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
7	実習⑤－3：「訓練の転移」レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
8	実習⑥－1：「触二点閾」テーマ説明と手続き・実習実施/実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
9	実習⑥－2：「触二点閾」結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
10	実習⑥－3：「触二点閾」レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
11	実習⑦－1：「視覚的短期記憶」テーマ説明と手続き・実習実施　/　実習⑥レポート提出	実験・実習実施・データ収集
12	実習⑦－2：「視覚的短期記憶」結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
13	実習⑦－3：「視覚的短期記憶」レポートの書き方と考察	本レポートの作成/振り返り
14	合同ゼミ1　/　実習⑦レポート提出	配布資料の復習・次回に向けた予習
15	合同ゼミ2：3年ゼミに向けた質問紙実習オリエンテーション	配布資料の復習・課題の調べ学習
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
②日本心理学会　認定心理士資格認定協会（編）（2015）.認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。
・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。
・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。
・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

評価

・平常点（演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40％
・レポート（実習④、⑤、⑥、⑦それぞれのレポート4本）…60％
※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。
次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミでの研究活動につなげること。
その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性　　心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験法・観察法などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。　　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 心理学基礎演習Ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火２	2
担当者 泊　真児	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

基本的な心理学研究法を用いた７つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験法、観察法などの実証的研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション ／ ３・４年ゼミ合同説明会	実施要項の理解／3・4年ゼミの理解
2	実習④－1：実習テーマ(触二点閾)の説明と手続き・実習実施	実験・実習実施・データ収集
3	実習④－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
4	実習④－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成／振り返り
5	実習⑤－1：実習テーマ(視覚的短期記憶)の説明と手続き・実習実施 ／ 実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
6	実習⑤－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
7	実習⑤－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成／振り返り
8	実習⑥－1：実習テーマ(行動観察)の説明と手続き・実習実施 ／ 実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
9	実習⑥－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
10	実習⑥－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成／振り返り
11	実習⑦－1：実習テーマ(ミュラー・リエル錯視)の説明と手続き・実習実施 ／ 実習⑥レポート提出	実験・実習実施・データ収集
12	実習⑦－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
13	実習⑦－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成／振り返り
14	合同ゼミ1：キャリア講演会 ／ 実習⑦レポート提出	配布資料の復習・次回に向けた予習
15	合同ゼミ2：3年ゼミに向けた質問紙実習オリエンテーション	配布資料の復習・課題の調べ学習
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）(2009).　心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
②日本心理学会　認定心理士資格認定協会（編）(2015).　認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・実験、実習が主となる授業のため、遅刻や欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。
・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が必要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。
・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。
・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成等について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。自分一人で抱え込まないようにすることが大切。

評価

・平常点（演習への参加態度、各週に課される課題の提出状況）…40%
・レポート（実習④、⑤、⑥、⑦それぞれのレポート4本）…60%
※原則として、全課題において実験者・実験参加者の役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、問題と目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。
次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミ（心理学専門演習）での研究活動につなげること。その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、実験法・観察法などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学基礎演習Ｂ	後期	火２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山　篤史	２年	研究室　13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

基本的な心理学研究法を用いた７つの実習（自由再生、視覚的短期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら主体的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験法、観察法などの実証的研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験法、観察法などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション ／ ３・４年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
2	実習④－1：実習テーマ(視覚的短期記憶)の説明と手続き・実習実施	実験・実習実施・データ収集
3	実習④－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
4	実習④－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	本レポートの作成/振り返り
5	実習⑤－1：実習テーマ(行動観察)の説明と手続き・実習実施 ／ 実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
6	実習⑤－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
7	実習⑤－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	本レポートの作成/振り返り
8	実習⑥－1：実習テーマ(ミュラー・リエル錯視)の説明と手続き・実習実施 ／ 実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
9	実習⑥－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
10	実習⑥－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	本レポートの作成/振り返り
11	実習⑦－1：実習テーマ(パーソナルスペース)の説明と手続き・実習実施 ／ 実習⑥レポート提出	実験・実習実施・データ収集
12	実習⑦－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
13	実習⑦－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	本レポートの作成/振り返り
14	合同ゼミ1：キャリア講演会 ／ 実習⑦レポート提出	配布資料の復習・次回に向けた予習
15	合同ゼミ2：3年ゼミに向けた質問紙実習オリエンテーション	配布資料の復習・課題の調べ学習
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
②日本心理学会　認定心理士資格認定協会（編）（2015）.認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。
・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。
・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。
・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

評価

・平常点（出席状況、演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40%
・レポート（実習④、⑤、⑥、⑦それぞれのレポート4本）…60%
※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。
次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミでの研究活動につなげること。
その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性　　心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための、
実験・観察・調査などの実証的研究法を学ぶ専門科目である。　　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 心理学基礎演習Ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火２	2
担当者 野村　れいか	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	研究室：9号館618　r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

基本的な心理学研究法を用いた７つの実習（自由再生、視覚的短～期記憶、触二点閾、行動観察、訓練の転移、ミュラー・リエル錯視、パーソナルスペース）を体験し、心理学のものの見方、考え方、研究法を理解する。各テーマを実験者・参加者の立場で実習し、心理学基礎演習実習報告書（以降、レポートと呼ぶ）を毎回作成する。実習を通して、実証科学の研究法の基礎を身につけてもらう。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実験を中心とした実証的な研究法の基礎を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないココロを心理学的研究法によって科学的に調べることで、データに基づいた客観的な理解ができることを実体験します。自ら自主的・積極的に学ぶ態度と、教員、SA、ゼミ仲間との協働が不可欠です。仲間と共に実験実習に打ち込むことで基礎的な研究力と態度を身につけましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる。
②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる。
③実験、調査、観察などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、実験的技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につけることができる。
④現代社会における諸問題について、心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	全体オリエンテーション/３・４年ゼミ合同説明会	実施要項の理解/3・4年ゼミの理解
2	実習④－1：実習テーマ（行動観察）テーマ説明と手続き・実習実施	実験・実習実施・データ収集
3	実習④－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
4	実習④－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成/振り返り
5	実習⑤－1：実習テーマ(錯視実験)の説明と手続き・実習実施 ／ 実習④レポート提出	実験・実習実施・データ収集
6	実習⑤－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
7	実習⑤－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成/振り返り
8	実習⑥－1：実習テーマ(パーソナルスペース)の説明と手続き・実習実施 ／ 実習⑤レポート提出	実験・実習実施・データ収集
9	実習⑥－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
10	実習⑥－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成/振り返り
11	実習⑦－1：実習テーマ(訓練の転移)の説明と手続き・実習実施 ／ 実習⑥レポート提出	実験・実習実施・データ収集
12	実習⑦－2：データ集計・結果の解釈とまとめ	データの整理・結果の読み取り
13	実習⑦－3：レポートの書き方と考察：解説・演習	最終レポートの作成/振り返り
14	合同ゼミ1：キャリア講演会 ／ 実習⑦レポート提出	配布資料の復習・次回に向けた予習
15	合同ゼミ2：3年ゼミに向けた質問紙実習オリエンテーション	配布資料の復習・課題の調べ学習
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～④の参考図書を常に参照すること。
①宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
②日本心理学会　認定心理士資格認定協会（編）（2015）.認定心理士資格準拠　実験・実習で学ぶ心理学の基礎　金子書房
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・実験、実習が主となる授業のため遅刻、欠席のないよう体調・時間の管理に十分注意をすること。
・この授業では、授業時間と同様に授業時間外での実験・実習活動（実験実習実施、データ収集・分析、レポート作成など）が重要になる。授業外で十分な学習時間を確保し、課題への取り組みと予・復習に努めること。
・疑問や不明な点などがあれば、実施要項、配布資料等をよく読んだ上で、ゼミ教員もしくは担当教員によく相談し、確認すること。
・各実習ではSA（ステューデント・アシスタント）の支援が受けられる。実験の方法、パソコンの使い方、レポート作成について、具体的なアドバイスやコツを教えてもらえる。困ったこと、分からないことは積極的に質問するとよい。

評価

・平常点（演習参加の態度、各週に課される課題の提出状況）…40％
・レポート（実習④、⑤、⑥、⑦それぞれのレポート4本）…60％
※原則として、全課題において実験者・実験参加者としての役割を担い、指定期限内に各実習のレポートを提出することが単位取得の前提条件となる。各実習で作成するレポートは、目的、方法、結果、考察、引用文献を含み、科学論文の要件を満たすものであること。各実習担当教員の指示に従って適切な文書を作成すること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ・Ⅱを履修するとよい。
次へのステージ：心理学基礎演習A・Bで学んだことを、3年次以降のゼミでの研究活動につなげること。
その他の心理の専門科目の内容と結びつけながら履修を進めていくとよい。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力(論理的思考力、問題解決能力、表現力)を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名	期 別	曜日・時限	単 位
心理学研究法Ⅰ	前期	火４	2
担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
前堂　志乃	２年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講では、心理学の分野において実証的研究を実施する方法についての基礎的知識と技術を理解することを目的とする。具体的には、心理学の代表的な研究法の概要と具体的な技法について理解していく。まず、基本的な研究の展開の仕方、研究論文の様式、研究倫理について理解する。次に、前・後期を通し実験、観察、面接、検査、調査の各研究法に関する知識と技術とその特徴を理解する。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実証的研究法の基礎的な知識と技術を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないこころだからこそ心理学的研究法に従い収集したデータに基づいて初めて、ひとのこころを客観的に科学的に理解できることを知ってほしい。研究法は理解に時間がかかる科目ですが、心理の心強い味方（道具）です。自主的・積極的・実践的に学び、心理学研究力と態度を身につけよう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる
②実験、観察、調査、などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる
③実験、観察、面接、検査、調査などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、心理学的研究の技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける
④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	シラバスなどの理解/次回の予習
2	心理学研究法とは	今回の復習/次回の予習
3	研究の流れ：研究の展開－研究計画から発表・論文執筆まで・研究倫理	今回の復習/次回の予習
4	実験法①実験法の概説・特徴	今回の復習/次回の予習
5	実験法②実験における変数の理解と扱い方	今回の復習/次回の予習
6	実験法③実験計画の策定・実験の準備	今回の復習/次回の予習
7	実験法④実験結果の整理とまとめ方	今回の復習/次回の予習
8	実験法⑤実験研究と統計解析・実験法の留意点と倫理的配慮	今回の復習/次回の予習
9	観察法①観察法の概説・特徴	今回の復習/次回の予習
10	観察法②観察計画の策定・観察実習の準備	今回の復習/次回の予習
11	観察法③観察実習	今回の復習/次回の予習
12	観察法④観察結果の整理とまとめ・観察法の留意点と倫理的配慮	今回の復習/次回の予習
13	検査法①検査法の概説・特徴	今回の復習/次回の予習
14	検査法②各種検査の体験・検査結果のまとめ方	今回の復習/次回の予習
15	検査法③検査法の活用・留意点と倫理的配慮	今回の復習/全体の復習/期末課題
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～⑤の参考図書を常に参照すること。
①高野陽太郎・岡隆（編）（2010）．心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし―　有斐閣アルマ　有斐閣
②南風原朝和　他（編）（2006）．心理学研究法入門―調査・実験から実践まで―　東京大学出版会
③宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
④心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
⑤心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・心理学の専門的な参考文献（テキスト、配布資料や参考図書）を読んで理解するには、2度読み（下読み、分析読み）をすることと、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。
・予習・復習において、テキストの2度読みとワークシートのまとめを課します。予・復習の内容をもとに授業内でのワーク（課題について考える）を行います。自発的に、積極的に取り組むことが理解を深めます。
・心理学研究法は実践しながら学ぶことが重要です。授業内外での課題やワークに取り組みながら、研究法で学んだことと、心理学基礎演習Aでの実験・実習を結びつけて、実際にやってみて学ぶようにしてください。
・他学科、他専攻学生の受講に際しては、必ず初回の授業で担当教員に相談をしてください。

評価

平常点（授業内ワークへの参加態度、予・復習ワークシートの内容と提出状況）…50%
期末課題（ポートフォリオとレポート課題の内容）…50%

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習Aを履修すること。
次のステージ：引き続き、心理学基礎演習B、心理学研究法Ⅱを履修する。心理学研究法Ⅰで学んだことを、心理学基礎演習B、心理学専門演習ⅠA・B、心理学専門演習ⅡA・Bにおける学習と卒業論文研究に繋げてほしい。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力(論理的思考力、問題解決能力、表現力)を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名	期 別	曜日・時限	単 位
心理学研究法Ⅱ	後期	火４	2
担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
前堂　志乃	２年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講では、心理学の分野において実証的研究を実施する方法についての基礎的知識と技術を理解することを目的とする。具体的には、心理学の代表的な研究法の概要と具体的な技法について理解していく。前期の心理学研究法Ⅰの学びに続き、実験、観察、面接、検査、調査の各研究法に関する知識と技術とその特徴を理解する。さらに、各研究法の特徴を踏まえた研究立案の視点を身につける。

メッセージ

心理学の専門科目の中でも実証的研究法の基礎的な知識と技術を学ぶ心理学らしい科目です。目には見えないこころだからこそ心理学的研究法に従い収集したデータに基づいて初めて、ひとのこころを客観的に科学的に理解できることを知ってほしい。研究法は理解に時間がかかる科目ですが、心理の心強い味方（道具）です。自主的・積極的・実践的に学び、心理学研究力と態度を身につけよう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する現象を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる
②実験、観察、調査、などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力の基礎を身につけることができる
③実験、観察、面接、検査、調査などの実証的研究のデータ収集・分析・考察の仕方、科学的論文の様式に従った報告書の書き方を学び、心理学的研究の技法・実証的手法の体系的で具体的な知識を身につける
④現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察していくための基礎的な研究力と態度を身につけることができる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション・心理学研究法の基礎知識の再確認	シラバスなどの理解/次回の予習
2	文献研究①文献（研究論文）の検索・研究論文の構造	今回の復習/次回の予習
3	文献研究②研究論文の読み取り方・文献カード、文献レビューの書き方	今回の復習/次回の予習
4	研究法とデータ分析①量的研究（実験法）のデータ分析の特徴	今回の復習/次回の予習
5	研究法とデータ分析①量的研究（質問紙法）のデータ分析の特徴	今回の復習/次回の予習
6	研究法とデータ分析①質的研究（観察法・面接法）のデータ分析の特徴	今回の復習/次回の予習
7	面接法（調査的面接）①面接法の概要と特徴	今回の復習/次回の予習
8	面接法（調査的面接）②面接計画の策定・面接の準備	今回の復習/次回の予習
9	面接法（調査的面接）③面接実習	今回の復習/次回の予習
10	面接法（調査的面接）④面接結果の整理とまとめ方・面接法の留意点と倫理的配慮	今回の復習/次回の予習
11	調査法（質問紙法）①質問紙法の概要と特徴	今回の復習/次回の予習
12	調査法（質問紙法）②質問紙計画の策定・質問項目の検討	今回の復習/次回の予習
13	調査法（質問紙法）③質問紙案の作成・質問紙実査の準備	今回の復習/次回の予習
14	調査法（質問紙法）④質問紙の結果の整理とまとめ方	今回の復習/次回の予習
15	調査法（質問紙法）⑤質問紙法の留意点と倫理的配慮	今回の復習/全体の復習/期末課題
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。以下の①～⑤の参考図書を常に参照すること。
①高野陽太郎・岡隆（編）（2010）．心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし―有斐閣アルマ　有斐閣
②南風原朝和　他（編）（2006）．心理学研究法入門―調査・実験から実践まで―　東京大学出版会
③宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
④心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
⑤心理学マニュアルシリーズ（研究法レッスン、要因計画法、観察法、質問紙法）　北大路書房

学びの手立て

・心理学の専門的な参考文献（テキスト、配布資料や参考図書）を読んで理解するには、2度読み（下読み、分析読み）をすることと、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。
・予習・復習において、テキストの2度読みとワークシートのまとめを課します。予・復習の内容をもとに授業内でのワーク（課題について考える）を行います。自発的に、積極的に取り組むことが理解を深めます。
・心理学研究法は実践しながら学ぶことが重要です。授業内外での課題やワークに取り組みながら、研究法で学んだことと、心理学基礎演習Bでの実験・実習を結びつけて、実際にやってみて学ぶようにしてください。
・他学科、他専攻学生の受講に際しては、必ず初回の授業で担当教員に相談をしてください。

評価

平常点（授業内ワークへの参加態度、予・復習ワークシートの内容と提出状況）…50%
期末課題（ポートフォリオとレポート課題の内容）…50%

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理統計学基礎、心理学基礎演習Bを履修すること。
次のステージ：引き続き、心理統計学Ⅰ・Ⅱおよび各心理専門科目を履修する。心理学研究法Ⅰ・Ⅱで学んだことを、心理学専門演習ⅠA・B、心理学専門演習ⅡA・Bにおける学習と卒業論文研究に繋げてほしい。社会や日常の諸問題を心理学研究法の視点を通して理解し考える態度を実践してほしい。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 心理学専門演習ＩＡ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月２	2
担当者 野村　れいか	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室9号館618　r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

専門演習ＩＡの目的は卒業研究に向けての基礎作りを行うことです。卒業研究を念頭に、所定のテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論の習得を目指します。具体的には、グループ単位での質問紙実習を通して、一連の研究法（文献研究、研究計画策定、実査、データ解析、考察、発表資料のまとめ）を体験的に学んでいきます。実践的な卒論作成基礎力を身につけるのが目標です。

メッセージ

2年次までに積み上げてきた心理学の専門的学びをふまえ、卒業研究へとつなげる研究基礎力を身につけていきましょう。日常生活の中での何げない疑問や不思議に思うことを、心理学の研究法を用いて実証的に明らかにすることを目指しましょう。ゼミ仲間や教員と共に、真剣に研究活動に取り組むことを通して、4年次の卒業研究へとつなげていきましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。
②心理学の実証的研究法（特に、質問紙調査法）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。
③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ゼミメンバーの顔合わせ ／ 質問紙法による量的調査研究の留意点	授業計画の理解・次回に向けた予習
2	対人交流グループ・ワーク（個別ゼミ）	授業内容の振り返り・レポート課題
3	人を対象とする研究の倫理について ／ グループ研究のテーマの検討・話し合い	授業内容の復習・研究計画の検討
4	研究計画書案の検討(1)	研究計画書（案）の検討・作成
5	研究計画書案の検討(2) ／ 質問紙の構成案の検討	研究計画書・質問紙(案)の再検討
6	質問紙の改訂版の検討	質問紙の検討・作成
7	質問紙の完成版の作成 ／ 実査に向けた準備・確認	質問紙完成版の作成、実査準備
8	データ収集（実査）と回収票のチェック ／ データ集計およびデータ分析計画の立案	データ収集（実査）・データ整理
9	データ分析の演習 ／ 結果の読み取り方と図表へのまとめ方の実習	データ分析・図表作成
10	データの図表のチェック・修正・最終版の作成	データの図表の改訂・最終版作成
11	レポート作成のポイント解説 ／ レポートのアウトラインの作成	個人レポートの草稿執筆
12	発表会用ポスターの作成	発表会用ポスターの作成
13	質問紙法実習ポスター発表会の予行演習	発表会用ポスターの修正・発表練習
14	質問紙法実習ポスター発表会	ポスター発表会の振り返り・まとめ
15	質問紙法実習ポスター発表会の振り返り ／ 個人レポート作成・提出に向けての諸注意	個人レポート(最終版)の作成
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。
・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。
　松井 豊　2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社
　白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
　都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ　有斐閣アルマ
　山田剛史・林創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門　ミネルヴァ書房

学びの手立て

①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。
②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。
③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要です。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。
④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、教員や院生に尋ねること。

評価

・活動への関与度(40%)、研究活動への貢献度(60%)により評価します。関与度は、文献調査、質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価します。
・研究活動への貢献度は、研究デザインの発表、研究計画書の内容、研究活動の成果等によって評価します。
・授業内で頻繁に意見表明を求める機会があります。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると評価が低くなります。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象です。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修することで、学習内容の定着を図ることが大切です。
次のステージとして、心理学専門演習ＩBの履修につなげて、卒業研究へと展開しましょう。

※ポリシーとの関連性　本専攻のカリキュラム・ポリシー「心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための実証的研究法を学ぶ」専門演習。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学専門演習ＩＡ	前期	月２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村　弘子	３年	5号館424-2研究室（098-893-3710） h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

この演習では、心理学の代表的な研究法の一つである「質問紙調査法」を学ぶ。質問紙調査法の特徴を理解し、実際にデータを収集・分析し、研究内容をまとめ、ポスター発表を行う。

メッセージ

心理学研究法の理論や技法を学ぶ上で、中核をなす科目である。質問冊子の作成、データ収集と分析、レポート及びポスター作成と発表まで、しっかりと学んでほしい。

到達目標

心理学における質問紙調査法の基礎的理論を修得する。
質問紙調査法の技法・実証的手法の体系的な知識を身につける。
心理学研究発表の仕方を学ぶ。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	（合同ゼミ）質問紙調査法概論（質問紙調査票の作成上の留意点・測定の信頼性と妥当性）	配布資料の復習
2	（個別ゼミ）実習の心得、グループ編成	研究計画書作成準備
3	（合同ゼミ）研究計画書の作成に向けて、人を対象とする研究倫理について	研究計画書案の作成
4	（個別ゼミ）研究計画書（案）の検討	研究計画書の修正
5	（個別ゼミ）質問紙の構成（案）の検討、質問冊子の試作	質問項目の検討、質問冊子作成
6	（個別ゼミ）質問冊子改訂版の作成、調査依頼の方法、調査実施の留意点	質問冊子最終版の作成
7	（個別ゼミ）質問冊子完成版の最終確認、実施方法の検討	データ収集
8	（個別ゼミ）回収票のチェック、有効票のナンバリング、分析方法の立案	データ入力
9	（個別ゼミ）データ分析（SPSS）のデモンストレーション、データ分析の説明	データ分析
10	（個別ゼミ）データの図表作成	考察
11	（個別ゼミ）問題と目的、結果と考察の書き方、研究プレゼンの構想	研究プレゼン準備
12	（個別ゼミ）発表会用ポスター作成方針確認、ポスター作成の方法	ポスター作成
13	（個別ゼミ）ポスター発表会の予行演習	発表準備
14	（合同ゼミ）ポスター発表会	コメントのまとめ
15	（個別ゼミ）ポスター発表会の振り返り	レポート作成
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

鎌原雅彦・大野木裕明・宮下一博・中澤潤（1998）「心理学マニュアル　質問紙法」北大路書房
小塩真司・西口利文（2007）「質問紙調査の手順」ナカニシヤ出版
宮本聡介・宇井美代子（2014）「質問紙調査と心理測定尺度」サイエンス社

学びの手立て

自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けること。
他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。

評価

授業への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

後期科目「心理学専門演習ＩB」を続けて履修し、卒業論文に向けた研究構想を明確にしてゆく。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　[　　／演習]

科目基本情報			
科目名 心理学専門演習ＩＡ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月２	2
担当者 前堂　志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室：5-431 e-mail：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

専門演習ＩＡの目的は卒業研究に向けての基礎作りを行うことです。卒業研究を念頭に、所定のテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論の習得を目指します。具体的には、グループ単位での質問紙実習を通して、一連の研究法（文献研究、研究計画策定、実査、データ解析、考察、発表資料のまとめ）を体験的に学んでいきます。実践的な卒論作成基礎力を身につけるのが目標です。

メッセージ

2年次までに積み上げてきた心理学の専門的学びをふまえ、卒業研究へとつなげる研究基礎力を身につけていきましょう。日常生活の中での何げない疑問や不思議に思うことを、心理学の研究法を用いて実証的に明らかにすることを目指しましょう。ゼミ仲間や教員と共に、真剣に研究活動に取り組むことを通して、4年次の卒業研究へとつなげていきましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。
②心理学の実証的研究法（特に、質問紙調査法）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。
③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ゼミメンバーの顔合わせ ／ 質問紙法による量的調査研究の留意点	授業計画の理解/次回に向けた予習
2	対人交流グループ・ワーク（個別ゼミ）	授業の振り返り・レポート課題
3	人を対象とする研究の倫理について ／ グループ研究のテーマの検討・話し合い	授業内容の復習・研究計画の検討
4	研究計画書案の検討(1)	研究計画書案の検討作成
5	研究計画書案の検討(2) ／ 質問紙の構成案の検討	研究計画書・質問紙(案)の再検討
6	質問紙の改訂版の検討	質問紙の検討・作成
7	質問紙の完成版の作成 ／ 実査に向けた準備・確認	質問紙完成版の作成、実査準備
8	データ収集（実査）と回収票のチェック ／ データ集計およびデータ分析計画の立案	データ収集（実査）・データ整理
9	データ分析の演習 ／ 結果の読み取り方と図表へのまとめ方の実習	データ分析・図表作成
10	データの図表のチェック・修正・最終版の作成	データの図表の改訂・最終版作成
11	レポート作成のポイント解説 ／ レポートのアウトラインの作成	個人レポートの草稿執筆
12	発表会用ポスターの作成	発表会用ポスターの作成
13	質問紙法実習ポスター発表会の予行演習	発表会用ポスターの修正・発表練習
14	質問紙法実習ポスター発表会	ポスター発表会の振り返り・まとめ
15	質問紙法実習ポスター発表会の振り返り ／ 個人レポート作成・提出に向けての諸注意	個人レポート(最終版)の作成
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。
・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。
　松井 豊　2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社
　白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
　都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ　有斐閣アルマ
　山田剛史・林創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門　ミネルヴァ書房

学びの手立て

①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。
②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。
③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要です。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。
④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、教員や院生に尋ねること。

評価

・活動への関与度(40%)、研究活動への貢献度(60%)により評価します。関与度は、文献調査、質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価します。
・研究活動への貢献度は、研究デザインの発表、研究計画書の内容、研究活動の成果等によって評価します。
・授業内で頻繁に意見表明を求める機会があります。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると評価が低くなります。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象です。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修することで、学習内容の定着を図ることが大切です。
次のステージとして、心理学専門演習ＩBの履修につなげて、卒業研究へと展開しましょう。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 心理学専門演習ＩＡ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月２	2
担当者 平山　篤史	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室　13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

専門演習ＩＡの目的は卒業研究に向けての基礎作りを行うことです。卒業研究を念頭に、所定のテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論の習得を目指します。具体的には、グループ単位での質問紙実習を通して、一連の研究法（文献研究、研究計画策定、実査、データ解析、考察、発表資料のまとめ）を体験的に学んでいきます。実践的な卒論作成基礎力を身につけるのが目標です。

メッセージ

2年次までに積み上げてきた心理学の専門的学びをふまえ、卒業研究へとつなげる研究基礎力を身につけていきましょう。日常生活の中での何げない疑問や不思議に思うことを、心理学の研究法を用いて実証的に明らかにすることを目指しましょう。ゼミ仲間や教員と共に、真剣に研究活動に取り組むことを通して、4年次の卒業研究へとつなげていきましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。
②心理学の実証的研究法（特に、質問紙調査法）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。
③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ゼミメンバーの顔合わせ ／ 質問紙法による量的調査研究の留意点	授業計画の理解・予習
2	対人交流グループ・ワーク（個別ゼミ）	授業内容振り返り・レポート課題
3	人を対象とする研究の倫理について ／ グループ研究のテーマの検討・話し合い	授業内容の復習・研究計画の検討
4	研究計画書案の検討(1)	研究計画書（案）の検討・作成
5	研究計画書案の検討(2) ／ 質問紙の構成案の検討	研究計画書・質問紙(案)の再検討
6	質問紙の改訂版の検討	質問紙の検討・作成
7	質問紙の完成版の作成 ／ 実査に向けた準備・確認	質問紙完成版の作成、実査準備
8	データ収集（実査）と回収票のチェック ／ データ集計およびデータ分析計画の立案	データ収集（実査）・データ整理
9	データ分析の演習 ／ 結果の読み取り方と図表へのまとめ方の実習	データ分析・図表作成
10	データの図表のチェック・修正・最終版の作成	データの図表の改訂・最終版作成
11	レポート作成のポイント解説 ／ レポートのアウトラインの作成	個人レポートの草稿執筆
12	発表会用ポスターの作成	発表会用ポスターの作成
13	質問紙法実習ポスター発表会の予行演習	発表会用ポスター修正・発表練習
14	質問紙法実習ポスター発表会	ポスター発表会振り返り・まとめ
15	質問紙法実習ポスター発表会の振り返り ／ 個人レポート作成・提出に向けての諸注意	個人レポート(最終版)の作成
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。
・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。
　松井 豊　2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社
　白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
　都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ　有斐閣アルマ
　山田剛史・林創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門　ミネルヴァ書房

学びの手立て

①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。
②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。
③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要です。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。
④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、教員や院生に尋ねること。

評価

・活動への関与度(40%)、研究活動への貢献度(60%)により評価します。関与度は、文献調査、質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価します。
・研究活動への貢献度は、研究デザインの発表、研究計画書の内容、研究活動の成果等によって評価します。
・授業内で頻繁に意見表明を求める機会があります。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると評価が低くなります。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象です。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修することで、学習内容の定着を図ることが大切です。
次のステージとして、心理学専門演習ＩBの履修につなげて、卒業研究へと展開しましょう。

※ポリシーとの関連性　現代社会における諸問題に関心を持ち、課題解決に役立つ臨床心理学的の実践的な知識を学ぶ専門科目である。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 心理学専門演習ＩＡ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月２	2
担当者 上田　幸彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	上田幸彦まで	

学びの準備

ねらい

専門演習ＩAの目的は卒業研究にむけての基礎作りを行うことである。卒業研究を念頭に、所定のテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論の習得を目指す。具体的にはグループ単位での質問紙実習を通して、一連の研究法（文献検索、研究計画策定、実査、データ解析、考察、発表資料のまとめ）を体験的に学んでいく。

メッセージ

日常生活の中で何げない疑問や不思議に思うことを、心理学の研究法を用いて実証的に明らかにすることを目指しましょう。ゼミ仲間や教員と共に、真剣に研究活動に取り組むことを通して、４年次の卒業研究へとつなげていきましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。
②心理学の実証的研究法（特に質問紙調査法）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）研究基礎力を身につけることができる。
③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ゼミメンバーの顔合わせ　質問紙法による量的研究の留意点	授業計画の理解・次回に向けた予習
2	対人交流グループワーク	授業内容の振り返り・レポート課題
3	人を対象とする研究の倫理　グループ研究のテーマ検討・話し合い	従業内容の復習・研究計画の検討
4	研究計画書案の検討（１）	研究計画書（案）の検討・作成
5	研究計画書案の検討（２）　質問紙の構成案検討	研究計画書・質問紙（案）の再検討
6	質問紙の改訂版の検討	質問紙の検討・作成
7	質問紙の完成版の作成　実施に向けた準備・確認	質問紙完成版の作成、実査準備
8	データ収集（実査）と回収票のチェック　データ集計および分析計画の立案	データ収集（実査）・データ整理
9	データ分析の演習　結果の読み取り図表へのまとめ方の実習	データ分析・図表作成
10	データの図表のチェック・修正・最終版の作成	データの図表の改訂・最終版作成
11	レポート作成のポイント解説　レポートのアウトラインの作成	個人レポートの草稿執筆
12	発表会用ポスターの作成	発表会用ポスターの作成
13	質問紙法実習ポスター発表会の予行演習	発表会用ポスターの修正・発表練習
14	質問紙法実習ポスター発表会	ポスター発表会の振り返り・まとめ
15	質問紙法実習ポスター発表会の振り返り　個人レポート作成・提出に向けての諸注意	個人レポート（最終版）の作成
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。
卒業研究を進めるにあたり、以下の書籍を推薦する。
松井　豊　2010　改訂新版：心理学論文の書き方 - 卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社
白井利明・高橋一郎　2008　よくわかる卒論の書き方　ミネルヴァ書房
都筑学　2006　心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ　有斐閣アルマ
山田剛史・林創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門　ミネルヴァ書房

学びの手立て

①ゼミ活動は学生が自ら動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。
②発表担当が割り当てられた回は責任をもって資料作成・配布・プレゼンを行うこと。
③グループ研究は全員の協力が必要。お互いにしっかり連絡を取って協働すること。
④研究活動で生じた疑問や質問などは、まず自分たちで調べ、考え、その上でどうしても分からない場合は、教員や院生に尋ねること。

評価

活動への関与度（40%）、研究活動への貢献度（60%）により評価する。
関与度は、文献調査、質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント討議への参加度などのより評価する。
貢献度は、研究デザインの発表、研究計画書の内容、研究活動の成果などにより評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理学基礎演習A,B 心理学研究法Ｉ，Ⅱ　心理統計学基礎、心理統計学Ｉ、Ⅱ

次のステージ心理学専門演習ＩB 卒業研究

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　［　　／演習］

科目基本情報			
科目名 心理学専門演習ＩＡ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月２	2
担当者 泊　真児	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

専門演習ＩＡの目的は卒業研究に向けての基礎作りを行うことです。卒業研究を念頭に、所定のテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論の習得を目指します。具体的には、グループ単位での質問紙実習を通して、一連の研究法（文献研究、研究計画策定、実査、データ解析、考察、発表資料のまとめ）を体験的に学んでいきます。実践的な卒論作成基礎力を身につけるのが目標です。

メッセージ

2年次までに積み上げてきた心理学の専門的学びをふまえ、卒業研究へとつなげる研究基礎力を身につけていきましょう。日常生活の中での何げない疑問や不思議に思うことを、心理学の研究法を用いて実証的に明らかにすることを目指しましょう。ゼミ仲間や教員と共に、真剣に研究活動に取り組むことを通して、4年次の卒業研究へとつなげていきましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。
②心理学の実証的研究法（特に、質問紙調査法）を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。
③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ゼミメンバーの顔合わせ ／ 質問紙法による量的調査研究の留意点	授業計画の理解・次回に向けた予習
2	対人交流グループ・ワーク（個別ゼミ）	授業内容の振り返り・レポート課題
3	人を対象とする研究の倫理について ／ グループ研究のテーマの検討・話し合い	授業内容の復習・研究計画の検討
4	研究計画書案の検討(1)	研究計画書（案）の検討・作成
5	研究計画書案の検討(2) ／ 質問紙の構成案の検討	研究計画書・質問紙(案)の再検討
6	質問紙の改訂版の検討	質問紙の検討・作成
7	質問紙の完成版の作成 ／ 実査に向けた準備・確認	質問紙完成版の作成、実査準備
8	データ収集（実査）と回収票のチェック ／ データ集計およびデータ分析計画の立案	データ収集（実査）・データ整理
9	データ分析の演習 ／ 結果の読み取り方と図表へのまとめ方の実習	データ分析・図表作成
10	データの図表のチェック・修正・最終版の作成	データの図表の改訂・最終版作成
11	レポート作成のポイント解説 ／ レポートのアウトラインの作成	個人レポートの草稿執筆
12	発表会用ポスターの作成	発表会用ポスターの作成
13	質問紙法実習ポスター発表会の予行演習	発表会用ポスターの修正・発表練習
14	質問紙法実習ポスター発表会	ポスター発表会の振り返り・まとめ
15	質問紙法実習ポスター発表会の振り返り ／ 個人レポート作成・提出に向けての諸注意	個人レポート(最終版)の作成
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。
・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。
　松井 豊　2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社
　白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
　都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ　有斐閣アルマ
　山田剛史・林創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門　ミネルヴァ書房

学びの手立て

①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。
②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。
③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要である。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。
④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、教員や院生に尋ねること。

評価

・活動への関与度(40%)、研究活動への貢献度(60%)により評価します。関与度は、文献調査、質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価します。
・研究活動への貢献度は、研究デザインの発表、研究計画書の内容、研究活動の成果等によって評価します。
・授業内で頻繁に意見表明を求める機会があります。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると評価が低くなります。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象です。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修することで、学習内容の定着を図ることが大切です。
次のステージとして、心理学専門演習ＩBの履修につなげて、卒業研究へと展開しましょう。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　[　　／演習]

科目基本情報			
科目名 心理学専門演習ＩＢ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月２	2
担当者 泊　真児	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

ＩＢは、前期に取り組んだ質問紙実習の学びをふまえ、卒業研究に応用・展開させる段階と位置づけられる。ゼミ活動を通して、4年次の卒論作成にスムーズに移行できるようにすることがねらいである。各自の卒論テーマに関わる文献や研究計画の発表・討議を行いながら、卒業研究テーマを絞り込んでいくことを目指す。

メッセージ

これまでに積み上げてきた心理学の専門的学びをふまえ、卒業研究へとつなげる研究基礎力を身につけていきましょう。日常生活の中での何げない疑問や不思議に思うことを、心理学の研究法を用いて実証的に明らかにすることを目指しましょう。卒業研究のテーマについて、ゼミ仲間や教員と共に真剣に取り組むことによって、4年次の学びの集大成へと展開しましょう。

到達目標

①現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。
②心理学の実証的研究法（実験、調査、観察など）を用いて、心理学的現象を論理的に考え、説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。
③人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて表現し、科学的方法論を用いた研究計画書にまとめ、これを分かりやすく人に説明することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	夏休みチャレンジ課題に関する個人発表	今回の振り返りと次回資料の作成
2	卒論完成までのスケジュールと具体的な作業ステップの確認	個別の卒論スケジュールの見直し
3	卒論に関わる学術論文の個人発表・質疑応答(1)	文献収集・精読、発表資料作成
4	卒論に関わる学術論文の個人発表・質疑応答(2)	文献収集・精読、発表資料作成
5	卒論に関わる学術論文の個人発表・質疑応答(3)	文献収集・精読、発表資料作成
6	卒論に関わる学術論文の個人発表・質疑応答(4)	文献収集・精読、発表資料作成
7	卒論に関わる学術論文の個人発表・質疑応答(5)	文献収集・精読、発表資料作成
8	卒論に関わる学術論文の個人発表・質疑応答(6)	文献収集・精読、発表資料作成
9	卒論に関わる学術論文の個人発表・質疑応答(7)	文献収集・精読、発表資料作成
10	卒論に関わる学術論文の個人発表・質疑応答(8)	文献収集・精読、発表資料作成
11	卒論に関わる学術論文の個人発表・質疑応答(9)	文献収集・精読、発表資料作成
12	卒論に関わる学術論文の個人発表・質疑応答(10)	文献収集・精読、発表資料作成
13	卒論に関わる学術論文の個人発表・質疑応答(11)	文献収集・精読、発表資料作成
14	卒論に関わる学術論文の個人発表・質疑応答(12)	文献収集・精読、発表資料作成
15	卒論プレデザイン発表・検討会に向けてのガイダンス	プレデザイン発表資料の作成・準備
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。
・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。
　松井 豊　2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社
　白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
　都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ　有斐閣アルマ
　山田剛史・林創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門　ミネルヴァ書房

学びの手立て

①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。
②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長、ゼミメンバーに連絡を入れること。
③研究を予定通りに進めていくためには、時間外の学習が必要である。自分の進路（受験勉強や就活など）も見据えたスケジュール管理をしながら、余裕を持った計画を立てること。
④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、院生や教員に尋ねること。

評価

・授業への関与度(50%)、研究活動の遂行度(50%)により評価します。関与度は、文献研究や発表の積極性、他の学生の発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価する。
・研究活動の遂行度は、研究活動への取り組み（個人発表の実施状況、研究計画書の内容等）により評価する。
・授業内で頻繁に意見表明を求める機会がある。意見を表明しなかったり、消極的な態度を示したりすると、評価が低くなる。プレゼンやディスカッションにおいて「聴く」態度も評価の対象とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学専門演習ⅠAを履修し、学習内容について定着を図ることが大切です。
・次のステージとして、心理学専門演習ⅡAを履修し、これまでの学びを卒業研究として結実させましょう。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 心理学専門演習ＩＢ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月２	2
担当者 野村　れいか	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室：9号館618　r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

専門演習ＩBの目的は卒業研究に向けての基礎作りを行うことです。卒業研究を念頭に、所定のテーマで実証研究を行うための一連の科学的方法論の習得を目指します。一連の研究法（文献研究、研究計画策定、実査、データ解析、考察、発表資料のまとめ）を体験的に学んでいきます。実践的な卒論作成基礎力を身につけるのが目標です。

メッセージ

2年次までに積み上げてきた心理学の専門的学びをふまえ、卒業研究へとつなげる研究基礎力を身につけていきましょう。日常生活の中での何げない疑問や不思議に思うことを、心理学の研究法を用いて実証的に明らかにすることを目指しましょう。ゼミ仲間や教員と共に、真剣に研究活動に取り組むことを通して、4年次の卒業研究へとつなげていきましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて理解し、人に説明することができる。
②心理学の実証的研究法を用いて、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。
③現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究のテーマへと展開させることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ゼミ活動について	研究テーマに関する論文検索
2	論文輪読①発達心理学関連（乳幼児期）	文献収集・精読
3	論文輪読②発達心理学関連（児童期・青年期）	文献収集・精読
4	論文輪読③発達障害	文献収集・精読
5	論文輪読④心理支援	文献収集・精読
6	卒論に向けてテーマの検討・グループ決め	文献収集・精読・発表資料作成
7	卒論に関わる論文の紹介（個人またはグループ発表）①	文献収集・精読・発表資料作成
8	卒論に関わる論文の紹介（個人またはグループ発表）②	文献収集・精読・発表資料作成
9	卒論に関わる論文の紹介（個人またはグループ発表）③	文献収集・精読・発表資料作成
10	卒論に関わる論文の紹介（個人またはグループ発表）④	文献収集・精読・発表資料作成
11	卒論に関わる論文の紹介（個人またはグループ発表）⑤	文献収集・精読・発表資料作成
12	卒論に関わる論文の紹介（個人またはグループ発表）⑥	文献収集・精読・発表資料作成
13	卒論構想発表①	発表資料作成
14	卒論構想発表②	発表資料作成
15	卒論プレデザイン発表・検討会に向けてのガイダンス	発表資料作成
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。
・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。
　松井 豊　2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社
　白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
　都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ　有斐閣アルマ
　山田剛史・林創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門　ミネルヴァ書房

学びの手立て

①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。
②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長に連絡を入れること。
③グループ研究を予定通りに進めるには、全員の協力が必要です。体調やスケジュール管理をしながら、お互いにしっかりと連絡を取り合って協働すること。
④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、教員や院生に尋ねること。

評価

・活動への関与度(40%)、研究活動への貢献度(60%)により評価します。関与度は、文献調査、質問や発表の積極性、ゼミメンバーの発表に対する質問やコメント、討議への参加度などにより評価します。
・研究活動への貢献度は、研究デザインの発表、研究計画書の内容、研究活動の成果等によって評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理学基礎演習A・B、心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱを履修することで、学習内容の定着を図ることが大切です。
次のステージ：心理学専門演習ⅡAおよびB

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 心理学専門演習ＩＢ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月２	2
担当者 前堂　志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室：5-431 e-mail：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

心理学専門演習ＩＡでの質問紙実習を通じた心理学の一連の研究過程（文献研究、研究計画策定、実査、データ解析、考察、発表資料のまとめ：卒論作成基礎力）の学びにもとづき、卒業論文研究計画の立ち上げのために、自分の興味関心のある領域において文献検索・レビューを行い、研究テーマ・研究デザイン・計画の策定を行い、卒業論文プレ構想発表を行う。

メッセージ

今までの心理学の専門的学習内容をもとに卒業論文研究に取り組む準備をしよう。日頃の自分の疑問や関心を心理学的研究法で研究することを意識して、日常の体験、授業での学び、芸術・文化、社会の出来事など様々なことにアンテナを張り卒論研究のテーマを考えよう。研究の基本は自発的な取り組みとゼミ仲間、教員との協働です。仲間と共に研究活動に打ち込み研究力を伸ばそう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる
②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力を身につけることができる
③卒業論文研究に向けて、現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察するための基本的な研究力と態度を身につけることができる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション/夏休みの課題の報告	授業計画の理解/課題の振り返り
2	心理学の研究の流れと研究論文について／問題意識とリサーチクエスチョンについて	日常の問題意識の検討
3	文献検索と文献レビューについて	文献検索・文献の読み込み
4	卒業論文研究計画策定①文献の読み込みと文献レビュー発表-1	文献の読み込み・発表の振り返り
5	卒業論文研究計画策定②文献の読み込みと文献レビュー発表-2/研究グループの編成	文献の読み込み・発表の振り返り
6	卒業論文研究計画策定③研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の検討・プレ発表-1	研究計画書の検討・作成
7	卒業論文研究計画策定④研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の検討・プレ発表-2	研究計画書の検討・作成
8	卒業論文研究計画策定⑤研究テーマの設定、研究デザインと研究計画の検討・プレ発表-3	研究計画書の検討・作成
9	卒業論文研究計画策定⑥卒業論文研究デザイン・計画案発表-1（レジュメ形式）	研究計画書の完成・発表の振り返り
10	卒業論文研究計画策定⑦卒業論文研究デザイン・計画案発表-2（レジュメ形式）	研究計画書の完成・発表の振り返り
11	卒業論文研究計画策定⑧卒業論文研究デザイン・計画案発表-3（レジュメ形式）	研究計画書の完成・発表の振り返り
12	卒業論文プレ構想発表①（構想発表会形式）	構想発表会パワポ作成・振り返り
13	卒業論文プレ構想発表②（構想発表会形式）	構想発表会パワポ作成・振り返り
14	卒業論文プレ構想発表③（構想発表会形式）	構想発表会パワポ作成・振り返り
15	卒業論文プレ構想発表④（構想発表会形式）	構想発表会パワポ作成・振り返り
16	予備日	卒業論文プレ構想発表振り返り

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：松井 豊(2010). 改訂新版　心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社
参考図書（下記①～④を常に参照するとよい。その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する）
①高野陽太郎・岡隆(2004). 心理学研究法―こころを見つめる科学のまなざし　有斐閣アルマ　有斐閣
②都筑学(2008). 心理学論文の書き方―おいしい論文のレシピ　有斐閣アルマ　有斐閣
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④小塩真司(2011).SPSSとAmosによる心理・調査データ解析［第2版］　東京図書

学びの手立て

・ゼミは、毎時の発表（文献紹介、研究テーマ紹介、デザイン発表、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究活動に関する質疑応答・対話・個別指導・助言を組み合わせて進める。
・卒論研究のテーマおよび研究計画検討はゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な研究活動が重要になる。
・卒論を進めるにはゼミメンバーとの研究協働（積極的に意見交換・交流を持ち互いの意見や考え方を共有する、各メンバーが自分の役割や責任を果たし、自発的に協力し合って研究活動をする）が重要になる。
・卒論研究のテーマ検討に関する疑問や課題は、教員への相談、院生への質問や相談、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話を通して、自分の考えを整理し明確にしていくとよい。

評価

到達目標①と②：文献紹介、研究テーマ紹介、各自の卒論の構想発表（研究デザイン・研究計画書）などの内容（研究活動の成果）を評価する（70%）
到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、各自の研究活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理学研究法Ｉ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ｉ・Ⅱ、心理学基礎演習A・B、心理学専門演習ＩＡの履修と学習内容の復習。卒業論文研究の立ち上げには日頃の疑問・関心を問題意識へと高める必要があり、心理学を含む諸学問分野の知識や考え方を学ぶ。次のステージ：心理学専門演習ⅡA・Bを履修する。3年ゼミを通して身につけた心理学的視点と研究力の基本をもとに、卒業論文研究の構想を十分に検討しよう。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学専門演習ＩＢ	後期	月２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山　篤史	３年	研究室　13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

卒業論文のテーマを設定する。そのために先行研究の精読を行い、疑問点・問題点をあげる。研究テーマは以下のものとする。１、大学生の対人交流に関する研究　；２、大学生の適応・不適応（切り口として、対人不安、シャイネス、公的自己意識、回避行動、自己呈示、役割など）；５、グループアプローチに関する実践・基礎研究；４、動作法に関する実践・基礎研究

メッセージ

いよいよ卒業論文作成についての取り組みがスタートします。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。

到達目標

①心理学論文を読み、要約し、疑問点・問題点をあげることができる。
②自分の研究テーマについて、明確に理解し、先行研究の中に位置づけ、説明できる。
③自分の研究テーマについて、問題を解決するために具体的な方法論を考えることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

以下の内容で授業を展開する。
研究テーマによっては、4年次の卒論のデータ収集を手伝いながら、研究手法について学んでいく。

１、心理学研究を進めるための文献・資料の検索、収集
２、文献・論文の精読・要約報告とディスカッション
３、研究計画の作成途中経過の報告と検討
４、研究の実施とデータのまとめ途中経過の報告と検討
５、研究の発表
６、卒業論文計画の報告と検討
７、卒業論文調査・実験の実施とデータのまとめ途中経過の報告と検討
８、卒業論文結果・考察の報告と検討
９、卒業論文発表準備と練習

時間外学習の内容としては以下のような内容である。
グループまたは個人で発表日を割り振り、指定された日にゼミで報告、それを検討する。
１、グループでの話し合い
２、文献精読、文献要約
３、グループ研究の実施とデータまとめ
４、プレゼンテーションの準備
５、報告・発表資料の作成
６、文献集め

このクラス(平山ゼミ)では、卒論を進めていく目的で、4年次ゼミへの参加、春休み期間中の卒論構想発表会の予演での発表が求められる。また、キャリア形成の活動として、夏休みのチャレンジ課題、就職活動の勉強会への参加が求められる。

テキスト・参考文献・資料など

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版
松井豊　心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために―　河出書房新社
適宜紹介する。

学びの手立て

卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までには、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。
ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。

評価

出席状況、演習参加の態度、課題発表、レポート、卒業論文テーマの発表会でのプレゼンテーション内容などを総合的に判断し、評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

心理学専門演習ⅡＡおよびＢ
卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。

※ポリシーとの関連性　現代社会における諸問題に関心を持ち、課題解決に役立つ臨床心理学の実践的な知識を学ぶ専門科目である。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 心理学専門演習ＩＢ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月２	2
担当者 上田　幸彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	上田幸彦まで	

学びの準備

ねらい

卒論作成の前段階として、実際の臨床心理学論文を幅広く読み、理解できる力を身につける。同時に、これまで知らなかった幅広い対象者に心理学的支援が可能でありることを知ることで、各自の卒論構想の幅を広げることを狙いとする。

メッセージ

事前に論文をよく読み、積極的に質問、コメントをするように。

到達目標

現代社会にはどのような障害、難病があり、それに人間心理がどのように関連するのかを理解する。そこに臨床心理学がどのように寄与できるのかを学ぶ。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	論文①輪読　中途身体障害者へのアプローチ	輪読した論文の復習
2	論文①輪読	輪読した論文の復習
3	論文②輪読　高次脳機能障害	輪読した論文の復習
4	論文②輪読	輪読した論文の復習
5	論文②輪読	輪読した論文の復習
6	論文③輪読　糖尿病	輪読した論文の復習
7	論文③輪読	輪読した論文の復習
8	論文④輪読　偏見	輪読した論文の復習
9	論文④輪読	各自のテーマで論文をさがす
10	論文④輪読	自分のテーマの論文を読む
11	選択した論文紹介①	論文紹介の準備
12	選択した論文紹介②	論文紹介の準備
13	選択した論文紹介③	紹介された論文の復習
14	洗濯した論文紹介④	卒論構想を考える
15	卒論構想発表	卒論構想の再検討
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

参考文献：心理社会的リハビリテーションのキーワード
M.G.イーゼンバーグ編　野中　猛・池淵恵美監訳（1997）　岩崎学術出版社
「リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ」上田幸彦著（2011）　風間書房

学びの手立て

論文をしっかりと読みこなす力を高めることが重要である。まず一読し、さらに重要な箇所をマークし、分からない用語があれば自分で調べ、引用文献で興味を引くものがあれば、その文献を入手して読むなど、論文を読むことにしっかりとコミットすることが大切である。

評価

輪読時の積極性（質問・コメント）と選択論文のレポートによって評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

次のステージは心理学専門演習Ⅱ　関連科目としてストレスマネジメント、行動療法

※ポリシーとの関連性　本専攻のカリキュラム・ポリシー「心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための実証的研究法を学ぶ」専門演習。　[　　／演習]

科目基本情報				
	科目名 心理学専門演習ＩＢ	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	月２	2
	担当者 井村　弘子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		３年	5号館424-2研究室（098-893-3710） h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

これまでに学んだ研究方法を基に、各自の関心あるテーマについて先行研究を検索し、概要をレポートにまとめる。こうした一連の活動を通して、卒業論文のテーマを絞り込むことを最終目標としている。

メッセージ

心理学的視点でとらえた自分の興味・関心のある事象を、どのような心理学的手法で実証するかを、しっかりと考えてほしい。

到達目標

心理学的視点でとらえた事象の詳細を検証する心理学的な研究手法を学ぶ。
自分の興味・関心のある事象を、心理学的に検証する方法について学ぶ。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

前期で学んだことを基に、各自で関心のあるテーマを絞り、そのテーマについて予備的な実験、行動観察、調査等の手法を用いてデータを収集、整理して結果をレポートにまとめる。また、レポートを基に発表用の資料を作成し、口頭発表する。最後に、卒業論文のテーマを絞り込み、大まかな研究計画を立てる。

テキスト・参考文献・資料など

必要に応じて指定する。
各自のテーマに沿って紹介する。

学びの手立て

自ら学び、自分を成長させようという意欲を持ち続けること。
他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。

評価

演習への参加状況、課題に対する取り組みの態度および発表や提出されたレポートにより総合評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

前期開講の「心理学専門演習ＩA」に引き続いて履修する科目である。
次年度は「心理学専門演習ⅡA」・「心理学専門演習ⅡB]を履修する。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 心理学専門演習ⅡA		期 別	曜日・時限	単 位
		前期	月３	2
担当者 泊　真児		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		４年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

4年間の学習成果の集大成として、卒業研究を通して心理学的なものの見方や考え方、表現の仕方を身につけるのがねらいです。自らの興味や関心、問題意識を、心理学の専門分野の中に位置づけ、主に社会心理学的なアプローチにより研究を進めてもらいます。テーマ設定、先行研究のレビュー、研究計画の策定、データの収集と分析、考察、論文執筆と発表まで、一連のプロセスを学習します。

メッセージ

卒業研究は、学生自身が自発的に研究活動を進められるかどうかにかかっています。自分が頑張らなければ、少しも前には進みません。周囲の人の力を借りながらも、肝心な所は独力でやり抜く姿勢が強く求められます。その分だけ、卒論を完成させた暁には大きな達成感を得られるはずです。卒論を通して皆さんが成長し、将来のキャリア形成にも活かしてもらいたいと期待しています。

到達目標

①現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけることができる。
②心理学の実証的研究法（実験、調査、観察など）を用いて、心理学的現象を論理的に考え、説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。
③人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて表現し、科学的方法論を用いた実証的な研究計画書としてまとめ、これを分かりやすく人に説明することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	１週目：オリエンテーション	授業計画・卒論スケジュールの確認
2	２週目：卒業論文の研究デザインに関する個人発表(1)	文献収集・精読、研究計画書作成
3	３週目：卒業論文の研究デザインに関する個人発表(2)	文献収集・精読、研究計画書作成
4	４週目：卒業論文の研究デザインに関する個人発表(3)	文献収集・精読、研究計画書作成
5	５週目：卒業論文の研究デザインに関する個人発表(4)	文献収集・精読、研究計画書作成
6	６週目：卒業論文の研究デザインに関する個人発表(5)	文献収集・精読、研究計画書作成
7	７週目：卒業論文の研究デザインに関する個人発表(6)	文献収集・精読、研究計画書作成
8	８週目：卒業論文の研究デザインに関する個人発表(7)	文献収集・精読、研究計画書作成
9	９週目：卒業論文の進捗状況に関する発表と討議(1)	研究計画書の修正、予備研究の準備
10	10週目：卒業論文の進捗状況に関する発表と討議(2)	研究計画書の修正、予備研究の準備
11	11週目：卒業論文の進捗状況に関する発表と討議(3)	研究計画書の修正、予備研究の準備
12	12週目：卒業論文の進捗状況に関する発表と討議(4)	研究計画書の修正、予備研究の準備
13	13週目：卒業論文の進捗状況に関する発表と討議(5)	研究計画書の修正、予備研究の準備
14	14週目：予備研究の準備・実施・状況報告(1)	研究材料の準備・作成、研究実施
15	15週目：予備研究の準備・実施・状況報告(2)	研究材料の準備・作成、研究実施
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

・テキストは特に指定しません。必要に応じて資料を配付します。
・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。
　松井 豊　2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社
　宮本聡介・宇井美代子 編　2014　質問紙調査と心理測定尺度　サイエンス社
　白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
　都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ　有斐閣アルマ

学びの手立て

①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。
②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに教員およびゼミ長、ゼミメンバーに連絡を入れること。
③卒業研究を計画的に進めるには、体調やスケジュール管理が重要です。自らの進路選択との兼ね合いで就職活動や受験、実習等で忙しくなる時期と卒論とをうまく両立する工夫をし、教員とも相談しましょう。
④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、院生や教員に尋ねること。

評価

・授業への関与度(50%)、研究活動の遂行度(50%)により評価します。
・授業への関与度は、発言（質問、コメント等）の積極性、討議への参加態度などにより評価します。
・研究活動の遂行度は、研究活動への取り組み状況（個人発表の実施、研究計画の進捗等）により評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学専門演習ⅠA・ⅠBを履修し、学習内容の定着を図ることが大切です。これらを総動員して卒論に展開させましょう。
・次のステージとして、心理学専門演習ⅡBを履修し、卒業研究を仕上げてください。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 心理学専門演習ⅡＡ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月３	2
担当者 前堂　志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	研究室：5-431 e-mail：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講は、自らの問題意識を心理学の専門分野に位置づけた卒業研究を行い卒業論文にまとめることを目的とする。まず、心理学の各専門分野の学習内容と自分の問題意識を関連づけた卒業論文のテーマを設定し、関連文献のレビュー、研究デザインの策定・発表を行う。次に、研究デザインに従い適正な研究手続きによる実験・調査、データ収集・分析を行い、卒業論文を執筆し卒論発表を行う。

メッセージ

4年間心理学を専門的に学んできた集大成が卒業論文研究です。日頃の自分の疑問や関心を心理学的研究法によって研究することで、新しい事実が明らかになり、人々に役立つ知識を発信することができるのです。卒論研究の基本は自分次第ですが、ゼミ仲間、後輩、教員との協働も不可欠です。仲間と共に研究生活に打ち込むことで研究力が大きく育ちます。ともに研究と成長を楽しみましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる
②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力が身についている
③現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察し、人とのつながりの中で実践的に問題解決していくための研究力と態度が身についている

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	年間計画・振り返り報告の準備
2	卒論構想発表会の振り返り	研究デザイン等検討・文献レビュー
3	卒業論文の研究デザインと研究計画についての検討	研究デザイン等修正・文献レビュー
4	卒業論文の研究デザインと研究計画の策定	研究デザイン等修正・文献レビュー
5	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）	研究デザイン等修正・文献レビュー
6	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）	研究デザイン等修正・文献レビュー
7	研究デザイン発表（研究デザインと研究計画のチェックと最終決定）	研究デザイン等完成・文献レビュー
8	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備：刺激や質問紙の作成等／予備実験・予備調査など）	研究計画の具体化のための諸活動
9	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備：刺激や質問紙の作成等／予備実験・予備調査など）	研究計画の具体化のための諸活動
10	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備：刺激や質問紙の作成等／予備実験・予備調査など）	研究計画の具体化のための諸活動
11	研究計画の具体化（実験・調査などの研究準備：刺激や質問紙の作成等／予備実験・予備調査など）	研究計画の具体化のための諸活動
12	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）	卒論研究のための諸研究活動
13	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）	卒論研究のための諸研究活動
14	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）	卒論研究のための諸研究活動
15	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理）	卒論研究のための諸研究活動
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しないが下記の参考図書を常に参照するとよい
①都筑 学(2008). 心理学論文の書き方―おいしい論文のレシピ　有斐閣アルマ　有斐閣
②松井 豊(2010). 改訂新版　心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④小塩真司(2011).SPSSとAmosによる心理・調査データ解析［第2版］　東京図書
⑤その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する

学びの手立て

・ゼミは、毎時の発表（デザイン発表、研究の進捗状況、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究活動に関する質疑応答・対話、個別指導・助言を組み合わせて進める。
・卒業論文研究は、ゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な研究活動が重要になる。
・研究活動を進める過程では多くの疑問や課題に直面する。自分一人で抱え込まず、教員への相談、院生への質問や相談、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話の中で自分の考えを整理し明確にしていくとよい。

評価

到達目標①と②：構想発表、デザイン発表、研究計画書などの内容（研究活動の成果）を評価する（70%）
到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、卒業論文研究の研究活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎演習A・B、心理学専門演習ⅠA・ⅠB。卒業論文研究の立ち上げには日頃の疑問・関心を問題意識へと高める必要があり、心理学の各分野、共通科目を含めた諸学問分野の知識や情報が重要になる。次のステージ：卒業論文研究を通して身につけた心理学的視点と研究力を社会人基礎力の核として、仕事、家庭、社会活動、人生において自信を持って実践しよう。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学専門演習ⅡＡ	前期	月３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山　篤史	４年	研究室　13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

これまでに心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。

メッセージ

いよいよ卒業論文をまとめることになります。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。

到達目標

１、自分の卒業論文について、自分の言葉で相手に伝わるように分かりやすく発表できる。
２、発表に対する質疑に対して明確に応えることができる。
３、卒論作成を通して高めてきた社会人基礎力をキャリア形成に活かせる
４、卒論作成を通して高めてきた心理学的現象を論理的に考え説明できる力を社会生活に応用できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

授業外で卒論の進行状況をレジメにまとめる。
授業内では、レジメに沿って進行状況を報告する。
報告の日程はゼミ内で調整・割り当てる。
授業内では、それぞれの報告に対して、他の受講生・教員から助言、コメントを行い、研究について相互に検討し、次回の報告までに解決すべき課題を明らかにする。

4月～5月中旬	先行研究・文献の精読と研究デザインの検討
6月末	問題と目的・方法の検討
７月～11月上旬	予備調査とデータ収集
11月中旬	中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討）
11月下旬～12月上旬	まとめの作業
12月中旬	卒業論文提出
1月	発表準備（ポスター資料制作、発表練習）
2月中旬	卒業論文発表会

テキスト・参考文献・資料など

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版
松井豊　心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために―　河出書房新社
適宜紹介する。

学びの手立て

卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までには、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。
ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論は、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。

評価

ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。

※ポリシーとの関連性　実験、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できることを示す。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 心理学専門演習ⅡＡ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月３	2
担当者 上田　幸彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	上田幸彦まで	

学びの準備

ねらい

卒業論文作成を通して、これまでに学んだ心理学的現象を論理的に考え説明できる力の集大成とする。

メッセージ

構想が決定した後は、早めにデータ収集に取り組めるように準備を進めていくこと。

到達目標

夏休み中にデータ収集を行えるようにする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	卒論構想発表①	ゼミ発表準備
2	〃　②	〃
3	〃　③	〃
4	〃　④	〃
5	卒論進捗状況（方法）発表　①	〃
6	〃　②	〃
7	〃　③	〃
8	〃　④	〃
9	卒論進捗状況（質問紙等完成）発表①	〃
10	〃　②	〃
11	〃　③	〃
12	〃　④	〃
13	卒論進捗状況（データ収集）　発表①	〃
14	〃　②	〃
15	〃　③	〃
16		

テキスト・参考文献・資料など

日本心理学会編　『心理学研究』執筆・投稿の手引き　改訂版

学びの手立て

卒論の進め方、データ分析の仕方などわからない場合は、大学院生、担当教員に積極的に聞くこと。

評価

毎回の授業での発言・質問状況と論文作成過程での取り組み方から判断する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　本専攻のカリキュラム・ポリシー「心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけるための実証的研究法を学ぶ」専門演習。　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学専門演習ⅡＡ	前期	月３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	井村　弘子	４年	5号館424-2研究室（098-893-3710） h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

これまで履修した講義、演習等を通して興味を持った問題について関連する文献を読み、卒業論文のテーマを設定する。卒業論文の目的を明確にし、研究デザインの発表を行った後、データの収集を行う。受講学生が主体性を持って自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。

メッセージ

自分の興味・関心のある事象を、心理学的な視点でとらえること、そして、心理学的手法で検証することを、たえず意識してほしい。

到達目標

卒業論文のテーマを確定する。
テーマにふさわしい心理学的研究方法を明確にする。
方法が定まれば、心理学的な実験・調査・観察・面接等でのデータ収集準備を行う。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

研究テーマを絞り、そのテーマに関連する論文を読み、論点を整理する。次に、各自の問題意識に基づき、各自のテーマと先行研究で得られた知見を基に研究の目的を明確にする。そして、研究目的を達成するための方法論を検討し、具体的な研究計画を作成する。６月上旬をめどにして、研究計画（デザイン）発表・検討する予定である。その後、研究を開始して、データ収集の準備をはじめる。

テキスト・参考文献・資料など

個別に助言・提示する。
松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社
白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房

学びの手立て

自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けること。
他の学生とのディスカッションに積極的に参加すること。

評価

論文構想の内容と論文作成に向けたプロセスを総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

前年度の「心理学専門演習ＩA」・「心理学専門演習ＩB」に引き続いて履修する科目である。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　[　　／演習]

科目基本情報			
科目名 心理学専門演習ⅡB	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月３	2
担当者 泊　真児	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

4年間の学習成果の集大成として、卒業研究を通して心理学的なものの見方や考え方、表現の仕方を身につけるのがねらいです。自らの興味や関心、問題意識を、心理学の専門分野の中に位置づけ、主に社会心理学的なアプローチにより研究を進めてもらいます。テーマ設定、先行研究のレビュー、研究計画の策定、データの収集と分析、考察、論文執筆と発表まで、一連のプロセスを学習します。

メッセージ

・卒論の完成と提出に向け、焦らず弛まず、着実に進めましょう。
・進捗状況によっては、個別面談を行うことがあります。
・教員やゼミ仲間に相談したり、協力を求めたりしながら、お互いに支え合って卒業研究を進めましょう。
・自分勝手な判断で行動しないよう、教員に確認しましょう。

到達目標

①現代社会における諸問題について、心理学的視点から分析し、考察するための基本的な研究力と態度を身につけ、それを卒業研究として結実させることができる。
②心理学の実証的研究法（実験、調査、観察など）を用いて、心理学的現象を論理的に考え、説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究基礎力を身につけることができる。
③人間のこころや行動に関する素朴な疑問や関心を、心理学的理論や概念を用いて表現し、科学的方法論を用いて実証的に研究したデータをもとに分析・考察した結果を、分かりやすく人に説明することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	研究計画の実施準備・実施（研究倫理のチェック・審査、研究協力の依頼、データ収集）1	依頼状などの作成、研究の実施準備
2	研究計画の実施準備・実施（研究倫理のチェック・審査、研究協力の依頼、データ収集）2	依頼状などの作成、研究の実施準備
3	研究計画の実施準備・実施（研究倫理のチェック・審査、研究協力の依頼、データ収集）3	依頼状などの作成、研究の実施準備
4	研究計画の実施準備・実施（研究倫理のチェック・審査、研究協力の依頼、データ収集）4	依頼状などの作成、研究の実施準備
5	研究計画の実施準備・実施（研究倫理のチェック・審査、研究協力の依頼、データ収集）5	研究の実施準備、データ整理など
6	データの入力・整理・分析・図表などの作成(1)	データ整理・資料作成など
7	データの入力・整理・分析・図表などの作成(2)	データ整理・資料作成など
8	データの入力・整理・分析・図表などの作成(3)	データ整理・資料作成など
9	データの入力・整理・分析・図表などの作成(4)	データ整理・資料作成など
10	データ分析結果の読み取り・考察・まとめ、卒業論文本体の執筆(1)	データ分析・まとめ・卒論執筆
11	データ分析結果の読み取り・考察・まとめ、卒業論文本体の執筆(2)	データ分析・まとめ・卒論執筆
12	データ分析結果の読み取り・考察・まとめ、卒業論文本体の執筆(3)	データ分析・まとめ・卒論執筆
13	データ分析結果の読み取り・考察・まとめ、卒業論文本体の執筆(4)	データ分析・まとめ・卒論執筆
14	卒論発表会用の発表資料作成、発表準備、発表抄録原稿の作成	プレゼン資料・抄録原稿の作成
15	卒業論文発表会に向けての予行演習	プレゼン資料・抄録原稿の仕上げ
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

・卒業研究を進めるに当たり、以下の書籍を推奨します。その他の文献については、授業内で適宜紹介します。
松井 豊　2010 改訂新版：心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社
宮本聡介・宇井美代子 編　2014　質問紙調査と心理測定尺度　サイエンス社
白井利明・高橋一郎 2008 よくわかる卒論の書き方 ミネルヴァ書房
都筑学 2006 心理学論文の書き方：おいしい論文のレシピ　有斐閣アルマ

学びの手立て

①ゼミ活動は、正課内・外で学生が自ら主体的に動くことが不可欠であることを強く意識し、行動すること。
②発表担当が割り当てられた回は、責任を持って資料作成・配布・プレゼンを行うこと。やむを得ない事情で担当できなくなった場合は、速やかに（事前に）教員およびゼミ長、ゼミメンバーに連絡を入れること。
③卒業研究を計画的に進めるには、体調やスケジュール管理が重要です。自らの進路選択との兼ね合いで、就職活動や受験、実習等で忙しくなる時期と卒論とをうまく両立する工夫をし、教員とも相談しましょう。
④研究活動を進める中で生じた疑問や質問など、まずは自分たちで調べ、考えること。その上でどうしても分からない点については、院生や教員に尋ねること。

評価

・授業への関与度(40%)、研究活動の遂行度(60%)により評価します。
・授業への関与度は、発言（質問、コメント等）の積極性、討議への参加態度などにより評価します。
・研究活動の遂行度は、研究活動への取り組み状況（個人発表の実施、研究計画の進捗等）と、卒論発表および提出された卒業論文のできばえ等により評価します。
以上の観点をもとに、総合的に評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学専門演習ⅠA・ⅠB、心理学専門演習ⅡAを履修し、学習内容の定着を図ることが大切です。
・上記の科目を中心に、4年間の学びを総動員して卒業論文作成に活かしましょう。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　［　　／演習］

科目基本情報			
科目名 心理学専門演習ⅡＢ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月３	2
担当者 前堂　志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	研究室：5-431 e-mail：mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講は、自らの問題意識を心理学の専門分野に位置づけた卒業研究を行い卒業論文にまとめることを目的とする。まず、心理学の各専門分野の学習内容と自分の問題意識を関連づけた卒業論文のテーマを設定し、関連文献のレビュー、研究デザインの策定・発表を行う。次に、研究デザインに従い適正な研究手続きによる実験・調査、データ収集・分析を行い、卒業論文を執筆し卒論発表を行う。

メッセージ

4年間心理学を専門的に学んできた集大成が卒業論文研究です。日頃の自分の疑問や関心を心理学的研究法によって研究することで、新しい事実が明らかになり、人々に役立つ知識を発信することができるのです。卒論研究の基本は自分次第ですが、ゼミ仲間、後輩、教員との協働も不可欠です。仲間と共に研究生活に打ち込むことで研究力が大きく育ちます。ともに研究と成長を楽しみましょう。

到達目標

①人間のこころや行動に関する疑問や関心を、心理学的理論や概念、技術を用いて理解し、説明することができる
②実験、調査、観察などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明する力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）、研究力が身にいている
③現代社会における諸問題について心理学的視点から研究、考察し、人とのつながりの中で実践的に問題解決していくための研究力と態度が身についている

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理／卒業論文のアウトライン作成）	卒論研究のための諸研究活動
3	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理／卒業論文のアウトライン作成）	卒論研究のための諸研究活動
4	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
5	卒論研究の実施（研究協力依頼・データ収集・データ整理／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
6	卒論研究の実施（データ整理・データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
7	卒論研究の実施（データ整理・データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
8	卒論研究の実施（データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
9	卒論研究の実施（データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
10	卒論研究の実施（データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
11	卒論研究の実施（データ解析／解析結果の表現／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
12	卒論研究の実施（データ解析の読み取り・考察／引用文献の確認／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
13	卒論研究の実施（データ解析の読み取り・考察／引用文献の確認／卒業論文の執筆）	卒論研究のための諸研究活動
14	卒論研究の実施（データ解析の読み取り・考察／引用文献の確認／卒業論文の執筆／卒業論文提出）	卒業論文発表会のための準備
15	卒論研究の実施（卒業論文発表会の準備・予演／卒業論文の加筆・修正）	卒業論文発表会のための準備
16	卒業論文発表会（2月）／卒業論文抄録集原稿提出	卒業論文最終提出のための準備

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しないが下記の参考図書を常に参照するとよい
①都筑 学(2008). 心理学論文の書き方―おいしい論文のレシピ　有斐閣アルマ　有斐閣
②松井 豊(2010). 改訂新版　心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社
③心理学基礎演習シリーズVol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）　ナカニシヤ出版
④小塩真司(2011).SPSSとAmosによる心理・調査データ解析［第2版］　東京図書
⑤その他の参考図書や文献などは、授業の中で適宜紹介する

学びの手立て

・ゼミは、毎時の発表（デザイン発表、研究の進捗状況、履修・進路状況、年間計画のリ・スケジュールなど）と研究活動に関する質疑応答・対話、個別指導・助言を組み合わせて進める。
・卒業論文研究は、ゼミの時間だけでは進まない。課外時間における自発的・積極的な研究活動が重要になる。
・研究活動を進める過程では多くの疑問や課題に直面する。自分一人で抱え込まず、教員への相談、院生への質問や相談、ゼミ仲間・同期との語り合いなど、さまざまな対話の中で自分の考えを整理し明確にしていくとよい。

評価

到達目標①と②：卒業論文発表、卒業論文（ゼミ論）、抄録などの内容（研究活動の成果）を評価する（70%）
到達目標③：ゼミへの参加・貢献度（積極的な発表・質問、ゼミメンバーの発表への建設的質問・コメント）、卒業論文研究の研究活動全般への自発的・積極的な取り組み、ゼミメンバーとの研究協働などを評価（30%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理学研究法Ⅰ・Ⅱ、心理統計学基礎、心理統計学Ⅰ・Ⅱ、心理学基礎演習A・B、心理学専門演習ⅠA・ⅠB。研究結果の解析、考察には、自己の問題意識と心理学の各分野、諸学問分野からの多面的な検討が重要になる関連領域の知識を振り返ろう。次のステージ：卒業論文研究を通して身につけた心理学的視点と研究力を社会人基礎力の核として、仕事、家庭、社会活動、人生において自信を持って実践しよう。

※ポリシーとの関連性　心理学的現象を論理的に考え説明できる力（論理的思考力、問題解決能力、表現力）を身につけるための実証的研究法を学ぶ専門科目　[　　／演習]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学専門演習ⅡＢ	後期	月３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山　篤史	４年	研究室　13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

これまでに心理学を学んできた集大成として、興味・関心のあるテーマを設定し、研究目的を設定し、新しい知見・発見を得るために研究計画を立て、論文としてまとめ、発表する。心理学の視点から、人間のこころや行動について、科学的に、多面的に、深く、考察する力を養う。

メッセージ

いよいよ卒業論文をまとめることになります。自分の研究テーマを設定し、それを明らかにするためにこれまで学んできた知識・技術を総動員し、問題解決をしていきます。卒業論文作成のプロセスは、皆さんの社会人基礎力を高め、人間的にも成長していくことになるでしょう。仲間、教員と協力し、4年間の集大成を完成させましょう。

到達目標

１、自分の卒業論文について、自分の言葉で相手に伝わるように分かりやすく発表できる。
２、発表に対する質疑に対して明確に応えることができる。
３、卒論作成を通して高めてきた社会人基礎力をキャリア形成に活かせる
４、卒論作成を通して高めてきた心理学的現象を論理的に考え説明できる力を社会生活に応用できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

授業外で卒論の進行状況をレジメにまとめる。
授業内では、レジメに沿って進行状況を報告する。
報告の日程はゼミ内で調整・割り当てる。
授業内では、それぞれの報告に対して、他の受講生・教員から助言、コメントを行い、研究について相互に検討し、次回の報告までに解決すべき課題を明らかにする。

4月～5月中旬	先行研究・文献の精読と研究デザインの検討
6月末	問題と目的・方法の検討
７月～11月上旬	予備調査とデータ収集
11月中旬	中間発表会（途中経過の報告、データ整理と統計的分析の検討）
11月下旬～12月上旬	まとめの作業
12月中旬	卒業論文提出
1月	発表準備（ポスター資料制作、発表練習）
2月中旬	卒業論文発表会

テキスト・参考文献・資料など

小塩真司・西口利文（編）心理学基礎演習Vol.1（実験法）、Vol.2（質問紙法）、Vol.3（観察・面接法）ナカニシヤ出版
松井豊　心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために―　河出書房新社
適宜紹介する。

学びの手立て

卒論はゼミの時間内だけでは作成できない。時間外の学習が不可欠である。ゼミで指定される自分の発表日までには、しっかりと準備を進めて確実に発表できるようにする。
ゼミの時間での指導だけでは不明な点、解決できない点があれば個別の指導も行うので、積極的に利用すること。また、卒論は、一人だけでは作成は不可能。ゼミメンバーで、ディスカッションし、情報を交換し、様々な視点から論文を検討しなければならない。ゼミ生同士、協働して卒論を進めてほしい。

評価

ゼミへの参加態度、研究態度、発表、論文の内容により評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

卒論制作を通して社会人基礎力が育ち、人間的にも成長できる。卒論作成のプロセスを通して見えてくる自分の長所・短所に目を向けて、キャリア形成に活かしていく。

※ポリシーとの関連性　実験、調査などの実証的手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力を示す。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 心理学専門演習ⅡＢ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月３	2
担当者 上田　幸彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	上田幸彦まで	

学びの準備

ねらい

卒業論文作成を通して、これまでに学んだ心理学的現象を論理的に考え説明できる力の集大成とする。

メッセージ

12月初旬にはデータ分析を終わり、後半には考察に取り組めるように進めること。

到達目標

卒論を完成させ、卒論発表会で発表する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	卒論進捗状況（データ分析）発表①	データの整理
2	〃　発表②	データの整理
3	〃　発表③	データの整理
4	〃　発表④	データの整理
5	〃　発表⑤	データ分析
6	〃　発表⑥	データ分析
7	〃　発表⑦	データ分析
8	〃　発表⑧	データ分析
9	卒論進捗状況（考察）発表①	研究の記述
10	〃　発表②	研究の記述
11	〃　発表③	研究の記述
12	〃　発表⑤	研究の記述
13	〃　発表⑥	卒論提出
14	卒論発表会　予演　①	発表準備
15	〃　予演　②	発表準備
16		

テキスト・参考文献・資料など

日本心理学会編　『心理学研究』執筆・投稿の手引き　改訂版

学びの手立て

評価

論文作成過程での取り組み、積極性と提出された論文の内容から総合的に判断する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　本専攻のカリキュラム・ポリシー「心理学的現象を論理的に考え説明できる力身につけるための実証的研究法を学ぶ」専門演習。　[　　／演習]

科目基本情報				
	科目名 心理学専門演習ⅡB	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	月３	2
	担当者 井村　弘子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		４年	5号館424-2研究室（098-893-3710） h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

前期で作成した卒業論文の研究デザインに沿って、データを収集し、得られたデータの分析と整理を行い、卒業論文を執筆する。その後、卒業論文発表会に向けて、ポスターや論文抄録を作成し、最終発表を行う。受講学生が主体性を持って、自分の研究課題に取り組むことを主なねらいとしている。

メッセージ

自分の興味・関心のある事象を、心理学的な視点でとらえること、そして、心理学的手法で検証することを、たえず意識してほしい。

到達目標

卒業論文デザインに沿って、実験・調査・観察・面接等の手法で、データを収集する。
収集したデータを、心理学的な方法で分析・考察し、論文を作成する。
作成した論文をわかりやすくまとめ、最終発表を行う。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

前期に作成した研究デザインに沿って収集したデータの分析・考察を行う。10月をめどに研究経過の中間発表を行い、12月上旬には、すべてのデータの分析と整理を終えて論文を作成させる。卒業論文を提出後、最終発表を行う。

テキスト・参考文献・資料など

個別に助言・提示する。
松井豊（著）「心理学論文の書き方」河出書房新社
白井・高橋（著）「よくわかる卒論の書き方」ミネルヴァ書房

学びの手立て

自ら学び、自分を成長させようという意欲と態度を持ち続けてほしい。
他の学生とのディスカッションに積極的に参加してほしい。

評価

提出された論文の内容と論文作成までのプロセスを総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

前期開講の「心理学専門演習ⅡA」に引き続き履修する科目である。

※ポリシーとの関連性

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学特講Ａ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	非常勤	２年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践
学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
テキスト・参考文献・資料など
学びの手立て
評価

学びの継続
次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　人間のこころや行動を理解するための心理学の知識と技術を学ぶ専門科目。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 心理学特講Ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
	集中	集中講義	2
担当者 -髙橋紀子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	世話人教員　野村（r.nomura@okiu.ac.jp)まで	

学びの準備

ねらい

心理臨床のアプローチのひとつであるパーソンセンタードアプローチについて、その理論と実践についての理解を深める。

メッセージ

パーソンセンタードアプローチは、来談者の可能性や持ち味を尊重し、活かすアプローチです。受講を通して、その人らしく生きるとはどのようなことか考える時間となれば幸いです。

到達目標

本講義では、パーソンセンタードアプローチについての理論と実践を学習する。その上で、日常生活場面や対人援助場面における有用性を理解し、具体的なあり方や関わりについて具体的に考えることができるようになることを目指す。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション：カール・ロジャーズについて	テキスト第1,2章を事前に読む
2	来談者中心療法の理論的展開	
3	実現傾向と必要十分条件	
4	パーソナリティ論、援助論、プロセス論	
5	DVD視聴『グロリアと3人のセラピスト 』	
6	カウンセリングが成功するとき	テキスト第3章を事前に読む
7	体験過程理論	
8	フォーカシング	
9	フォーカシング指向心理療法	
10	体験過程スケール、クリアリング・ア・スペース	
11	エンカウンター・グループとは	テキスト第4章を事前に読む
12	DVD視聴『出会いへの道－あるエンカウンター・グループの記録－』	
13	ファシリテーション	
14	グループプロセス、個人プロセス	
15	DVD視聴『鋼鉄のシャッター　－北アイルランド紛争とエンカウンター・グループ－』	
16	授業のまとめ	

テキスト・参考文献・資料など

教科書『傾聴の心理学：PCAをまなぶ:カウンセリング/フォーカシング/エンカウンター・グループ』坂中正義編著、創元社、2017年9月出版、2,484円（税込）

学びの手立て

・遅刻、欠席は原則認めない。質問や意見、ディスカッションを積極的に行うこと。
・学びを深めるために配布資料をもとに予習・復習を行うこと。

評価

一日の最後に習熟度の確認と振り返りとしてレポートを実施する。３日間で合わせて３本のレポートを行い、その評価が６０％。４０％は平常点として、講義中のディスカッションやワークへの取り組みで評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・臨床面接法Ⅰ・Ⅱ

※ポリシーとの関連性　個別だけでなく集団への働き方を学ぶことは、心理学を学ぶ学生にとっては重要だと思われる。

[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 心理学特講Ｃ		期 別	曜日・時限	単 位
		後期	金４	2
担当者 -新里　健		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		２年	email:kshinzato@nirai.ne.jp	

学びの準備

ねらい

近年、子どもたちの社会性が欠如してきたと言われ、教育現場でも、不登校、いじめ、非行、引きこもりなどの問題が多発し、大きな社会問題となっている。

本授業では、受講者間での活動を通じて、自然な人間関係を構築できるような交流を体験させ、集団でのポジティブ体験をねらう。毎回異なる活動を提示し参加型の授業を目指す。

メッセージ

参加型授業で、毎回、グループ活動を行う。参加しなければ実際にどういう内容なのか学べない。遅刻したりすると、活動の途中からの参加となり、活動自体がどういうものかわからなくなるので、欠席や遅刻をしないようにしたい。

到達目標

本授業は、社会的スキル訓練（ＳＳＴ）を用いた集団カウンセリングであるが、将来、個別面接だけでなく、集団への働き方も学ぶことによって、いろいろな現場でいろいろな対象に対する対応が容易になると思われる。本授業では、集団カウンセリングの一つである集団に対する働き方を学び。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション、非言語コミュニケーション：表情伝言ゲーム	第１週～第4週
2	言語コミュニケーション：他己紹介、共通点探し	コミュニケーションを考える
3	言語コミュニケーション：絵の内容を伝える	コミュニケーションを考える
4	言語コミュニケーション：ビンゴゲーム	コミュニケーションを考える
5	問題解決スキル：問題解決のステップと問題解決のシナリオ	どのように問題解決を行うか考える
6	怒りのマネジメント：怒りの表出・身体と行動、怒りの対処法	怒りの収め方を考える
7	自尊感情：いいところ探し	自己評価をどう高めるか考えよう
8	自尊感情：この人は誰でしょう。	自己評価をどう高めるか考えよう
9	自尊感情：リフレーミング、つぶやき	自己の長所に目を向けてみよう
10	自尊感情：心からの贈り物	他者の良さを探してみよう
11	ストレス・マネジメント：ストレッサ	何にストレスを感じるか考えよう
12	アサーション・トレーニング：ロールプレイ	自己主張の仕方を考える
13	自他の価値観の違いに気づく：若い女性と水夫	他者との価値観の違いに気づこう
14	自己の価値を高める：春夏秋冬	他者との価値観の違いに気づこう
15	自己の価値を高める：私の大切なもの	他者との価値観の違いに気づこう
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：　やってみよう　ソーシャルスキルトレーニング３３　学級経営に生かすＳＳＴ』　新里健、島袋有子　2008　株式会社　グリーンキャット

学びの手立て

教育現場での児童・生徒だけでなく、様々な集団へどのように働きかけたら良いか、日頃から考えておくことが良いでしょう。様々な文献や参考書に目を通し、どういうワークが有効か、どういうワークが楽しいのか考えておくと良いでしょう。外国の文献には特に独創的なワークが紹介されているので、ネット等でも調べてみてもいいでしょう。

評価

期末試験80%、平常点20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

本授業だけでなく、他の集団カウンセリングを学ぶ、幅広いアプローチの仕方を身につけた方が良いでしょう。

※ポリシーとの関連性　現代社会における諸問題に関心を持ち、課題解決に役立つ傾聴力、共感性、対人援助力を身につけるための専門科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 心理学特講Ｄ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	土３	2
担当者 上田　幸彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	上田まで	

学びの準備

ねらい

健康、医療、その他の領域における臨床心理士の活動を通して、各領域の対象者の特徴、各種のアセスメント法、介入の実際を学ぶ。これらにより多領域における臨床心理学の実際を理解する。

メッセージ

到達目標

各領域における臨床心理学の実践の違いを理解できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	配布資料と関連文献を読む
2	精神科　①	〃
3	精神科　②	〃
4	精神科　③　リワーク	〃
5	総合病院　①	〃
6	総合病院　②	〃
7	総合病院　③	〃
8	産婦人科	〃
9	リハビリテーション	〃
10	教育　①	〃
11	教育　②　スクールカウンセラー	〃
12	発達　①	〃
13	発達　②	〃
14	福祉　児童相談所	〃
15	司法	〃
16	レポート提出	

テキスト・参考文献・資料など

参考文献：　「よく分かる臨床心理学」　下山晴彦編　ミネルヴァ書房
「心理臨床における他職種との連携と協働」　本城秀次　岩崎学術出版

学びの手立て

評価

毎回の出席状況（１０％）、コメントシート（１０％）、最終レポート（８０％）により評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

臨床面接法Ⅰ・Ⅱ、　心理検査法Ⅰ・Ⅱ、学校臨床心理学、障害児・者心理学、犯罪心理学

※ポリシーとの関連性　心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理学理論と心理的支援	後期	月３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲田　梨沙	２年	r.inada@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

ニーズが多様化する現代社会において、心理学的援助技術を取り入れた対人援助を求める機運が高まっている。心理療法やカウンセリング技法をふまえた心理学の理論や基礎を理解し、実際の心理的支援について学ぶことを目的とする。

メッセージ

技法の演習やグループディスカッションなど、体験的学習も取り入れています。感想や意見の発表もありますので積極的な参加を期待します。

到達目標

この科目を履修することによって、人の心のはたらきを理解し、成長や回復を期待しつつ働きかけることの意義について理解ができる。また、学んだことを活かして自己を見つめ、多様なニーズに応じた対人援助方法を考える力を身につける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	心理学とは	履修登録を確実に済ませる
2	発達の概念	ワーク（各発達段階について整理）
3	さまざまな学習理論	ワーク（各理論と提唱者の整理）
4	記憶と忘却	ワーク（記憶と忘却の体験）
5	知能と知能検査	ワーク（各理論と提唱者の整理）
6	欲求と動機づけ	ワーク（動機づけの体験）
7	適応とストレス	ワーク（ストレス体験とその対処）
8	心理療法　～精神分析～	ワーク（心理療法の歴史）
9	心理療法　～行動療法・認知行動療法～	ワーク（思考記録体験）
10	心理療法　～来談者中心療法～	ワーク（傾聴の体験）
11	心理療法　～さまざまな心理療法～	ワーク（各療法の特徴を整理）
12	面接・見立て	ワーク（支援方法について考える）
13	発達障障害	ワーク（特徴を整理）
14	障害者差別法と合理的配慮	ワーク（事例検討）
15	精神疾患と専門機関の連携	ワーク（事例検討）
16	期末考査	

テキスト・参考文献・資料など

教科書：特に指定せず、その都度印刷物など資料を提供する。
参考書：必要に応じて講義内で紹介する。
　　：新・社会福祉士養成講座２　心理学理論と心理的支援―心理学　第２版　社会福祉士養成講座編集委員会編集　2011

学びの手立て

①履修の心構え
意見・感想の発表や、グループディスカッションでは積極的な参加を望む。
講義内容に無関係なスマホ利用、資料閲覧、私語は慎むこと。
②学びを深めるために
講義内での体験を振り返り、自身が感じたことや疑問に思ったことなどをワークに記入することで、自己をみつめる。

評価

各成績評価について、評価の割合（全体を100%）を示す。ただし1/3以上の欠席は不可とする。
①中間レポート（30%）②最終レポート（30%）③授業への参加度・発表（40%）
評価方法については、講義初日に詳細に説明する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

心理学理論が実際に応用されている対人援助場面に関心を持ち、ニーズに応じた対人援助方法を考える機会を積極的に持つ。

※ポリシーとの関連性　人間福祉学科心理カウンセリング専攻学生のみが履修できる。心理学の実践力を身につけるための専門科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 心理検査法Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火１	2
担当者 -稲田　梨沙	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	稲田梨沙〈r.inada@okiu.ac.jp〉	

学びの準備

ねらい

心理アセスメントの専門技法である心理検査について概説を行い、代表的な心理検査の理解を深める。また、心理検査実習を通して、専門技法を用いて人を理解しようとするときの心構えや倫理的問題についても体験的に学ぶ。前期はパーソナリティの特徴を把握するための心理検査を中心に実習し、結果の分析、検査所見の書き方について具体的に学ぶ。

メッセージ

実習が中心の科目である。皆出席であることが前提。毎回の課題レポートに加え、最終レポートまで複数の課題レポートが課されるので、全て提出できる意欲のある学生のみ受講すること。

到達目標

この科目を履修することによって、心理検査の概要及び代表的な心理検査について十分に理解ができ、臨床現場で心理検査を実施し、所見を作成できる心理学的専門的スキルを身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	パーソナリティ理解のための心理検査	パーソナリティに関する調べ学習
2	パーソナリティの構造とテストバッテリー	パーソナリティに関する調べ学習
3	心理検査と倫理問題	課題ワークシート
4	心理検査①－１(質問紙法　実施法と実習)	課題ワークシート（採点）
5	心理検査①－２（質問紙法　理論的背景）	課題ワークシート（分析）
6	心理検査①－３（質問紙法　所見のまとめ方）	課題ワークシート（所見のまとめ）
7	心理検査②－１（作業検査法　実施法と実習）	課題ワークシート（採点）
8	心理検査②－２（作業検査法　理論的背景）	課題ワークシート（分析）
9	心理検査②－３（作業検査法　所見のまとめ方）	課題ワークシート（所見のまとめ）
10	心理検査③－１（投映法その１　実施法と実習）	課題ワークシート（採点）
11	心理検査③－２（投映法その１　理論的背景）	課題ワークシート（分析）
12	心理検査③－３（投映法その１　所見のまとめ方）	課題ワークシート（所見のまとめ）
13	心理検査④－１（投映法その２　実施法と実習）	課題ワークシート（採点）
14	心理検査④－２（投映法その２　理論的背景）	課題ワークシート（分析）
15	心理検査④－３（投映法その２　所見のまとめ方）	課題ワークシート（所見のまとめ）
16	最終レポート作成・提出	最終レポート作成・提出

テキスト・参考文献・資料など

必要に応じて資料を配布する。
上里一郎監修　「心理アセスメントハンドブック　第2版」　西村出版
氏原寛　他編　「心理査定実践ハンドブック」　創元社

学びの手立て

①履修の心構え
皆出席が前提である。授業時間内に実習を行うので、遅刻厳禁。
高度に専門的な科目なので、「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」を受講済み、あるいは受講中であること。
卒業後に心理職を目指す学生は必ず受講すること。
②学びを深めるために
臨床現場でのボランティア活動等を行うことを奨励する。

評価

評価方法
出席状況、提出されたレポート等により総合的に評価する。
割合
平常点(授業の参加度・発表等) 30%　　課題レポート50%　　最終レポート20%
上記の評価方法については、講義初日に詳細に説明する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目
「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」を受講済み、または受講中であることが望ましい。
次のステージ
「臨床面接法Ⅰ」「心理検査法Ⅱ」を引き続き受講するとよい。

※ポリシーとの関連性　カリキュラム・ポリシー1．および、3．に相当する。 人間のこころと行動を理解するための理論・技術を学ぶ　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 心理検査法Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火１	2
担当者 野村　れいか	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室：9号館618　r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

心理臨床学的アセスメントを行う際の手法のひとつである心理検査について概説を行い、代表的な心理検査を実習する。心理検査の実習を通して、心理学的人間理解の意義と方法や、専門的手法を用いて人を理解する上の心構えや倫理的問題を体験的に学ぶ。特に心理検査法Ⅱでは知能検査を用いて、人間の認知的な特徴を理解する。

メッセージ

実習を伴う講義です。心理検査を実際に子どもを対象として施行できるようになるために、事前に心構え、知識、技術をみっちり学びます。そのためどうしても評価の厳しい講義となります。しかし、ハードルが高いだけに、得るものも多い講義であると思います。臨床心理学系の大学院進学、専門職を希望する学生はぜひ履修してほしい講義です。

到達目標

①知能検査実施における基礎知識、倫理的心構えについて理解する。
②知能検査を実施できる。
③知能検査のデータを読み取り、所見が書ける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション／心理アセスメントとは	配布資料復習
2	心理アセスメントと心理検査	配布資料復習
3	心理アセスメントにおける倫理	リフレクションシートの作成
4	心理検査と倫理問題	リフレクションシートの作成
5	知能とは	配布資料復習
6	田中ビネー式知能検査とウェクスラー式知能検査の特徴・実習前試験	試験の振り返り・復習
7	検査器具の取り扱いと実施	検査マニュアル熟読・ロールプレイ
8	ウェクスラー式知能検査の実施方法	検査マニュアル熟読・ロールプレイ
9	田中ビネー式知能検査の実施方法	検査マニュアル熟読・ロールプレイ
10	知能検査の実際と結果のフィードバック	リフレクションシートの作成
11	ウェクスラー式知能検査の結果の整理	検査マニュアル熟読・ロールプレイ
12	ウェクスラー式知能検査結果の解釈①群指数について	配布資料復習
13	ウェクスラー式知能検査結果の解釈②下位検査について	配布資料復習
14	ウェクスラー式知能検査結果の解釈と所見のまとめ方	配布資料復習
15	田中ビネー式知能検査の解釈と所見のまとめ方	レポートまとめ
16	まとめ　人を理解すること	レポートまとめ

テキスト・参考文献・資料など

必要に応じて資料を配布する。
日本版WISC-Ⅲ知能検査　日本文化科学社　／WISC-Ⅲアセスメント事例集　藤田和弘他（編著）日本文化科学社
軽度発達障害児の心理アセスメント　上野一彦他（編）日本文化科学社　／　田中ビネー知能検査Ⅴ　田研出版

学びの手立て

１）実習のある授業です。原則遅刻・欠席は認めません。
２）実習の協力者を自分で探し、依頼し、協力を得ることが必要です。
３）心理検査を行うということで、協力者やその保護者に何らかの負担を与えることがあります。そのことをよく念頭に置き、その状況に即した配慮をすることが求められます。
４）検査実施については、入念な準備が必要です。予習・復習は不可欠です。
５）実習前のミニレポートの提出と試験に合格しないと、実習に進むことができません。
６）すべての実習を体験し、レポートを提出（２つ）しなければ単位を認めることはできません。
７）出席、レポートの条件が満たされてもレポートの内容が基準を満たさない場合単位を認めません。

評価

検査所見レポート2つ…70％
実習前の試験（1回）、課題、振り返りのレポート…30％

学びの継続

次のステージ・関連科目

「臨床面接法Ⅰ」「障害児・者心理学」「発達臨床心理学」「学校臨床心理学」「心理学特講Ｄ」などの専門科目、課外の学習支援、発達障害児支援のボランティア活動に関連する。

※ポリシーとの関連性　　客観的な人間理解のための知識と技術を学び、かつデータに基づき論理的に説明できる力を身につけるための実証研究法を学ぶ科目　　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 心理統計学基礎	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	月５	2
担当者 泊　真児	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	１年	研究室：5号館534 stomari@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講義は、心理統計学、心理学研究法という心理学研究において重要な柱となる専門科目の基礎づくりをする科目です。また、心理学基礎演習A・B、心理学専門演習ⅠAB、心理学専門演習ⅡABで取り組む研究活動に繋がる学習スキルの基礎を身につける科目でもあります。講義、演習、課題を通して、心理学専門科目の学習に必要な知識とデータ解析法の基礎を身につけることが目標です。

メッセージ

統計学はズバリ、「習うより、慣れろ！」です。講師の話を聴くだけでなく、配付資料を読む、参考書籍を調べる、問題を解く等、予習や復習が非常に大切です。授業の中だけで理解しようとするのではなく、時間外学習をしっかり行ってください。

到達目標

①統計学が、心理学を学ぶ上で、なぜ必要なのか理解できるようになる。
②１つ１つのデータを、数値や図表に表して整理・集約したり、その特徴を客観的に記述したりできる（記述統計）。
③２変数間の関連性について、その特徴を図表化して表したり、少数の数値に集約して表現（数値要約）できる。
④統計的検定の基本的な原理について理解できる（推測統計）。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	授業契約・オリエンテーション・統計学初歩：講義の進め方・諸注意等の説明	次回講義内容の予習・資料の精読
2	変数とデータ～心理学における測定と尺度水準～	復習・予習、資料精読、演習課題
3	心理測定の信頼性・妥当性とΣ記号の意味	復習・予習、資料精読、演習課題
4	Σ記号を用いた計算＆度数分布	復習・予習、資料精読、演習課題
5	度数分布とヒストグラム	復習・予習、資料精読、演習課題
6	量的データの数値要約：代表値とは何か？	復習・予習、資料精読、演習課題
7	量的データの数値要約：散布度とは何か？	復習・予習、資料精読、演習課題
8	量的データの数値要約：正規分布とは何か？・標準得点・偏差値	復習・予習、資料精読、演習課題
9	量的データの数値要約：標準正規分布と標準得点	復習・予習、資料精読、演習課題
10	２変数間の関係の分析１：量的変数同士の相関（散布）図の作成	復習・予習、資料精読、演習課題
11	２変数間の関係の分析２：相関係数による数値要約	復習・予習、資料精読、演習課題
12	２変数間の関係の分析３：質的変数同士のクロス集計表の作成	復習・予習、資料精読、演習課題
13	２変数間の関係の分析４：連関係数による数値要約	復習・予習、資料精読、演習課題
14	統計的検定の基礎：推測統計・標本抽出・統計的検定の原理	復習・予習、資料精読、演習課題
15	全講義内容のまとめ・振り返り・試験案内	全学習内容の復習・模擬試験演習
16	学期末試験（予定）　※期末レポート課題に変更する可能性もあります。	

テキスト・参考文献・資料など

教科書は特に指定せず、毎回の配付資料を中心に講義を進める予定です。
講義の中で、適宜紹介していきます。

学びの手立て

※本講義は、遅刻や欠席、予・復習を怠ると、授業に付いていけなくなる可能性が高いので気をつけて下さい。
・統計学はコツコツと地道に積み重ねることが大切です。毎回の演習課題や配布資料等をきちんとファイリングし、復習・予習を欠かさず行ってください。
・毎回の講義について、分からない所、理解があやふやな所があれば、その都度、教員やSA（教育支援者の先輩学生）に遠慮せず質問してください。
・統計学の学力を身につけるには、自力で取り組むことが大切です。すぐ人に聴いたり、模範解答が出るまで待ったりするのではなく、まず自分で考え、自力で問題を解くことを心がけてください。

評価

＊成績評価は、平常点50%、学期末課題50%の内訳で、これらを総合的に評価して行います。
ただし、いずれも6割以上の成績を残すことが単位認定の条件となります。
＊平常点は、授業への参加態度、授業内・外の課題への取り組み、コメントカードの記述等により評価します。
＊学期末課題については、試験を実施する場合、「参考書や資料等の持ち込みを全て可」として行う予定です。
レポート課題を課す場合は、授業内で詳細を指示します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目として、「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」を学ぶと、研究法とデータ分析法の関連について理解が深まる。
次のステージとして、「心理統計学Ⅰ・Ⅱ」を履修すると、卒業論文に活かせるデータ解析法が学べる。

※ポリシーとの関連性　論理的に説明できる力を身につけるための実証的研究法を学ぶ科目
かつ客観的な人間理解の技術を学ぶ科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名	期 別	曜日・時限	単 位
心理統計学Ⅰ	前期	土２	2
担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
-遠藤　光男	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

本科目は，心理学において用いられる統計的分析法について，その基本的理解ができ，心理学論文等での報告されている解析結果の読み取りができるようにすること，そして，主要な統計解析については自ら実施できるようにすることが目標です。心理統計学Ⅰにおいては，記述統計と推計学の中のt検定と分散分析法について理解と修得を目標とします。

メッセージ

本科目履修前に，心理統計学基礎を履修して下さい。心理統計学は心理学論文を理解するためにも，実際に研究をする上でも必要なものです。理解のレベルには基礎レベルと発展レベルなど何段階か設けます。受講生全員が基礎レベルをクリアして，実際に使用しながらその理解を深めていくことを目指します。

到達目標

1.心理統計学の基礎を理解している。2.解説した統計法を理解し，その解析結果の読み取りができる。3.研究方法に合わせた適切なデータの解析法を選択し，実際に解析法を行い，結果の解釈や考察ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション，統計学に必要な数学的知識	次回講義内容の予習
2	記述統計（度数分布，代表値，散布度，正規分布）(1)	講義内容の復習と予習
3	記述統計（度数分布，代表値，散布度，正規分布）(2)	同上
4	記述統計（散布図，相関係数，回帰分析）	同上
5	記述統計（クロス集計表，連関係数）	同上
6	統計的検定の基本的考え（仮説検定）	同上
7	統計的検定の基本的考え（効果量，信頼区間，検定力）	同上
8	2つの平均値の差の検定（t検定）（1）	同上
9	2つの平均値の差の検定（t検定）（2）	同上
10	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（1）	同上
11	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（2）	同上
12	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（3）	同上
13	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（4）	同上
14	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（5）	同上
15	全講義内容のまとめと復習	全学習内容の復習，学期末試験準備
16	学期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

毎回配付資料を配付します。適宜参考文献等を紹介します。

学びの手立て

講義に欠席した場合には，適宜課題を課します。基本の復習と実際に使ってみることを繰り返し，理解を深めていって下さい。

評価

毎回の演習課題のクリアと最終試験に合格すること（6割以上）が単位認定の基準になります。評価は，平常点30%，期末試験70%として行います。

学びの継続

次のステージ・関連科目

心理統計学Ⅱも履修することで，代表的心理学統計法を一通り学ぶことができます。

※ポリシーとの関連性　論理的に説明できる力を身につけるための実証的研究法を学ぶ科目
かつ客観的な人間理解の技術を学ぶ科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	心理統計学Ⅰ	前期	土１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤　光男	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

本科目は，心理学において用いられる統計的分析法について，その基本的理解ができ，心理学論文等での報告されている解析結果の読み取りができるようにすること，そして，主要な統計解析については自ら実施できるようにすることが目標です。心理統計学Ⅰにおいては，記述統計と推計学の中のt検定と分散分析法について理解と修得を目標とします。

メッセージ

本科目履修前に，心理統計学基礎を履修して下さい。心理統計学は心理学論文を理解するためにも，実際に研究をする上でも必要なものです。理解のレベルには基礎レベルと発展レベルなど何段階か設けます。受講生全員が基礎レベルをクリアして，実際に使用しながらその理解を深めていくことを目指します。

到達目標

1.心理統計学の基礎を理解している。2.解説した統計法を理解し，その解析結果の読み取りができる。3.研究方法に合わせた適切なデータの解析法を選択し，実際に解析法を行い，結果の解釈や考察ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション，統計学に必要な数学的知識	次回講義内容の予習
2	記述統計（度数分布，代表値，散布度，正規分布）(1)	講義内容の復習と予習
3	記述統計（度数分布，代表値，散布度，正規分布）(2)	同上
4	記述統計（散布図，相関係数，回帰分析）	同上
5	記述統計（クロス集計表，連関係数）	同上
6	統計的検定の基本的考え（仮説検定）	同上
7	統計的検定の基本的考え（効果量，信頼区間，検定力）	同上
8	2つの平均値の差の検定（t検定）（1）	同上
9	2つの平均値の差の検定（t検定）（2）	同上
10	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（1）	同上
11	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（2）	同上
12	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（3）	同上
13	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（4）	同上
14	3つ以上の平均値の差の検定（分散分析）（5）	同上
15	全講義内容のまとめと復習	全学習内容の復習，学期末試験準備
16	学期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

毎回配付資料を配付します。適宜参考文献等を紹介します。

学びの手立て

講義に欠席した場合には，適宜課題を課します。基本の復習と実際に使ってみることを繰り返し，理解を深めていって下さい。

評価

毎回の演習課題のクリアと最終試験に合格すること（6割以上）が単位認定の基準になります。評価は，平常点30%，期末試験70%として行います。

学びの継続

次のステージ・関連科目

心理統計学Ⅱも履修することで，代表的心理学統計法を一通り学ぶことができます。

※ポリシーとの関連性　論理的に説明できる力を身につけるための実証的研究法を学ぶ科目
かつ客観的な人間理解の技術を学ぶ科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名	期 別	曜日・時限	単 位
心理統計学Ⅱ	後期	土１	2
担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
-遠藤　光男	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

本科目は，心理学において用いられる統計的分析法について，その基本的理解ができ，心理学論文等での報告されている解析結果の読み取りができるようにすること，そして，主要な統計解析については自ら実施できるようにすることが目標です。心理統計学Ⅱにおいては，比の差の検定や，重回帰分析，因子分析などの多変量解析について理解と修得を目標とします。

メッセージ

本科目履修前に，心理統計学基礎と心理統計法Ⅰを履修して下さい。心理統計学は心理学論文を理解するためにも，実際に研究をする上でも必要なものです。理解のレベルには基礎レベルと発展レベルなど何段階か設けます。受講生全員が基礎レベルをクリアして，実際に使用しながらその理解を深めていくことを目指します。

到達目標

1.心理統計学の基礎を理解している。2.解説した統計法を理解し，その解析結果の読み取りができる。3.研究方法に合わせた適切なデータの解析法を選択し，実際に解析法を行い，結果の解釈や考察ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション，心理統計学Ⅰの復習	次回講義内容の予習
2	比の差の検定（χ2検定等）(1)	講義内容の復習と予習
3	比の差の検定（χ2検定等）(2)	同上
4	多変量解析の概要	同上
5	重回帰分析（1）	同上
6	重回帰分析（2）	同上
7	重回帰分析（3）	同上
8	因子分析（1）	同上
9	因子分析（2）	同上
10	因子分析（3）	同上
11	クラスター分析	同上
12	共分散構造分析	同上
13	その他の統計的分析法（1）	同上
14	その他の統計的分析法（2）	同上
15	全講義内容のまとめと復習	全学習内容の復習，学期末試験準備
16	学期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

毎回配付資料を配付します。適宜参考文献等を紹介します。

学びの手立て

講義に欠席した場合には，適宜課題を課します。基本の復習と実際に使ってみることを繰り返し，理解を深めていって下さい。

評価

毎回の演習課題のクリアと最終試験に合格すること（6割以上）が単位認定の基準になります。評価は，平常点30%，期末試験70%として行います。

学びの継続

次のステージ・関連科目

ここで学んだ統計的分析法を卒業論文等に活かして下さい。

※ポリシーとの関連性　論理的に説明できる力を身につけるための実証的研究法を学ぶ科目
かつ客観的な人間理解の技術を学ぶ科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 心理統計学Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	土２	2
担当者 -遠藤　光男	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

本科目は，心理学において用いられる統計的分析法について，その基本的理解ができ，心理学論文等での報告されている解析結果の読み取りができるようにすること，そして，主要な統計解析については自ら実施できるようにすることが目標です。心理統計学Ⅱにおいては，比の差の検定や，重回帰分析や因子分析など多変量解析等について理解と修得を目標とします。

メッセージ

本科目履修前に，心理統計学基礎と心理統計法Ⅰを履修して下さい。心理統計学は心理学論文を理解するためにも，実際に研究をする上でも必要なものです。理解のレベルには基礎レベルと発展レベルなど何段階か設けます。受講生全員が基礎レベルをクリアして，実際に使用しながらその理解を深めていくことを目指します。

到達目標

1. 心理統計学の基礎を理解している。2. 解説した統計法を理解し，その解析結果の読み取りができる。3. 研究方法に合わせた適切なデータの解析法を選択し，実際に解析法を行い，結果の解釈や考察ができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション，心理統計学Ⅰの復習	次回講義内容の予習
2	比の差の検定（χ2検定等）(1)	講義内容の復習と予習
3	比の差の検定（χ2検定等）(2)	同上
4	多変量解析の概要	同上
5	重回帰分析（1）	同上
6	重回帰分析（2）	同上
7	重回帰分析（3）	同上
8	因子分析（1）	同上
9	因子分析（2）	同上
10	因子分析（3）	同上
11	クラスター分析	同上
12	共分散構造分析	同上
13	その他の統計的分析法（1）	同上
14	その他の統計的分析法（2）	同上
15	全講義内容のまとめと復習	全学習内容の復習，学期末試験準備
16	学期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

毎回配付資料を配付します。適宜参考文献等を紹介します。

学びの手立て

講義に欠席した場合には，適宜課題を課します。基本の復習と実際に使ってみることを繰り返し，理解を深めていって下さい。

評価

毎回の演習課題のクリアと最終試験に合格すること（6割以上）が単位認定の基準になります。評価は，平常点30%，期末試験70%として行います。

学びの継続

次のステージ・関連科目

ここで学んだ統計的分析法を卒業論文等に活かして下さい。

※ポリシーとの関連性

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	ジェンダー論	前期	木４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	澤田　佳世	２年	授業終了時に受け付けます。	

学びの準備

ねらい

〈性別〉によって分割された社会――〈女である／男である〉ことはどのような社会的意味をもち、日本や世界で〈女性〉はどのような社会状況を生きているのでしょうか。皆さんが暮らす社会の〈性別〉をめぐる「あたりまえ」を問い直し、教育、労働、家族、人口、国家・国際社会、移動・グローバル化など、ジェンダーの視点から社会の問題群に接近、その現代的課題を考察します。

メッセージ

女だから／男だから？――家族や教育、市場や国家など社会のあらゆる領域で、人間は性別によって振分けられ、意味づけられているようです。学校・部活動、バイト・就活、恋愛・結婚、出産や育児・介護、遊びや流行の音楽・ドラマなど身近な経験にふれながら、ジェンダー化された社会の仕組みと課題を考えていきましょう。

到達目標

①ジェンダーという概念とその分析概念としての深化のあり方を理解する。
②ジェンダー研究の基礎的な思考枠組みを知る。
③身近な自分の経験を、講義で学んだことと関連付けて、ジェンダーの視点から考察する。
④現代社会の様々な問題群と課題について、ジェンダーの視点から分析する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	イントロダクション	授業時に指示する
2	ジェンダーとは何か――性別の構築性と多様性	授業時に指示する
3	教育とジェンダー①子どもの社会化	授業時に指示する
4	教育とジェンダー②学校教育と性差別	授業時に指示する
5	労働とジェンダー①雇用のジェンダー構造	授業時に指示する
6	労働とジェンダー②無償労働とケアワーク	授業時に指示する
7	労働とジェンダー③有償／無償労働とジェンダー平等	授業時に指示する
8	家族・人口とジェンダー①近代家族と多様化する家族	授業時に指示する
9	家族・人口とジェンダー②少子高齢社会とジェンダー平等政策	授業時に指示する
10	家族・人口とジェンダー③福祉レジームと生活保障システム	授業時に指示する
11	家族・人口とジェンダー④世界の人口問題とリプロダクティブ・ヘルス／ライツ	授業時に指示する
12	国際社会・国家とジェンダー	授業時に指示する
13	移動・グローバル化とジェンダー①労働力の女性化と新国際分業	授業時に指示する
14	移動・グローバル化とジェンダー②ポスト新国際分業と家族のグローバル化	授業時に指示する
15	全体のまとめ――フェミニズムとジェンダー	授業時に指示する
16	学期末テスト	授業時に指示する

テキスト・参考文献・資料など

【参考文献】毎回の講義でテーマに応じた参考文献を紹介します。
全体を通した参考文献は以下のとおりです。
・伊藤公雄・牟田和恵編, 2015『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社.
・千田有紀・中西裕子・青山薫, 2013『ジェンダー論をつかむ』有斐閣.
【資料】毎回の授業でパワーポイント資料を配布します。

学びの手立て

①本講義は、受講生による「主体的学び」を重視する科目です。各回の講義終了後、配布資料と参考文献を読み、理解を深めてください。
②本講義は、基本的に担当教員による講義形式で授業を進めますが、学生への問いかけを随所に取り入れ、双方向的な授業展開を目指します。受講生数に応じて、随所でグループワーク等も盛り込む予定です。
③授業終了時に、講義内容に関して学んだこと・考えたことをコメントシートに記入してもらいます。重要な考察・問いかけについては、次回の講義開始時に受講生全員に紹介し共有します。

評価

平常点、中間テスト、学期末テスト（あるいは学期末レポート）の結果にもとづいて総合的に評価します。配点については初回講義時に説明します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　本科目では子ども家庭福祉の基礎を学ぶことにより、子どもを取り巻く諸々の課題に対し、効果的に対応できる能力を培う。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月２	2
担当者 -上原　健二	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」では、現代の社会環境における子どものニーズについて考えるとともに、歴史的な視点からも支援の価値について理解する。また、それを支える子ども家庭福祉の法体系、サービス、関係機関などについて概観し、子どもが主体的な存在として位置づけられるよう努力しなければならないことを理解する。

メッセージ

日常で触れる諸々の情報のなかから、子どもを取り巻くニーズを意識的に関心を持ち、考える姿勢が求められる。子どもや保護者にとって求められる「真」のニーズは何かについて、自分自身を振り返りながら授業を通して考えていければ良い。

到達目標

現代社会における子どもを取り巻く諸々の課題を多角的に捉えるとともに、身近な存在である家庭やそれを取り巻く社会環境を踏まえた視点を獲得する。また、それらを支援するための制度・サービス、関係機関について理解し、連携のあり方を踏まえた相談援助の方法を理解することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション、児童・家庭への支援と社会福祉	
2	第1章　子ども家庭福祉の理念	第1章予習：テキストの読み込み
3	第2章　現代社会と子ども・家庭	第2章予習：テキストの読み込み
4	子どもの育ち、子育てのニーズ	わからない語句を調べるなど。
5	第3章　①子ども家庭福祉の計画的進展と子ども・子育て支援制度の創設	第3章予習：テキストの読み込み
6	②子ども家庭福祉の法体系	
7	③子ども家庭福祉の実施体制	
8	④子ども家庭福祉の財政	
9	⑤子ども家庭福祉の専門職	
10	⑥子ども家庭福祉と権利擁護	
11	第4章　①子どもの貧困の防止	第4章予習：テキストの読み込み
12	②社会的養護（施設体系・里親制度）	わからない語句を調べるなど。
13	③母子保健	
14	④児童虐待対策	
15	第5章　子ども家庭福祉相談援助活動	第5章予習：テキストの読み込み
16	期末テスト	

テキスト・参考文献・資料など

・社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座15　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規出版
・ミネルヴァ書房編集部（最新年）『社会福祉小六法　最新年版』ミネルヴァ書房

学びの手立て

授業に対して積極的に取り組むのはもちろんのこと、自らの関心に沿った社会の情報に触れ、新聞やインターネットの情報をスクラップするなどして整理すること。

評価

授業態度、出欠状況、レポート及びテストを総合的に判断して評価を行う。また、開講時間数の３分の２以上出席しなければ期末試験を受けられないので、注意すること（公欠は配慮する）。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「スクールソーシャルワーク論」やその他の社会福祉士関連科目とのつながりを意識すること。

※ポリシーとの関連性　多様性の中の調和が求められる社会において、「個性」の相互理解は重要な要素である。本講義では「個性」を心理学的に考える。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 人格心理学	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木１	2
担当者 -榎木　宏之	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

個別性の重視という独自の視点を有する人格心理学において、歴史的成り立ちだけでなく、現在も学問的発展を遂げている側面にも焦点を当てて、パーソナリティを包括的に捉える枠組みを身につける。

メッセージ

「個性とは一体何か？」ということを心理学的な視点で多面的に見てみませんか？

到達目標

本講義では，「その人らしさ」を特徴づけるパーソナリティ（人格）に着目し，個人差のあるパーソナリティはどこに由来し，いかに測定されるのかを理解する。また，適応・不適応的なパーソナリティのあり方について心理学の諸理論を通して理解する。

さらに，最近のパーソナリティ研究の動向を紹介し，「その人らしさ」を心理学的に探究する視点の獲得を目指す。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	第１回　オリエンテーション：パーソナリティとは何か	復習及び関連文献調べ
2	第２回　類型論と特性論（１）	〃
3	第３回　類型論と特性論（２）	〃
4	第４回　パーソナリティ形成の遺伝的要因・環境的要因（１）	〃
5	第５回　パーソナリティ形成の遺伝的要因・環境的要因（２）	〃
6	第６回　パーソナリティ形成の遺伝的要因・環境的要因（３）	〃
7	第７回　気質・脳とパーソナリティの関係	〃
8	第８回　パーソナリティの発達（１）	〃
9	第９回　パーソナリティの発達（２）	〃
10	第10回　パーソナリティのしくみと適応（１）－ 精神力動論 －	〃
11	第11回　パーソナリティのしくみと適応（２）－ 学習理論・社会認知理論 －	〃
12	第12回　パーソナリティと対人関係	〃
13	第13回　パーソナリティの病理	〃
14	第14回　文化とパーソナリティ	〃
15	第15回　パーソナリティの探究－ 人格心理学の研究 －	〃
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

・テキスト：指定なし。講義は主に配布資料を用いて行う。
・【参考文献】詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊（2003）『性格心理学への招待［改訂版］～自分を知り他者を理解するために ～』　サイエンス社.

学びの手立て

・履修上の注意事項：遅刻や欠席をしないこと
・毎回の講義で獲得するパーソナリティに関する理解を定着させるためにも、復習は重要である。

評価

・期末テスト、および受講態度を総合的に判断して評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・講義で関心をもった分野について、復習時に自主的に関連文献にあたりながら問題について考えることで、他者の知識が初めて「自分のもの」になると思われる。
・文学、芸術などにおける人間の営みにも触れることで、感受性を養うことも、心理学に対する理解に深みをもたらすと思われる。

※ポリシーとの関連性　社会福祉士受験資格科目であり、社会福祉専門職者の育成に関連します。

[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 人体の構造と機能及び疾病	期 別	曜日・時限	単 位
	集中	集中講義	2
担当者 外間　直樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

社会福祉士および精神保健福祉士に求められる医学的知識を基礎から学ぶ科目です。多職種との連携が求められる専門職者に必要な知識であり、また、他科目との関連性も強い科目です。

メッセージ

幅広い知識を短期間で学びますので、欠席をすると講義内容がわからなくなります。体調管理に気をつけながら学びましょう。

到達目標

身体の構造、疾病や障害等の定義や種類について理解できるようになります。また、医学と福祉の連携のあり方について理解を深めることができるようになります。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	人の成長・発達と老化①身体の成長・発達	教科書の予習復習、宿題
2	人の成長・発達と老化②精神の成長・発達、老化	以下同じ
3	身体構造と身心の機能①人体部位の名称	
4	身体構造と身心の機能②各器官等の構造と機能	
5	疾病の種類と症状①悪性腫瘍、生活習慣病、その他	
6	疾病の種類と症状②神経、精神疾患、難病、その他	
7	障害の概要①医学モデルによる障害分類	
8	障害の概要②精神疾患の診断・統計マニュアル（DSM）の概要	
9	リハビリテーションの概要①リハビリテーションの定義、目的、対象	
10	リハビリテーションの概要②リハビリテーションの方法	
11	国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要①ICIDHからICFへ	
12	国際生活機能分類(ICF)の基本的考え方と概要②分類の概要	
13	健康のとらえ方①WHOによる健康の捉え方	
14	健康のとらえ方②その他の定義	
15	多職種連携の課題	
16	まとめ	

テキスト・参考文献・資料など

社会福祉士養成講座編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座〈1〉　人体の構造と機能及び疾病 第3版』中央法規出版　を各自購入しておいてください。

学びの手立て

①履修の心構え：集中講義形式のため、1日欠席すると講義内容がわからなくなります。健康管理に留意し、皆出席をしましょう。　②学びを深めるために：幅広い知識を短期間に学ぶので、講義に集中することに加えて参考文献を読むなどして理解を深めましょう。

評価

講義の最初に詳細を説明します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会福祉関連科目の学びにつなげてください。次のステージとしては、国家試験の準備に活かして下さい。

※ポリシーとの関連性　現代社会における諸問題に関心を持ち、課題解決に役立つ対人援助力を身につける、実践的な専門科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 ストレス・マネジメント	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	土４	2
担当者 上田幸彦、平山篤史、赤嶺遼太郎、滝友秀、他社会人特別講師	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	上田まで	

学びの準備

ねらい

心身の健康の維持・増進・回復への支援を考えるとき、ストレスについての諸理論と実践的支援法を学ぶことは重要である。この講義では、ストレスの基本的理論を学習し、実際に臨床現場で用いられているストレス支援の心理学的支援技法について学ぶ。

メッセージ

到達目標

受講学生が、日常生活でのストレスへ適切に対処し、自らの心身の健康の維持増進に学んだことを活用できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション/ストレスとは何か	配布資料の復習
2	ストレスと身体・ストレス関連疾患	配布資料の復習
3	心理学的ストレスモデルの概要とその構成要因	配布資料の復習
4	ストレス援助要因①パーソナリティとその研究	配布資料の復習
5	ストレス援助要因②対人関係とその研究	配布資料の復習
6	ストレスの測定と評価	配布資料の復習
7	対処法/リラクセーション総論	配布資料の復習
8	理論：自律訓練法	配布資料の復習
9	実技：自律訓練法	自律訓練法の実践
10	理論と実技：呼吸法	呼吸法の実践
11	理論と実技：マインドフルネス瞑想	マインドフルネス瞑想の実践
12	理論：動作法	配布資料の復習
13	実技：動作法	動作法の実践
14	理論と実技：認知行動療法①	配布資料の復習
15	理論と実技：認知行動療法②	配布資料の復習
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

参考文献：
図解雑学ストレス　ナツメ社
中野敬子著　ストレスマネジメント入門　金剛出版
日本ストレス学会編　ストレス科学事典　実務教育出版

学びの手立て

講義に出てくるストレス対処技法は実際に自分でやってみること。

評価

授業中に行うミニレポート・最終試験結果を総合的に判断して評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

生理心理学　臨床心理学　行動療法

※ポリシーとの関連性　学科カリキュラムポリシー１の「社会福祉専門職を養成する教育」と２の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目です。　［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	精神医学	通年	水６	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	伊室伸哉　他オムニバス講師	２年	人間福祉学科　知名孝	

学びの準備

ねらい

この講義では、いわゆる「精神医学」と言われる学問分野の基礎編を中心に講義します。福祉や心理実践において必要最低限の知識を提供していきます。

メッセージ

精神科医を中心に、それぞれの講師が専門としている分野について講義を行っていきます。さまざまな実践分野に応用可能な精神医学の知識を共有していきます。

到達目標

①精神医学総論の習得
②精神医学各論・疾病論の習得
③精神医学の知識を実際の事例への応用の習得

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義の導入およびオリエンテーション	教科書第1章及び第2章
2	精神医学論・精神障害の理解１	教科書第1章及び第2章
3	精神医学論・精神障害の理解２	教科書第1章及び第2章
4	精神疾患の症状と診断	教科書第3章
5	器質性精神障害１	教科書第4章第1節
6	器質性精神障害２	教科書第4章第1節
7	精神物質使用による精神及び行動の障害１	教科書第4章第2節
8	精神物質使用による精神及び行動の障害２	教科書第4章第2節
9	統合失調症１	教科書第4章第3節
10	統合失調症２	教科書第4章第3節
11	精神疾患の治療	教科書第5章
12	精神科医療機関の治療構造及び専門病棟・精神科治療における人権１	教科書第6章、第7章、第8章
13	精神科医療機関の治療構造及び専門病棟・精神科治療における人権２	教科書第6章、第7章、第8章
14	気分障害１	教科書第4章第4節
15	気分障害２	教科書第4章第4節
16	神経症障害、ストレス関連障害等１	教科書第4章第5節
17	神経症障害、ストレス関連障害等２	教科書第4章第5節
18	成人のパーソナリティおよび行動の障害他	教科書第4章第6節、第7節
19	児童精神医学１	教科書第4章第8節～第10節
20	児童精神医学２	教科書第4章第8節～第10節
21	児童精神医学３	教科書第4章第8節～第10節
22	EPAと精神医学１	事前の資料学習
23	EPAと精神医学２	事前の資料学習
24	ジェンダーと精神医学１	事前の資料学習
25	ジェンダーと精神医学２	事前の資料学習
26	触法精神医学１	事前の資料学習
27	触法精神医学２	事前の資料学習
28	精神医学と地域実践１	事前の資料学習
29	精神医学と地域実践２	事前の資料学習
30	精神医学と地域実践３	事前の資料学習
31	講義のまとめ・試験	講義の復習

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。 『新・精神保健福祉士養成講座１　精神疾患とその治療』日本精神保健福祉士養成校協会編集　中法規出版（第２版）
	学びの手立て
	評価 ①講義への参加・出席 ②課題の提出 ③講義中のディスカッション等への参加状況 ④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容 これらを総合的に判断します。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など

※ポリシーとの関連性　「学科カリキュラムポリシー１の「社会福祉専門職を養成する教育」と２の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目です。」　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 精神障害者の生活支援システム	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水６	2
担当者 -兼浜　克弥	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	ptt960@okiu.ac.jp にて受け付けします。	

学びの準備

ねらい

障害の概念をICFの視点から理解すると同時に、精神障害者の生活実態やニーズを把握し、精神障害者の地域での自立と社会参加を促進するための生活支援システムを精神障害当事者と同じ視点に立ちながら、共に生き方を模索するという『精神保健福祉士』としての具体的な活動のポイントをマスターする。

メッセージ

精神障害者の生活支援について必要な基礎知識を学びながら、普段意識することのない「私たちの生活」を感じた時に気付く「人間らしく生きること」を学びます。

到達目標

精神保健福祉士として、精神障害者をサポートしていく上で必要なスキルを獲得し、精神疾患になっても安心して生活できる社会のあり方を理解する。　「もしも自分が精神障害者になったら・・・」という視点を大事に支援活動を行うことで、人間らしく生きるために必要な気づきを獲得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス　講義の目的について	
2	精神障害者の概念①	
3	精神障害者の概念②	
4	精神障害者の生活の実際①	
5	精神障害者の生活の実際②	
6	精神障害者の生活と人権	
7	精神障害者の地域生活支援システム①	
8	精神障害者の地域生活支援システム②	
9	精神障害者の居住支援①	
10	精神障害者の居住支援②	
11	精神障害の雇用・就業支援①	
12	精神障害の雇用・就業支援②	
13	行政における相談援助	
14	精神障害当事者との語らい①	
15	精神障害当事者との語らい②	
16	まとめ　試験またはレポート提出	

テキスト・参考文献・資料など

①『技法以前―べてるの家のつくりかた（シリーズ ケアをひらく）』　向谷地 生良　著　医学書院

②精神障害者の生活支援システム 日本精神保健福祉養成校協会　編集

①をテキストとして使用します。講義内で読み合せしながら、精神障害者へのまなざしのコツを学びます。
②精神保健福祉士として精神障害者を支援するために必要な基礎知識を学びます。（資料配布）

学びの手立て

講義参加者が感じたことを発言しやすい席の配置を工夫します。

講義内で把握した専門用語について、インターネット検索などを活用しながら再確認して頂く。
精神障害者の生活支援の現状の課題などを動画を通してさらに理解を深める。
精神障害者の生活支援における課題とは何か？その課題解決のために何が必要なのか？　講義を通して感じた「？：疑問」を大事にしてもらいたい。

評価

出席、課題、講義中の参加態度（５０％）、試験またはレポート（５０％）によって評価する

学びの継続

次のステージ・関連科目

講義後半もしくは講義終了後に予定される現場実習にて感じる「？：疑問」と講義内容で感じた疑問「？：疑問」はどのように違うのか？その違いはなぜ起こったのか？を検証するために、『精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ｉ』を履修することを勧めます。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシー1. 社会福祉専門職を養成する教育および2. 実践的活動を重視した教育に対応している。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 精神保健学Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木６	2
担当者 -渡邊　浩樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

今後社会福祉実践を行って行く上で、メンタルヘルスは避けて通れないテーマとなっています。この講義では、メンタルヘルスの現状とともに、それをどのように見ていくのかを受講する学生のみなさんに考えていたたくような講義になります。

メッセージ

これまで社会福祉の対象としてきた高齢者や障害者だけではなく、職場や学校でのストレス・不適応等のために精神的不調に陥り、支援実践の対象となってきている人達も少なくありません。身近な精神保健について考えていきます。

到達目標

1 精神保健やメンタルヘルスの歴史・現状についての理解がすすむ
2 精神保健やメンタルヘルス実践の対象となっている人達の実情についての理解がすすむ
3 地域における精神保健実践について考えることができるようになる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義の導入およびオリエンテーション	
2	看護のための精神医学　1	
3	看護のための精神医学　2	
4	看護のための精神医学　3	
5	看護のための精神医学　4	
6	看護のための精神医学　5	
7	ドキュメンタリー映像資料	
8	看護のための精神医学　6	
9	看護のための精神医学　7	
10	看護のための精神医学　8	
11	ドキュメンタリー映像資料	
12	看護のための精神医学　9	
13	看護のための精神医学　１０	
14	看護のための精神医学　１１	
15	ドキュメンタリー資料映像	
16	まとめ・試験	

テキスト・参考文献・資料など

詳細は講義の際に説明します。
テキストとして、「看護のための精神医学　中井久夫＋山口直彦著」を使用します。統合失調症と向き合う事始めにしたいと思います。毎回テキストのコピーを配布します。その他、月に一度、福祉的な視点から統合失調症に関わるドキュメンタリー資料映像を視聴していただき、議論したいと思います。

学びの手立て

精神保健の分野には多様性があります。是非自分の興味のある分野を特定できていくといいかと思います。

評価

1 講義への参加・出席
2 課題の提出
3 講義中のディスカッション等への参加状況
4 期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容
これらを総合的に判断します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

精神保健福祉士養成課程の学生は以下の科目が関連科目となる
関連科目:精神保健福祉士受験資格科目　　次のステージ:精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など
精神保健福祉士養成課程以外の学生は、「精神医学」（通年）の履修も参考となる。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシー1. 社会福祉専門職を養成する教育および2. 実践的活動を重視した教育に対応している。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	精神保健学Ⅱ	後期	木６	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊　浩樹	２年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

前期の精神保健学Ⅰの基礎を発展させ、当事者の言葉に耳を傾け、注目すべき支援の取り組みを取り上げて、検討します。更に視野を広げて、諸外国の事情・動向に注目します。後期からの参加も十分に可能です。

メッセージ

メンタルヘルスは医療、ましてや薬物療法のみで達成されものではありません。地域の様々な方々の参入、関わりの可能性を感じていただけたらと思います。

到達目標

1 精神保健やメンタルヘルスの歴史・現状についての理解か すすむ
2 精神保健やメンタルヘルス実践の対象となっている人達の実情についての理解か すすむ
3 地域における精神保健実践について考えることか て きるようになる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義の導入およびオリエンテーション	
2	看護のための精神医学　1	
3	看護のための精神医学　2	
4	看護のための精神医学　3	
5	ドキュメンタリー資料映像	
6	看護のための精神医学　4	
7	看護のための精神医学　5	
8	看護のための精神医学　6	
9	ドキュメンタリー資料映像	
10	看護のための精神医学　7	
11	看護のための精神医学　8	
12	看護のための精神医学　9	
13	ドキュメンタリー資料映像	
14	看護のための精神医学　１０	
15	看護のための精神医学　１１	
16	まとめ・試験	

テキスト・参考文献・資料など

詳細は講義の際に説明する。
精神保健学Ⅰに引き続き「看護のための精神医学」をテキストとして掲げておきますが、随時、課題に応じたテキストを配布します。

学びの手立て

精神保健の分野には多様性か あります。是非自分の興味のある分野を特定て きていくといいかと思います。

評価

1 講義への参加・出席
2 課題の提出
3 講義中のテ ィスカッション等への参加状況
4 期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容
これらを総合的に判断します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

精神保健福祉士養成課程の学生は以下の科目が関連科目となる
関連科目:精神保健福祉士受験資格科目　　次のステーシ ゛:精神保健福祉援助演習および 精神保健福祉援助実習など゛
精神保健福祉士養成課程以外の学生は、「精神医学」（通年）の履修も参考となる。

※ポリシーとの関連性　学科カリキュラムポリシー１の「社会福祉専門職を養成する教育」と２の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目です。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月６	2
担当者 -高橋　忍(8回)、真栄平　努(8回)	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	学務課を通して担当講師に連絡するようお願いします	

学びの準備

ねらい

この講義は主に精神保健福祉士を目指している学生に対して、精神保健福祉士としての実践の基本的な視点を身についてもらうための内容となっています。社会福祉の中でも、精神障害者を中心とした人達との共存のありかたを考えることのできる講義にしていきます。

メッセージ

精神障害者への「支援」ではなく、「共存」の在り方を考えていける講義であればいいと思っています。

到達目標

①社会福祉実践の基礎的な視点を持てるようになる。
②精神障害者が障害・疾患を抱えて生きる現実と生きづらさへの共感的視点を養う。
③精神医療・保健・福祉・教育をはじめとする、様々な関連機関の実践の現状（連携協力とすれちがい）についてとらえることができるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義の導入およびオリエンテーション	教科書p2～37
2	精神保健福祉士の役割と意義１	教科書p2～37
3	精神保健福祉士の役割と意義２	教科書p2～37
4	社会福祉士の役割と意義１	教科書p38～53
5	社会福祉士の役割と意義２	教科書p38～53
6	相談援助の価値と理念１	教科書p78～97
7	相談援助の価値と理念２	教科書p78～97
8	相談援助の形成過程１	教科書p98～135
9	相談援助の形成過程２	教科書p98～135
10	精神保健福祉分野における相談援助の体系１	教科書p136～165
11	精神保健福祉分野における相談援助の体系２	教科書p136～165
12	精神保健福祉分野における相談援助の体系３	教科書p136～165
13	精神保健福祉分野における専門職の概念と範囲	教科書p166～205
14	精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲	教科書p206～255
15	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携	教科書p256～289
16	講義のまとめ・試験	今期の講義の復習

テキスト・参考文献・資料など

詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。
『新・精神保健福祉士養成講座３　精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）』日本精神保健福祉士養成校協会編集　中法規出版

学びの手立て

評価

①講義への参加・出席
②課題の提出
③講義中のディスカッション等への参加状況
④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容
これらを総合的に判断します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：精神保健福祉士受験資格科目
次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など

※ポリシーとの関連性　「学科カリキュラムポリシー１の「社会福祉専門職を養成する教育」と２の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目です。」　［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	精神保健福祉に関する制度とサービス	通年	火６	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	熊谷　晋（17）、比嘉　俊江（11）、唐木　増久（3）	２年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

精神疾患のケアや再発の予防だけでなく、精神疾患を患いつつも結婚や子育てなど日常生活をどのように支えるか実践事例などの活用しながら、今後の精神保健福祉のありかたや、支援者として制度・サービスをどのように活かすことが求められているかを考察する。

メッセージ

近年、福祉制度はより良い制度を目指しながら法改正を繰り返している。その制度を扱う支援者の関わり方が支援へ大きく影響を与えることから、講義では制度の理解と、制度があることの意味を検討する。

到達目標

精神保健福祉制度やサービスの利用が該当するかどうかという判断力だけでなく、支援を提供することで支えられることと、支援を提供することで失うものなど、日常生活や社会的環境との相互関係を理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	精神障害者のおかれている状況について　－精神医療の現場から－	
2	精神障害者の相談援助活動について　－歴史・Ｙ問題－	
3	精神障害者の相談援助活動について	
4	精神保健福祉法の成立まで　－経過・意義・その後－	
5	精神保健福祉法の成立まで　－経過・意義・その後－	
6	精神保健福祉法について　－法律の概要―	
7	精神保健福祉法について　－法律の概要―	
8	社会保障制度の概要　－医療保険・介護保険－	
9	経済的支援に関する制度　－生活保護・年金等－	
10	経済的支援に関する制度　－生活保護・年金等－	
11	再考　－精神障害者のおかれている状況について－	
12	地域生活をする精神障害者の現状と課題	
13	地域生活を支える制度やサービスの目的	
14	地域生活を支える制度やサービス利用について	
15	支援者と当事者の関係性について	
16	支援者と当事者の関係性について	
17	地域生活をするうえで有効な手立てを検討する	
18	地域生活をするうえで有効な手立てを検討する	
19	地域生活をするうえで有効な手立てを検討する	
20	制度という枠組みからこぼれてしまう課題のジレンマ	
21	制度という枠組みからこぼれてしまう課題のジレンマ	
22	複数の制度にまたがる課題への支援	
23	複数の制度にまたがる課題への支援	
24	地域に求められ鵜精神保健福祉を事例をもとに考察する	
25	地域に求められ鵜精神保健福祉を事例をもとに考察する	
26	再考　地域生活を支えるとはなにか	
27	地域支援についてレポートにまとめる	
28	医療観察法の概要	
29	社会復帰調整官の役割	
30	社会復帰調整官と地域支援	
31		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義では下記のものを教科書として使用します。 新・精神保健福祉士養成講座６「精神保健福祉に関する制度とサービス」　中央法規　￥2,700（税別） 制度を理解するために「障害者総合支援法とは・・・」　東京都社会福祉協議会　￥400（税別）
	学びの手立て 講義形式とグループディスカッションを併用してカリキュラムを進めていきます。そのために制度とサービスの概要だけでなく、学生同士での意見交換を求め、相談援助として必要なコミュニケーションを意識して下さい。 評価は、基本的に出席状況を重視します。
	評価 各、講師が求めるレポート提出30%、出席状況70%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：精神保健福祉士受験資格科目 次のステージ：精神保健福祉援助演習および精神保健福祉援助実習など

※ポリシーとの関連性　学科カリキュラムポリシー１の「社会福祉専門職を養成する教育」と２の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目です。　［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	前期	木５	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名　孝	２年	人間福祉学科　知名孝	

学びの準備

ねらい

精神障害者への理解とリハビリテーション、そして地域支援の方法と現状を紹介していく中で、私たちが精神障害（者）とどのように向き合うべきかを考えていく講義です。精神障害を抱える人達とその家族を支えていく福祉職にとって基本的な視点を与える講義となります。具体的なケース検討などを交えながら講義を進めて行きます。

メッセージ

精神障害者を抱えるのは本人と家族だけではありません。私たち社会が、精神障害者とどう共存するかということは、私たち社会が抱える精神障害であり、精神疾患なのです。社会の一員として避けてはいけない問題として考えていくことが必要です。

到達目標

①精神障害者の歴史を理解した上で、彼らが抱える「生きづらさ」に関しての理解がすすむ。
②精神障害者のリハビリテーションと地域支援についての理解がすすむ。
③精神障害者への相談・支援の具体的方法論について習得する。
④具体的支援方法を以下に適応するかについての「支援のコツ」について習得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	導入・基礎知識の確認	教科書1第1章
2	基礎知識の確認	教科書1第1章
3	基礎知識の確認	教科書1第1章
4	精神保健医療福祉の歴史と動向	教科書1第1章
5	精神保健医療福祉の歴史と動向	教科書1第1章
6	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第2章
7	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第2章
8	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と必要な知識	教科書1第2章
9	精神科リハビリテーションの概念と構成	教科書1第3章
10	精神科リハビリテーションの概念と構成	教科書1第3章
11	精神科リハビリテーションの概念と構成	教科書1第3章
12	精神科リハビリテーションのプロセス	教科書1第4章
13	精神科リハビリテーションのプロセス	教科書1第4章
14	精神科リハビリテーションのプロセス	教科書1第4章
15	事例検討・まとめ	
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

詳細は講義の際に説明する。以下のテキストの使用を検討している。
『新・精神保健福祉士養成講座５　精神保健の理論と相談援助の展開Ⅰ・Ⅱ』日本精神保健福祉士養成校協会編集　中法規出版

学びの手立て

評価

①講義への参加・出席
②課題の提出
③講義中のディスカッション等への参加状況
④期末テスト・期末課題の提出の有無とその内容　　これらを総合的に判断します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

精神保健福祉士養成課程の学生は以下の関連科目があります。
次のステージ・関連科目　関連科目：精神保健福祉士受験資格科目

※ポリシーとの関連性　人間のこころや行動を生理学的に考え，理解するための知識を習得する。（カリキュラムポリシーの1に該当）　［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	生理心理学Ⅰ	前期	木３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤　直子	２年	ptt234@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

生理心理学とその関連領域に関する基本的知識に最新の知見を交えながら解説する。生理心理学のなかでも脳や神経系の活動を測定する方法は，最近の脳科学の目覚ましい発展を反映して，より重要性を増している。本講義では，こういった現状を鑑み，脳神経系の基礎を重点的に学習する。

メッセージ

どのような領域を専門に学んでいくにも，脳や神経の基礎を知っておいて損はありません。脳の話は難しそう，と尻込みせず楽しく学んでいきましょう。

到達目標

脳と神経の構造と機能について概説できる。また人間の精神活動に対する生理心理学のアプローチの仕方を理解し，興味や関心を高める。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス，生理心理学とは	資料の見直し
2	脳の構造①	資料の見直し
3	脳の構造②	資料の見直し，復習テストを解く
4	ニューロンとシナプス①	資料の見直し，課題作成
5	ニューロンとシナプス②　第1回課題提出	資料の見直し，復習テストを解く
6	感覚・知覚と脳①	資料の見直し
7	感覚・知覚と脳②	資料の見直し
8	運動と脳①	資料の見直し
9	運動と脳②	資料見直し，復習テスト，課題作成
10	本能と脳①　第2回課題提出	資料の見直し
11	本能と脳②	資料の見直し
12	情動と脳①	資料の見直し
13	情動と脳②	資料の見直し
14	自律神経系及び内分泌系と脳①	資料の見直し，課題作成
15	自律神経系及び内分泌系と脳②　第3回課題提出	資料の見直し，復習テスト
16	テスト	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは使用しない。講義毎に資料を配付する。指定図書「脳とこころの不思議な関係　生理心理学入門」古川聡他　川島書店　「バイオサイコロジー」ピネル　西村書店。その他、参考図書は適宜紹介する。

学びの手立て

生理心理学Ⅰ・Ⅱの順で続けて履修することが望ましい。毎回，講義終了時に，質問・感想・発見等を書いて提出してもらいます。次回の講義時にそれらに対するコメント返しを配布します。疑問点や気づきを皆で共有し，理解を深める助けにして下さい。また、単元ごとに復習テストを配布しますので、授業外学習に利用してください。脳損傷の話や脳の画像などが講義では出てきます。万が一気分が悪くなった場合は，退室し，気分転換をしてから教室に戻っても構いません。

評価

期末試験（1回）及びミニレポート（3本）の結果によって評価する。（試験85点，レポート15点）試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義で説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この講義で学んだ脳や神経の基礎知識を基に，「生理心理学Ⅱ」ではいくつかの個別のテーマを取り上げ，より理解を深めていきます。

※ポリシーとの関連性　人間のこころや行動を生理学的に考え，理解するための知識を習得する。（カリキュラムポリシーの1に該当）　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	生理心理学Ⅱ	後期	木３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤　直子	２年	ptt234@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

生理心理学とその関連領域に関するいくつかの個別のテーマを取り上げ、最新の知見を交えながら解説する。

メッセージ

生理心理学のテーマは、薬物依存など比較的身近なものから、脳波のように日常生活ではあまり触れる機会のないものまで多岐に渡りますが、難しそう，と尻込みせず楽しく学んでいきましょう。

到達目標

失語症や薬物依存といった比較的身近な事象について、その種類や特徴、メカニズムを説明できるようになる。また、脳波や筋電図といった重要な生理心理学的指標について、メカニズムや分析法を理解し、利用法について説明できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	資料の見直し
2	薬物と脳①（薬物のタイプと依存）	資料の見直し
3	薬物と脳②（オピオイド、覚醒剤）	資料の見直し
4	薬物と脳③（アルコール）	資料見直し，復習テスト，課題作成
5	言語とラテラリティ①（ラテラリティのテスト法）　第1回課題提出	資料の見直し
6	言語とラテラリティ②（言語野と失語症）	資料の見直し
7	言語とラテラリティ③（言語機能と性差）	資料の見直し
8	言語とラテラリティ④（右半球症状からみた半球機能差）	資料の見直し，復習テスト
9	脳波①（測定法、分析法）	資料の見直し，課題作成
10	脳波②（基本の脳波と異常脳波）　第2回課題提出	資料の見直し
11	脳波③（睡眠時の脳波及び脳波の利用）	資料の見直し
12	事象関連電位、特にP3の特徴と利用	資料の見直し，復習テスト
13	感情，筋電図①（情動理論，感情と健康の相互作用）	資料の見直し
14	感情，筋電図②（筋電図測定法とバイオフィードバック）	資料の見直し，課題作成
15	感情，筋電図③（表情の分析）　第3回課題提出	資料の見直し，復習テスト
16	テスト	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは使用しない。講義毎に資料を配付する。指定図書「脳とこころの不思議な関係　生理心理学入門」古川聡他　川島書店、「バイオサイコロジー」ピネル　西村書店、「脳波の旅への誘い」市川忠彦　星和書店。その他、参考図書は適宜紹介する。

学びの手立て

脳や神経の基礎を学ぶ「生理心理学Ⅰ」を先に履修しておくことが望ましいが，Ⅱから履修した場合も理解できるよう，随時おさらいをしながら講義を進めます。毎回，質問・感想・発見等を書いて提出してもらい，次回の講義時にそれらに対するコメント返しを配布するので疑問点等を皆で共有し，理解を深める助けにして下さい。また単元ごとに復習テストを配布しますので，授業外学習に利用すること。脳損傷の話や脳の画像などが講義では出てきます。万が一気分が悪くなった場合は，退室し，気分転換をしてから教室に戻っても構いません。

評価

期末試験（1回）及びミニレポート（3本）の結果によって評価する。（試験85点，レポート15点）試験は持ち込み不可。レポートの詳細は講義で説明する。なお、出席日数が2/3に満たない場合は単位を与えない。

学びの継続

次のステージ・関連科目

様々な人間の行動や思考について、生理心理学的な見地から考察してみる態度を継続していって下さい。講義内では十分に取り上げることのできなかったテーマについても自分で調べてみるとよい。

※ポリシーとの関連性　社会福祉の現場のあり方を問いなおす専門性と実践力をやしなう（カリキュラムポリシー①②に対応）。　［　　／演習］

科目基本情報				
	科目名 専門演習 a	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	木２	2
	担当者 小柳　正弘	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		２年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

専門演習のねらいは、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話、体験、文献探索、調査などを通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討することである。専門演習aの具体的な目標は以下の通り。
理論的には、研究の作法を学び、卒業論文の構想を固める。
実践的には、いくつかの「現場」の現状と課題について考察する。

メッセージ

「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。

到達目標

関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、(卒業論文につながる)自身の問題意識を方法論も含めて明晰かつ判明に説明できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

＊発表／報告等のレジュメ、特定質問、コメント等の作成、ワークショップ／体験等の準備などは時間外の学習として行う。

年度当初の予定　・オリエンテーション、履修状況セルフ/ピア・チェック、リテラシー評価表の作成
・各人の問題関心の確認、上級生との合同ゼミで各自の問題意識の発表
・新入生1日合同研修ファシリテート

前期は理論的学習を主とする。

理論的学習

以下をめぐって、発表･特定質問･質疑応答･議論･コメント作成など
・白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』(ミネルヴァ書房)で論文の作法や研究の基礎をまなぶ(分担してレジュメを作成する）。
・自身の問題意識をふりかえり、研究テーマを設定。研究方法を含めた研究計画を作成。関連の先行研究を探索・整理。

実践的学習

社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動等の諸制度を利用して以下のような各種ワークショップのいずれかを実施
・オープンキャンパス･新入生一日合同研修のファシリテートなど
・ヘルマンハープによる芸術療育体験
・わらべうたや布遊びを使った芸術療育実践[お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む]
・障害者人権擁護活動や県条例等障害者法制の学習
・特別支援教育･療育のための教材教具開発･製作[学校との連携]
・園芸福祉の基礎としての農園芸[花卉･作物]
・当事者運動･学会活動の運営の一部に参加
・動物介在療育の体験

テキスト・参考文献・資料など

白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』(ミネルヴァ書房)

学びの手立て

・理論的学習においても実践的学習においても必要とされる理論的な準備を､何が必要かを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫でやってみることが肝要。
・学んだことは文字にして､他者との対話のなかで､その意義を検証する。

評価

【授業のねらい】にそって授業への関わりと卒業論文の進行状況などの成果を総合評価。以下の①～③は授業毎に評価し年度末に綜合。①授業中の発表･議論･質疑を内容と形式(積極性も含む)から評価、②ワークショップでの活動を成果･貢献と主体性･積極性から評価、③レポートなど提出物を形式と内容から評価。＊遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。＊時間外のワークショップ等も正規の授業に準じて評価の対象とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この演習は、専門演習ｂに連結するものである。

※ポリシーとの関連性　今日の社会課題を理論的に分析するとともに、実際に現場に関わりながら社会福祉実践に活かせる具体的な能力や技能を養います。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 専門演習ａ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水２	2
担当者 岩田　直子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	演習の後に受付けます。	

学びの準備

ねらい

福祉ニーズの多様化・複雑化に伴い新たなサービス提供システム、具体的には社会から排除された人々が包括され人権が保障され安心して暮らすことができるインクルーシブな社会づくりが課題となっている。演習では市民社会、ＮＰＯ、協働、インクルージョン、社会資源の発掘等をキーワードにして理論と実践を学ぶ。また、実際にアクションを起こしている人々を訪問して話を伺う。

メッセージ

地域包括支援や異分野異業種連携の方法、協働によるまちづくりの手法など、今後の社会福祉実践に求められる知識や経験をゼミの仲間と共に学んでいきましょう。また、アクションを起こした方々との交流やゼミ合宿を通して互いの知的探求心を刺激していきましょう。

到達目標

多様な人々がお互いの違いを認め合い尊重しあえる社会を構築するために社会福祉が貢献できることは何か考えを深めます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション①　ゼミの概要説明、ゼミ生自己紹介	
2	オリエンテーション②　ゼミの体制づくり、スケジュール確認	
3	講義①：現代社会をキーワードで理解する	
4	講義②：協働によるまちづくりについて理解する	
5	個別研究の目的と、作成に向けた準備方法を理解する	
6	個別面談①	
7	個別面談②	
8	個別面談③	
9	協働によるまちづくりの実践者の講話	
10	個別研究発表①	
11	個別研究発表②	
12	個別研究発表③	
13	個別研究発表④	
14	個別研究発表⑤	
15	協働によるまちづくりの実践者訪問	
16	まとめ	

テキスト・参考文献・資料など

ゼミの時間に随時紹介します。

学びの手立て

①本演習は学生ひとりひとりの主体的参加が不可欠です。誰かの指示を待つのではなく、自ら考え行動したりゼミの仲間と協力したりしましょう。
②協働によるまちづくりや障害児者に関連する講演会やシンポジウム、また、ボランティア活動に積極的に参加しましょう。
③図書館を活用し、国内外の理論や実践を広く学びましょう。

評価

研究成果発表（40%）、レポート（30%）、ゼミ活動への主体的参加（30%）、

学びの継続

次のステージ・関連科目

専門演習aで培った知識と経験を専門演習ｂにつなげていきましょう。

※ポリシーとの関連性　　高度化かつ多様化する現代社会を解読するための基礎的知識と技能を修得させ、社会福祉の周辺学問領域として社会学を学ぶ。　　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 専門演習 a	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水２	2
担当者 桃原　一彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

当演習ゼミは、関西大都市圏に在住する沖縄出身者のコミュニティに焦点を当て、その地域福祉的な課題を具体的にテーマとして調査研究を実施する。すなわち、関西大都市圏に集住する沖縄出身者に対するソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）の側面、とりわけ文化的排除の側面に着目し、今日地域福祉が抱える課題を理解するための調査を行うものとする。

メッセージ

当演習ゼミは、社会調査士資格の取得可能なゼミとして認定されています。必ず全員が社会調査を実践し、報告書を作成しなければなりません。社会調査は大変な作業ですが、社会を生きる人々の声に耳を傾けながら、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら報告書を完成させましょう。

到達目標

社会学の基礎知識と視点を身につけること。ゼミでは、社会調査の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆まで を通して、現代社会に対する洞察力をより深 めていくための共同研究・相互学習の場とする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。2年次前期（専門演習a）では、社会学の基本的な概念や分析視覚の学習を行なう。また先行的な研究の文献・資料等の収集および社会調査の予備訓練を行う。後期（専門演習b）は、本ゼミの社会調査テーマ「沖縄出身者コミュニティをめぐる地域福祉の課題」に関わる文化的排除、ディアスポラ、ポストコロニアリズムに関する文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。 この作業で導き出された下位テーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。

なお、3年次（2019年度）前期「専門演習c」、後期「専門演習d」では、調査方法、調査項目設定および調査実習に関する企画設計を行い社会調査実習に備える。その上で、兵庫県尼崎市周辺在住沖縄出身者の移動歴や地域生活を「ライフヒストリー」の視点から聞き取りを行なっていく予定である。さらに、現代の沖縄社会が抱える諸問題に関する調査グループも設ける予定である。社会調査の実施は9月～11月を予定している。調査実施後は、得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。

テキスト・参考文献・資料など

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

学びの手立て

ゼミは前年度のクラス編成によって指定されている。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。必ず３分の２以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出するこ。与えられた個別課題やグループ課題には必ず取り組んで、提出・報告すること。

評価

「専門演習a」は、「専門演習b」に向けての準備期間（社会学に関する基礎的な知識と視点を身につけること）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、受講中の態度、共同学習に対する取り組み姿勢も評価の必須項目とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：専門演習b、専門演習c、専門演習d
次のステージ：
専門演習aで身につけた社会学の基礎知識と視点を活かして、社会調査のテーマを具体化する。
また、3年次の専門演習で行われる社会調査の実践と報告書作成につなげていくこと。

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名 専門演習 a	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	水２	2
	担当者 知名　孝	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		２年	人間福祉学科　知名孝	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1）発達障害児への支援、2）インタビュー調査を学ぶことをねらいとします。月2回のソーシャルスキル・トレーニングへの参加を通じ、発達障害児への支援について学びます。後期には保護者へのライフストーリーインタビューを通じインタビュー調査への導入を行います。	
	到達目標 発達障害児とその保護者への理解。インタビュー調査方法への理解。	

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

1. 発達障害児への支援について：
　（1）基礎知識の習得：発達障害の医学的知識（診断基準、二次障害、周辺症状や問題）についての学習、発達についての概念、社会環境・子どもの生活の子どもの発達・発育への影響などについて学んでいく。
　（2）地域の児童デイサービスと親の会と実施するソーシャルスキルトレーニング、リトミックなどのグループワークを通じて、「実践」を学んでいく。
2. 発達障害児をもつ親の語りからの学び：
　（1）基礎知識と実践を積み上げた上で、発達に偏りを持つ子どもの現状、そういう子どもを持つという経験について親のインタビューを行い、語りのなかから学びを深める。
　（2）インタビューを通して、インタビューの方法、得られたデータの解釈の方法、まとめ方を学ぶ。

テキスト・参考文献・資料など

ゼミのなかで指定していく

学びの手立て

評価

出席、ゼミ活動（ゼミ中のディスカッション、活動、ボランティア実習など）、課題提出などにもとづき評価していく。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	専門演習ａ	前期	水２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ﾄﾞﾅﾙﾄﾞ ｸﾚｲｸﾞ ｳｨﾙｺｯｸｽ	２年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備

ねらい

国際福祉の現状や動向をグループ発表形式を行いながらゼミ全体で理解を深めて行く。分野は、貧困問題、移民問題、世界的な高齢化現象などを中心に学んでいく。

メッセージ

大学内だけのゼミだけではなく、施設訪問などを取り入れた授業を行う。学生には県内にはどのような国際福祉分野に関する施設があるかを情報共有して欲しい。学生の興味のある施設を見学できるよう調整していきたい。
「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。

到達目標

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	グローバリゼーション時代の意義	配付資料の精読
3	ディスカッション	
4	国際社会福祉をテーマにしたＤＶＤ鑑賞	
5	国際社会福祉の位置づけ	テキスト１章の精読
6	国際社会福祉の沿革	テキスト２章の精読
7	国際社会福祉の課題	テキスト３章の精読
8	国際社会における支援活動１	テキスト４章の精読
9	国際社会における支援活動２	テキスト４章の精読
10	ゲストレクチャーによる講演（予定）	
11	沖縄県内の国際社会福祉施設について	
12	JICA見学ツアー（予定）	
13	各国の社会福祉についての現状１	テキスト５章の精読
14	各国の社会福祉についての現状	テキスト５章の精読
15	前期まとめ	
16		

テキスト・参考文献・資料など

・川村匡由、「国際社会福祉論」　ミネルヴァ書房　を使用しながら演習を進めていく。
参考文献として
・仲村優一,他『グローバリゼーションと国際社会福祉』2002年
・ジェームス ミッジリイ（1999）『国際社会福祉論』中央法規
・その他、必要に応じて資料を配布または紹介する。

学びの手立て

履修に関して、学生の積極的な議論に参加をして欲しい。そのためには他グループの発表の前には最低でも発表予定項目・資料等の事前精読は各自必ず行い、それら知識を元に議論のための意見・質問等を積極的に行って欲しい。この活動を行うなかで自分の国際福祉分野に関する興味が持てる分野を見つけて欲しい。それが３年次の課題研究へとつながる材料となる。

評価

出席状況（50%）、ゼミ内での授業態度・発表の内容（40%）、その他（10%）を基本とし、総合的に評価を行う。特に発表や課題については行う事が前提となるので気をつけること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この講義後は「専門演習ｂ」へと繋がります。
各自興味のある海外福祉関連ボランティアや、国際フィールドワークへ参加をすすめる。
海外の福祉について考えることのできる「海外社会福祉演習Ⅰ・Ⅱ」への参加も検討して欲しい。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシーで示される、「実践的活動を重視した」視点から演習を行う。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 専門演習ａ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水２	2
担当者 安次富　郁哉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	以下の担当教員宛にメールを送信してください。　i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本専門演習aのねらいは、多様化する保健・医療・福祉の諸問題に対応できる人材を育成することである。特に、医療（病院）と福祉（在宅・高齢者福祉施設）との連携を担う人材育成に力を入れる。

メッセージ

「 医療の出口に福祉あり」をゼミスローガンとして演習をすすめるため、福祉に限らず、医療・保健にも関心を示してもらいたい。

到達目標

現在の保健・医療・福祉の動向を知り、それを身近な人に伝えることができる。また、社会で起きている問題点・課題を見いだし、いかにすれば解決できるかを考える能力・手段を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	専門演習aガイダンス	現代社会の話題を調べる
2	グループエンカウンター①仲良くなろう②だれとでも話せるようになる	エンカウンターについて
3	グループエンカウンター③グループで取り組む協働性を養う	コミュニケーションスキルについて
4	断酒会参加グループ編成	断酒会について
5	断酒会について学ぶ	アルコール依存症について
6	断酒会について学ぶ	アルコール依存症患者家族の苦悩
7	学外講師招聘（患者会会長招聘）	家族会、患者会について
8	話題提供　認知症	認知症の疫学基礎を調べる
9	話題提供　医療保険	認知症（医学的視点）とは
10	話題提供　介護保険	介護保険制度とは
11	話題提供　医療施設の種類	医療法について調べる①
12	話題提供　介護保険施設の種類	医療法について調べる②
13	生活習慣病を知ろう①	生活習慣病とは何か
14	生活習慣病を知ろう②	具体的な疾病（生活習慣病）
15	生活習慣病を知ろう③	興味のある生活習慣病を調べる
16	前期振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しない。必要に応じて関連資料を提示する。
演習時に随時紹介する。

学びの手立て

コミュニケーション力を高めるために、つねに人と接することを意識づける。また、専門演習aでは、3年生以降で課題となる、「課題研究」「卒業論文」執筆のための基礎を培う期間となるために、参考文献等検索システムであるOPAC等検索システムになれておく必要がある。

評価

演習への出席回数、演習への個人のとりくみ、グループでの取り組み状況、意見発表の積極性、課題提出状況などに基づき総合的に評価する。なお、前期・後期それぞれの欠席数が3分の1以上あった場合には単位を与えないものとする（不可とする）。

学びの継続

次のステージ・関連科目

専門演習ｃ・ｄ、卒業演習a・bで課題となる「課題研究」「卒業論文」執筆のための基礎知識を得ておく必要がある。関連科目としては、保健医療サービス、社会保障、保健福祉政策論がある。

※ポリシーとの関連性　社会福祉の現場のあり方を問いなおす専門性と実践力をやしなう（カリキュラムポリシー①②に対応）。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 専門演習ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 小柳　正弘	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

専門演習のねらいは、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話、体験、文献探索、調査などを通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討することである。専門演習bの具体的な目標は以下の通り。理論的には、研究の作法を学び、卒業論文の構想を具体的な計画へと展開する。実践的には、いくつかの「現場」の現状と課題について考察する。

メッセージ

「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。

到達目標

関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、(卒業論文につながる)自身の問題意識を方法論も含めて明晰かつ判明に説明できるようになるとともに、卒業論文の構想を研究の具体的な計画も含めて提示できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

＊発表／報告等のレジュメ、特定質問、コメント等の作成、ワークショップ／体験等の準備などは時間外の学習として行う。

学期当初の予定　・履修状況セルフ/ピア・チェック
　　・各人の問題関心の再確認、上級生との合同ゼミで各自の問題意識の発表

理論的学習

以下をめぐって、発表･特定質問･質疑応答･議論･コメント作成など

・白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』(ミネルヴァ書房)で論文の作法や研究の基礎をまなぶ(分担してレジュメを作成する）。
・大久保孝治著『ライフストーリー分析-質的調査入門』(学文社）で質的調査の作法について学ぶ(レジュメの作成と特定質問を分担する）。
・研究テーマ、研究方法、研究計画を整理し、関連の先行研究の概要を報告し、必要ならば予備調査を行う。

実践的学習

社会人特別講師の招聘や学外ゼミ・文化活動等の諸制度を利用して以下のような各種ワークショップのいずれかを実施

・オープンキャンパス･新入生一日合同研修のファシリテートなど
・ヘルマンハープによる芸術療育体験
・わらべうたや布遊びを使った芸術療育実践[お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む]
・障害者人権擁護活動や県条例等障害者法制の学習
・特別支援教育･療育のための教材教具開発･製作[学校との連携]
・園芸福祉の基礎としての農園芸[花卉･作物]
・当事者運動･学会活動の運営の一部に参加
・動物介在療育の体験

テキスト・参考文献・資料など

大久保孝治著『ライフストーリー分析-質的調査入門』(学文社)

学びの手立て

理論的学習においても実践的学習においても必要とされる理論的な準備を､何が必要かを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫でやってみることが肝要。
・学んだことは文字にして､他者との対話のなかで､その意義を検証する。

評価

【授業のねらい】にそって授業への関わりと卒業論文の進行状況などの成果を総合評価。以下の①～③は授業毎に評価し年度末に綜合。①授業中の発表･議論･質疑を内容と形式(積極性も含む)から評価、②ワークショップでの活動を成果･貢献と主体性･積極性から評価、③レポートなど提出物を形式と内容から評価。＊遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。＊時間外のワークショップ等も正規の授業に準じて評価の対象とする。＊年度末の卒論･ゼミ論発表会への参加は必須。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この演習は、専門演習ｃに連結するものである。″

※ポリシーとの関連性　今日の社会課題を理論的に分析するとともに、実際に現場に関わりながら社会福祉実践に活かせる具体的な能力や技能を養います。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 専門演習ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水２	2
担当者 岩田　直子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	演習修了後に受付ます。	

学びの準備

ねらい

専門演習aで学んだことを踏まえて、地域包括支援、多職種連携、協働によるまちづくり等の事例を具体的に学びます。

メッセージ

地域でアクションを起こしている方々と交流していきましょう。既存の価値観にとらわれず、新たな価値を創造していきましょう。

到達目標

多様な人々がお互いの違いを認め合い尊重しあえる社会を構築するために社会福祉が貢献できることは何か議論を深めます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション　ゼミの概要説明	
2	グループ研究の目的、方法を理解する	
3	グループ研究：テーマ設定およびグループ分け	
4	グループ研究の準備①	
5	グループ研究の準備②	
6	協働によるまちづくり関係者訪問	
7	グループ研究発表①	
8	グループ研究発表②	
9	グループ研究発表③	
10	協働によるまちづくり関係者訪問計画①訪問先選定、アポの取り方および企画設定方法を理解する	
11	協働によるまちづくり関係者訪問計画②	
12	協働によるまちづくり関係者訪問事前学習①	
13	協働によるまちづくり関係者訪問事前学習②	
14	協働によるまちづくり関係者訪問①	
15	協働によるまちづくり関係者訪問②	
16	まとめ	

テキスト・参考文献・資料など

演習の時間に随時紹介します。

学びの手立て

①積極的にボランティア活動に参加し、多くの方と出会い、学生時代だからこそ得られる経験を自ら獲得しましょう。
②図書館を活用し、国内外の理論や実践を学びましょう。
③ゼミ生どおしがお互いを高め合う関係を構築していきましょう。

評価

グループ発表（40%）、個別レポート（40%）、ゼミ活動への積極的参加（20%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

専門演習c, dの学びにつなげましょう。

※ポリシーとの関連性　　高度化かつ多様化する現代社会を解読するための基礎的知識と技能を修得させ、社会福祉の周辺学問領域として社会学を学ぶ。　　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 専門演習ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水２	2
担当者 桃原　一彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

当演習ゼミは、関西大都市圏に在住する沖縄出身者のコミュニティに焦点を当て、その地域福祉的な課題を具体的にテーマとして調査研究を実施する。すなわち、関西大都市圏に集住する沖縄出身者に対するソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）の側面、とりわけ文化的排除の側面に着目し、今日地域福祉が抱える課題を理解するための調査を行うものとする。

メッセージ

当演習ゼミは、社会調査士資格の取得可能なゼミとして認定されています。必ず全員が社会調査を実践し、報告書を作成しなければなりません。社会調査は大変な作業ですが、社会を生きる人々の声に耳を傾けながら、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら報告書を完成させましょう。

到達目標

「専門演習a」で身につけた社会学の基礎知識と視点をいかし、社会調査の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆まで を通して、現代社会に対する洞察力をより深 めていくための共同研究・相互学習の場とする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。2年次前期（専門演習a）では、社会学の基本的な概念や分析視覚の学習を行なう。また先行的な研究の文献・資料等の収集および社会調査の予備訓練を行う。後期（専門演習b）は、本ゼミの社会調査テーマ「沖縄出身者コミュニティをめぐる地域福祉の課題」に関わる文化的排除、ディアスポラ、ポストコロニアリズムに関する文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。 この作業で導き出された下位テーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。

なお、3年次（2019年度）前期「専門演習c」、後期「専門演習d」では、調査方法、調査項目設定および調査実習に関する企画設計を行い社会調査実習に備える。その上で、兵庫県尼崎市周辺在住沖縄出身者の移動歴や地域生活を「ライフヒストリー」の視点から聞き取りを行なっていく予定である。さらに、現代の沖縄社会が抱える諸問題に関する調査グループも設ける予定である。社会調査の実施は9月～11月を予定している。調査実施後は、得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。

テキスト・参考文献・資料など

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

学びの手立て

ゼミは前年度のクラス編成によって指定されている。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。必ず３分の２以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。与えられた個別課題やグループ課題には必ず取り組んで、提出・報告すること。

評価

「専門演習b」は、「専門演習c」に向けての準備期間（社会学の基礎知識と視点をもとに具体的な調査テーマを絞り込むこと）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、受講中の態度、共同学習に対する取り組み姿勢も評価の必須項目とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：専門演習c、専門演習d

次のステージ：

専門演習bで確立した社会調査のテーマをもとに調査方法と調査項目を作成する。社会調査の実践と報告書作成につなげていくこと。

※ポリシーとの関連性　学科カリキュラムポリシー１の「社会福祉専門職を養成する教育」と２の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目です。　［　　／演習］

科目基本情報				
	科目名 専門演習ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	水２	2
	担当者 知名　孝	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		２年	人間福祉学科　知名孝	

学びの準備		
	ねらい 1）発達障害児への支援、2）インタビュー調査を学ぶことをねらいとします。月2回のソーシャルスキル・トレーニングへの参加を通じ、発達障害児への支援について学びます。後期には保護者へのライフストーリーインタビューを通じインタビュー調査への導入を行います。	メッセージ
	到達目標 発達障害児とその保護者への理解。インタビュー調査方法への理解。	

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

1. 発達障害児への支援について：
　（1）基礎知識の習得：発達障害の医学的知識（診断基準、二次障害、周辺症状や問題）についての学習、発達についての概念、社会環境・子どもの生活の子どもの発達・発育への影響などについて学んでいく。
　（2）地域の児童デイサービスと親の会と実施するソーシャルスキルトレーニング、リトミックなどのグループワークを通じて、「実践」を学んでいく。
2. 発達障害児をもつ親の語りからの学び：
　（1）基礎知識と実践を積み上げた上で、発達に偏りを持つ子どもの現状、そういう子どもを持つという経験について親のインタビューを行い、語りのなかから学びを深める。
　（2）インタビューを通して、インタビューの方法、得られたデータの解釈の方法、まとめ方を学ぶ。

テキスト・参考文献・資料など

ゼミのなかで指定していく

学びの手立て

評価

出席、ゼミ活動（ゼミ中のディスカッション、活動、ボランティア実習など）、課題提出などにもとづき評価していく。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	専門演習ｂ	後期	水２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ﾄﾞﾅﾙﾄﾞ ｸﾚｲｸﾞ ｳｨﾙｺｯｸｽ	２年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備

ねらい

国際福祉の現状や動向をグループ発表形式を行いながらゼミ全体で理解を深めて行く。分野は、貧困問題、移民問題、世界的な高齢化現象などを中心に学んでいく。沖縄にある国際社会福祉組織についても学ぶ事を計画している。その中で沖縄県内にある国際機関・組織への訪問学習を実施し現場学習をする。

メッセージ

大学内だけのゼミだけではなく、施設訪問などを取り入れた授業を行う。学生には県内にはどのような国際福祉分野に関する施設があるかを情報共有して欲しい。JICA沖縄、沖縄NGOセンター等の訪問を予定している。「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。

到達目標

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	発表に関するテーマ決め	
3	発表準備１	発表準備
4	発表準備２	発表準備
5	発表準備３	発表準備
6	学生による発表１	
7	ゲストレクチャーまたはJICAフェスティバルについて	
8	学生による発表２	必要資料の精読
9	学生による発表３	必要資料の精読
10	学生による発表４	必要資料の精読
11	学生による発表５	必要資料の精読
12	学生による発表６	必要資料の精読
13	ファミリーサポートセンターについての勉強会	該当センターの情報収集
14	ファミリーサポートセンターを訪問（予定）	
15	ゲストレクチャーによる講演（予定）	
16	後期のまとめ・１年のふりかえり	

テキスト・参考文献・資料など

・川村匡由、「国際社会福祉論」　ミネルヴァ書房　を使用しながら演習を進めていく。
参考文献として
・仲村優一,他『グローバリゼーションと国際社会福祉』2002年
・ジェームス ミッジリイ（1999）『国際社会福祉論』中央法規
・その他、必要に応じて資料を配布または紹介する。

学びの手立て

履修に関して、学生の積極的な議論に参加をして欲しい。そのためには他グループの発表の前には最低でも発表予定項目・資料等の事前精読は各自必ず行い、それら知識を元に議論のための意見・質問等を積極的に行って欲しい。この活動を行うなかで自分の国際福祉分野に関する興味が持てる分野を見つけて欲しい。それが３年次の課題研究へとつながる材料となる。

評価

出席状況（50%）、ゼミ内での授業態度・発表の内容（40%）、その他（10%）を基本とし、総合的に評価を行う。特に発表や課題については行う事が前提となるので気をつけること。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この講義後は「専門演習ｃ」へと繋がります。
各自興味のある海外福祉関連ボランティアや、国際フィールドワークへ参加をすすめる。
海外の福祉について考えることのできる「海外社会福祉演習Ⅰ・Ⅱ」への参加も検討して欲しい。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシーで示される、「実践的活動を重視した」視点から演習を行う。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 専門演習ｂ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水２	2
担当者 安次富　郁哉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	以下の担当教員宛にメールを送信してください。　i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本専門演習のねらいは、多様化する保健・医療・福祉の諸問題に対応できる人材を育成することである。特に、医療（病院）から福祉（在宅・高齢者福祉施設）への連携を担う人材育成に力を入れる。

メッセージ

「 医療の出口に福祉あり」をゼミスローガンとして演習をすすめるため、福祉に限らず、医療・保健にも関心を示してもらいたい。

到達目標

現在の保健・医療・福祉の動向を知り、それを身近な人に伝えることができる。また、社会で起きている問題点・課題を見いだし、いかにすれば解決できるかを考える能力・手段を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	グループ課題の報告１、２グループ	グループで課題案を提案する
2	グループ課題の報告１、２グループ	課題を報告するための調整
3	医療施設見学グループ編成	病院機能別医療施設分類を調べる
4	医療ソーシャルワーカーの役割	医療ソーシャルワーカーの役割①
5	患者を理解する	医療ソーシャルワーカーの役割②
6	学外講師招聘（医療ソーシャルワーカー）	医療ソーシャルワーカーの役割③
7	医療に関わる社会的課題①	課題案を考える（宿題）
8	医療に関わる社会的課題②	課題を決定する
9	医療に関わる社会的　課題個人報告①	課題について報告準備①
10	医療に関わる社会的　課題個人報告②	課題について報告準備②
11	医療に関わる社会的　課題個人報告③	課題について報告準備③
12	医療に関わる社会的　課題個人報告④	課題について報告準備④
13	医療に関わる社会的　課題個人報告⑤	課題について報告準備⑤
14	後期振り返り	
15	1年間を振り返って	
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

特に指定しない。必要に応じて関連資料を提示する。
演習時に随時紹介する。

学びの手立て

コミュニケーション力を高めるために、つねに人と接することに心がける。また、専門演習a・bでは、3年生以降で課題となる、「課題研究」「卒業論文」執筆のための基礎を培う期間となるために、参考文献等検索システムであるOPAC等検索システムになれておく必要がある。

評価

演習への出席回数、演習への個人のとりくみ、グループでの取り組み状況、意見発表の積極性、課題提出状況などに基づき総合的に評価する。なお、前期・後期それぞれの欠席数が3分の1以上あった場合には単位を与えないものとする（不可とする）。

学びの継続

次のステージ・関連科目

専門演習ｃ・d、卒業演習a・bで課題となる「課題研究」「卒業論文」執筆のための基礎知識を得ておく必要がある。関連科目としては、保健医療サービス、社会保障、保健福祉政策論がある。

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	専門演習ｃ	前期	木２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ﾄﾞﾅﾙﾄﾞ ｸﾚｲｸﾞ ｳｨﾙｺｯｸｽ	３年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備

ねらい

「課題研究」を書くことを目標に重点を置いた内容を行って行く。前期は課題研究の準備として、必要な知識などをを確認する。後期は社会福祉や、国際社会福祉に関連したテーマについて各自が自身で文献を調べ課題研究を作成する事になる。作成期間中は、ゼミにおいて進行状況の発表を行う。

メッセージ

「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。

到達目標

ここでは演習を通して課題研究を作成するための論文の書き方などのマナー、調査の方法を勉強することが目標となる。その後、後期に行われる課題研究執筆への準備段階とする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	前期オリエンテーション	
2	国際社会福祉に関するＤＶＤ鑑賞	テキスト１章の精読
3	社会福祉における研究とは何か	テキスト２章の精読
4	研究環境を整える	テキスト３章の精読
5	研究テーマの選び方	テキスト４章の精読
6	研究計画の立て方・進め方	テキスト５章の精読
7	文献レビューの方法	テキスト６章の精読
8	量的調査の方法	
9	ゲストレクチャーによる講話（予定）	
10	質的調査研究法	テキスト７章の精読
11	論文の執筆方法	テキスト８章の精読
12	論文投稿・項と都発表の行い方	テキスト９章の精読
13	ゲストレクチャーによる講話（予定）	
14	論文の書き方のポイント紹介	
15	前期のまとめ・後期に向けての確認など	
16		

テキスト・参考文献・資料など

社会福祉の研究入門－計画立案から論文執筆まで(中央法規出版) 久田則夫　2003年
よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明･高橋一郎著 2010年
その他、演習時に適宜紹介する。

学びの手立て

課題研究の作成の為の準備段階としての演習となる。各学生は研究の方法、文献の探し方、調査の仕方など多岐にわたる知識・技術を身につけることが必要とされる。積極的に、図書館での文献検索・閲覧、インターネットを使っての文献検索・閲覧を積極的に来ないながら課題研究作成に必要な情報を探して欲しい。必要に応じて、論文内容については担当教員との相談も必要に応じ行う点も注意すること。研究の方法、文献の引用の方法など課題研究から4年次に引き継げる内容もおおくあるため、しっかりと課題研究作成で知識等を深めることをすすめる。

評価

出席状況（40%）、ゼミ内での授業態度・発表内容（30%）、提出物等（30%）など総合的に判断する。
ゼミ内での発表等については行わなければ評価ができないので必ず行うこと。

学びの継続

次のステージ・関連科目

課題研究を執筆するための事前知識の会得をし、その次、後期に開講される「専門演習ｄ」にて課題研究執筆を行う。

※ポリシーとの関連性　高度化かつ多様化する現代社会を解読するための基礎的知識と技能を修得させ、社会福祉の周辺学問領域として社会学を学ぶ。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 専門演習ｃ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木２	2
担当者 桃原　一彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

当演習ゼミは、関西大都市圏に在住する沖縄出身者のコミュニティに焦点を当て、その地域福祉的な課題を具体的にテーマとして調査研究を実施する。すなわち、関西大都市圏に集住する沖縄出身者に対するソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）の側面、とりわけ文化的排除の側面に着目し、今日地域福祉が抱える課題を理解するための調査を行うものとする。

メッセージ

当演習ゼミは、社会調査士資格の取得可能なゼミとして認定されています。必ず全員が社会調査を実践し、報告書を作成しなければなりません。社会調査は大変な作業ですが、社会を生きる人々の声に耳を傾けながら、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら報告書を完成させましょう。

到達目標

社会学の基礎知識と視点を身につけること。ゼミでは、社会調査の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆まで?を通して、現代社会に対する洞察力をより深 めていくための共同研究・相互学習の場とする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。2年次前期（専門演習a）では、社会学の基本的な概念や分析視覚の学習を行なう。また先行的な研究の文献・資料等の収集および社会調査の予備訓練を行う。後期（専門演習b）は、本ゼミの社会調査テーマ「沖縄出身者コミュニティをめぐる地域福祉の課題」に関わる文化的排除、ディアスポラ、ポストコロニアリズムに関する文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。 この作業で導き出された下位テーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。

3年次前期「専門演習c」、後期「専門演習d」では、調査方法、調査項目設定および調査実習に関する企画設計を行い社会調査実習に備える。その上で、兵庫県尼崎市周辺在住沖縄出身者の移動歴や地域生活を「ライフヒストリー」の視点から聞き取りを行なっていく予定である。さらに、現代の沖縄社会が抱える諸問題に関する調査グループも設ける予定である。社会調査の実施は9月～11月を予定している。調査実施後は、得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。

テキスト・参考文献・資料など

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

学びの手立て

ゼミは前年度のクラス編成によって指定されている。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。必ず３分の２以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出するこ。与えられた個別課題やグループ課題には必ず取り組んで、提出・報告すること。

評価

「専門演習a」は、「専門演習b」に向けての準備期間（社会学に関する基礎的な知識と視点を身につけること）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、受講中の態度、共同学習に対する取り組み姿勢も評価の必須項目とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：専門演習b、専門演習c、専門演習d
次のステージ：
専門演習aで身につけた社会学の基礎知識と視点を活かして、社会調査のテーマを具体化する。
また、3年次の専門演習で行われる社会調査の実践と報告書作成につなげていくこと。

※ポリシーとの関連性　学科カリキュラムポリシー１の「社会福祉専門職を養成する教育」と２の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目です。　［　　／演習］

科目基本情報				
	科目名 専門演習ｃ	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	木２	2
	担当者 知名　孝	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		３年	人間福祉学科　知名孝	

学びの準備		
	ねらい 1）発達障害児への支援、2）インタビュー調査を学ぶことをねらいとします。月2回のソーシャルスキル・トレーニングへの参加を通じ、発達障害児への支援について学びます。後期には保護者へのライフストーリーインタビューを通じインタビュー調査への導入を行います。	メッセージ 3年生では、次年度の卒業論文とそのための調査に比重をうつしてゼミ活動を展開していきます。そのため個別の指導や春休み中の卒論指導を行っていきます。
	到達目標 インタビュー調査方法への理解。卒論テーマの設定、卒論調査のデザインの設定、先行研究調査を行う。	

学びの実践	
	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） ３年次専門演習では、次年度の卒論に向けてインタビュー調査・分析方法の習得とともに、自分の卒論テーマの設定、そのテーマに沿った調査のデザインの検討、先行研究の調査と執筆を行っていきます。 インタビュー調査の学習、インタビュー調査にもとづく論文の購読、インタビュー調査演習、卒論テーマの設定、読書ノート（アノテーティド・ビブリオグラフィー）の作成、先行研究の執筆
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で提示していきます。
	学びの手立て
	評価 2/3以上の出席は前提。ゼミで出されるそれぞれの課題の達成・提出、学期末提出の先行研究の提出。

学びの継続	
	次のステージ・関連科目 この年度の専門演習の成果は、そのまま次年度の卒論の一部になっていきます。この年度から次年度の間の春休みには継続して卒論指導を行っていきます。

※ポリシーとの関連性　社会でおきる保健・医療・福祉の問題に効率的に対応できる能力を同演習を通して学ぶ。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 専門演習ｃ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木２	2
担当者 安次富　郁哉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	担当教員宛にメールしてください。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本専門演習cの目的は4点ある。①我が国の医療構造を理解する。②「地域包括ケア」のあり方について理解を深める。③「医療資源」「医療用語」「医療保険制度」「介護保険制度」について、演習を通して理解する。④医療・保健・福祉の領域から、課題を見いだし論究し、成果物としての「課題研究報告書」をまとめる。

メッセージ

保健・医療・福祉領域の出来事に常に関心を示す。また、課題研究論文の執筆に取り組むため、関心領域の論文を精読することが望ましい。

到達目標

到達目標は、以下の通りである。①保健・医療・福祉の問題に効果的に対応することができる。②関心のある領域の先行研究論文を検索し、自身の論文作成に役立てることができる。③基本的な論文構造に基づいた論文を執筆することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	前期オリエンテーション（計画・調整）	
2	我が国の医療資源①人・物・財	医療資源とは何か
3	我が国の医療資源②病院・診療所	医療施設とは何か
4	沖縄県における医療資源①医療施設	我が国の医療施設の現状を調べる
5	沖縄県における医療資源②医療施設	沖縄県の医療施設の現状を調べる
6	医療を理解する①	医療とは何か
7	病院を理解する②	医療法について調べる
8	医療資源①医療従事者（MSWを中心に）	MSWの役割は？
9	医療資源②医療従事者（MSWを中心に）	
10	演習：MSWを理解する①社会人招聘（MSW）	
11	演習：MSWを理解する②文献等調査（グループ）	文献検索法について調べる
12	演習：MSWを理解する③文献等調査（グループ）	
13	演習：MSWを理解する④文献等調査（グループ）	
14	報告会①：演習成果を全員で共有する。	プレゼンテーション技法について
15	報告会②：演習成果を全員で共有する。	
16	振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。資料についてはその都度配布する。
①改訂医療ソーシャルワーク実践50例：川島書店、大谷昭他　②ソーシャルワーカーのための病院実習ガイドブック：勁草書房、村上須賀子他　③医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト：日本能率協会マネジメントセンター、田中千惠子　④イラスト図解医療費のしくみ、日本実業出版社、木村憲洋他

学びの手立て

論文執筆のために必要な先行研究論文検索ができるよう図書館の論文検索システムに慣れておく。また、論文執筆に必要な「研究仮説」とは何かを理解する。

評価

ゼミ出席状況を主として評価対象とする。また、同演習には課題研究報告書の提出が必須であるため、課題研究の最終報告書未提出の場合には不可とする。あるいは、前期・後期いづれかにおいて演習への欠席数が3分の1以上であった場合には不可とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

本演習でで執筆する「課題研究」論文は、次年度の卒業演習時に執筆する卒業論文の前段階であることを認識する必要がある。論文とはなにか、研究仮説とは何かをしっかり理解しておく。

※ポリシーとの関連性　社会福祉の現場のあり方を問いなおす専門性と実践力をやしなう（カリキュラムポリシー①②に対応）。　［　　／演習］

科目基本情報				
	科目名 専門演習ｃ	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	金２	2
	担当者 小柳　正弘	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		３年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

専門演習のねらいは、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話、体験、文献探索、調査等を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討することである。専門演習cの具体的な目標は以下の通り。理論的には、研究の作法を学び、卒論の研究テーマを確定、先行研究を整理し予備調査を実施。実践的には、いくつかの「現場」の現状と課題について分析・考察。

メッセージ

「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。

到達目標

関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、(卒業論文につながる)自身の問題意識を方法論も含めて明晰かつ判明に説明できるようになるとともに、卒業論文の構想を実現するための具体的な研究計画を提示できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

＊発表／報告等のレジュメ、特定質問、コメント等の作成、ワークショップ／体験等の準備などは時間外の学習として行う。

・年度当初の予定　オリエンテーション、履修状況セルフ/ピア・チェック、リテラシー評価表の作成、各人の問題関心の再確認、下級生との合同ゼミで卒業論文の構想・計画について発表

理論的学習　以下をめぐって、発表･特定質問･質疑応答･議論･コメント作成など

・前年度専門演習bからの継続『これから研究を書く人のためのガイドブック』の論文編

23研究計画　24研究倫理　02文献研究か実証研究か　03テーマの選択

文献研究　05アウトライン作成　06仮の序論　08情報整理　10データ解釈　11結論の記述

実証研究　12仮の序章　13先行研究の記述　14量的調査か質的調査か　15研究方法の記述　16,17フォーマル/インフォーマル・インタビュー　18実証データの整理　19調査結果　20考察と結論

21タイトルと要旨　22論文の評価

・方法論および障害学に関する論文の講読

量的調査と質的調査、フィールドノート、社会モデルの分岐点、障害の社会モデル、障害者権利条約、社会モデルか統合モデルか

・研究テーマを確定。研究方法を含めた研究計画を作成。関連の先行研究を探索／整理。

実践的学習　社会人特別講師招聘や学外ゼミ・文化活動等の諸制度の利用により以下のようなワークショップのいずれかを実施

・ヘルマンハープによる芸術療育体験
・わらべうたや布遊びを使った芸術療育実践[お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む]
・障害者人権擁護活動や県条例等障害者法制の学習
・特別支援教育･療育のための教材教具開発･製作[学校との連携]
・園芸福祉の基礎としての農園芸[花卉･作物]
・当事者運動･学会活動の運営の一部に参加
・動物介在療育の体験

テキスト・参考文献・資料など

専門演習ｂのテキストをひきつづき使用する。

学びの手立て

・理論的学習においても実践的学習においても必要とされる理論的な準備を､何が必要かを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫でやってみることが肝要。
・学んだことは文字にして､他者との対話のなかで､その意義を検証する。

評価

【授業のねらい】にそって授業への関わりと卒業論文の進行状況などの成果を総合評価。以下の①～③は授業毎に評価し年度末に綜合。①授業中の発表･議論･質疑を内容と形式(積極性も含む)から評価、②ワークショップでの活動を成果･貢献と主体性･積極性から評価、③レポートなど提出物を形式と内容から評価。＊遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。＊時間外のワークショップ等も正規の授業に準じて評価の対象とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この演習は、専門演習dに連結するものである。

※ポリシーとの関連性　福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍するために求められる人間性と能力を豊かにすることにつながる演習です。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 専門演習ｃ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木２	2
担当者 岩田　直子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	演習終了時に受付ます	

学びの準備

ねらい

生活課題を協働による取組みで解決していくプロセスを研究します。その中で、ソーシャルワーカーがコーディネートしていくための工夫や課題を考察します。

メッセージ

演習では、生活課題に対して問を立て考察するプロセスを丁寧に経験したり、先行研究を分析したりします。積極的にチャレンジしましょう。

到達目標

研究とは何か、研究はどのようなプロセスで行うのか理解できる。課題研究につなげる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	授業の最後に提示します。
2	社会福祉政策の動向①少子高齢、人口減少社会における地域課題解決	以下同じ
3	社会福祉政策の動向②地域共生社会の実現に向けて	
4	研究テーマをみつける	
5	先行研究を分析する	
6	個人面談①	
7	個人面談②	
8	個人面談③	
9	個人面談④	
10	研究方法を学ぶ①	
11	研究方法を学ぶ②	
12	個別発表①	
13	個別発表②	
14	個別発表③	
15	個別発表④	
16	まとめ	

テキスト・参考文献・資料など

指定のテキストはありません。

学びの手立て

関心分野の実践に直接触れる時間をつくりましょう。
図書館の文献を積極的に読みましょう。
時間をいとわず「問う」ことに積極的になりましょう。

評価

先行研究分析レポート25%、個人発表30%、個人レポート25%、ゼミの主体的参加20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

専門演習ｄにつなげる。

※ポリシーとの関連性　学科カリキュラムポリシー１の「社会福祉専門職を養成する教育」と２の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目です。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 専門演習ｄ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 知名　孝	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	人間福祉学科　知名孝	

学びの準備

ねらい

1）発達障害児への支援、2）インタビュー調査を学ぶことをねらいとします。月2回のソーシャルスキル・トレーニングへの参加を通じ、発達障害児への支援について学びます。後期には保護者へのライフストーリーインタビューを通じインタビュー調査への導入を行います。

メッセージ

3年生では、次年度の卒業論文とそのための調査に比重をうつしてゼミ活動を展開していきます。そのため個別の指導や春休み中の卒論指導を行っていきます。

到達目標

インタビュー調査方法への理解。卒論テーマの設定、卒論調査のデザインの設定、先行研究調査を行う。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

３年次専門演習では、次年度の卒論に向けてインタビュー調査・分析方法の習得とともに、自分の卒論テーマの設定、そのテーマに沿った調査のデザインの検討、先行研究の調査と執筆を行っていきます。

インタビュー調査の学習、インタビュー調査にもとづく論文の購読、インタビュー調査演習、卒論テーマの設定、読書ノート（アノテーティド・ビブリオグラフィー）の作成、先行研究の執筆

テキスト・参考文献・資料など

授業の中で提示していきます。

学びの手立て

評価

2/3以上の出席は前提。ゼミで出されるそれぞれの課題の達成・提出、学期末提出の先行研究の提出。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この年度の専門演習の成果は、そのまま次年度の卒論の一部になっていきます。この年度から次年度の間の春休みには継続して卒論指導を行っていきます。

※ポリシーとの関連性　　高度化かつ多様化する現代社会を解読するための基礎的知識と技能を修得させ、社会福祉の周辺学問領域として社会学を学ぶ。　　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 専門演習ｄ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 桃原　一彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

当演習ゼミは、関西大都市圏に在住する沖縄出身者のコミュニティに焦点を当て、その地域福祉的な課題を具体的にテーマとして調査研究を実施する。すなわち、関西大都市圏に集住する沖縄出身者に対するソーシャル・エクスクルージョン（社会的排除）の側面、とりわけ文化的排除の側面に着目し、今日地域福祉が抱える課題を理解するための調査を行うものとする。

メッセージ

当演習ゼミは、社会調査士資格の取得可能なゼミとして認定されています。必ず全員が社会調査を実践し、報告書を作成しなければなりません。社会調査は大変な作業ですが、社会を生きる人々の声に耳を傾けながら、みんなで励ましあい、支えあい、学び合いながら報告書を完成させましょう。

到達目標

社会学の基礎知識と視点を身につけること。ゼミでは、社会調査の技法に関する実習を取り入れ、問題の発見から社会調査の実施、報告書の執筆まで?を通して、現代社会に対する洞察力をより深 めていくための共同研究・相互学習の場とする。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

当演習ゼミは2年次と3年次を通して一貫したテーマを追求するものである。2年次前期（専門演習a）では、社会学の基本的な概念や分析視覚の学習を行なう。また先行的な研究の文献・資料等の収集および社会調査の予備訓練を行う。後期（専門演習b）は、本ゼミの社会調査テーマ「沖縄出身者コミュニティをめぐる地域福祉の課題」に関わる文化的排除、ディアスポラ、ポストコロニアリズムに関する文献を通読し、先行研究等を介して調査テーマの具体的な絞り込みを行う。 この作業で導き出された下位テーマをもとに、春季休暇期間中に追加の資料収集等を行なう。

3年次前期「専門演習c」、後期「専門演習d」では、調査方法、調査項目設定および調査実習に関する企画設計を行い社会調査実習に備える。その上で、兵庫県尼崎市周辺在住沖縄出身者の移動歴や地域生活を「ライフヒストリー」の視点から聞き取りを行なっていく予定である。さらに、現代の沖縄社会が抱える諸問題に関する調査グループも設ける予定である。社会調査の実施は9月～11月を予定している。調査実施後は、得られたデータを整理し、報告書の執筆と作成を行なう。

テキスト・参考文献・資料など

とくにテキストは指定しない。予備的調査に関する資料、文献、社会調査の技法に関する学習のための参考書を適宜紹介する。

学びの手立て

ゼミは前年度のクラス編成によって指定されている。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。必ず３分の２以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出するこ。与えられた個別課題やグループ課題には必ず取り組んで、提出・報告すること。

評価

「専門演習a」は、「専門演習b」に向けての準備期間（社会学に関する基礎的な知識と視点を身につけること）を主たる内容とするため、その共同学習の場における課題の成果内容や発表の工夫などを評価の基準とする。もちろん、受講中の態度、共同学習に対する取り組み姿勢も評価の必須項目とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：専門演習b、専門演習c、専門演習d
次のステージ：
専門演習aで身につけた社会学の基礎知識と視点を活かして、社会調査のテーマを具体化する。
また、3年次の専門演習で行われる社会調査の実践と報告書作成につなげていくこと。

※ポリシーとの関連性　福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍するために求められる人間性と能力を豊かにすることにつながる講義です。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 専門演習ｄ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 岩田　直子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	演習の後に受付けます	

学びの準備

ねらい

課題研究を作成することが専門演習ｄの主たる内容です。研究の意義やプロセスを丁寧に学びます。

メッセージ

課題研究を作成する上でひとりひとりが自発的に論文を作成することが求められます。それぞれ計画を立ててしっかり取り組み、研究を充実させていきましょう。

到達目標

研究のプロセスを理解できる。課題研究を完成することができる。自身の研究を発表することを経験することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	演習の最後に提示します。
2	研究デザインの作成方法	以下同じ
3	研究倫理について	
4	個人面談①	
5	個人面談②	
6	個人面談③	
7	個人面談④	
8	課題研究中間報告会①	
9	課題研究中間報告会②	
10	課題研究中間報告会③	
11	課題研究中間報告会④	
12	課題研究中間報告会⑤	
13	課題研究中間報告会⑥	
14	卒業論文発表会において配布するレジュメの作成	
15	卒業論文発表会企画運営のための準備	
16	まとめ	

テキスト・参考文献・資料など

特定のテキストはありません。随時資料を配布します。

学びの手立て

研究するとはどういうことなのか多角的に考えましょう。
積極的に先行研究や先輩の論文を読みましょう。
仲間と議論を重ねましょう。

評価

中間発表の内容30%、課題研究の内容60%、課題研究の積極的な取組み10%

学びの継続

次のステージ・関連科目

卒業演習abにつなげていきましょう。

※ポリシーとの関連性　社会福祉の現場のあり方を問いなおす専門性と実践力をやしなう（カリキュラムポリシー①②に対応）。　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 専門演習ｄ		期 別	曜日・時限	単 位
		後期	金２	2
担当者 小柳　正弘		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		３年	mkoyanagi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

専門演習のねらいは、書いたり話したりすることで自分の問題意識や立ち位置を探り、対話、体験、文献探索、調査等を通して様々な問題を多面的に(ときに根底的に)検討することである。専門演習dの具体的な目標は以下の通り。理論的には、先行研究の整理や予備調査をふまえ卒論の序論、本調査の計画、論文の構成等を策定。実践的にはいくつかの「現場」の現状と課題について分析・考察。

メッセージ

「ともに学ぶ」ことへの主体的な参加を望む。

到達目標

関連する諸問題や先行研究に関する多面的な検討をふまえたうえで、(卒業論文につながる)自身の問題意識を方法論も含めて明晰かつ判明に説明できるようになるとともに、卒業論文の構想を実現するための具体的な研究計画の進捗状況を提示できる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

＊発表／報告等のレジュメ、特定質問、コメント等の作成、ワークショップ／体験等の準備などは時間外の学習として行う。

・学期当初の予定　履修状況セルフ/ピア・チェック、
各人の問題関心の再確認、下級生との合同ゼミで卒業論文の構想・計画について発表

理論的学習
以下をめぐって、発表･特定質問･質疑応答･議論･コメント作成など
・鷲田清一著『〈弱さ〉のちから』講談社学術文庫
・人間と福祉、障害と支援にかかわる文献講読
・卒業論文の作成に着手。

実践的学習
社会人特別講師招聘や学外ゼミ・文化活動等の諸制度の利用により以下のようなワークショップのいずれかを実施
・ヘルマンハープによる芸術療育体験
・わらべうたや布遊びを使った芸術療育実践[お手玉製作や絹布の染色など用具の準備も含む]
・障害者人権擁護活動や県条例等障害者法制の学習
・特別支援教育･療育のための教材教具開発･製作[学校との連携]
・園芸福祉の基礎としての農園芸[花卉･作物]
・当事者運動･学会活動の運営の一部に参加
・動物介在療育の体験

テキスト・参考文献・資料など

鷲田清一著『〈弱さ〉のちから』講談社学術文庫

学びの手立て

・理論的学習においても実践的学習においても必要とされる理論的な準備を､何が必要かを考えることも含めて、まずは自らの創意工夫でやってみることが肝要。
・学んだことは文字にして､他者との対話のなかで､その意義を検証する。

評価

【授業のねらい】にそって授業への関わりと卒業論文の進行状況などの成果を総合評価。以下の①～③は授業毎に評価し年度末に綜合。①授業中の発表･議論･質疑を内容と形式(積極性も含む)から評価、②ワークショップでの活動を成果･貢献と主体性･積極性から評価、③レポートなど提出物を形式と内容から評価。＊遅刻・早退は二回で欠席一回と見なす。＊時間外のワークショップ等も正規の授業に準じて評価の対象とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この演習は、卒業演習に連結するものである。

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	専門演習ｄ	後期	木２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ﾄﾞﾅﾙﾄﾞ ｸﾚｲｸﾞ ｳｨﾙｺｯｸｽ	３年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備

ねらい

前期で行った内容を踏まえ「課題研究」を書くことを目標に重点を置いた内容を行って行く。本演習では、社会福祉や国際社会福祉に関連したテーマについて各自が自身で文献を調べ課題研究を作成する事になる。作成期間中は、ゼミにおいて進行状況の発表を行う。

メッセージ

「社会調査士」の資格取得を希望する学生は、履修ガイドを参照し、既定の講義を履修すること。

到達目標

課題研究を作成し、報告書集を完成させるのがこの演習の大きな目標となる。課題研究の内容や経験が4年次の「卒業演習」につながるため各学生は積極的に情報の収集・中間報告・論文作成に関して相談を行うなどのことを行って欲しい。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	課題研究の説明１　テーマの設定について	
3	課題研究の説明２　調査の方法について	
4	課題研究の説明３　調査の方法について	
5	課題研究の説明４　論文作成についての諸注意	
6	課題研究の説明５　論文作成についての諸注意	
7	施設訪問報告、論文指導	
8	課題研究　経過発表会１	
9	課題研究　経過発表会２	
10	課題研究　経過発表会３	
11	課題研究　経過発表会４	
12	課題研究　経過発表会５	
13	ゲストレクチャーによる講話（予定）	
14	課題研究報告書作成について	
15	講義のまとめ・１年を通してのまとめ	
16		

テキスト・参考文献・資料など

社会福祉の研究入門－計画立案から論文執筆まで(中央法規出版) 久田則夫　2003年
よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明･高橋一郎著 2010年
その他、演習時に適宜紹介する。

学びの手立て

課題研究の作成を目的とした演習となる。各学生は研究の方法、文献の探し方、調査の仕方など多岐にわたる知識・技術を身につけることが必要とされる。積極的に、図書館での文献検索・閲覧、インターネットを使っての文献検索・閲覧を積極的に来ないながら課題研究作成に必要な情報を探して欲しい。必要に応じて、論文内容については担当教員との相談も必要に応じ行う点も注意すること。研究の方法、文献の引用の方法など課題研究から4年次に引き継げる内容もおおくあるため、しっかりと課題研究作成で知識等を深めることをすすめる。

評価

出席状況（40%）、ゼミ内での授業態度・発表内容（30%）、課題研究の内容（30%）など総合的に判断する。
ゼミ内での発表・課題研究の作成については行わなければ評価ができないので必ず行うこと。
課題研究執筆時における個人面談も評価へ影響します。必ず個人面談を行いながら課題研究に取り組んでください。

学びの継続

次のステージ・関連科目

課題研究の内容を踏まえ、引き続きその内容を発展させるか、または新しくテーマを設定し、「卒業演習」にて卒業論文を作成を行う。

※ポリシーとの関連性　社会でおきる保健・医療・福祉の問題に効率的に対応できる能力を同演習を通して学ぶ。　[　　／演習]

科目基本情報				
科目名 専門演習ｄ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 安次富　郁哉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	担当教員宛にメールしてください。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本専門演習の目的は4点ある。①我が国の医療構造を理解する。②「地域包括ケア」のあり方について理解を深める。③「医療資源」「医療用語」「医療保険制度」「介護保険制度」について、演習を通して理解する。④医療・保健・福祉の領域から、課題を見いだし論究し、成果物としての「課題研究報告書」をまとめる。

メッセージ

保健・医療・福祉領域の出来事に常に関心を示すこと。また、課題研究論文の執筆に取り組むため、関心領域の論文を精読必要がある。

到達目標

到達目標は、以下の通りである。①保健・医療・福祉の問題に効果的に対応することができる。②関心のある領域の先行研究論文を検索し、自身の論文作成に役立てることができる。③基本的な論文構造に基づいた論文を執筆することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション（計画・調整）	
2	課題研究テーマ決定のための面談	研究仮説とは
3	課題研究テーマ決定のための面談	
4	課題研究テーマ決定のための面談	
5	患者を理解する:社会人招聘（患者会）	
6	課題研究テーマ決定のための面談	研究論文とは何か
7	課題研究テーマ・研究計画報告	
8	課題研究テーマ・研究計画報告	
9	課題研究テーマ・研究計画報告	
10	課題研究取り組み中間報告①	
11	課題研究取り組み中間報告②	
12	報告会：演習成果を全員で共有する。	
13	報告会：演習成果を全員で共有する。	
14	報告会：演習成果を全員で共有する。	
15	報告会：演習成果を全員で共有する。	
16	振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。資料についてはその都度配布する。
①改訂医療ソーシャルワーク実践50例：川島書店、大谷昭他　②ソーシャルワーカーのための病院実習ガイドブック：勁草書房、村上須賀子他　③医療に従事する人のための患者接遇マナー基本テキスト：日本能率協会マネジメントセンター、田中千惠子　④イラスト図解医療費のしくみ、日本実業出版社、木村憲洋他

学びの手立て

論文執筆のために必要な先行研究論文検索ができるよう図書館の論文検索システムに慣れておく。また、論文執筆に必要な「研究仮説」とは何かを理解する。

評価

ゼミ出席状況を主として評価対象とする。また、同演習には課題研究報告書の提出が必須であるため、課題研究の最終報告書未提出の場合には不可とする。あるいは、前期・後期いづれかにおいて演習への欠席数が3分の1以上であった場合には不可とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

本演習でで執筆する「課題研究」論文は、次年度の卒業演習時に執筆する卒業論文の前段階であることを認識する必要がある。論文とはなにか、研究仮説とは何かをしっかり理解する。

※ポリシーとの関連性　社会福祉専門職として必要な相談援助の理念・概念・定義・意義、
更に専門職に求められる役割・倫理・連携についてふれる。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 相談援助の基盤と専門職Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火３	2
担当者 -宮城　美智子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

①社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義、②精神保健福祉士の役割と意義、③相談援助の概念と範囲、④相談援助理念、⑤相談援助における権利擁護の意義と範囲、⑥相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、⑦総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容等について理解する。

メッセージ

本科目の受講生は、社会福祉士、精神保健福祉士、心理カウンセラーを目指す学生となっている。
多職種によるチームアプローチが求められている現在、各々の専門領域を理解し共通言語を持つことは重要である。ソーシャルワーク実践の場における各々の役割についても触れながら説明する。

到達目標

①社会福祉士・精神保健福祉士は法的根拠をもった専門職であることを理解しソーシャルワークの観点から役割と意義を説明することができる。②ソーシャルワークに係る国際定義を理解すると共に、ソーシャルワークの形成過程について説明することが出来る。③ソーシャルワークの価値基盤である人権尊重・社会正義・権利擁護について理解しクライエントの自己決定・自立支援・エンパワメント・ストレングス視点・ノーマライゼーション・社会的包摂を実践に結び付けて考えることが出来る。④専門職倫理について倫理綱領に基づいて考察することが出来る。⑤ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点について理解し、総合的かつ包括的な相談援助の実践に応用することが出来る。⑥相談援助にかかる専門職の概念と範囲について理解し説明することが出来る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション　履修上の注意事項・評価方法について説明	①次回の予習（テキストを熟読）
2	社会福祉士の役割と意義　①	①、②前回の講義感想と考察を提出
3	社会福祉士の役割と意義　②	①、②前回の講義感想と考察を提出
4	相談援助の定義と構成要素①	①、②前回の講義感想と考察を提出
5	相談援助の定義と構成要素②	①、②前回の講義感想と考察を提出
6	相談援助の形成過程Ⅰ①	①、②前回の講義感想と考察を提出
7	相談援助の形成過程Ⅰ②	①、②前回の講義感想と考察を提出
8	相談援助の形成過程Ⅱ①	①、②前回の講義感想と考察を提出
9	相談援助の形成過程Ⅱ②	①、②前回の講義感想と考察を提出
10	相談援助の形成過程Ⅱ③	①、②前回の講義感想と考察を提出
11	相談援助の理念Ⅰ①	①、②前回の講義感想と考察を提出
12	相談援助の理念Ⅰ②	①、②前回の講義感想と考察を提出
13	相談援助の理念Ⅰ③	①、②前回の講義感想と考察を提出
14	相談援助の理念Ⅱ①	①、②前回の講義感想と考察を提出
15	相談援助の理念Ⅱ②	①、②前回の講義感想と考察を提出
16	後期オリエンテーション　授業説明	

テキスト・参考文献・資料など

教科書　社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座　相談援助の基盤と専門職』中央法規（学内の朝野書房で購入してください）
参考書　授業の中で随時紹介する
資料　随時配布する

学びの手立て

テキストに沿って講義を展開していきます。従って、テキストを熟読し理解してください。わからない用語については辞書などを使って調べる習慣をつけてください。
また、新聞、マスコミの報道に感心を持つことは講義で学習した内容を深めることに繋がります。

評価

出席状況、レポート、期末テスト、受講への積極的な姿勢等を総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格取得に必要な科目ですが、国家試験のためだけの学習にとどまらず「人間の福利」を追求する学問であることを念頭において学んでください。

※ポリシーとの関連性　社会福祉専門職として必要な相談援助の理念・概念・定義・意義、更に専門職に求められる役割・倫理・連携についてふれる。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 相談援助の基盤と専門職Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	火３	2
担当者 -宮城　美智子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

①社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義、②精神保健福祉士の役割と意義、③相談援助の概念と範囲、④相談援助理念、⑤相談援助における権利擁護の意義と範囲、⑥相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、⑦総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容等について理解する。

メッセージ

本科目の受講生は、社会福祉士、精神保健福祉士、心理カウンセラーを目指す学生となっている。
多職種によるチームアプローチが求められている現在、各々の専門領域を理解し共通言語を持つことは重要である。ソーシャルワーク実践の場における各々の役割についても触れながら説明する。

到達目標

①社会福祉士・精神保健福祉士は法的根拠をもった専門職であることを理解しソーシャルワークの観点から役割と意義を説明することができる。②ソーシャルワークに係る国際定義を理解すると共に、ソーシャルワークの形成過程について説明することが出来る。③ソーシャルワークの価値基盤である人権尊重・社会正義・権利擁護について理解しクライエントの自己決定・自立支援・エンパワメント・ストレングス視点・ノーマライゼーション・社会的包摂を実践に結び付けて考えることが出来る。④専門職倫理について倫理綱領に基づいて考察することが出来る。⑤ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点について理解し、総合的かつ包括的な相談援助の実践に応用することが出来る。⑥相談援助にかかる専門職の概念と範囲について理解し説明することが出来る。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	後期オリエンテーション　授業説明	①、②前回の講義感想と考察を提出
2	専門職倫理と倫理的ジレンマ①	①、②前回の講義感想と考察を提出
3	専門職倫理と倫理的ジレンマ②	①、②前回の講義感想と考察を提出
4	専門職倫理と倫理的ジレンマ③	①、②前回の講義感想と考察を提出
5	総合的かつ包括的な相談援助の全体像①	①、②前回の講義感想と考察を提出
6	総合的かつ包括的な相談援助の全体像②	①、②前回の講義感想と考察を提出
7	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論	①、②前回の講義感想と考察を提出
8	相談援助にかかる専門職の概念と範囲①	①、②前回の講義感想と考察を提出
9	相談援助にかかる専門職の概念と範囲②	①、②前回の講義感想と考察を提出
10	相談援助にかかる専門職と概念と範囲③	①、②前回の講義感想と考察を提出
11	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能①	①、②前回の講義感想と考察を提出
12	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能②	①、②前回の講義感想と考察を提出
13	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能③	①、②前回の講義感想と考察を提出
14	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能④	①、②前回の講義感想と考察を提出
15	総合的かつ包括的な相談援助における専門職機能⑤	①、②前回の講義感想と考察を提出
16	期末テスト	

テキスト・参考文献・資料など

教科書　社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座　相談援助の基盤と専門職』中央法規（学内の朝野書房で購入してください）
参考書　授業の中で随時紹介する
資料　随時配布する

学びの手立て

テキストに沿って講義を展開していきます。従って、テキストを熟読し理解してください。わからない用語については辞書などを使って調べる習慣をつけてください。
また、新聞、マスコミの報道に感心を持つことは講義で学習した内容を深めることに繋がります。

評価

出席状況、レポート、期末テスト、受講への積極的な姿勢等を総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格取得に必要な科目ですが、国家試験のためだけの学習にとどまらず「人間の福利」を追求する学問であることを念頭において学んでください。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシーには実践活動を重視した教育を掲げています。本科目を理論と実践を結びつける科目と位置づけています。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	相談援助の理論と方法Ⅰ	前期	水６	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石川　和徳	２年	k-ishikawa@super-workers.com	

学びの準備

ねらい

本科目では相談援助における人と環境との交互作用に関する理論や相談援助の対象、さまざまな実践モデルについて理解する。さらに、相談援助の過程とそれに関係する知識と技術、相談援助の実際について学ぶ。

メッセージ

将来、社会福祉専門職を目指す皆さんにとって、本科目は基幹となる科目です。社会福祉にかかる専門的知識等の習得をはじめ、自らの将来の仕事をイメージしながら受講してください。

到達目標

①社会福祉専門職(ソーシャルワーカー)の仕事が理解できるようになる。
②相談援助における人と環境の交互作用に関する理論や相談援助(ソーシャルワーク)の対象及びさまざまなアプローチについて理解できる。
具体的には、ケースマネジメント、アウトリーチ、記録及び事例研究の技術等を身につけることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ		時間外学習の内容
1	授業の目的・ねらい・概要・到達目標を説明		※各授業の予習・復習を行うこと
2	人と環境の交互作用①	Ⅰ：第3章	授業ごとに課される課題に取り組む
3	人と環境の交互作用②	Ⅰ：第3章	
4	相談援助の対象	Ⅱ：第1章	
5	ケースマネジメント①	Ⅱ：第2章	
6	ケースマネジメント②	Ⅱ：第2章	
7	アウトリーチ①	Ⅰ：第7章	
8	アウトリーチ②	Ⅰ：第7章	
9	記録の技術①	Ⅰ：13章	
10	記録の技術②	Ⅰ：13章	
11	個人情報の保護の意義と留意点①	Ⅱ：第11章	
12	個人情報の保護の意義と留意点②	Ⅱ：第11章	
13	相談援助における情報通信技術(IT)の活用①	Ⅱ：12章	
14	相談援助における情報通信技術(IT)の活用②	Ⅱ：12章	
15	事例研究①	Ⅱ：13章	
16	後期の振り返りと評価試験		

テキスト・参考文献・資料など

1. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅰ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。
2. 社会福祉士養成講座編集委員会(2015)：『相談援助の理論と方法Ⅱ(第3版)』、中央法規、2600円(税抜)。
3. その他、必要に応じて授業時に示すこととする。

学びの手立て

本科目は、講義形式だけではなく演習も取り入れた授業にしたいと考えています。授業は受け身ではなく、積極的に参加してください。各授業の振り返りを行い、分からなかったことは質問をしてください。「相談援助の基盤と専門職」「相談援助演習」は関連科目として、理解を深めて欲しいと思っています。

評価

授業の出欠、ワークへの参加状況及び課題に対するレポート等により総合的に評価します。レポートは課題の理解度を元に、具体的なイメージ、私見の記載などを期待します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目として、社会福祉士受験資格のための必要科目(相談援助の基盤と専門職、相談援助演習、現代社会と福祉、地域福祉の理論と方法等)があげられるが、本科目受講後には「相談援助実習指導」等で学びの継続を行ってください。そして最終的には、本専攻のディプロマポリシーに掲げる「福祉･医療･保健･教育の各分野で中核として活躍できる豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材」となってほしいと思います。

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	卒業演習	通年	金１	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ﾄﾞﾅﾙﾄﾞ ｸﾚｲｸﾞ ｳｨﾙｺｯｸｽ	４年	d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備

ねらい

卒業論文を作成するための演習となる。4年間の集大成として、これまでに履修してきた講義・演習・実習にて学んだ知識と経験を生かして研究テーマを設定する。1年を通して、各自の設定したテーマに基づき研究調査の企画と設計、論文・参考文献等の検索の方法と収集、データ分析に関する指導等を行う。受講生には自主性を持って取り組むことを強く求める。

メッセージ

各学生は、今まで演習でつちかってきた知識・技術を発揮して欲しい。
論文の進行具合に合わせて定期的に論文指導を受けることが望ましい。卒業論文について要項もあるためそれに従った論文を作成、提出を行うこと。

到達目標

卒業論文の提出を目標とする。各学生は積極的に卒業論文作成に取り組んで欲しい。
また、年度末には「卒業論文集」の作成も行う。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	前期オリエンテーション	各自で論文執筆活動
2	卒業論文について	各自で論文執筆活動
3	卒業論文計画作成①	各自で論文執筆活動
4	卒業論文計画作成②	各自で論文執筆活動
5	卒業論文計画作成③	各自で論文執筆活動
6	卒業論文計画書提出	各自で論文執筆活動
7	卒業論文準備・個人面談①	各自で論文執筆活動
8	卒業論文準備・個人面談②	各自で論文執筆活動
9	卒業論文準備・個人面談③	各自で論文執筆活動
10	卒業論文準備・個人面談④	各自で論文執筆活動
11	卒業論文準備・個人面談⑤	各自で論文執筆活動
12	卒業論文中間報告準備①	各自で論文執筆活動
13	卒業論文中間報告準備②	各自で論文執筆活動
14	中間報告	各自で論文執筆活動
15	中間報告・前期まとめ	各自で論文執筆活動
16	後期オリエンテーション・卒業論文進捗確認	各自で論文執筆活動
17	卒業論文準備・個人面談⑥	各自で論文執筆活動
18	卒業論文準備・個人面談⑦	各自で論文執筆活動
19	卒業論文準備・個人面談⑧	各自で論文執筆活動
20	卒業論文提出予定者の確認	各自で論文執筆活動
21	卒業論文準備・個人面談⑨	各自で論文執筆活動
22	卒業論文準備・個人面談⑩	各自で論文執筆活動
23	卒業論文準備・個人面談⑪	各自で論文執筆活動
24	卒業論文準備・個人面談⑫	各自で論文執筆活動
25	論文・卒業論文提出日（予定）	
26	論文修正期間①	論文修正
27	論文修正期間②	論文修正
28	卒業論文集作成開始	報告書作成活動
29	卒業論文集作成	報告書作成活動
30	卒業論文集作成	報告書作成活動
31	卒業論文集完成・１年の振り返り、まとめ	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 指定はしない。必要に応じて、文献・資料の紹介をおこなう。 参考書籍 よくわかる卒論の書き方（ミネルヴァ書房）白井利明･高橋一郎著 2010年 社会福祉の研究入門-計画立案から論文執筆まで-（中央法規）久田則夫:編 2003年 よくわかる学びの技法第２版（ミネルヴァ書房）田中共子編 2009年
	学びの手立て 卒業論文を作成するために図書館や論文検索サイトなどのインターネット情報等を有効利用すること。自分から情報を集める、教員との綿密なやりとりなどが作成に関しては必要不可欠です。
	評価 出席状況（20%）、中間報告・論文提出（70%）、その他（10%）とし総合的に判断します。 この講義においては、授業外に行う個人面談にも評価の重点を置く。論文執筆の際は必ず個人面談を行いながら執筆活動を行うこと。 論文の提出を行わなければ評価ができないので注意すること。

学びの継続	次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　社会でおきる保健・医療・福祉の問題について、課題を読み取りそれを表現することができる。

［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 卒業演習	期 別	曜日・時限	単 位
	通年	金１	4
担当者 安次富　郁哉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	担当教員宛にメールして下さい。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本ゼミのねらいには二つある。一つは、4年間培ってきた専門・基礎知識の集大成、もう一つは、「批判的検討能力」「問題発見・解決能力」を身につけることである。後者については「自ら考え、解決する」能力にほかならない。卒業論文を作成する過程において、問題発見から批判的検討までの一環した流れを把握し、示すことができる。

メッセージ

保健･医療・福祉領域の出来事に常に関心を示し、その中から問題点・課題を見いだせるようにする。

到達目標

到達目標は以下2点で、①「批判的検討能力」「問題発見・解決能力」を身につけること②問題発見から批判的検討までの一環した流れを示すことができることである。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	卒論作成に向けて概説	研究論文とは
3	卒論研究プロトコール作成法	プロトコールとは
4	論文の書き方①	専攻研究論文の検索方法
5	論文の書き方②　文献、論文検索	研究論文の基本的な構造とは
6	卒論テーマ作成のための個人面談１	研究仮説を立てる
7	卒論テーマ作成のための個人面談２	
8	卒論テーマ作成のための個人面談３	
9	卒論テーマ作成のための個人面談４	
10	卒論テーマの決定とプロトコール作成	
11	卒論プロトコール提出	
12	調査票作成１	量的調査に基づく研究とは
13	調査票作成２	
14	文献に基づく研究仮説の論証①	質的調査に基づく研究とは
15	文献に基づく研究仮説の論証②	
16	文献に基づく研究仮説の論証③	参考文献の示し方
17	文献に基づく研究仮説の論証④	
18	論文執筆指導①	
19	論文執筆指導②	
20	論文執筆指導③	
21	論文執筆指導④	
22	論文執筆指導⑤	
23	論文執筆指導⑥	
24	個別指導	
25	卒論発表会１	
26	卒論発表会２	
27	卒論発表会３	
28	卒論・ゼミ論集制作１	
29	卒論・ゼミ論集制作２	
30	卒論・ゼミ論集制作３	
31	振り返り	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。 随時紹介する。
	学びの手立て 論文作成にまず必要なことは「研究仮説」をたてることである。そして、仮説を論証するための参考文献を見つけ出すことである。専門演習Ｉから始めた参考文献検索方法を今一度みなおし、演習がスタートする前に慣れておく必要がある。
	評価 卒業演習の評価は演習への出席回数と卒業論文あるいは卒業演習論文（ゼミ論）の提出有無とその内容によって評価する。また、演習の中間（夏季休業明け）期に開催する、中間口頭発表内容も評価の対象とする。なお、卒業論文については、主査：指導教員　副査：他教員1名の計2名により評価される。

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文は論文執筆の最終章とも言える。専門演習Ｉ・Ⅱで学んできた文献検索方法、論文基本構造等をしっかりと見直し、卒業論文執筆に臨む必要がある。

※ポリシーとの関連性　社会福祉の課題を取り上げ、調査分析し、問題解決に取り組む姿勢及び技術を育てる

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	卒業演習	通年	火１	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	保良　昌徳	４年	講義の中で受け付ける 必要に応じてオフィスアワーで対応する	

学びの準備

ねらい

１．社会（福祉）問題に関する調査法を修得する
２．資料の分析方法を習得する
３．結果をまとめ、論文作成・及び発表の方法を修得する

メッセージ

１．受講生は、自ら取り組む課題を明確にすること
２．自らの課題についての情報や資料の収集に努めること
３．他の学生の課題にも目を向け、相互検討に努めること

到達目標

１．調査方法の習得
２．分析方法の習得
３．学術論文の作成方法の習得

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	自由討論：自らの問題意識・課題についての発表	
3	課題・調査法・分析についてまとめ１（相互学習）	
4	同上２	
5	課題の設定・調査法・分析法の確定	
6	中間報告会：「自分の研究概要について」１	
7	同上２	
8	調査計画の作成（合同作業）１	
9	調査票の作成	
10	調査研究の倫理について	
11	調査対象への依頼の準備	
12	調査対象の依頼（個別活動）	
13	調査票の配付・依頼	
14	経過報告会（合同）	
15	前期のまとめ、休暇中の取り組みの確認	
16	後期オリエンテーション：後期の進め方	
17	各自の調査結果・集計状況の確認・分析方法等の確認	
18	集計・分析・まとめ作業１	
19	同上２	
20	同上３	
21	中間報告会：各自の取り組み状況の確認（合同）	
22	まとめ作業（個別指導）１	
23	同上２	
24	同上３	
25	卒業論文の提出	
26	卒論報告会１	
27	同上２	
28	卒論集の作成作業１	
29	同上２	
30	後期授業のまとめ	
31		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など １．論文に関する資料を配付する ２．各自で論文の書き方に関する文献を少なくとも１冊確保し、毎回持参すること
	学びの手立て １．学術研究の方法についての認識を明確に持つこと ２．十分な先行研究を行い、モデルとなる研究を見つけること
	評価 １．三分の一以上の欠席は不可とする ２．予定された課題提出・レポート・発表の提出及び内容を評価の50％とする。 ３．提出された卒業論文（又は課題研究）の評価を50％とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目 ※新たな社会問題への関心を持ち、自主的に問題を理解し解決の意欲が芽生えることを期待する。

※ポリシーとの関連性　福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍するために求められる人間性と能力を豊かにすることにつながる講義です　［　　／演習］

科目基本情報				
科目名 卒業演習	期 別	曜日・時限	単 位
	通年	金１	4
担当者 岩田　直子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	４年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

卒業演習は卒業論文を作成することを目標としています。課題研究作成の経験を活かしながら研究を進めていきます。主体的に、そして計画に沿って論文を作成します。年度末には卒業論文発表会で発表をします。

メッセージ

卒業論文は個々の孤独な作業のように思えますが、実際は卒業論文の作成過程をゼミ仲間と励ましあいながら歩んでいきます。学生どおし互いの研究を紹介し、議論を重ねたり情報を交換したりして視野を広げていきます。

到達目標

①論文作成の経験から学ぶことができる。　②発表と議論のスキルを高めることができる。　③他の学生の研究から学び視野を広げることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	前期オリエンテーション	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ内容の確認
2	前期オリエンテーション	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ内容の確認
3	個別面談①	個別面談の準備
4	個別面談②	個別面談の準備
5	個別面談③	個別面談の準備
6	個別面談④	個別面談の振り返り
7	福祉の仕事講演会	配布資料を読みなおす
8	中間報告会①	発表者から学んだことを活かす
9	中間報告会②	発表者から学んだことを活かす
10	中間報告会③	発表者から学んだことを活かす
11	中間報告会④	発表者から学んだことを活かす
12	中間報告会⑤	発表者から学んだことを活かす
13	中間報告会⑥	発表者から学んだことを活かす
14	中間報告会⑦	発表者から学んだことを活かす
15	中間報告会⑧	発表者から学んだことを活かす
16	前期まとめ	
17	後期オリエンテーション	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ内容の確認
18	個別面談①	個別面談の準備
19	個別面談②	個別面談の準備
20	個別面談③	個別面談の準備
21	個別面談④	個別面談の準備
22	中間報告会①	発表者から学んだことを活かす
23	中間報告会②	発表者から学んだことを活かす
24	中間報告会③	発表者から学んだことを活かす
25	中間報告会④	発表者から学んだことを活かす
26	中間報告会⑤	発表者から学んだことを活かす
27	卒論集作成①	編集条件に合わせて準備
28	卒論集作成②	各自印刷する
29	卒論発表会準備（卒論発表会レジュメ集作成）	レジュメ集を作成する。
30	卒論発表会	発表者から学んだことを活かす
31	後期まとめ	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時紹介します。指定された教科書はありません。
	学びの手立て ①履修の心構え：演習は学生が主体的に参加することで成立します。切磋琢磨しながらお互いに高めあっていきましょう。そのためにも遅刻厳禁、出席も重視します。また、卒業論文の作成にあたっては個々人が主体的に研究することが前提であることを理解し、計画を立てて取り組みましょう。 ②学びを深めるために：研究テーマに関連する文献や論文を1冊でも多く手にとりましょう。また、ボランティア活動等に積極的に参加し、研究活動を深めましょう。
	評価 卒業論文の内容（５０％）、中間報告の内容（３０％）、ゼミ活動への参加状況（２０％）

学びの継続	次のステージ・関連科目 ①次のステージ：卒業後も研究活動を継続してほしいと思います。　②関連科目：社会福祉専攻専門科目

※ポリシーとの関連性　社会福祉学を中心とした各専門領域での学びを研究の成果物として作成し、発表する。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	卒業演習	通年	金１	4
	担当者 桃原　一彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		４年	講義終了後またはメール等で受け付ける。	

学びの準備

ねらい

大学の社会福祉学および各専門領域で学んだ研究成果を「作品」として形にする。とくに研究論文等で執筆、作成、発表を行う。

メッセージ

大学生活および大学での学びの集大成です。これに取り組まずに、何を大学生の証しにすると言えるのだろうか。大学で学んでいたことを、今の自分、将来の自分に目に見える形で残しておこう。

到達目標

各自で設定した卒業研究テーマに沿って、企画・設計、先行研究等の情報収集、データや素材等の収集と整理・分析、卒業論文の執筆や研究成果物の作成をおこなう。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	年間のスケジュールと諸注意	仮テーマについて考える
2	各自卒業研究テーマ候補の報告	仮テーマについて考える
3	各自卒業研究テーマの確定と発表	研究テーマの確定作業
4	同上	研究テーマの確定作業
5	同上	研究テーマの確定作業
6	同上	研究テーマの確定作業
7	卒業研究の企画・設計に関する指導	研究方法の模索
8	先行研究の収集に関する指導	先行研究文献の探索と精読
9	研究の方法論に関する指導	研究方法の確定
10	構成内容などに関する指導	目次構成の作成
11	データおよび素材の収集に関する指導	研究方法の詳細な手順確認
12	同上	研究方法の詳細な手順確認
13	個別の進捗報告と指導	研究作業の進捗状況をまとめる
14	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
15	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
16	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）	データ収集の実践
17	データ、素材収集の実施（適宜個別指導）	データ収集の実践
18	同上	データ収集の実践
19	同上	データ収集の実践
20	補足的な収集に関する指導	データ収集の実践
21	データおよび素材の整理方法の指導	データの整理
22	論文または成果物の内容構成の再検討	内容構成の最終確認と調整
23	個別の進捗報告と指導	研究作業の進捗状況をまとめる
24	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
25	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
26	同上	研究作業の進捗状況をまとめる
27	ゼミ全体での発表	発表資料の作成
28	卒論および成果物の仮提出と修正指導	論文執筆作業
29	卒論および成果物の本提出	論文集の編集作業
30	卒業論文および卒業研究集の作成	論文集の印刷、製本作業
31	予備日	研究成果の作成作業

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はとくにないので、適宜参考文献を紹介していく。 講義のなかで適宜紹介していく。
	学びの手立て 必ず卒業研究の成果物を提出しなければならない。ただし、平常点（出席状況や受講態度など）も重視するので、怠けずに参加する事。
	評価 「卒業演習」は、各演習ゼミ担当教員によって評価が与えられる。「卒業研究発表」は、担当教員が主査、他の教員が副査となって審査を行い、評価が与えられる。評価は、形式的なルール、研究上の意義（先行研究等との関係）、全体構成（研究の計画からまとめ方までの手順）、データおよび素材の収集方法（計画、実行内容、妥当性）、整理・分析の方法（適切な手順・方法等）、考察等（論理的、実証的な論述）、引用・資料等（引用の仕方や表記方法、参考文献の扱い方、資料の使い方や表記）、その他（誤字脱字など）をもって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業研究発表

※ポリシーとの関連性　学科カリキュラムポリシー１の「社会福祉専門職を養成する教育」と２の「実践的活動を重視した養育」に関連した科目です。　［　　／演習］

科目基本情報				
	科目名 卒業演習	期 別	曜日・時限	単 位
		通年	金１	4
	担当者 知名　孝	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		４年	人間福祉学科　知名孝	

学びの準備		
	ねらい 大学4年間の学びの総括として卒業論文作成を行っていく。論文執筆作成にかかる作業を行っていくなかで、自らの大学での学びを振り返り、4年間の学びを形にしていく。	メッセージ
	到達目標 学生個人で設定したテーマにしたがい、先行研究調査およびフィールド調査を行い、分析考察に至るまでの論文執筆の知識と方法を獲得していくことを目標とする。	

学びの実践	
	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	テキスト・参考文献・資料など ゼミのなかで指定する。
	学びの手立て
	評価 中間報告、定期的な課題・執筆状況、最終的な論文などを総合的に評価を行う。

学びの継続	
	次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　専門職として必要な知識を習得する。地域における個人支援や地域支援、社会資源の活用・開発に求められる知識を習得るする。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 地域福祉の理論と方法Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	水１	2
担当者 -上地　武昭	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義の記録用紙で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

教科書をしっかり読んで講義に臨むこと。特に自分の住む地域（市町村）について関心を持って欲しい。一般的な地域ではなく地域福祉は自分の住む地域（市町村及び自治会）の現状と課題についても関心を持っていてほしい。

メッセージ

＊教科書をしっかり読んで講義に臨むこと
＊地域福祉に関する文献を積極的に読むこと
＊積極的にボランティアに参加すること

到達目標

１．地域福祉の基本的考え方(人権尊重,権利擁護,自立支援,地域生活支援,地域移行社会的包摂等を含む)について理解する。
２．地域福祉の主体と対象について理解する。
３．地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。
４．地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について理解する。
５．地域福祉の推進方法(ネットワーキング,社会資源の活用・調整・開発・福祉ニーズの把握方法,地域トータルケアシステムの構築方法,サービスの評価方法を含む)について理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション 、地域福祉の基本的考え方（１）導入	地域福祉の概念と範囲、理念
2	地域福祉の基本的考え方（２）概念と範囲、理念	地域福祉の発展過程
3	地域福祉の基本的考え方（３）発展過程	地域福祉における住民参加の意義
4	地域福祉の基本的考え方（４）地域福祉における住民参加の意義	地域福祉のアウトリーチの意義
5	地域福祉の基本的考え方（５）地域福祉におけるアウトリーチの意義	地域福祉の主体
6	地域福祉の主体と対象（１）主体	地域福祉の対象
7	地域福祉の主体と対象（２）対象	地域福祉と社会福祉法
8	地域福祉の主体と対象（３）社会福祉法	行政組織と民間組織の役割と実際
9	行政組織と民間組織の役割と実際（１）地方自治体、社会福祉法人、ＮＰＯ法人等	社祉協、民生・児童委員の役割
10	行政組織と民間組織の役割と実際（２）社会福祉協議会、民生・児童委員	ボランティア組織・企業の役割
11	行政組織と民間組織の役割と実際（３）ボランティア組織・企業	生協、農協、その他の役割と実際
12	行政組織と民間組織の役割と実際（４）生活協同組合、農業協同組合、その他	社会福祉士や地域住民の役割
13	専門職や地域住民の役割と実際（１）社会福祉士	介護相談員、認知症サポーター役割
14	専門職や地域住民の役割と実際（２）介護相談員、認知症サポーター、その他	専門職、地域住民の役割と連携
15	地域福祉を担う組織、専門職、地域住民の役割と連携	振り返り
16	振り返り、テスト、評価	

テキスト・参考文献・資料など

毎時資料を配布する。
参考文献；「新・社会福祉士養成講座（９）社会福祉の理論と方法第3版」　、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社、2015年2月4日出版、2,808円

学びの手立て

①「履修の心構え」
受講時に求められる態度は、専門職としての態度で学んでほしい。遅刻を3回すると1回の欠席とする。国家試験科目であるので受講にあたって必要となる前提科目や推奨科目確認しておく知識は、特にない。
②「学びを深めるために」
講義内容の理解をより促進させ、到達目標まで引き上げるために講義に必要な事項を課題として予習して学んでもらう。

評価

「期末試験70%、レポート20%、平常点10%」期末試験では到着目標に達しているかを試験する。レポートは毎回の課題の提出内容で評価し、受講態度は毎回の提出記録で確認して評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（１）関連科目：この科目は社会福祉国家試験の科目であるので国家試験に関する他の科目もしっかり履修してほしい。
（２）次のステージ：日本の少子高齢人口減少化社会であるので教室における理論的な学習はもとより、学生自身の地域におけるボランティア活動にも積極的に参加してほしい。

※ポリシーとの関連性　専門職として必要な知識を習得する。地域における個人支援や地域支援、社会資源の活用・開発に求められる知識を習得する。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 地域福祉の理論と方法Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水１	2
担当者 -上地　武昭	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

教科書をしっかり読んで講義に臨むこと。特に自分の住む地域（市町村）について関心を持って欲しい。一般的な地域ではなく地域福祉は自分の住む地域（市町村及び自治会）の現状と課題についても関心を持っていてほしい。

メッセージ

＊教科書をしっかり読んで講義に臨むこと
＊地域福祉に関する文献を積極的に読むこと
＊積極的にボランティアに参加すること

到達目標

１．地域福祉の基本的考え方(人権尊重,権利擁護,自立支援,地域生活支援,地域移行,社会的包摂等を含む)について理解する。
２．地域福祉の主体と対象について理解する。
３．地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。
４．地域福祉におけるネットワーキング(多職種・多機関との連携を含む)の意義と方法及びその実際について理解する。
５．地域福祉の推進方法(ネットワーキング,社会資源の活用・調整・開発・福祉ニーズの把握方法,地域トータルケアシステムの構築方法,サービスの評価方法を含む)について理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション、地域福祉の推進方法（導入）	ネットワーキングの意義と方法
2	ネットワーキングの意義と方法	ネットワーキングの実際
3	ネットワーキングの実際	地域における社会資源の活用・調整
4	地域における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的	地域における社会資源の開発方法
5	地域における社会資源の活用・調整・開発の方法	地域における社会資源の実際
6	地域における社会資源の活用・調整・開発の実際	地域における福祉ニーズの把握
7	地域における福祉ニーズの把握方法と実際（１）質的な福祉ニーズの把握方法	地域における質的なニーズの把握
8	地域における福祉ニーズの把握方法と実際（２）質的なニーズの把握（その実際）	地域における量的な福祉ニーズ
9	地域における福祉ニーズの把握方法と実際（３）量的な福祉ニーズの把握方法	地域における量的福祉ニーズの把握
10	地域における福祉ニーズの把握方法と実際（４）量的な福祉ニーズの把握（その実際）	地域トータルケアシステムの要素
11	地域トータルケアシステムの構築に必要な要素	地域トータルケアシステムの実際
12	地域トータルケアシステムの構築方法と実際	福祉サービスのストラクチャ評価
13	地域における福祉サービスの評価方法（１）ストラクチャー評価、プロセス評価	福祉サービスのアウトカム評価
14	地域における福祉サービスの評価方法（２）アウトカム評価、その他	福祉サービスの評価方法第三者評価
15	地域における福祉サービスの評価方法（３）第三者評価、ISO、運営適正化委員会等	後期テスト範囲や振り返り
16	テスト・振り返り・評価など	

テキスト・参考文献・資料など

毎時資料を配布する。
参考文献；「新・社会福祉士養成講座（９）社会福祉の理論と方法第3版」、社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版社、2015年2月4日出版、2,808円

学びの手立て

①「履修の心構え」
受講時に求められる態度は、専門職としての態度で学んでほしい。遅刻を3回すると1回の欠席とする。国家試験科目であるので受講にあたって必要となる前提科目や推奨科目確認しておく知識は、特にない。
②「学びを深めるために」
講義内容の理解をより促進させ、到達目標まで引き上げるために講義に必要な事項を課題として予習して学んでもらう。

評価

「期末試験70%、レポート20%、平常点10%」期末試験では到着目標に達しているかを試験する。レポートは毎回の課題の提出内容で評価し、受講態度は毎回の提出記録で確認して評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（１）関連科目：この科目は社会福祉国家試験の科目であるので国家試験に関する他の科目もしっかり履修してほしい。
（２）次のステージ：日本の少子高齢人口減少化社会であるので教室における理論的な学習はもとより、学生自身の地域におけるボランティア活動にも積極的に参加してほしい。

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地域連携演習Ⅰ	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-稲垣　暁	２年	nahanohana@gmail.com および演習中に。	

学びの準備

ねらい

・社会的課題について、「子どもの居場所」づくりを通して住民・学校・大学・事業所・NPO・メディア・行政など、地域社会でさまざまな役割を果たすメンバーが連携し、解決を目指すプロセスを学ぶ。

メッセージ

・家庭の経済環境が原因でさまざまな「しんどさ」を抱える沖縄の子どもについて、特に既存の制度ですくいきれていない子どものセーフティネットづくりを、民間の「子どもの居場所」ももやま子ども食堂（沖縄市）とkukulu（那覇市）と共に企画・実践する。現場でプロジェクトを学生が企画・実践することで、課題解決に向けた地域連携センスやコーディネート力を身につける。

到達目標

①沖縄で貧困状況にある子どもが抱える「しんどさ」について、現状と背景、支援制度や支援員、子どもの居場所の実際を知る。
②臨床実践を通じ、既存制度ですくいきれていない課題について新たなセーフティネットづくりと包括的支援の方法を習得する。
③ソーシャルワークとしての地域連携の方法とコーディネート、発信のスキルを習得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	貧困状況にある子どもが抱える「しんどさ」について、現状と背景の理解【講義】	
2	貧困状況にある子どもが抱える「しんどさ」について、現状と背景の理解【ディスカッション】	関連情報の収集
3	支援制度や支援員、子どもの居場所の実際と課題、地域連携についての理解【講義】	関連情報の収集
4	支援制度や支援員、子どもの居場所の実際と課題、地域連携についての理解【ディスカッション】	関連情報の収集
5	既存制度ですくいきれていない課題と地域連携による新たなセーフティネット【講義】	関連情報の収集
6	既存制度ですくいきれていない課題と地域連携による新たなセーフティネット【ディスカッション】	関連情報の収集
7	「新しい子どもの居場所」臨床実践に向け、インテークとアセスメント基礎の習得【研修】	関連情報の収集
8	「新しい子どもの居場所」臨床実践とPDCA【現場】	関連情報の収集
9	「新しい子どもの居場所」臨床実践とPDCA【現場】	関連情報の収集
10	「新しい子どもの居場所」臨床実践とPDCA【現場】	関連情報の収集
11	「新しい子どもの居場所」臨床実践とPDCA【現場】	関連情報の収集
12	「新しい子どもの居場所」臨床実践とPDCA【現場】	関連情報の収集
13	「新しい子どもの居場所」臨床実践とPDCA【現場】	関連情報の収集
14	「新しい子どもの居場所」臨床実践とPDCA【現場】	関連情報の収集
15	新たなセーフティネットの仕組み、社会的資源の創出や地域連携方法を提案【提言】	関連情報の収集
16	フィードバック・発信【理解度の検証と定着】	

テキスト・参考文献・資料など

【参考文献】
「沖縄子どもの貧困白書」かもがわ出版、2017年
「日本のコミュニティ放送」第７章『沖縄でソーシャルワーク機能を果たすコミュニティFM』（稲垣執筆）晃洋書房、2017年

学びの手立て

・導入部分：【講義】では、基礎的な情報提供を行う。【ディスカッション】では、グループワークやディスカッションを中心に、自分で考え、意見を伝え、他者に耳を傾けるソーシャルワークの基本動作を身につける。普段から新聞や書籍の関連事項に目を通しておくと、理解や議論が深まりやすい。
・展開部分：【研修】【現場】では、実際に「新しい子どもの居場所」づくり企画と臨床での子どもたちとの関わりを通じ、体験ではなく現場スタッフとして事業参画する。制度や仕組み中心ではなく、あくまで「子ども」を主語に考える姿勢を身につける。
・発信部分：【提言】では、４日間の実践から見えたことについて、セーフティネットからもれる子どもたちの新しいサポートのあり方としてまとめ、コミュニティラジオや新聞で社会に発信する。

評価

・出席および参加状況、あいさつなどソーシャルワークとしての基本動作、プログラムへの向き合い方、受講生同志で支え合う力（ピアサポート）など総合的に判断する。
・演習外での現場フィールドワークや実践に関わった人も積極評価する。
・多様な人々が集まり、お互いを認め合いながらよりよい社会づくりを実践する人を育てることも目標とする。障がいを持っている学生も気後れせず、どんどんチャレンジしてほしい。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・夏休み期間中（８月初旬）の集中講義として行うが、「新しい居場所」づくりは４月にスタートする。本演習は、沖縄が恒常的に抱える重大な社会課題に真に向き合う人材育成を目指し、新しいセーフティネットを生みだす社会実践を兼ねる。そのため、企画段階および講義終了後も何らかのかたちで事業参画することが望ましい。継続的に関わる者は、事業所で報酬が出る「有償ボランティア」として登録することを検討している。

※ポリシーとの関連性　人間のこころや行動を理解するための心理学の知識と技術および知覚・認知に関する実験・観察などの実証的研究法を学ぶ専門科目　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 知覚心理学	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木４	2
担当者 前堂　志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講は、種々の感覚・知覚刺激の観察や知覚実験におけるさまざまな知覚体験を通して、人間が外界（身の周りの環境）を理解する際の基本的な心理的能力である”知覚;Perception”の仕組を理解することを目的とする。また、それぞれの知覚体験に関連する知覚心理学の理論や研究法、知覚心理学の知識や技術を理解することが人のこころの理解にどのように結びつくのか、についても学ぶ。

メッセージ

知覚心理学では、実際に自分の感覚や知覚を通して「世界」を感じて理解する過程を意識的に体験しながら「自分の知覚の仕組み」について理解することが重要である。そのため旺盛な好奇心、自発的・積極的な受講態度、実験グループでの協働が重要になる。日頃は意識していない”知覚という心の働き”に意識を向け、興味・関心を持って受講して欲しい。

到達目標

①知覚心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、知覚心理学分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる
②知覚心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。
③日常の身近な課題や問題について、知覚心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。
④知覚心理学の立場からの心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけている。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション・実験グループづくり	シラバス、実施要項の内容理解
2	知覚とはなにか・五感のメカニズム①	関連資料の予習・復習
3	実験①盲点の測定・視野測定	実験関連資料の予習・復習
4	実験②五感を意識するワーク	実験関連資料の予習・復習
5	実験③残像と恒常性	実験関連資料の予習・復習
6	実験④色覚①光の混色と色の混色	実験関連資料の予習・復習
7	実験⑤色覚②補色残像・色の同化と対比	実験関連資料の予習・復習
8	実験⑥視野融合	実験関連資料の予習・復習
9	実験⑦注意①選択的注意課題	実験関連資料の予習・復習
10	実験⑧注意②視覚探索課題	実験関連資料の予習・復習
11	実験⑨重量弁別①実験課題の理解とデータ測定	実験関連資料の予習・復習
12	実験⑩重量弁別②データの整理と結果の解釈・閾値の理解	実験関連資料の予習・復習
13	実験⑪視覚と聴覚の関連性	実験関連資料の予習・復習
14	実験⑫味覚と嗅覚の関連性	実験関連資料の予習・復習
15	もういちど知覚とは何か・まとめ	関連資料の予習・復習 /期末課題
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。授業ごとに必要な資料を配布する。以下の①～④の参考図書を参照するとよい。
①大山正（2000）．　新心理学ライブラリ18視覚心理学への招待―見えの世界へのアプローチ―　サイエンス社
②松田隆夫（2000）．　知覚心理学の基礎　培風館
③大山　正他（編）（1994）．　新編　感覚・知覚ハンドブック　誠信書房
④宮谷真人・坂田省吾（代編）（2009）．　心理学基礎実習マニュアル　北大路書房
その他の参考文献については、必要に応じて紹介する。

学びの手立て

・実験、実習での知覚体験が授業理解に重要であるため遅刻・欠席のないよう体調・時間の管理に留意する。
・実験、実習の成否は授業外での関連資料の予・復習や実験の準備で決まる。学習時間の確保に努めよう。
・知覚心理学では「自分で体験し、自分で気づいて・発見すること」が重要。授業や実験に自ら積極的に取り組みグループメンバーと協働できる、好奇心と意欲のある受講態度を望みます。実施要項、配布資料等をよく読み、疑問や不明な点など、担当教員やSAに積極的に質問しよう。
・様々な実験器具や材料を使用した小グループ実験を行うため希望者が多い場合は心理カウンセリング専攻の上級生から優先して登録を行う。クラスの状況や授業の進度により授業計画や実験内容に変更が生じる場合がある。その場合はその都度説明する。

評価

授業態度、小実験への参加・貢献、課題レポートの提出などを総合して、到達目標の①～④の達成度について評価する予定
平常点（授業・実験実習への参加態度、授業ごとの観察記録票の内容と提出状況）…50%
期末課題レポート…50%

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理学概論、認知心理学、生理心理学Ⅰ・Ⅱ、神経心理学の内容と関連づけながら履修するとよい。
次へのステージ：
知覚心理学的視点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。
引き続き、知覚心理学で学んだ知識や技術と結びつけながら心理学の専門科目を幅広く履修するとよい。

※ポリシーとの関連性

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	低所得者に対する支援と生活保護制度	前期	月４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-鈴木　良	２年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

日本の社会保障において最も重要で基礎的な仕組みである公的扶助に関する基本的知識を体系的に学習する。具体的には、貧困や低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会状況、福祉ニーズとその実態などに着目して、公的扶助の考え方や歴史について学習する。また、日本における公的扶助の制度として中心的役割をもつ生活保護法について学習する。

メッセージ

生活保護法や低所得者に関わる新聞報道をよく読んでおくこと。

到達目標

・現代における貧困・低所得問題について理解できるようになる。
・公的扶助の意義や役割について理解できるようになる。
・公的扶助制度の歴史について理解できるようになる。
・生活保護制度と低所得層対策について理解できるようになる。
・生活保護の仕組みと動向について理解できるようになる。
・生活保護制度・低所得層対策における相談援助活動について理解できるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	貧困・低所得問題についての課題
2	公的扶助制度はなぜ人々を救えないのか？	新聞記事の事例検討
3	公的扶助の概念	社会保険との対比で理解する。
4	貧困・低所得者問題と社会的排除	具体例についての検討。
5	欧米の公的扶助制度の歴史	教科書での欧米の制度史を読むこと
6	日本の公的扶助制度の歴史	教科書での日本の制度史を読むこと
7	生活保護制度の原理と原則①	教科書で生活保護法の原理を読む
8	生活保護制度の原理と原則②	教科書で生活保護法の原則を読む。
9	生活保護制度の扶助内容	教科書での扶助内容を読む。
10	生活保護制度の仕組み：施設・権利・財源	教科書で仕組みについて読む。
11	最低生活保障水準と生活保護基準	具体例を通して計算する。
12	生活保護の動向	教科書で動向について読む。
13	低所得者対策①	教科書で生活困窮者制度を読む。
14	低所得者対策②	教科書で低所得者制度を読む。
15	国・都道府県・市町村の役割	教科書で行政の役割を読む。
16	まとめ	国家試験対策の課題

テキスト・参考文献・資料など

低所得者に対する支援と生活保護制度 第4版（新・社会福祉士養成講座）中央法規

学びの手立て

授業は積極的に参加することに意義があるので、欠席・遅刻・早退、私語や居眠りに対しては厳しく対応する。
また、レポートの提出については提出日を厳守すること。なお、授業はグループワークによる演習も行うので、
積極的に参加すること。

評価

評価方法：
［評価項目と配分］
授業への出席度･参加度　30%　　提出物・試験　70%
［評価の観点］
授業への出席と討論への参加、試験結果を総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会福祉士関連科目を履修すること。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシーに掲げた正課科目・正課外活動の基礎となる学ぶ力をつける　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	適応の心理	前期	木２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山　篤史	１年	平山篤史　研究室13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

心理学の知識や技法、青年期に陥りやすい様々なリスクを学ぶことによって、大学生活へのスムーズな導入と適応を図る。

メッセージ

青年期は、子どもと大人の境界の時期であると言われています。自分の住む世界が広がり、多様な価値観に触れ、自分の進む道を主体的に決める時期でもあります。この時期には悩むことや行き詰ることもありますが、それは成長のプロセスの中にいる証拠ともいえます。講義を通して、心理学の視点から青年期の特徴やこの時期の悩みについて学び、自分の悩みと向き合い、成長に活かしてほしい。

到達目標

①大学生活へのスムーズな導入・適応ができる②青年期の特徴と悩みについて理解できる③悩みやトラブルに対して対応を考えることができる④心理学の学びを実生活に活かす視点を養う

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	配布資料を読む
2	青年期の特徴と友人関係	配布資料の復習・ワークシート
3	一日研修会オリエンテーション	配布資料を読む
4	キャンパス相談室の紹介と機能	リフレクションシート
5	コミュニケーションスキルグループワーク①	リフレクションシート
6	青年期の悩み①（対人不安・人見知り・対人緊張）	リフレクションシート
7	青年期の悩み②（アイデンティティ・自分らしさ）	リフレクションシート
8	ディスカッションスキルグループワーク②	リフレクションシート
9	青年期の悩み③（デートDV・異性関係）	リフレクションシート
10	青年期の悩み④（こころの病と発達障害）	リフレクションシート
11	青年期の悩み⑤（ハラスメント・犯罪・事故対策・ブラックバイト・SNSなど）	リフレクションシート
12	メンタルヘルスの知識と技法①ストレスマネジメント・リラクセーション	リフレクションシート
13	メンタルヘルスの知識と技法②認知行動療法	リフレクションシート
14	一日研修会	
15	一日研修会	
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。
参考図書は適宜紹介する。

学びの手立て

講義で取り上げる各テーマに対して、自分の日常生活・実体験と照らし合わせて考えてほしい。
また、他の講義で学んでいる（あるいはこれから学ぶ）心理学やその他の学問の理論や効果とどのように関連しているのか考えるとよい。

評価

平常点（講義参加の態度、リフレクションシートの提出状況・内容）…50点
最終レポート内容…50点

学びの継続

次のステージ・関連科目

学んだことを各共通科目・専門科目、大学内外の課外活動で活かす

※ポリシーとの関連性　人間についての専門職であるための、人間についての広い視野と深みのある教養とが得られることを目指します。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 哲学的人間論	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木３	2
担当者 -大城　信哉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義時間内が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備

ねらい

本講座は福祉専門職を志す人を対象に、福祉の対象である「人間」とは何であるのかを考えてもらうことを目的とします。人間について考えること自体は自然科学でも社会科学でもなされていて、すでに大きな成果を挙げていますが、本講座ではそれを哲学の立場からおこないます。哲学とは考えるということを考える学問で抽象的になりがちですが、それが諸君が一から考える助けとなるでしょう。

メッセージ

人間福祉学科の専門科目です。人間について考えることは諸君の関心に十分に合うものでしょう。問題は「哲学的」というところです。科学のような事実に即した学問とはやや異なるアプローチをしますが、科学に敵対するものではありません。自然科学や社会科学に学びつつ、それとは別種の人間理解を目指します。ものごとを最初から考える心構えがさしあたりの準備ということになりましょう。

到達目標

・社会福祉の対象である「人間」について、多角的な見方ができるようになる。
・福祉の意味について、ヒトという生物の特性からも考えられるようになる。
・人間を相対化する議論についても、自分自身の考えを持てるようになる。
・人間同士、あるいは他人同士が触れ合うことの意味を、深く考えられるようになる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	開講にあたって受講者諸君との合意作り	シラバスを読んでくるように。
2	ヒト、人間、など類似の諸語の意味を考える。	事典類にあたってみるように。
3	人間は何だと思われてきたか①：対自然で。	講義後の復習をするように。
4	人間は何だと思われてきたか②：対神で。	講義後の復習をするように。
5	生物としてのヒト①：サルとの異同。	講義後の復習をするように。
6	生物としてのヒト②：環境とのかかわり。	講義後の復習をするように。
7	文化人類学の知見と哲学。	講義後の復習をするように。
8	哲学的人間学と人格。	講義後の復習をするように。
9	精神分析と言語：人は主体でいられるか。	学生同士の議論を勧めたい。
10	あらためて「人間」であることについて。	学生同士の議論を勧めたい。
11	社会的動物であること①：個と社会。	学生同士の議論を勧めたい。
12	社会的動物であること①：向き合う他者と。	学生同士の議論を勧めたい。
13	社会的動物であること②：個が個であること。	学生同士の議論を勧めたい。
14	「人間」への批判：どう答えるか。	学生同士の議論を勧めたい。
15	あらためて「人間」と福祉。	自分の理解を再検討する。
16	期末考査。	自分の理解を確認する。

テキスト・参考文献・資料など

教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。参考文献は必要に応じて教室で指示します。まずは図書館で各種事典類を引く習慣を身につけるように。

学びの手立て

受講者の人数にもよりますが、こちらからも皆さんに質問して皆さんの考えを聞きたいと思っています。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも、講義には積極的に参加するようにと望みます。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとからの確認で十分です。

評価

最終回にテストをし、同時に小レポートも提出してもらって、その両方によって評価します。配点はテスト85点、小レポート15点の予定です（多少ズレるかもしれませんが）。平常点をどう評価するかは受講者の人数によります（大人数だと全員の様子を把握できないため）が、積極的に参加してほしいと思います。なお、受講者が出席することは最低限の条件ですので、出席それ自体を特別に評価することはありません。

学びの継続

次のステージ・関連科目

一般に物事の背景思想を学ぶことはすぐに役立つわけではありませんが、その物事を深く考えるためにはぜひとも必要ことです。この科目を学ぶことが、人間や福祉について漠然と興味があった人がその興味にしたがって自分自身で探求するためのヒントとなれたら幸いです。そのような探求ができるのであれば、あとは諸君ひとりびとりが自分の問題を見つけて進んでいけば良いのですから。

※ポリシーとの関連性　現代社会および現代の都市社会を解読し、社会学の基礎理論を補強する周辺領域として学ぶ。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 都市社会学	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	火４	2
担当者 桃原　一彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義終了後あるいはメール等で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

都市社会学は「都市（化）」という現象を社会学的に解読する学問である。都市の社会構造、空間構造が、私たちの生活、社会関係、心的性向とどのように関係しているのかについて理解する。

メッセージ

社会学の基礎概念「行為」と「構造」の関係を、都市空間、都市社会に応用して、現代社会を解読してみよう。講義では、都市に生きる人々の生活や心的性向を具体的に理解する素材として、映画作品や音楽作品も取り入れます。

到達目標

古典的都市社会学の理論と概念、Black Sociologyの基本的な視点、日本における都市社会学の系譜、テーマ化された都市空間を捉える視点等の習得。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	都市社会学への招待　～近代都市から現代都市へ	欧州「近代都市」の歴史の探索
2	多人種・多民族社会としてのアメリカ合衆国のその膨張	身近なグローバル資本の探索
3	シカゴ学派都市社会学理論　～形式社会学と人間生態学	ジンメルの基本概念の復習
4	バージェスの都市空間論とワースのアーバニズム論	身近な都市的生活様式の探索
5	現代都市を解読する課題Ⅰについて　～アメリカ都市の空間構造について	課題レポートの資料収集と作成
6	Black Sociologyの展開とその特徴	学問と差別の歴史の探索
7	Black Sociologyの可能性と今日的課題	マイノリティの文化論的実践の探索
8	日本における都市化の歴史的展開	日本の近代的都市化の歴史の探索
9	日本における都市社会学の展開①　～「結節機関」「正常人口の正常生活」「第三の空間」	古典的概念を応用した課題発見
10	日本における都市社会学の展開②　～都市コミュニティ、「世界都市論」、都市エスニシティ	日本の身近なグローバル化の探索
11	現代都市を解読する課題Ⅱにつて　～都市社会学の基礎概念を応用した課題	課題レポートの資料収集と作成
12	テーマ化された都市①　～近代都市の博覧会から現代のテーマパークまで	スペクタクル空間の系譜を考える
13	テーマ化された都市②　～郊外開発とショッピングモールの社会的側面	ショッピングモールの特徴を調べる
14	テーマ化された都市③　～「気散じ」「身散じ」、アフォーダンス	テーマ化された空間の心身を考える
15	都市社会学のまとめと期末課題	講義プリントのふりかえり
16	予備日	期末課題の作成

テキスト・参考文献・資料など

テキストの指定はとくにないので、参考文献・資料などを適宜紹介していく。

学びの手立て

リアクション・ペーパーは平常点の重要なポイントとなるので、面倒くさがらずに書き込むこと。大学は「学士力」（ジェネリック・スキル）を養うところ。その重要なポイントは「リサーチ・リテラシー」（高度かつ適切な情報収集と処理能力）となる。よって、課題に取り組む際は、インターネットの情報に頼りすぎないこと。インターネット情報を分析せずに、鵜呑みにして使用した場合は、減点の対象となる。

評価

受講態度とリアクション・ペーパーへの書き込み内容など平常点が20点、「現代都市を解読する学習課題」Ⅰ・Ⅱの提出と内容評価が各15点（計30点）、期末レポート課題の提出と内容評価が50点という構成で総合し評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：専門演習、卒業演習
都市社会学で学んだ知識や視点をいかして、社会調査や卒業研究につなげる。

※ポリシーとの関連性　カリキュラム・ポリシー1．および、3．に相当する。 人間のこころと行動を理解するための理論・技術を学ぶ専門科目　［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	動作法	前期	金１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平山　篤史	２年	研究室　13－211 atsushi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

動作法は、自分自身の姿勢や動きをコントロールし、「動作課題」の達成に向けて、主体的に取り組む過程で、当人が実感する心身の感じ方や取り組み方を変化させる心理療法である。姿勢や動作の改善、ストレスマネジメントなど様々な対象者の心身の支援に有効である。講義では動作法の理論の学習と実技を行い、動作法を日々の生活に生かすことや、援助技法を身につけることをねらいとする。

メッセージ

実技の実習の多い講義です。体を通してこころに働きかける心理療法ですので、受講者がペアになり、援助者役－被援助者役に分かれて実技の実習を進めていきます。学びながら自身の心身のメンテナンスを行えることがこの講義の魅力です。

到達目標

①対人援助の基本的姿勢が身につく。
②動作法の基礎的な知識・技術を使って支援的かかわりができる。
③動作法を利用した自身のストレスマネジメントができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテイション ―こころとからだのつながりと実習に関する諸注意―	配布資料の復習
2	動作法の歴史と理論～催眠から動作へ～	配布資料の復習
3	動作法の理論	リフレクションシート作成
4	動作法の援助の考え方と基本的な支援方法	リフレクションシート作成
5	躯幹部位の動きとリラクセイション１	リフレクションシート・実技復習
6	躯幹部位の動きとリラクセイション２	リフレクションシート・実技復習
7	肩周りの動きとリラクセイション	リフレクションシート・実技復習
8	股関節を中心とした動きとリラクセイション	リフレクションシート・実技復習
9	前半の実習振り返り	リフレクションシート・実技復習
10	動作法の臨床事例	配布資料の予習・復習
11	タテ系動作課題の見立てと基本的支援方法	リフレクションシート・実技復習
12	座位姿勢の実技１	リフレクションシート・実技復習
13	座位姿勢の実技２	リフレクションシート・実技復習
14	立位姿勢の実技	リフレクションシート・実技復習
15	まとめ	リフレクションシート・実技復習
16		レポート作成

テキスト・参考文献・資料など

テキストは講義の中で適宜、資料を配布する。
参考図書
「臨床動作法への招待」鶴光代　金剛出版
「動作療法」成瀬悟策　誠信書房
「動作法ハンドブック 基礎編」 慶応大学出版

学びの手立て

履修の心構え
●本授業では、身体を通してこころに働きかける心理療法を実習を通して学ぶ。相手のからだを扱うこと＝こころを扱うことである。実技では相手を思いやり、真摯な態度で実習に臨むこと。
●実習時の講義は厚生会館3階のたたみ間、あるいは、体育館地下の武道場で行う。
●実習の時には、激しい運動はしないが、床にあぐら姿勢、横になる姿勢を取ることがある。そのため、からだを動かしやすい格好をしてくること。スカートは不可。

評価

講義・実習への参加状況、実技実習への取り組、毎回のリフレクションシート…70％
最終レポート…30％

学びの継続

次のステージ・関連科目

「ストレスマネジメント」も併せて受講することで理解が深まる。
動作法を用いた心理支援の実践に関心がある学生は、障害児者を対象とした支援活動のボランティアに参加し、実践を通しながら学びを深めることができる（受講料無料の研修あり）。興味のある学生は担当教員まで申し出て下さい。

※ポリシーとの関連性　人間のこころや行動を理解するための心理学の知識と技術を学ぶ専門科目　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 認知心理学	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木４	2
担当者 前堂　志乃	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	研究室：5-431 e-mail:mshino@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

本講の目的は、認知心理学の主要なテーマ（知覚、記憶、思考、言語、情動、注意と意識）に関する認知心理学の知識について、文献を読みワークを行うことで理解することである。ワークでは、「日常生活における認知活動」について観察し、対話し、考える。認知心理学の知識を日常生活に結びつけ、ひとの認知過程を具体的に理解し、認知心理学的に物事を捉え考える視点を持つことを目指す。

メッセージ

授業内・外で、「ものごとを認識すること、理解すること、考えること」というこころの働き（認知過程・認知活動）について、文献を読み、対話し、考える機会を多く経験してほしい。日頃から自分や人々のこころの動きや働き、認識と感情と行動の関係を意識的に観察してみよう。目に見えない認知について「観察し、読み、話し、考える」ことを楽しみ、自分のこころの理解に繋げていこう。

到達目標

①認知心理学の基礎知識（専門用語、理論）を理解し、知覚心理学分野の入門書を自分で読んで内容を理解できる。
②認知心理学の基礎知識（専門用語、理論）と日常の出来事を結びつけて自分の言葉でわかりやすく説明できる。
③日常の身近な課題や問題について、認知心理学の基礎知識をもちいて考えることができる。
④認知心理学の立場からの心理学的視点（人、社会、自分、他者、人間の心の諸問題を科学的に分析的に理解し考える力）を身につけている。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	シラバス等の内容理解/観察課題
2	認知とは・認知心理学とは/日常における認知過程	関連資料の復習/1章の予習
3	私たちは世界をどのように見ているのか：1章	1章の復習/2章の予習/観察課題
4	私たちはどうやって言葉や音楽を聴き取っているのか：2章	2章の復習/3章の予習/観察課題
5	時間の経過はどのようにわかるのか：3章	3章の復習/4章の予習/観察課題
6	意識とはなんだろうか：4章	4章の復習/5章の予習/観察課題
7	記憶はどのように知識になるのか：5章	5章の復習/6章の予習/観察課題
8	私たちはどのように会話しているのか：6章	6章の復習/7章の予習/観察課題
9	私たちはどのように文章を読み、書くのか：7章	7章の復習/8章の予習/観察課題
10	私たちはどのように考えるのか：8章	8章の復習/9章の予習/観察課題
11	モノのデザインは心理学とどのように関わっているのか：9章	9章の復習/10章の予習/観察課題
12	私たちは自分の心をどのように認知しているのか：10章	10章の復習/11章の予習/観察課題
13	感情は知的活動にどのような影響をおよぼすのか：11章	11章の復習/12章の予習/観察課題
14	動物は世界をどのように認識しているのか：12章	12章の復習/観察課題/全体の復習
15	もう一度、認知とは/まとめ	全体の復習と振り返り/期末課題
16	予備日	

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：仲真紀子（編著）（2010）．　いちばんはじめに読む心理学の本④認知心理学―心のメカニズムを解き明かす―　ミネルバ書房　＊テキストは毎回の授業に使用する。各自準備し、持参すること。
参考文献：必要に応じて資料を配布する。以下の①～③の参考図書を参照するとよい。
①道又爾　他（2011）．　新版認知心理学―知のアーキテクチャを探る―　有斐閣アルマ　有斐閣
②森敏昭・井上毅・松井孝雄（2009）．　グラフィック認知心理学　サイエンス社
③森敏昭・中條和光（2007）．　認知心理学キーワード　有斐閣叢書　有斐閣

学びの手立て

・心理学の専門的な参考文献（テキスト、配布資料や参考図書）を読んで理解するには、2度読み（下読み、分析読み）をすることと、心理学の専門用語について自分で調べることが重要です。
・予習・復習において、テキストの2度読みとワークシートのまとめ、日常観察を課します。予・復習の内容をもとに授業内での小グループワーク（課題について対話をしながら考える）を行います。「ひとの認知」について「よく読み、よく観察し、よく話し、よく考える」ことに積極的に取り組む気持ちで受講してください。
・他学科、他専攻学生の受講に際しては、共通科目の心理学Ⅰ・Ⅱまたは心理学概論などの心理学入門科目を履修済みであることが望ましい。

評価

平常点（受講態度、授業内ワークへの参加態度・貢献度、予・復習ワークシートの内容と提出状況）…50％
期末課題（ポートフォリオとレポート課題の内容）…50％
平常点と期末課題において到達目標の①～④の達成度を評価する予定。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：心理学概論、知覚心理学、生理心理学Ⅰ・Ⅱ、学習心理学Ⅰ・Ⅱ、神経心理学の内容と関連づけながら履修するとよい。
次へのステージ：認知心理学的視点から身近な物事を捉え考える（専門知識と日常を繋げる）習慣を継続しよう。引き続き、認知心理学で学んだ知識と結びつけながら心理学の専門科目を幅広く履修するとよい。

※ポリシーとの関連性　この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史・主要な研究を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 発達心理学Ｉ	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	木２	2
担当者 -金武　育子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	office.ikuko@gmail.com	

学びの準備

ねらい

発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学Ｉ（前期）では、発達心理学の変遷、理論、研究法を概説し、誕生～青年期までについて取り上げる予定です。

メッセージ

積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいと思います。

到達目標

人間の生涯の発達に関する理解を深め、人間理解の手掛かりとして発達心理学的知見を生かせるようになります。発達心理学の重要理論について、理解することができます。各人の個人的発達の過程及び課題について理論的な理解を深めることができます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する	テキスト序章～１章
2	発達心理学の変遷と研究法①：発達心理学の歴史を概説する	テキスト序章～１章
3	発達心理学の変遷と研究法②：発達心理学の研究法を概説する	テキスト序章～１章
4	発達理論①：主要な理論について紹介する（フロイト）	テキスト序章～１章、資料
5	発達理論②：主要な理論について紹介する（ピアジェ）	テキスト序章～１章、資料
6	発達理論③：主要な理論について紹介する（エリクソン）	テキスト序章～１章、資料
7	発達理論④：主要な理論について紹介する	テキスト序章～１章、資料
8	胎児期：胎児期の発達の様子	テキスト２章
9	乳幼児期：乳幼児期の発達の様子	テキスト２章
10	幼児前期：幼児期の発達の様子①	テキスト３章
11	幼児後期：幼児期の発達の様子②	テキスト３章
12	児童期：児童期の発達の様子	テキスト４章
13	青年期①：青年期の課題①	テキスト５章
14	青年期②：　〃　②	テキスト５章
15	まとめ	テキスト１～５章
16	試験日	

テキスト・参考文献・資料など

前原武子　編著　「発達支援のための生涯発達心理学」　ナカニシヤ出版
その他の資料は、講義中に適宜紹介する

学びの手立て

積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいと思います。

評価

毎回、所定のワークシートを課す。
レポート（期末考査）を１タイトル以上課し、総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

人間発達を捉える視点を、日常生活における自己理解及び、他者理解に応用してみましょう。

※ポリシーとの関連性　この授業では、人間の生涯に渡る発達について、発達心理学の歴史・主要な研究を幅広く取り上げ、概説することを目的とします。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 発達心理学Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 -金武　育子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	office.ikuko@gmail.com	

学びの準備

ねらい

発達心理学への理解を深め、人間理解の手がかりとして発達領域の知見を活用する手立てを身につけていただきたいと思います。発達心理学Ⅱ（後期）では、青年期から老年期までを取り上げ、発達臨床の視点も紹介する予定です。

メッセージ

積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいと思います。

到達目標

人間の生涯の発達に関する理解を深め、人間理解の手掛かりとして発達心理学的知見を生かせるようになります。発達心理学の重要理論について、理解することができます。各人の個人的発達の過程及び課題について理論的な理解を深めることができます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価の方法などに関して説明する	テキスト序章～１章
2	発達理論①：主要な理論について紹介する	テキスト序章～１章
3	発達理論②：主要な理論について紹介する	テキスト序章～１章、資料
4	発達理論③：主要な理論について紹介する	テキスト序章～１章、資料
5	胎児期から青年期①：概観①	テキスト１～５章
6	胎児期から青年期②：概観②	テキスト１～５章
7	青年期：青年期の課題	テキスト５章
8	成人前期：成人前期の発達の様子①発達課題	テキスト６章
9	成人前期：成人前期の発達の様子②適応	テキスト６章
10	成人中期：成人中期の発達の様子①発達課題	テキスト６章
11	成人中期：成人中期の発達の様子②適応	テキスト６章
12	成人後期：成人後期の発達の様子①発達課題	テキスト７章
13	発達課題について：まとめ	テキスト序、５～７章
14	発達研究：展望と課題	テキスト序～７章
15	まとめ	テキスト序～７章
16	試験日	

テキスト・参考文献・資料など

前原武子　編著　「発達支援のための生涯発達心理学」　ナカニシヤ出版
その他の資料は、講義中に適宜紹介する

学びの手立て

積極的な参加と「感じる心」、個々人の意見の表明を期待します。それに基づき相互に理解を深めていきたいと思います。

評価

毎回、所定のワークシートを課す。
レポート（期末考査）を１タイトル以上課し、総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

人間発達を捉える視点を、日常生活における自己理解及び、他者理解に応用してみましょう。

※ポリシーとの関連性　人間のこころや行動を理解するための心理学の知識と技術を学ぶ専門科目である。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 発達臨床心理学	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金１	2
担当者 野村　れいか	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	研究室：9号館618　r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

発達のプロセスの中で生じる様々な心理的葛藤や発達課題について、発達段階ごとに解説する。「発達」の視点を踏まえた心理的援助において理解を深める。

メッセージ

人は日々発達・成長しています。そのプロセスの中で発達課題や様々な心理的課題が生じます。この講義では、発達のプロセスの中で臨床心理学がどのように活かされているかを学びます。

到達目標

①成長発達のプロセスの中で生じる心理的葛藤や発達課題について理解する。
②それぞれの段階でみられる葛藤や課題への心理的援助について理解する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	発達段階を知る
2	乳幼児の発達と心理臨床	リフレクションシートの作成
3	児童期の発達と心理臨床	リフレクションシートの作成
4	思春期の発達と心理臨床	リフレクションシートの作成
5	成人期の心理臨床	ミニレポート１
6	自閉スペクトラム症の乳幼児期・児童期の特徴と心理的支援	リフレクションシートの作成
7	自閉スペクトラム症の青年期・成人期の特徴と心理的支援	リフレクションシートの作成
8	ADHDの発達段階ごとの特徴と心理的支援	ミニレポート２
9	小児期の病気と心理的支援	リフレクションシートの作成
10	「がん」と心理的支援	リフレクションシートの作成
11	「精神疾患」と心理的支援	リフレクションシートの作成
12	「老い」と心理臨床	リフレクションシートの作成
13	発達段階に応じた心理的支援①	リフレクションシートの作成
14	発達段階に応じた心理的支援②成人期以降	リフレクションシートの作成
15	まとめ	最終レポート
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特に指定しない。参考図書は適宜紹介する。

学びの手立て

「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」「発達心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましいです。適宜グループディスカッションを取り入れ、グループの意見を発表してもらいます。積極的に意見を交換して下さい。

評価

リフレクションシート…50%　ミニレポート…20%　最終レポート…30%

学びの継続

次のステージ・関連科目

「学校臨床心理学」、「臨床面接法Ⅰ・Ⅱ」で支援の実際を学ぶ。「行動療法」「動作法」「ストレスマネジメント」「芸術療法」で各心理療法の理論と実践を学び、発達段階に応じた支援のあり方について考えるとよい。

※ポリシーとの関連性　「人間のこころと行動」「人と人のつながり」に関する心理学的理解を深めるために、犯罪・非行という社会行動を通して学ぶ。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 犯罪心理学	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水２	2
担当者 -山入端　津由	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後、教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

非行・犯罪のある者に対する的確な理解、また、犯罪や非行が発生する個人的、社会的、状況的な影響による機序について理解を深める。さらに、わが国では、犯罪や非行を抑止する社会防衛の政策（刑事政策）について、具体的などのような罰の効果、教育の効果が期待されて諸政策が施行・展開されているかについても理解を深める。

メッセージ

日常的に社会で発生している多様な犯罪・非行について、どうしてこうした事が起こるのか、その発生の機序はどのように理解されているのか、個人内要因、社会関係要因、状況要因などの多面的な観点から考え、討議し、理解を深める。具体的な事例の提示、社会事象として公開された映像、直接刑事政策に関わる人々の講演等を駆使して講義を行う。

到達目標

犯罪や非行等を定義した上で、犯罪や非行を理解する理論（モデル）、特に犯・非行の心理学的メカニズムについて学ぶ。これらを踏まえて、わが国の公的統計資料に現れた犯罪・非行事情の理解や、人々から関心がもたれた重大な非行や犯罪事例についても理解を深める。さらに、犯罪や非行のある人の処遇（教育）はどのように行われているか。また、犯罪や非行のある人々の立ち直り（更生）や死刑についても論じる。以上、討議を行いつつ、理解を深める。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション（講義概要）	犯罪・非行情報記事を読む。
2	社会・文化と犯罪（嬰児殺）DVD「ヤマノミ」、「瀬戸少年院」視聴	課題レポート作成・提出
3	少年犯罪の好発年齢と脳科学所見	配布資料、文献等の講読
4	犯罪の原因（個人・環境原因論）	配布資料、文献等の講読
5	人が悪魔に変わる時（状況と行動）「史上最悪の心理学実験」（NHK）視聴	配布資料、文献等の講読
6	ルシファー・エフェクト（模擬刑務所実験他、アブグレイブ刑務所事件）DVD	課題レポート作成・提出提出
7	暴力犯罪（性暴力を含む）	配布資料、文献等の講読
8	放火ー弱者の犯罪？（アレキシサイミアと放火）	配布資料、文献等の講読
9	ホワイトカラー犯罪（社会的地位のある人の犯罪）	配布資料、文献等の講読
10	凶悪犯罪１（神戸連続殺人　少年Aの犯罪）	配布資料、文献等の講読
11	凶悪犯罪２（永山則夫　一〇八号連続射殺事件）	配布資料、文献等の講読
12	凶悪犯罪３（詫間守　大阪教育大付属池田小事件）	配布資料、文献等の講読
13	凶悪犯罪４（光市母子殺害少年）ー死刑を考える	配布資料、文献等の講読
14	日本の刑事政策と犯罪のある者の処遇	配布資料、文献等の講読
15	マスコミと犯罪報道	配布資料、文献等の講読
16	まとめの討議及び総合評価	レポート課題の作成

テキスト・参考文献・資料など

参考文献１　大渕憲一　2010　犯罪心理学　培風館　　２　大渕憲一　2016　紛争・暴力・構成の心理学　北大路書房　３　大渕憲一（編）犯罪理論　　４　細江達郎　2012　図解犯罪心理学　ナツメ社　５　精神鑑定

学びの手立て

評価

「鑑別事例の検討」（５回）については、毎回、「鑑別」レポートの提出を義務づけ、これを評価する。なお、評価得点の配分割合は、レポート70パーセント、討議における発言内容と回数を30パーセントとする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

資質鑑別法に関連して、他の臨床心理学科目も関連させて学ぶこと。

※ポリシーとの関連性　To prepare students for English communication.

[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	福祉英語Ⅰ	前期	月２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ｰﾛﾋﾞﾝｿﾝ　ｻｲﾓﾝ	２年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

Students will develop their ability to have informal convesations on familiar topics, asking questions and giving information about their own interests, likes and dislikes.

メッセージ

This is a great fun class, with lots and lots of talking so you'll get lots of conversation practice.

到達目標

By the end of this course students will be able to give a detailed self-introduction, and interview a partner about their life. Students will have developed their ability to talk at length in English, and will have become very proficient at asking, understanding, and answering questions.

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	First meetings	none
2	How are you? (communicative answers)	none
3	Free time 1 - listening	none
4	Free time 2 - basic conversation	interview friend/family
5	Free time 3 - detailed conversation	prepare content
6	Free time 4 - free conversation activity	none
7	Occupations and part-time jobs 1 - listening	interview friends/family
8	Occupations and part-time jobs 2 - detailed interview	none
9	Like 1 - listening	none
10	Like 2 - basic conversation	interview friends/family
11	Past 1 - listening	none
12	Past 2 - basic conversation	interview friends/family
13	Past 3 - detailed conversation	prepare self-intro
14	Review 1 - practice detailed conversations of all topics covered	practice self-intro
15	Review 2 - partner practice of exam interview format	practice exam
16	Exam - interview	none

テキスト・参考文献・資料など

There is no textbook for this course - students will use photocopied materials prepared by the teacher.

学びの手立て

This course is all about talking in English, in groups and partners. So please come ready to try your best to talk in English only for all the talking activities.

評価

Students will be assessed on their participation in classroom activities (30%) and on their performance in the final interview exam (70%).

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名 福祉行財政と福祉計画	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	木１	2
	担当者 -末吉　重人	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		２年	学内のメールで問い合わせる。	

学びの準備		
	ねらい 社会福祉士国家試験に向けた学習を行う	メッセージ
	到達目標 国家試験で６割を取れるよう学ぶが、試験自体が切迫してはいないため、地方自治体の福祉政策を理解できているようにしたい。	

学びの実践	
	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 国家試験テキストの『福祉行財政と福祉計画』を１５回で、順に説明する。
	テキスト・参考文献・資料など 参考資料としては『社会福祉士の合格教科書』飯塚慶子著、TECOM出版がわかりやすい。
	学びの手立て
	評価 期末試験８０点、出席点２０点（１５回）の合計点で評価する。

学びの継続	
	次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　障害者自立支援法（現：総合支援法）施行以降、福祉が市場原理に委ねられた経緯と必要性、そして福祉事業経営の手法を学ぶ　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 福祉サービス組織と経営	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水５	2
担当者 神谷牧人（8）大城篤志（8）	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	原則、授業終了語に教室で受け付けます。ただし、必要に応じて時間外での相談も可能。	

学びの準備

ねらい

平成18年10月の障害者自立支援法の施行以降、福祉事業が保障よりサービスへと変革され、福祉サービスを提供する事業所は従来型の受け身体制ではなく、市場原理のなか利用者や地域から選ばれるサービス展開を主体的に行っていかなければならない。当科目では、マーケティングや差別化戦略等、ひろく経営の観点から福祉を理解する。

メッセージ

学生自身が福祉サービス事業所を開設（もしくは民間の会社として起業）するための企画書ならびに事業計画書を作成。理念や顧客定義、差別化戦略、予算書等の企画立案の手法の獲得を目指す。一方的な講義はほとんどなく、それぞれの手法の説明をおこない、あとはグループでの企画が主な講義スタイルとなる。講義の中から実際に起業家が生まれることを期待している。

到達目標

到達目標はズバリ「経営者視点」である。福祉サービス提供者として、各々の法人種別毎の意義や目的を理解し、ソーシャル・ミッションを実現するための手法を学び、実際に福祉サービスを提供している法人の経営者と同じ視点の獲得が当科目の到達目標となる。そのような経営者と同じ視点を獲得することは、単純に当科目の評価基準となるだけではなく、社会人として（福祉サービス従事者のみならず）、「何をやっているのか？」ではなく「何のためにやっているのか？」を理解した上で働くことに通ずる。到達目標に対する評価に関しては、企画立案（起業するための事業計画の作成）に「正しいゴール」はないため、講義内での課題に対して能動的に取り組むことで、広義の意味で「プレゼン力（言語化・可視化する力）」や「考える力」「実現する力」の獲得があげられる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	福祉サービスの制度	
2	社会市場における経営とは	
3	福祉サービスにかかわる組織の違い	
4	事業所見学	事前にグループで事業所を見学
5	事業所を開設する「サービスの決定」	
6	事業所を開設する「収入と支出を算出する」	
7	事業所を開設する「予算書の作成」	
8	中間発表	
9	事業所を開設する「マーケティング」	
10	事業所を開設する「差別化戦略」	
11	事業所を開設する「市場調査」	グループで市場調査を実施
12	事業所を開設する「市場調査」	グループで市場調査を実施
13	事業所を開設する「事業計画書作成」	
14	プレゼン資料の作成	
15	プレゼン資料の作成	
16	事業計画の発表	

テキスト・参考文献・資料など

使用する教科書「新・社会福祉士養成講座　１１福祉サービスの組織と経営 第４版」中央法規 定価2,200円（税別）

学びの手立て

１、履修の心構え：一方的な講義はほとんどなく、グループ毎に「考える」「議論する」内容がほとんどになります。そのため、他人まかせの受動的な姿勢では望まないように。
２、学びを深めるために：アルバイトでも福祉実習でも、どのようなカタチでも一度、経営者と話す機会を作ると、より一層学びが深まると考える。

評価

評価配分：最終プレゼン40点満点 / 事業計画書28点満点 / 出席率32点満点
評価基準：出席率に関しては、16講義×2点の計算となります。最終プレゼンや事業計画における評価基準は、マーケティングや市場分析などにおいて、主観ではなく実際に足を運んで可能な限り客観的なデータ（資料）を集めているのか等が評価の基準となる。

学びの継続

次のステージ・関連科目

（1）関連科目：社会調査の基礎、福祉行財政と福祉計画
（2）ディプロマポリシー：地域福祉の多様な課題を発見、分析、解決する能力を身につける。

※ポリシーとの関連性　福祉現場で必要とされるレクリエーション技術の基礎を学ぶ

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	福祉レクリエーション技術Ⅰ	前期	月２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細田　奈々	２年	講義修了後に教室で受け付ける	

学びの準備

ねらい

科目「福祉レクリエーション理論」での学びと平行しながら、レクリエーションの技法を基礎を修得する
受講生同士が協力して、それぞれのレクリエーション技術を磨き、将来実践かとしての素養を磨く

メッセージ

講義の全体が身体的な活動を中心とすることから、服装やレクリエーション技法に必要とされる道具等の事前準備が必要である。
受講生は、事前の指示を忠実に遂行し、講義に支障がないように努めること

到達目標

① レクリエーション技術の全体像を理解する
② 基礎的なレクリエーション技法を実践できるレベルまで修得する
③ 自らの計画に基づくレクレーション実践ができる素養を修得する
④ 場を盛り上げ、参加者の雰囲気・気持ちを読み取る基礎を修得する
⑤ レクリエーション技術の基礎について十分な理解を深める

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	指示された事項について事前学習
2	アイスブレーキングの実際	同上
3	コミュニケーションワーク①　　ホスピタリティについて	同上
4	コミュニケーションワーク②　　アイスブレーキングについて	同上
5	コミュニケーションワーク③　　アイスブレーキング演習	同上
6	目的に合わせたレクリエーションワーク	同上
7	対象に合わせたレクリエーションワーク①　　基本的な考え方	同上
8	対象に合わせたレクリエーションワーク②　　アレンジ法	同上
9	目的・対象に合わせたレクリエーション演習	中間のまとめ
10	場面に応じたレクリエーション支援の実際	同上
11	児童を対象としたレクリエーション支援の実際	同上
12	高齢者を対象としたレクリエーション支援の実際	同上
13	グループ運営の技法　と　レクリエーションリーダー	同上
14	手づくりイベントの企画	同上
15	まとめ、受講生による学習成果の報告、評価	報告レジメ・ＰＰ等の作成
16		

テキスト・参考文献・資料など

① 必要に応じて資料を配布する。
② 参考分件等も必要に応じて提示する。

学びの手立て

① これまでの国内外の大災害時の状況や公私の対応の状況などについて調べておくこと
② 社会福祉関連法をはじめ災害関連の法規について事前に目を通しておくこと
③ 特に、社会的弱者に対する対応のあり方・現状の施策等について調べておくこと
④ 沖縄県における災害時のあり方について政策提言(案)を作成できることを目指すこと
⑤ その他、積極的・自主的取り組みを期待する

評価

以下の内容をなどを総合的に判断して評価する。
①出欠状況10%、②参加態度10%、③情報収集能力20%、④洞察力20%、⑤まとめる力20%、⑥プレゼン能力20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

講義内容をもとに、国内外の規則・制度・施策の状況把握につとね、公私の災害時対応のあり方についての政策提言ができるレベルまで考察を深めこと、また、特に社会福祉の対象者への対応については、専門職として対応できる知識・技量を深めることを期待する。

※ポリシーとの関連性

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	福祉レクリエーション技術Ⅱ	後期	月２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-細田　奈々	２年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備

ねらい

本講義では「福祉レクリエーション理論」及び「福祉レクリエーション技術Ⅰ」での成果を踏まえ、レクリエーションインストラクターとして様々な分野で活躍するための資質を高めることを目的とする。

メッセージ

本講義は現場に出向きレクリエーションプログラムの実践があります。そのため、レクリエーションに限らずこれまで学んできた様々な知識を活かしてプログラミングに取り組むことになります。また、プログラムに必要とされる道具等の事前準備も必要になります。受講生は、事前の指示を忠実に遂行し、講義に支障がないように努めてください。

到達目標

①レクリエーション支援の全体像を理解する②レクリエーション支援技術を実践できるレベルに高める③アセスメントに基づくレクリエーション支援プログラムを考案できる④考案した支援プログラムを実践するためのプロセスを修得する⑤対象者を目の前にして得られる「場」の空気感を直接感じることによって、対象者に寄り添いながら目的に向かって進行するために必要な素養に気づき、それらを修得する

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション・ アイスブレーキング（体験　プログラム構成　技法　）	指示された事項について事前学習
2	レクリエーションリーダーの資質・ロールプレイ	ロールプレイ準備
3	高齢者福祉施設における室内レクリエーションについて	指示された事項について事前学習
4	児童福祉施設における室内レクリエーションについて	同上
5	障碍者施設における室内レクリエーションについて	同上
6	実践にむけて　課題の明確化（ディスカッション）	同上
7	演習先の決定　→　アセスメント　→　目的の明確化	同上
8	期待される効果→プログラム構成→リハーサル１	同上
9	プログラム再構成　及び　アクティビティのアレンジ	同上
10	進行表の作成　→リハーサル２→プログラム決定	プログラム・道具未完成者は仕上げ
11	実践 - 受け入れ先 -（レクプログラムの実践　及び　評価の回収）	受け入れ先への移動は受講生で行う
12	実践 - 受け入れ先 -（レクプログラムの実践　及び　評価の回収）	受け入れ先への移動は受講生で行う
13	振り返り　受講生による演習成果等のまとめ	教室への移動は受講生で行う
14	グループ発表　成果報告	
15	まとめ　レクリエーションインストラクターとしての展望	
16		

テキスト・参考文献・資料など

①テキスト　日本レクリエーション協会編　「レクリエーション支援の基礎」　②必要に応じて資料を配布する

学びの手立て

講義では実践的な内容が主になってきます。福祉社会について様々な角度から考察し、ご自身の考えを持って受講してください。また、ご自身を福祉の専門従事者と想定し、あらゆる場面でどのようにレクリエーション技術を活用していけるかを常に考えてください。

評価

以下の内容などを総合的に判断して評価します①参加態度（20%）②技術の修得状況（４0%）③プレゼンテーション（４0%）

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性　福祉・医療・保健・教育の各分野で中核として活躍するために求められる人間性と能力を豊かにすることにつながる講義です。　［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	フレッシュマンセミナー	前期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩田　直子	１年	原則、授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

主に、大学で学ぶことの意義、大学機能の理解、大学生活の特徴を学びます。演習形式の特徴を活かし、ゼミ生が共に切磋琢磨しながら教養を深め視野を広げることを目的とします。

メッセージ

高校までの学びと大学での学びは大きく異なります。そこで、大学で学ぶことの意義、学ぶためにどのように大学の機能を活用するか、大学で学ぶ上で身につけたい技術（主にレポート作成）について共に学びましょう。

到達目標

①大学で学ぶことの意義を理解することができる　②大学の機能を理解することができる　③レポートの書き方を理解することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション　ゼミの概要説明、レポート課題①大学生活の抱負	
2	自己紹介①	
3	自己紹介①	
4	大学で学ぶことの意義①大学の歴史から考える	
5	図書館オリエンテーション	
6	大学で学ぶことの意義②高校までの学びとの相違	
7	１日研修のオリエンテーション	
8	大学の機能を理解する①キャリアセンター	
9	大学の機能を理解する②グローバル教育支援センター	
10	大学の機能を理解する③福祉・ボランティア支援室	
11	大学の機能を理解する④キャンパス相談室	
12	大学の機能を理解する⑤トレーニング室/グラウンド	
13	社会福祉専攻専門科目の特徴を理解する～海外社会福祉演習、ボランティア関連科目等～	
14	レポートの書き方：レポート作成のポイントと心得、　レポート課題②社会福祉の今日的課題	
15	レポートの書き方：レポート作成時の疑問を解決する	
16	まとめ	

テキスト・参考文献・資料など

講義時に随時紹介します。指定の教科書はありません。

学びの手立て

①履修の心構え：演習科目は学生の主体性が不可欠です。積極的に活動に参加しましょう。出席も重視します。
②学びを深めるために：受講にあたっては講義終了後に振り返りをしっかりしていきましょう。また、大学サービスを活用しましょう。

評価

演習への主体的参加状況（５０％）、レポート（５０％）

学びの継続

次のステージ・関連科目

①次のステージ：専門の勉強をする際にフレッシュマンセミナーで学んだことを活かしていきいましょう。
②関連科目：１年次が履修できる社会福祉専攻の専門科目

※ポリシーとの関連性　コミュニケーションの技能の修得と実戦的学習を重視し、豊かな人間性と能力を兼ね備えた人材を養成する。

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	フレッシュマンセミナー	前期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原　一彦	１年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	

学びの準備

ねらい

フレッシュマンセミナーは、初年次学生（新入学生）が大学環境やキャンパスライフにスムーズに馴染んでもらうことを主たる目的として様々なプログラムを用意している。とくにゼミ学生相互の共同学習や共同作業を通して、大学における仲間づくりがスムーズにいくように働きかける内容となっている。

メッセージ

大学生活初年次は、とにかく緊張感を伴います。この講義はその緊張感を少しでもほぐし、後期のグループ学習や討論に向けた人間関係の基礎づくりを行います。大学生活をお互いに支えていく仲間づくりをしましょう。

到達目標

福祉レクリエーションを取り入れたメンバー間のアイスブレイキング（緊張をほぐす）。
自己覚知と他者覚知を目指す。
ゼミの枠を超えた専攻全体での仲間づくり。
コミュニケーション技能とグループ学習や討論の基本的姿勢を身につける。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

まず、大学での「学び」とは何かについてレクチャーする。高校と大学では学びの方法が異なるため、初年次学生には戸惑う者も多くいる。よって、手はじめに「大学での学び入門」について教員と学生相互に考える。
　また、講義に対する取り組み方、レポートを書く技術、グループディスカッションとプレゼンテーションの技法などに取り組んでいく。

テキスト・参考文献・資料など

テキストは特にないが、参考文献等があれば適宜紹介する。
適宜紹介する。

学びの手立て

＜履修上の心構え＞
ゼミは学籍番号順を原則にクラス分けが行われる。よって無断でクラス（ゼミ）を変更しないこと。
5月中旬ごろに行われる新入生一日合同研修には必ず参加すること。（研修は出席回数3回分に相当する）
個別ゼミ以外の専攻全体のゼミも必ず出席すること。
必ず3分の2以上出席すること。無断欠席は認めない。欠席した場合は翌週までに欠席届を提出すること。
与えられた個別課題（レポート等）、グループ課題（発表作品）には必ず取り組んで、提出・発表すること。

評価

全体を100点満点とした場合、そのうち平常点（受講姿勢等）が20点、提出物の提出状況が20点、グループでのディスカッションやプレゼンテーションへの取り組み姿勢が60点という配点で評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

関連科目：基礎演習（1年次後期）
次のステージ：同ゼミではコミュニケーション技能とグループ学習や討論の基本的姿勢を身につけることを目標にしており、1年次後期の「基礎演習」で目標とする社会福祉に関する基礎的な課題やグループ学習・討論へと取り組めるように準備すること。

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	フレッシュマンセミナー	前期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名　孝	１年	人間福祉学科　知名孝	

学びの準備

ねらい

人間福祉学科社会福祉専攻1年生を対象としたこの科目は、これから福祉を学んでいくための基礎的な学力、大学で学ぶこととこれまでの学び方（文化）のちがいを習得することを目的とする。義務教育とはことなるゼミ活動を経験することで、今後の福祉の学びの基盤を築いていく。

メッセージ

夏期休暇中に障害児通所施設で1週間のボランティア実習に参加し、福祉現場の現状について体験的に学んでいきます。このボランティア実習は、知名が担当するフレッシュマンセミナーと後期開講の基礎演習の必修になります。

到達目標

大学教育の中で必要とされるディスカッションやディベート力、レポートやプレゼンテーションの作成能力を高めていきます。ボランティア実習を通して、現場で働くことを体験的に学ぶ機会にもしていきます。

学びの実践

学びのヒント

授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）

専攻主任を中心に専攻教員が作成した合同ゼミ、全体企画と個別の担当教員の作成するものとで授業が展開される。全体ゼミ確定次第、個別ゼミにおいて具体的なスケジュールを報告していく。

テキスト・参考文献・資料など

それぞれの授業のなかで紹介していく。

学びの手立て

評価

ゼミ活動への参加、出席、課題の提出状況などを総合的に評価する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	フレッシュマンセミナー	前期	水１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ﾄﾞﾅﾙﾄﾞ ｸﾚｲｸﾞ ｳｨﾙｺｯｸｽ	１年	E-mail:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備

ねらい

大学生生活のはじめとして、図書館の利用法・福祉レクリエーションの理解・大学で学ぶ意義を学んでいきます。

メッセージ

この科目は新入生を対象とした大学教育へのオリエンテーション的な内容を持つゼミナールで、入学年度（編入生は初年次）前期で履修するものである。合同研修や大学における学習のための研修を学年合同で行なっていく。同時に専攻教員による個別ゼミも行い、ゼミ担当教員がアカデミックアドバイザーとして指導を行う。クラス編制は専攻会議において行う。

到達目標

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	グループ発表の準備	配付資料の確認
3	グループ発表の準備	
4	図書館オリエンテーション（予定）	
5	一日研修のための合同ゼミ（予定）	
6	合同研修の感想等を作成	
7	合同ゼミ（ボランティア支援室概要等の説明予定）	
8	パワーポイントを利用した発表の方法など	配付資料の確認
9	グループ発表	配付資料の確認
10	グループ発表	配付資料の確認
11	グループ発表	配付資料の確認
12	社会人講師による講話（予定）	
13	その他	
14	その他	
15	前期のまとめ	
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。
必要に応じて、資料を紹介・配付する。

学びの手立て

演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。
グループでの発表も予定しているので他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。

評価

出席の状況（50%）、発表・提出物の状況（40%）、その他（10%）として評価を行う。
日々の講義態度も評価します

学びの継続

次のステージ・関連科目

この講義を終えると次は「基礎演習」につながります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修し自分がどの福祉分野に興味があるかを認識してください。

※ポリシーとの関連性

［　　／演習］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	フレッシュマンセミナー	前期	木１	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ﾄﾞﾅﾙﾄﾞ ｸﾚｲｸﾞ ｳｨﾙｺｯｸｽ	１年	Email:d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備

ねらい

大学生生活のはじめとして、図書館の利用法・福祉レクリエーションの理解・大学で学ぶ意義を学んでいきます。

メッセージ

この講義においては、学生の主体性を重視する。グループ発表も行うため他学生との意見交換、グループ作業の円滑な準備等を心がけて欲しい。社会人講師による講演も予定している。

到達目標

この演習では、大学生活に慣れるために行うものである。各学生には「大学で学ぶ目的はなにか」、「大学で学ぶためにはどのような準備が必要か」など大学生活を送る上で必要な知識・技術を身につけていく。この演習の目標として図書館の利用法、一日研修において他学生との仲間意識の向上、障害者スポーツなどを理解するなどがあげられる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	グループ発表の準備	配付資料の精読
3	グループ発表の準備	
4	図書館オリエンテーション（予定）	
5	一日研修のための合同ゼミ（予定）	
6	合同研修の感想等を作成	
7	合同ゼミ（ボランティア支援室概要等の説明予定）	
8	パワーポイントを利用した発表の方法など	配付資料の精読
9	グループ発表	配付資料の精読
10	グループ発表	配付資料の精読
11	グループ発表	配付資料の精読
12	社会人講師による講話（予定）	
13	その他	
14	その他	
15	前期のまとめ	
16		

テキスト・参考文献・資料など

テキスト「よくわかる学びの技法」ミネルヴァ書房 を使用しながら講義を進めていく。
必要に応じて、資料を紹介・配付する。

学びの手立て

演習においては、指示された資料等については事前に読んでおくこと。
グループでの発表も予定しているので他学生との交流も積極的に行い、意見交換等を行うのが望ましい。

評価

出席の状況（50%）、発表・提出物の状況（40%）、その他（10%）として評価を行う。
日々の講義態度も評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

この講義を終えると次は「基礎演習」につながります。1年次では「社会福祉の基礎」も同時に履修し自分がどの福祉分野に興味があるかを認識してください。

※ポリシーとの関連性　医療･保健・福祉の連携が今後重要となる中、福祉領域の知識の他にも保健・医療に関する知識が重要となる。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 保健医療サービス	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木４	2
担当者 安次富　郁哉	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	担当教員宛にメールして下さい。 i.ashitomi@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

わが国における保健医療サービスの現状を知り、また、今後の動向について学ぶ。また、高齢社会を背景として、今後さらに進展する保健・医療・福祉の連携のもとで展開される地域包括ケアシステムについて学ぶ。

メッセージ

保健・医療に関する社会的出来事に常に関心をもつことをこころがける。また、わからない医療用語等はすぐに調べるようにする。

到達目標

到達目標は以下2点である。①我が国の保健医療サービスの現状を知り、他者に説明することができる。②今後の我が国の保健医療サービスのあり方を理解し、他者に説明することができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義ガイダンス・保健医療サービスとは	保健医療とは
2	保健医療サービスとその構成要素	人・もの・財と保健医療サービス
3	医療資源①	医療従事者の種類
4	医療資源②	医療従事者数の現況
5	医療資源③	医療施設の種類
6	医療資源④	医療法という法律
7	保健医療サービスの専門職とその役割①　医療ソーシャルワーカー	MSWの役割を調べる
8	保健医療サービスの専門職とその役割②　医療ソーシャルワーカー	MSWと他職種との連携
9	病病・病診・病福連携の手段としてのクリティカルパス①	クリティカルパスとは
10	病病・病診・病福連携の手段としてのクリティカルパス②	地域連携パス
11	緩和ケア①	悪性新生物ステージ・末期
12	緩和ケア②	緩和ケアとホスピス
13	保健・医療・福祉の連携	地域包括ケアシステムとは
14	医療の出口に福祉有り	
15	講義の振り返り	
16	試験	

テキスト・参考文献・資料など

新・社会福祉養成講座17「保健医療サービス」（中央法規）
＊「国民衛生の動向」「厚生労働白書」等を参照することが望ましい。図書館及び厚生労働省ホームページから参照することができる。

学びの手立て

人間福祉学科では、保健学・医療学・医学を学ぶ科目は少ないため、日頃からマスコミなどで話題となる用語などには関心をもつこと。

評価

評価については、出席回数が16回の3分の2以上であり、かつ、客観試験が60点以上であった場合を評価の対象とする。講義への出席が3分の2以下であるか、客観試験が60点以下であった場合には、「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

保健・医療に関する科目は本科目および保健福祉政策論、人体の構造及び機能と疾病がある。とくに 関連科目中の「保健福祉政策論」については、本科目と併せて履修し、理解を深めてもらいたい。また、履修中及び履修後も、マスメディアで取り上げられる保健・医療問題に関心を持つことが望ましい。

※ポリシーとの関連性　カリキュラム・ポリシーで示される「他専門職と協働していく専門性」を培う　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	保健福祉政策論	前期	木４	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安次富　郁哉	２年	オフィスアワーあるいはメール（i.ashitomi@okiu.ac.jp）で確認してください。	

学びの準備

ねらい

健康課題に対する国の施策を理解することができる。なお、健康課題を考える上で基礎となる主な人体の構造と機能及び疾病についても同時に学ぶことができる。

メッセージ

我が国における健康課題に関心をもち、また、不健康状態を惹起する生活習慣などに関心を示してもらいたい。

到達目標

一般目標：我が国における保健福祉政策について理解する。行動目標：①主たる保健福祉政策について説明できる②健康課題の基礎となる疾病について説明できる③基本的な人体の構造について説明できる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	講義ガイダンス・政策とは・我が国における健康課題・生活習慣病	生活習慣病について調べる
2	悪性新生物（がん）：死因上位の大腸・肺・胃・乳房・膵臓・肝臓各臓器がん	消化器系臓器を調べる①
3	消化器系臓器（大腸・胃・膵臓・肝臓）・呼吸器系臓器（肺）・生殖器系臓器（乳房）を知る	呼吸器系臓器を調べる②
4	がん対策の今：分野別（治療・予防（タバコ対策・検診・普及啓発）等）	がん対策を調べる
5	たばこ対策：たばこの害を知る	タバコの害について調べる
6	心疾患と脳血管障害：虚血性心疾患と脳梗塞という病気あなたは知っていますか/心臓と脳を知る	心臓と脳について調べる
7	心筋梗塞・脳血管障害と動脈硬化:動脈硬化って血管が硬くなること？？？	心筋梗塞について調べる
8	生活習慣病対策からみた心筋梗塞及び脳血管障害対策	脳梗塞について調べる
9	認知症支援施策～新オレンジプラン～７つの柱	認知症について調べる
10	泌尿器系臓器･･･腎臓について知ろう。どこにある？どんな働き？	腎臓の位置は？
11	腎疾患対策	医療費の公費負担制度について
12	腎疾患患者は毎年増えている。　慢性腎臓病（CKD）、人工透析療法、腎移植	人工透析について調べる
13	生活習慣病対策：特定健診・特定保健指導・・・まずはメタボを知る	メタボについて調べる
14	特定健診・特定保健指導の概要	メタボ健診について調べる
15	健康増進対策：第一次国民健康づくり～	国民健康づくり
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

テキスト：特にテキストは指定しない。参考文献：国民衛生の動向、厚生の指標、厚生労働白書を随時参考にする。資料：講義資料については毎講義時に配付する。

学びの手立て

我が国における健康課題について、新聞・テレビ等マスコミ情報につねに関心を持ち、不明な用語等については医学辞書等で確認することが望ましい。また、健康課題を考える上で基礎となる人体の構造や疾病についても関心を示してほしい。

評価

評価については、客観試験点数をもって決定する。また、6回以上の欠席者については試験の点数にかかわらず「不可」とする。なお、毎回提出する出席票について不正（代筆等）が発覚した場合には代筆を依頼した者、受けた者共に「不可」とする。

学びの継続

次のステージ・関連科目

本科目については、保健福祉政策のうち、健康課題に関する政策を中心とした講義内容とする。また、健康課題を考える上で基礎となる主な人体の構造・機能・疾病についても同時に学習することになる。関連科目として、保健医療サービス、人体の構造と機能及び疾病（今年度は夏季集中を予定）がある。

※ポリシーとの関連性　当事者（自分を含む）の抱える問題に社会学的知見をもって「介入」し「援助」する実践をワークショップ形式で体験的に学びます。　［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 臨床社会学	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	金２	2
担当者 -知念　ウシ	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備

ねらい

沖縄社会への分析方法を、テキストを読み、また受講生同士のユンタクで学び、エンパワメントの相互交流を実践します。ひとと関わるにはまず「自分の内なる声」を聴けることが前提です。そのような話の聞き方の練習をマインドフルネスを基礎に行い、相手との信頼関係の作り方、「介入」の仕方などを学びます。

メッセージ

沖縄で生まれ育ったり、沖縄を取り巻く環境のなかで息苦しさを感じている学生たちにとって「沖縄で生きる自分」を見つめ直す時間にしたいです。リラックスして、ゆったりと、そして真摯にやっていきたいです。援助職を目指す学生もぜひ受講してください。授業では琉球語と琉球の黄金言葉を積極的に取り入れていきます。

到達目標

「沖縄で生きる自分」への見方が変わる。沖縄の状況が分析できるようになる。自分の個人的な苦しみは社会的で政治的なものなんだとわかる。すこし力が出てくるかもしれない。また、「自分の内なる声」を聴いたり、他の人の話をジャッジ（価値判断）せず共感的に、感謝して聴くことができるようになる。コントロールしようとせずに、人が生きようとしていることを応援できるようになる。他の人の存在そのものからヌチグスイ（生命の栄養）を受け取ることができるようになる。「沖縄で生きる自分」の現実に少し立ち向かえるようになるかも。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	この授業で何を求めているか
2	受講生同士知り合う。自分と知り合う	人と知り合って何を感じたか
3	マインドフルネスを学ぶ	気づきを書く（日記）
4	自分のリソース（資源、強み）に気づく	気づきを書く（日記）
5	テキストを読む１　ヌチグスイ（生命の栄養）を受け取る	気づきを書く（日記）
6	テキストを読む２　共感的に話を聴く	日記と参考文献読み
7	テキストを読む３　価値判断しないで話を聴く	日記と参考文献読み
8	テキストを読む４　これまでのまとめ	日記と参考文献読み
9	沖縄で生きる私１　うれしかったことを話し、聴く	日記と参考文献読み
10	沖縄で生きる私２　つらかったことを話し、聴く	日記と参考文献読み
11	沖縄で生きる私３　楽しかったことを話し、聴く	日記と参考文献読み
12	沖縄で生きる私４　悲しかったことを話し、聴く	日記と参考文献読み
13	沖縄で生きる私５　自分の力を感じる	日記と参考文献読み
14	沖縄社会を考える	日記と参考文献読み
15	まとめ	気づき学んだことを書く
16		

テキスト・参考文献・資料など

【教科書】知念ウシ『ウシがゆく一植民地主義を探検し、わたしを探す旅』（沖縄タイムス社）【参考文献】フランツ・ファノン『黒い皮膚・白い仮面』『地に呪われたる者』（みすず書房）、アーノルド・ミンデル『紛争の心理学一融合の炎のワーク』（講談社現代新書）。資料は適宜配布します。

学びの手立て

毎週の授業が終わった後はできるだけ、他の予定を入れずに、ゆっくり過ごしてください。そして、授業で得た気づき等、自分に起こったことを静かに振り返る時間にしてください。その際も含めて日記を書くことを勧めます。体験型学習なので、積極的な参加が前提です。遊び半分の態度や私語などは控えてください。他の受講生のプライバシーに関わることを耳にした場合は他言無用です。動きやすい服装で受講してください。

評価

評価に関しては、レポート、参加態度、発表等、総合的に判断しますが、レポートは必須です。

学びの継続

次のステージ・関連科目

社会学関連科目、沖縄研究など受講し、自他理解を深めてください。また瞑想と日記を続けてください。

※ポリシーとの関連性　臨床心理学の基礎的知識の習得を目的とする。

［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床心理学Ⅰ	前期	水３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-牛田　洋一	２年	yushida@okiu.ac.jpあるいは講義後に教室にて	

学びの準備

ねらい

臨床心理学という学問の学問的位置づけと、その対象、基礎的理論、基礎的方法について、できるだけ幅広く具体的に解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

メッセージ

講義は真剣に、しかし臨床心理の実践に不可欠なユーモアの精神も伝えていきます。

到達目標

・臨床心理学の、歴史、支援の対象、基礎理論、アセスメント、支援の方法などの基礎的な知識を広範囲に学ぶことによって、今後臨床心理学への興味と知見を深めていくための手がかりを得ることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	シラバスを確認すること
2	臨床心理学とは：歴史的背景・援助の対象・臨床心理学の領域	配布資料の確認と別途文献での確認
3	臨床心理学的諸問題：問題の分類とその基準	同上
4	臨床心理学的諸問題：小児の問題（発達障害、不登校など）	同上
5	臨床心理学的諸問題：思春期以降の問題（パーソナリティー障害など）	同上
6	臨床心理学的諸問題：老年期の問題、その他（認知症など）	同上
7	臨床心理学の基礎理論：人格理論（フロイト、ロジャーズなど）	同上
8	臨床心理学の基礎理論：発達理論（マーラー、ウィニコットなど）	同上
9	臨床心理学的方法：心理アセスメント（知能の評価）	同上
10	臨床心理学的方法：心理アセスメント（パーソナリティーの評価）	同上
11	臨床心理学的方法：心理療法１（来談者中心療法・認知療法など）	同上
12	臨床心理学的方法：心理療法２（箱庭療法・芸術療法など）	同上
13	臨床心理学的方法：心理療法３（家族療法・短期療法）	同上
14	臨床心理学的方法：心理療法４（家族療法・短期療法）	同上
15	臨床心理学的方法：まとめ	全ての配布資料の再確認
16	試験	総合評価60点未満で不可

テキスト・参考文献・資料など

各講義毎に適宜ハンドアウト資料を作成し配布する。
講義のなかで適宜紹介する。特に指定はないが、臨床心理学の入門書あるいは臨床心理学辞典を手元に一冊用意しておくことを勧める。

学びの手立て

履修の心構え：
・講義中の携帯電話等はマナーモードあるいは電源を切り、机の上などの見えるところに置かないようにしてください。
・欠席した場合は欠席届を提出してください。受講生が多人数になることがありますが、出席確認は受講者の良識によって行いますので、他人の代理での出席確認は認めません。

評価

基本的に試験の結果を重視します（９０％）。その他レポート、授業への参加姿勢など（１０％）を加味し総合的に評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・臨床心理学Ⅰの内容は、臨床心理学Ⅱで知見を深めていくための基礎的な知識を獲得しておく。関連科目としては「心理面接法」「犯罪心理学」「学校臨床心理学」などがあるが、臨床の学問である以上、全ての科目が関連科目となりうる。

※ポリシーとの関連性　臨床心理学の基礎的知識の習得を目的とする。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 臨床心理学Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	水３	2
担当者 -牛田　洋一	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	yushida@okiu.ac.jpあるいは講義後に教室にて	

学びの準備

ねらい

「臨床心理学Ⅱ」においては、「臨床心理学Ⅰ」において解説した臨床心理学が扱う諸問題、基礎的な治療理論、臨床心理学的方法について特に重要だと思われるものをより深めて解説する。講義をとおして、総合的な学問としての臨床心理学の幅広さを感じ取り、学生諸君が今後の研究対象を選択していく上での指標となることを目指す。

メッセージ

講義は真剣に、しかし臨床心理の実践に不可欠なユーモアの精神も伝えていきます。

到達目標

・「臨床心理学Ⅰ」で学んだ、臨床心理学の歴史、支援の対象、基礎理論、アセスメント、支援の方法などの広範囲な基礎的な知識の中から、いくつかのテーマを取り上げ、少し理解を深めていくことによって、今後臨床心理学への興味と知見を深めていくための手がかりを得ることができる

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	シラバスを確認すること
2	臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害１：特徴について	配布資料の確認と別途文献での確認
3	臨床心理学的諸問題：パーソナリティ障害２：対応について	同上
4	臨床心理学的諸問題：被災者支援における臨床心理学の役割	同上
5	臨床心理学の基礎理論：フロイトの理論と精神分析	同上
6	臨床心理学的方法：投影法１　Ｐ－Ｆスタディー	同上
7	臨床心理学的方法：投影法２　ロールシャッハ・テスト	同上
8	臨床心理学的方法：認知行動療法（特にエリスの論理療法を中心に）	同上
9	臨床心理学的トピック１：治療的コミュニケーションの語用論	同上
10	臨床心理学的トピック２：短期療法と治療言語	同上
11	臨床心理学的方法：短期療法１（ＭＲＩアプローチ）	同上
12	臨床心理学的方法：短期療法２（ＢＦＴＣアプローチ）	同上
13	臨床心理学的トピック３：心と現代の脳科学	同上
14	臨床心理学的トピック４：虐待（性被害）の臨床	同上
15	全体のまとめ	全ての配布資料の再確認
16	試験	総合評価60点未満で不可

テキスト・参考文献・資料など

講義のなかで適宜資料を配布する。
講義のなかで適宜紹介する。特に指定はないが、臨床心理学の入門書あるいは臨床心理学辞典を手元に一冊用意しておくことを勧める。

学びの手立て

履修の心構え：
・講義中の携帯電話等はマナーモードあるいは電源を切り、机の上などの見えるところに置かないようにしてください。
・欠席した場合は欠席届を提出してください。受講生が多人数になることがありますが、出席確認は受講者の良識によって行いますので、他人の代理での出席確認は認めません。

評価

基本的に試験の結果を重視します（９０％）。その他レポート、授業への参加姿勢など（１０％）を加味し総合的に評価します。

学びの継続

次のステージ・関連科目

・臨床心理学Ⅱではより臨床心理学の知見を深め、より実践的な学習を進めるための基礎的な知識を獲得しておく。関連科目としては「心理面接法」「犯罪心理学」「学校臨床心理学」などがあるが、臨床の学問である以上、全ての科目が関連科目となりうる。

※ポリシーとの関連性　カリキュラムポリシー１．および３．に相当する。人間のこころと行動を理解するための理論・技術を学ぶ。　［　　／一般講義］

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	臨床面接法Ⅰ	前期	木２	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野村　れいか	３年	研究室：9号館618　r.nomura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

各発達段階における心理臨床的援助の特徴、平時の支援とは異なる災害における心理支援について理解する。発達段階における事例を紹介し、それに関するディスカッションも行う。受講者が心理臨床の支援の大枠を理解し、その奥深さを感じ取ってほしい。講義とディスカッションを通し、自分の考えを述べ、他者の意見を聴くことで、人間について多角的な視点で見る力、考える力を伸ばす。

メッセージ

講義を一方的に聞くだけでなく、学生が相互に意見を交換できる講義です。知識の吸収だけでなく、心理学を通して自分を成長させるという意欲をもって臨んで下さい。

到達目標

①各発達段階における心理的支援の基本的な留意点、特徴について理解できる。
②平時の心理的支援と災害時における心理的支援の違いについて理解できる。
③心理療法（カウンセリング）の事例についてグループディスカッションを通し、他者の意見を聴き、自分で考え、意見を述べることができる。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション・心理臨床的援助とは	リフレクションシートの作成
2	心理臨床的援助のモデル	リフレクションシートの作成
3	心理臨床的援助の過程	リフレクションシートの作成
4	心理臨床的援助の基本的留意点（乳幼児期）	リフレクションシートの作成
5	心理臨床的援助の基本的留意点（乳幼児期の事例）	リフレクションシートの作成
6	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期）	リフレクションシートの作成
7	心理臨床的援助の基本的留意点（児童期の事例）	リフレクションシートの作成
8	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期）	リフレクションシートの作成
9	心理臨床的援助の基本的留意点（青年期の事例）	リフレクションシートの作成
10	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期）	リフレクションシートの作成
11	心理臨床的援助の基本的留意点（成人期の事例）	リフレクションシートの作成
12	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期）	リフレクションシートの作成
13	心理臨床的援助の基本的留意点（老年期の事例）	リフレクションシートの作成
14	心理臨床的援助の基本的留意点（災害時）	リフレクションシートの作成
15	まとめ	最終レポート
16		

テキスト・参考文献・資料など

講義の中で適宜紹介する。

学びの手立て

「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。①心理臨床的援助の基本事項→②事例についてディスカッションという流れで講義を展開します。また、毎回の講義で学んだことを自分の日常体験や社会的事象と結びつけてリフレクションシートにまとめて提出してもらいます。講義ではそれをいくつかピックアップし、匿名で紹介します。他の受講生の考えを知ることができる講義であるため、様々なものの見方が広がります。そのため積極的に考え・意見を述べて（記述して）ほしいです。

評価

リフレクションシート…50%　最終レポート…50%

学びの継続

次のステージ・関連科目

「臨床面接法Ⅱ」で基本的な関わり技法について実践的に学ぶ。「行動療法」「動作法」「ストレスマネジメント」「芸術療法」で各心理療法の理論と実践を学ぶ。「発達臨床心理学」「学校臨床心理学」で各領域での支援の実際を学ぶ。

※ポリシーとの関連性　本専攻のカリキュラム・ポリシー「人間のこころや行動を理解するための心理学の知識と技術を学ぶ専門科目」に相当する。　[　　／一般講義]

科目基本情報				
科目名 臨床面接法Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
	後期	木２	2
担当者 井村　弘子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	３年	5号館424-2研究室（098-893-3710） h.imura@okiu.ac.jp	

学びの準備

ねらい

この講義では、臨床面接法に関する基礎的な理論を学ぶとともに、自分の内面を見つめたり、相手の気持ちを理解したりするためのワークやロールプレイなどを通して、臨床面接技法を体験的に学習することを目的とする。

メッセージ

カウンセリング技法を身につけるための講義。毎回少しずつステップアップしながら、実践的なスキルの修得を目指していく。

到達目標

臨床面接技法の理論を学ぶ。
実践的な臨床面接技法を修得する。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	はじめに（臨床面接の技法）	
2	クライエントの話	配布資料の復習
3	感情の反射	配布資料の復習
4	焦点づけ	配布資料の復習
5	クライエントの質問	配布資料の復習
6	カウンセラーの質問（1）	配布資料の復習
7	話し手と聞き手	応答練習（ロールプレイ）
8	対話分析	配布資料の復習
9	クライエントへの応答	応答練習（ロールプレイ）
10	カウンセラーの質問（2）	配布資料の復習
11	カウンセラーの質問（3）	配布資料の復習
12	ケース理解（グループディスカッション）	
13	カウンセリングの実際	課題レポート作成・提出
14	援助的応答（1）	配布資料の復習
15	援助的応答（2）	学期末試験に向けた総復習
16	学期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

毎回、資料とワークシートを配布する。
授業の中で適宜紹介する。

学びの手立て

面接技法を身につけるため、段階的に講義を積み重ねていくので、遅刻・欠席厳禁。
やむなく欠席した場合は、必ず前回資料を受け取り、次週までに自学自習をして臨むこと。

評価

毎回ワークシートを配布し、授業後に提出してもらう。授業参加態度、課題の提出状況、学期末試験を総合的に判断して評価する。評価方法については、講義初日に詳細に説明する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」が履修済みであることが望ましい。
関連科目は「臨床面接法Ⅰ」である。

※ポリシーとの関連性　福祉従事者に必要とされるコミュニケーション能力、グループ活動の企画・運営能力等を育てる。

［　　／一般講義］

科目基本情報				
科目名 レクリエーション理論	期 別	曜日・時限	単 位
	前期	月１	2
担当者 保良昌徳（2回）細田奈々（13回）	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	２年	講義修了後に教室で。又は保良研究室	

学びの準備

ねらい

講義を通して、レクレーションの歴史・概念、生活におけるレクリエーションの意義とその内容、さらに福祉現場におけるレクの有用性等について理解する

メッセージ

自分を見つめ、自分のコミュニケーション能力、他人との交流のあり方、グループ活動におけるリーダーシップ等について考え、社会活動におけるレクリエーションの意義や効用、可能性等について整理しておくこと

到達目標

① レクリエーションの定義・概念等について理解する
② 社会におけるレクリエーションの歴史・変遷について理解する
③ 社会生活におけるレクリエーションの意義・効用について理解する
④ レクリエーションの種類・分離・内容等について理解する
⑤ レクリエーションと福祉的支援について理解する
⑥ その他

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	講義の趣旨の理解
2	これからの社会とレジャー・レクリエーション	指示された課題・内容の準備
3	レクリエーションとは何か	指示された課題・内容の準備
4	レクリエーション運動の歴史とその背景	指示された課題・内容の準備
5	レクリエーション支援の考え方	指示された課題・内容の準備
6	ライフスタイルとレクリエーション	指示された課題・内容の準備
7	高齢社会と課題とレクリエーション	指示された課題・内容の準備
8	福祉レクリエーションの内容	指示された課題・内容の準備
9	コミュニケーションの基本	指示された課題・内容の準備
10	レクリエーション事業	指示された課題・内容の準備
11	レクリエーション活動の安全管理	指示された課題・内容の準備
12	ホスピタリティの考え方	指示された課題・内容の準備
13	アイスブレーキングの意義及びプログラミング	指示された課題・内容の準備
14	レジャー・レクの国際比較・余暇能力	指示された課題・内容の準備
15	まとめ、成果の発表	指示された課題・内容の準備
16		

テキスト・参考文献・資料など

① 日本レクリエーション協会編『レクリエーション支援の基礎』
② その他、必要に応じて資料を配付する

学びの手立て

① いろいろな生活場面でのレクリエーション技術の活用を考える
② 様々な社会的場面や施設などで実践されているレクリエーションを観察し情報収集に努める
③ 自分の特技や趣味を活かした独自のレクリエーション技術を見つけること
④ 学校や職場など様々な生活場面で、どのようなレクリエーション技術が活かせるかを常に考える
⑤ 講義の内容から、レクリエーション支援の意味を十分理解し、将来に備えること
⑥ その他、積極的・自主的取り組みを期待する

評価

以下の内容をなどを総合的に判断して評価する。
①出欠状況20%、②参加態度20%、③課題レポート20%、④レク運営能力30%

学びの継続

次のステージ・関連科目

① 本科目は、レクリエーション技術Ⅰ・Ⅱの修得をもって完結するものであり、受講生はⅠ・Ⅱも受講すること
② 本科目においてレクリエーションの意味や意義、その概要等について理解し、技術Ⅰ及びⅡの受講に備えること

※ポリシーとの関連性　福祉・医療・保険についての専門的な知識を習得し、高齢社会において活躍できる人材を育成する。　[　　／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	老年学概論Ⅱ	後期	水３	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	ｳｨﾙｺｯｸｽ(3)、等々力(3)、名嘉(3)、白井(2)、安次富(2)、保良(2)	２年	d.willcox@okiu.ac.jp 5号館5414号室	

学びの準備

ねらい

老年学についての各種専門分野について学び、理解をする。

メッセージ

この講義は、オムニバス形式で進める。老年学に関連する分野に関する専門的な知識を持つ方々に講義を行っていただく。受講前に事前資料がある場合はきちんと読んでから講義に臨むこと。

到達目標

老年学とは、加齢に伴う心身の変化を研究し、高齢社会に起こるさまざまな問題を解決するための学問である。心身の加齢変化を追うには成長期から見ていく必要があり、社会的な側面では、高齢者と高齢者を取り巻く家族や若い世代との関係、さらには環境に至るまで視野に入る。老年医学、老年心理学、老年社会学などにまたがる学際的な研究と、ヘルスプロモーションなどを含む公衆衛生学・予防医学的な視点を学び、批判的思考と問題解決のためのスキルを身につけることを目指す。

学びの実践

学びのヒント

授業計画

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	沖縄の食と栄養・健康転換　－戦後から現在までー	
3	沖縄の食から長寿再生を考える　－地域・学校・家族の視点からー	
4	高齢者のうつ	
5	高齢者の自殺	
6	高齢者のニーズと地域包括ケア	
7	健康の社会的決定要因について	
8	老化による変化について	
9	身体的な老化による変化について	
10	老年期の特徴と地域貢献	
11	認知症について	
12	若年性認知症について	
13	沖縄のシャーマニズムについて	
14	家族、友人とソーシャルサポート（ソーシャルキャピタル）	
15	後期のまとめ	
16	期末試験	

テキスト・参考文献・資料など

Robert C. Atchley, Amanda S. Barusch, 宮内康二 編訳　(2005)
『ジェロントロジー ―加齢の価値と社会の力学―』きんざい
その他必要に応じて、資料・参考文献などを紹介する。

学びの手立て

事前に読んでおく資料は、授業前には読んでおくこと。

評価

出席状況（30%）・課題等の内容、提出状況（30%）・期末試験の結果（30%）・講義中の議論など授業への参加意欲（10%）を総合的に判断して評価します。
期末試験については、講義の内容・配付資料内から問題を出題予定です。各講義の資料等はなくさずに保管しておくこと。

学びの継続

次のステージ・関連科目

講義受講後や平行して関連する「高齢者に対する支援と介護保険制度」や統計データを閲覧する上での基礎知識となる「社会統計基礎」を受講してもらいたい。